

一般国道9号（東伯中山道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 XXIII

鳥取県東伯郡琴浦町

NAN BARA SEN GEN
南 原 千 軒 遺 跡 III

UME DA HIGASHI MAE TANI NAKA MINE
梅 田 東 前 谷 中 峯 遺 跡

鳥取県東伯郡琴浦町・西伯郡大山町

UME DA MU TSU ZUKA
梅 田 六 ツ 塚 遺 跡

2008

鳥取県埋蔵文化財センター
国土交通省 倉吉河川国道事務所

序

一般国道9号東伯中山道路の改築に伴う発掘調査は、平成12年度から行われ、平成19年度末時点で遺跡数は25遺跡、調査面積は延べ22万平方メートルに及んでいます。

この発掘調査は、平成17年度から鳥取県直営の事業となり、鳥取県埋蔵文化財センターが担当することとなりました。

そのうち、琴浦町に所在する南原千軒遺跡では、中世の大規模な屋敷地を取り囲む溝など、梅田東前谷中峯遺跡では、弥生時代から奈良時代の小規模な集落など、琴浦町及び大山町に所在する梅田六ツ塚遺跡では、古墳時代後期の残りのよい古墳などを調査することができ、当地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することができました。

また、埋蔵文化財センターでは、発掘調査により明らかとなった遺跡や出土品を活用し、その普及啓発に努めることも重要な業務としております。

南原千軒遺跡、梅田六ツ塚遺跡では現地説明会を開催し、県内外から多くの方々に御参加いただき、その素晴らしさ、重要性を実感していただきました。

本書はその調査結果を報告書としてまとめたものです。この報告書が、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財が郷土の誇りとなることを期待しております。

本書をまとめるにあたり、国土交通省倉吉河川国道事務所、地元関係者の方々には、一方ならぬ御指導、御協力を頂きました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成20年3月

鳥取県埋蔵文化財センター
所 長 久保 穰二郎

序 文

一般国道9号は、起点の京都府京都市から山口県下関市にいたる、総延長約691キロメートルの幹線道路であり、西日本日本海沿岸地域の産業・経済活動の大動脈として、地域住民の生活と密着し大きな役割を果たしています。

このうち、国土交通省倉吉河川国道事務所は、東伯郡湯梨浜町から米子市（鳥取一島根県境）までを管轄しており、時代の要請に沿った各種の道路整備事業を実施しているところです。

東伯中山道路は、東伯郡琴浦町から西伯郡大山町にかけての、国道9号の渋滞緩和、荒天時の交通障害の解消、また、災害時の緊急輸送の代替道路確保、などを目的として計画された一般国道9号のバイパス（自動車専用道路）であり、鋭意事業に着手しているところです。

このルートには、多数の埋蔵文化財包蔵地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第94条の規定に基づき、鳥取県教育委員会教育長に通知した結果、事前に発掘調査を実施し、記録保存を行うこととなりました。

平成19年度は、「梅田萱峯遺跡」、「梅田六ツ塚遺跡」、「梅田東前谷中峯遺跡」、「南原千軒遺跡」の4遺跡について鳥取県埋蔵文化財センターと発掘調査の委託契約を締結し、発掘調査が行われました。

本書は、上記の「梅田六ツ塚遺跡」、「梅田東前谷中峯遺跡」と「南原千軒遺跡」の調査成果をまとめたものです。この貴重な記録が、文化財に対する認識と理解を深めるため、ならびに、教育及び学術研究のために広く活用されることを願うと同時に、国土交通省の道路事業が、文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることを御理解いただければ幸いと存じます。

事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集にいたるまで御尽力いただいた鳥取県埋蔵文化財センターの関係者に対して、心から感謝申し上げます。

平成20年3月

国土交通省 倉吉河川国道事務所
所 長 飛田 敏行

例 言

1. 本報告書は、国土交通省倉吉河川国道事務所の委託により、鳥取県埋蔵文化財センターが国道9号(東伯中山道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査として平成19年度に行った、南原千軒遺跡^{なんぼらせんげん}4・5区、梅田東前谷中峯遺跡^{うめだひがしまえたになかみね}、梅田六ツ塚遺跡^{うめだむつづか}の発掘調査報告書である。
2. 本報告書に記載した遺跡の所在地及び調査面積は以下のとおりである。
南原千軒遺跡4・5区：鳥取県東伯郡琴浦町湯坂字西南原113他 3,150㎡
梅田東前谷中峯遺跡：鳥取県東伯郡琴浦町梅田字東前谷中峯282他 4,300㎡
梅田六ツ塚遺跡：鳥取県東伯郡琴浦町梅田字六ツ塚405-15他 4,200㎡
3. 本報告書で示す標高は、3級基準点H10-3-12、H10-3-16、H11-3-1を基点とする標高値を使用した。方位は、公共座標北を示す。なお、それぞれ遺跡の真北は座標北に対し約25°東偏する。X:、Y:の数値は世界測地系に準拠した公共座標第V系の座標値である。
4. 本報告書に記載の地形図は、国土地理院発行の1/50,000地形図「赤碕」・「伯耆浦安」、赤碕町(現琴浦町)発行の「赤碕町都市計画図1」、大山町作成の「大山町地番図」の一部を使用した。
5. 本報告にあたり、南原千軒遺跡の方眼杭打設、調査後航空写真撮影、梅田東前谷中峯遺跡の調査前後航空写真撮影、調査前後地形測量、梅田六ツ塚遺跡の調査前後航空写真撮影、調査前地形測量、南原千軒遺跡及び梅田東前谷中峯遺跡の自然科学分析を業者委託した。
6. 本報告書に記載した遺構・遺物の実測・浄書は鳥取県埋蔵文化財センター及び琴浦調査事務所でを行った。
7. 本報告書で使用した遺構・遺物写真は文化財主事及び発掘調査員が撮影した。
8. 本報告書の編集・執筆は、文化財主事及び発掘調査員がそれぞれ分担して行い、執筆者名を目次に記載した。
9. 発掘調査によって作成された図面、写真などの記録類、出土遺物は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。
10. 現地調査及び報告書作成に当たって、下記の方々に助言、御協力いただいた。
穴澤義功、大澤正己、佐伯純也、佐々木稔、西尾克己、浜野浩美、山本信夫、梅田集落、栄田集落

凡 例

1. 遺物の注記における遺跡名には南原千軒遺跡が「ナンハラ4・5」、梅田東前谷中峯遺跡が「東マエ」、梅田六ツ塚遺跡が「六ツカ」を略号とし、合わせて「遺構名、遺物番号、日付」を記入した。
2. 本報告書における遺構略号は、次のように表した。
SI：竪穴住居、SB：掘立柱建物、SS：段状遺構及びそれに伴う掘立柱建物、SK：土坑、SD：溝、SA：柵列、SX：配石墓、P：柱穴・ピット
3. 本報告書における遺構番号は発掘調査時のものから変更しており、両者の対応は各遺跡ごとに付した新旧遺構名対照表に示した。
4. 本報告書における実測図は、基本的に下記の縮尺で掲載したが、特殊なものについては、その都度縮尺を変更している。
(1) 遺構図 - SI：1/60、SB：1/60、SS：1/60、SK：1/20・1/40、SD：1/40・1/100・1/150・1/200・1/300、SA：1/60、SX：1/40、古墳：1/40・1/100
(2) 遺物実測図 - 陶磁器：1/3、土器・土製品：1/3・1/4、鉄製品・鍛冶関連遺物：1/2・1/4、石製品：2/3・1/2・1/4・1/6、銭貨：1/2
5. 遺構図・遺物実測図に用いたトーンおよび記号は、特に説明がない限り以下のとおりである。
■：焼土面・焼土層、■：炭化物集中範囲・炭化物層、■：赤彩箇所、■：磨り面
F：鉄製品、S：石製品、C：銭貨・銅製品、丸付き番号：鍛冶関連遺物
遺物出土ポイント：●(土器類)・□(石器)・▲(鉄製品・鉄滓)・■(炭化材)
6. 遺物実測図の断面は須恵器を黒塗り、瓦質土器をアミかけ、それ以外のものは白抜きで示した。
7. 遺構の測定値のうち、竪穴住居は検出面の規模、床面積は壁溝を除いた規模、ピットの規模は(長軸×短軸－深さ) cmで表した。
遺物観察表の法量記載における※は推定復元値、△は現存値を示す。
8. 本報告書における遺構・遺物の時期決定は下記参考文献に基づいている。

【参考文献】

- 小口英一郎・北島大輔・原あづさ 2004「八橋第8・9遺跡における6～7世紀の土器編年」『八橋第8・9遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書87 (財)鳥取県教育文化財団
- 清水真一 1992「因幡・伯耆地域」正岡陸夫・松本岩雄編『弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編』木耳社
- 牧本哲雄 1999「古墳時代の土器について」『長瀬高浜遺跡Ⅷ 園第6遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書61 (財)鳥取県教育文化財団
- 田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店
- 足立克己・丹羽野裕 1984「第6章まとめ(3)遺物」『高広遺跡発掘調査報告書』鳥根県教育委員会
- 巽淳一郎 1983「古代窯業生産の展開—西日本を中心にして—」『文化財論叢』奈良国立文化財研究所
- 丹羽野裕 2005「出雲における9～10世紀の須恵器の様相—窯跡とその出土資料を中心に—」『平安時代前期の土器様相—中国地方を中心に—』第4回山陰中世土器検討会資料集
- 玉木秀幸 2006「伯耆の土器様相」『山陰における中世前期の諸様相』第5回山陰中世土器検討会資料集
- 永井久美男編 1994『中世の出土銭—出土銭の調査と分類—』兵庫埋蔵銭調査会
- 中森 祥 2005「中世前期の遺物について」『門前上屋敷遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書105 (財)鳥取県教育文化財団
- 中森 祥 2006「鳥取県における中世後期土師器の展開」『調査研究紀要1』鳥取県埋蔵文化財センター
- 横田賢次郎・森田 勉 1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集4』
- 森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会
- 上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会

目 次

序
序文
例言
凡例

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯	(牧本) 1
第2節 調査の方法と経過	(牧本) 2
第3節 調査体制	(牧本) 4

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境	(牧本) 5
第2節 歴史的環境	(牧本) 5

第3章 南原千軒遺跡の調査

第1節 遺跡の立地と層序	(小口) 9
第2節 4区の調査成果	(小口) 10
1 概要	10
2 基本層序	14
3 古代の遺構・遺物	14
(1) 溝	14
4 中世の遺構・遺物	22
(1) 溝	22
(2) 掘立柱建物	28
(3) 柵列	31
(4) 道状硬化面	32
(5) ピット	32
5 時期不明の遺構	34
6 遺構外出土遺物	35
第3節 5区の調査成果	(小口) 39
1 概要	39
2 基本層序	39
3 古代の遺構・遺物	39
(1) 溝	39
4 中世の遺構・遺物	45
(1) 溝	45
(2) 自然流路	53
(3) 掘立柱建物	55
(4) 土坑	55
(5) ピット	57

5	時期不明の遺構	61
6	遺構外出土遺物	61
第4節	鍛冶関連遺物	(小口) 65
1	鍛冶関連遺物の整理方法	65
2	鍛冶関連遺物の概要	66
第5節	自然科学分析の成果	(株式会社 パレオ・ラボ) 82
1	南原千軒遺跡SD7出土炭化材放射性炭素年代測定	82
第6節	南原千軒遺跡の総括	(小口) 85
1	南原千軒遺跡出土土器の様相	85
2	遺構の変遷	87
3	南原千軒遺跡における鉄・鉄器生産	88
4	居館の構造	91
5	南原千軒遺跡の性格と意義	94
	遺物観察表	

第4章 梅田東前谷中峯遺跡の調査

第1節	遺跡の立地と層序	(北) 105
1	遺跡の立地	105
2	調査地内の土層堆積	107
3	調査の概要	113
第2節	弥生時代から古墳時代の調査成果	(北) 114
1	概要	114
2	竪穴住居	114
3	段状遺構	125
4	遺構外の遺物	126
第3節	古代の調査成果	(北・小口) 126
1	概要	126
2	掘立柱建物	126
3	段状遺構	128
4	土坑	137
5	遺構外の遺物	147
第4節	その他の調査成果	(北) 149
1	土坑	149
2	遺構外の遺物	152
第5節	自然科学分析の成果	(株式会社 パレオ・ラボ) 153
1	梅田東前谷中峯遺跡出土炭化材放射性炭素年代測定	153
2	梅田東前谷中峯遺跡出土炭化材の樹種同定	157
第6節	梅田東前谷中峯遺跡の総括	(北・濱本) 159
	遺物観察表	

第5章 梅田六ツ塚遺跡の調査

第1節	遺跡の立地と層序	(加藤) 169
第2節	調査の概要	(加藤) 170

第3節 古墳の調査成果	(加藤・森本・野口)	174
1 概要		174
2 古墳		175
(1)梅田14号墳		175
(2)梅田15号墳		177
(3)梅田16号墳		183
(4)梅田19号墳		194
第4節 古墳以外の調査成果	(加藤・森本・前田)	196
1 配石墓		196
2 土坑		197
3 溝		199
第5節 遺構外出土遺物	(加藤)	203
第6節 梅田六ツ塚遺跡の総括	(野口・加藤)	206
1 梅田古墳群について		206
2 調査成果のまとめ		210

遺物観察表

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図 東伯中山道路ルートと関係遺跡位置図	1	第23図 SB 5	30
第2図 遺跡位置図	5	第24図 SB 7	31
第3図 周辺遺跡分布図	7	第25図 SA 1	32
南原千軒遺跡		第26図 SA 2	32
第4図 調査区周辺の小字名	9	第27図 道状硬化面及び出土遺物	33
第5図 調査地位置図	9	第28図 ピット配置図	33
第6図 4・5区遺構配置図	11・12	第29図 SB4-P5・547・548・569及び出土遺物	34
第7図 4区基本層序	13	第30図 SK58	34
第8図 SD 6	15	第31図 遺構外層出土遺物分布図	35
第9図 SD 6 出土遺物	16	第32図 遺構外出土遺物(1)	36
第10図 SD 7	17	第33図 遺構外出土遺物(2)	37
第11図 SD 7 遺物出土状況	18	第34図 遺構外鍛冶関連遺物	38
第12図 SD 7 出土遺物(1)	19	第35図 SD 6	39
第13図 SD 7 出土遺物及び鍛冶関連遺物(1)	20	第36図 5区基本層序	40
第14図 SD 7 出土鍛冶関連遺物(2)	21	第37図 SD 7	41・42
第15図 SD 7 出土鍛冶関連遺物(3)	22	第38図 SD 7 出土遺物分布図	43・44
第16図 SD 7 出土鍛冶関連遺物(4)	23	第39図 SD 7 柵列	45
第17図 SD 7 出土鍛冶関連遺物(5)	24	第40図 SD 7 出土遺物	46
第18図 SD 7 出土鍛冶関連遺物(6)	25	第41図 SD 7 出土鍛冶関連遺物(1)	47
第19図 SD19	26	第42図 SD 7 出土鍛冶関連遺物(2)	48
第20図 SD19出土遺物	26	第43図 SD 7 出土鍛冶関連遺物(3)	49
第21図 SD19出土鍛冶関連遺物	27	第44図 SD 7 出土鍛冶関連遺物(4)	50
第22図 SB 4	29	第45図 SD20・21	51・52
		第46図 SD20出土遺物	54

第47図	SD20出土鍛冶関連遺物	56
第48図	SD21出土遺物	56
第49図	SB 6 及び出土遺物	57
第50図	SK59・60及び出土遺物	58
第51図	ピット配置図(1)・遺構外出土遺物分布図	59
第52図	P606・621・674・675・679・691	60
第53図	ピット出土遺物	60
第54図	SK61	62
第55図	SK62	62
第56図	ピット配置図(2)・遺構外出土遺物分布図	62
第57図	遺構外出土遺物	63
第58図	遺構外出土鍛冶関連遺物	64
第59図	鍛冶関連遺物分類模式図	65
第60図	南原千軒遺跡鍛冶関連遺物構成図(1)	68
第61図	南原千軒遺跡鍛冶関連遺物構成図(2)	69
第62図	南原千軒遺跡出土炭化材暦年較正結果	84
第63図	貿易陶磁・国産陶磁器類の組成	87
第64図	南原千軒遺跡全体図及び出土遺物	89・90
第65図	鍛冶工房出土微細遺物重量分布図	93

梅田東前谷中峯遺跡

第66図	調査地位置と周辺地形	105
第67図	調査前地形測量図	106
第68図	丘陵上平坦部南北土層断面	108
第69図	丘陵上平坦部東西土層断面	109
第70図	丘陵東斜面・平坦面土層断面	110
第71図	遺構の配置	111・112
第72図	SI 1 (1)	115
第73図	SI 1 (2)	116
第74図	SI 1 出土遺物	117
第75図	SI 2	119
第76図	SI 2 炭化材検出状況	120
第77図	SI 2 出土遺物	121
第78図	SI 3 (1)	122
第79図	SI 3 (2)	123
第80図	SI 3 出土遺物	124
第81図	SS 1	125
第82図	SS 1 出土遺物	125
第83図	遺構外出土遺物(弥生時代～古墳時代)	126
第84図	SB 1	127
第85図	SB 1 出土遺物	128
第86図	SS 2・3	129
第87図	SS 2	130
第88図	SS 3	131
第89図	SS 4 (1)	132
第90図	SS 4 (2)	133
第91図	SS 5	134
第92図	SS 6 (1)	135

第93図	SS 6 (2)	136
第94図	SK 1	138
第95図	SK 2	139
第96図	SK 3	139
第97図	SK 4	140
第98図	SK 5	141
第99図	SK 6	141
第100図	SK 7・8	142
第101図	SK 9	143
第102図	SK 10	143
第103図	SK 11	144
第104図	SK 12	144
第105図	SK 13	145
第106図	SK 14	145
第107図	SK 15	146
第108図	SK 16	146
第109図	SK 17	147
第110図	東斜面平坦部遺物出土状況	148
第111図	東斜面平坦部出土遺物	149
第112図	遺構外出土遺物(古代)	150
第113図	SK 18～20	151
第114図	遺構外出土石器	152
第115図	暦年較正結果	156
第116図	時期別遺構配置図	159
第117図	竪穴住居規模の比較	161

梅田六ツ塚遺跡

第118図	調査地位置図	169
第119図	調査前地形測量図	170
第120図	調査地基本層序	170
第121図	調査地土層断面図	171
第122図	Ⅲ層出土石器	172
第123図	遺構配置図	173
第124図	梅田古墳群古墳分布図	174
第125図	梅田14号墳完掘	175
第126図	梅田15号墳調査前測量図	176
第127図	梅田15号墳完掘	177
第128図	梅田15号墳埋葬施設調査状況	178
第129図	梅田15号墳周溝土層断面図	180
第130図	梅田15号墳墳丘断割状況(1)	181
第131図	梅田15号墳墳丘断割状況(2)	182
第132図	梅田15号墳出土土器	182
第133図	梅田15号墳墳丘盛土中出土石剣	183
第134図	梅田16号墳調査前測量図	184
第135図	梅田16号墳完掘	185・186
第136図	梅田16号墳埋葬施設調査状況	187
第137図	梅田16号墳周溝土層断面図(1)	188
第138図	梅田16号墳周溝土層断面図(2)	189

第139図	梅田16号墳墳丘断割状況	191・192
第140図	梅田16号墳出土遺物	193
第141図	梅田19号墳完掘	194
第142図	梅田19号墳周溝土層断面図	195
第143図	SX 1 および出土遺物	196
第144図	SK 1	197
第145図	SK 2～4	198
第146図	SD 1～5 および出土遺物	199

第147図	SD 6～15	200
第148図	SD 8 出土遺物	201
第149図	SD16	202
第150図	遺構外出土遺物	202
第151図	グリッド別石器出土量概念図	203
第152図	石材および器種別組成図	203
第153図	遺構外出土石器	204

挿表目次

南原千軒遺跡

表1	南原千軒遺跡新旧遺構対照表	10
表2	南原千軒遺跡鍛冶関連遺物観察表(1)	70
表3	南原千軒遺跡鍛冶関連遺物観察表(2)	71
表4	南原千軒遺跡鍛冶関連遺物観察表(3)	72
表5	南原千軒遺跡鍛冶関連石器観察表	73
表6	鍛冶関連遺物集計表(非掲載分を含む)	74
表7	3区鍛冶工房土壌サンプル集計表(1)	75
表8	3区鍛冶工房土壌サンプル集計表(2)	76
表9	3区鍛冶工房土壌サンプル集計表(3)	77
表10	3区鍛冶工房土壌サンプル集計表(4)	78
表11	3区鍛冶工房土壌サンプル集計表(5)	79
表12	3区鍛冶工房土壌サンプル集計表(6)	80
表13	3区鍛冶工房土壌サンプル集計表(7)	81
表14	測定試料及び処理	82
表15	放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果	83
表16	中世土師器編年と南原千軒遺跡遺構変遷表	86
表17	貿易陶磁集計表	96
表18	土師器・須恵器・国内産陶磁器集計表	97
表19	南原千軒遺跡出土土器観察表(1)	98
表20	南原千軒遺跡出土土器観察表(2)	99
表21	南原千軒遺跡出土土器観察表(3)	100
表22	南原千軒遺跡出土土器観察表(4)	101
表23	南原千軒遺跡出土土製品観察表	102
表24	南原千軒遺跡出土石器観察表	102
表25	南原千軒遺跡出土銅銭観察表	102
表26	南原千軒遺跡ピット計測表(遺構内)	103
表27	南原千軒遺跡ピット計測表(遺構外)(1)	103
表28	南原千軒遺跡ピット計測表(遺構外)(2)	104

梅田東前谷中峯遺跡

表29	梅田東前谷中峯遺跡新旧遺構名対照表	113
表30	SI 1 ピット計測表	115

表31	SI 2 ピット計測表	119
表32	SI 3 ピット計測表	122
表33	SB 1 ピット計測表	127
表34	SS 2 ピット計測表	129
表35	SS 3 ピット計測表	129
表36	SS 4 ピット計測表	132
表37	SS 6 ピット計測表	135
表38	測定試料および処理	153
表39	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	154
表40	出土炭化材とその樹種	157
表41	梅田東前谷中峯遺跡出土土器観察表(1)	164
表42	梅田東前谷中峯遺跡出土土器観察表(2)	165
表43	梅田東前谷中峯遺跡出土土器観察表(3)	166
表44	梅田東前谷中峯遺跡出土土器観察表(4)	167
表45	梅田東前谷中峯遺跡出土鉄器観察表	167
表46	梅田東前谷中峯遺跡出土石器観察表	168

梅田六ツ塚遺跡

表47	梅田六ツ塚遺跡新旧遺構名対照表	172
表48	ピット計測表	173
表49	梅田古墳群古墳名称対照表	174
表50	梅田15号墳計測表	177
表51	梅田16号墳計測表	185・186
表52	梅田16号墳墳丘断割土層堆積一覧(第139図)	190
表53	梅田19号墳計測表	195
表54	SD 1～15計測表	201
表55	石器石材別組成表	205
表56	梅田古墳群に見られる埋葬施設	207
表57	周辺古墳群の埋葬施設状況	208
表58	梅田六ツ塚遺跡出土土器観察表	211
表59	梅田六ツ塚遺跡出土石器観察表	212
表60	梅田六ツ塚遺跡出土金属器観察表	212

図版目次

写真1	調査を終えて	73
写真2	現地説明会	73

写真3	梅田14号墳現況(西から)	175
写真4	梅田19号墳周溝内礫出土状況(北東から)	195

南原千軒遺跡

- PL.1 1. SD7完掘状況(北東から)
2. 遺跡遠景(西から)
- PL.2 遺跡俯瞰
- PL.3 SD7完掘状況(5区 北から)
- PL.4 1. SD7土層断面(4区 西から)
2. SD7鍛冶関連遺物出土状況(5区 北から)
- PL.5 鍛冶関連遺物
- PL.6 貿易陶磁
- PL.7 1. SD6完掘状況(4区 南東から)
2. SD6完掘状況(4区 北西から)
3. SD6土層断面(4区 西から)
4. SD6土師器出土状況(4区 南から)
- PL.8 1. SD7完掘状況(4区 東から)
2. SD7遺物出土状況(4区 西から)
3. SD7礫出土状況(1)(4区 南東から)
4. SD7礫出土状況(2)(4区 南西から)
- PL.9 1. SD19完掘状況(北から)
2. SD19遺物出土状況(北から)
3. SD19ベルト①土層断面(南から)
4. SD19ベルト②土層断面(南から)
5. SD19ベルト③土層断面(南から)
- PL.10 1. SB4完掘状況(北から)
2. 道状硬化面検出状況(南東から)
- PL.11 1. SB4-P5完掘状況(東から)
2. P547土層断面(西から)
3. P547銅銭出土状況(南東から)
4. P569須恵器出土状況(北東から)
5. SK58完掘状況(南東から)
6. SK58礫検出状況(南東から)
- PL.12 1. 4区北東壁土層断面(北西から)
2. 4区南東壁土層断面(北西から)
- PL.13 1. SB4・5・7完掘状況(西から)
2. 4区全景(北から)
- PL.14 1. SD6完掘状況(5区 北から)
2. SD7遺物出土状況(5区 北から)
3. SD7遺物出土状況(5区 南から)
- PL.15 1. 遺跡遠景(北から)
2. SD7土層断面(5区調査地北壁 南から)
- PL.16 1. SD7ベルト土層断面(5区 北から)
2. SD7鍛冶関連遺物出土状況(1)(5区 西から)
3. SD7鍛冶関連遺物出土状況(2)(5区 北から)
4. SD7土橋検出状況(5区 東から)
5. SD7掘り方断面(5区 南から)
6. SD7南西隅大型礫出土状況(5区 南西から)
- PL.17 1. SD20完掘状況(1)及びSD7検出状況(南から)
2. SD20完掘状況(2)(北から)
- PL.18 1. SD20土層断面(調査地北壁 南から)
2. SD20ベルト①土層断面(北から)
3. SD20ベルト②土層断面(北から)
4. SD21ベルト①土層断面(南から)
5. SD21ベルト②土層断面(南から)
6. SB6完掘状況(北から)
- PL.19 1. 5区ピット群検出状況(北から)
2. SD7柵列・SB6配置状況(西から)
- PL.20 1. SK59完掘状況(東から)
2. SK59土層断面(南から)
3. SK60遺物出土状況(北から)
4. SK60完掘状況(北から)
5. SK61完掘状況(北西から)
6. SK62完掘状況(南から)
- PL.21 1. SD6出土土師器(1)
2. 4区P569出土須恵器
3. 4区包含層出土須恵器
4. 5区SD7出土須恵器
5. SD21・5区包含層出土須恵器
6. 土玉・土錘
- PL.22 1. SD6出土土師器(2)
2. 土師器墨書
- PL.23 SD7出土土師器(4・5区)
- PL.24 SD7・19・20・21、SK60出土土師器
- PL.25 4・5区出土須恵器・瓦質土器
- PL.26 4・5区出土備前焼・常滑焼
- PL.27 4・5区包含層出土土器・陶器
- PL.28 1. 鉄製品(1)
2. 鉄製品(1)X線写真
- PL.29 1. 鉄製品(2)
2. 鉄製品(2)X線写真
- PL.30 1. 鉄製品(3)
2. 鉄製品(3)X線写真
- PL.31 鉄滓(1)
- PL.32 鉄滓(2)
- PL.33 鉄滓(3)
- PL.34 鉄滓(4)
- PL.35 鉄滓(5)
- PL.36 1. 羽口(1)
2. 羽口(2)
- PL.37 1. 砥石(1)
2. 砥石(2)
- PL.38 1. 鉄床石(1)
2. 鉄床石(2)
- PL.39 1. 鉄床石(3)
2. 被熱礫(1)
- PL.40 1. 被熱礫(2)

2. 剥片石器・砥石・礮石

梅田東前谷中峯遺跡

- PL.41 1. 調査後航空写真遠景(北から)
2. 調査後航空写真遠景(東から)
- PL.42 調査後航空写真俯瞰
- PL.43 1. 調査区基本層序(調査区南壁 北から)
2. 調査区基本層序(調査区北壁 南から)
3. 西斜面完掘状況(南から)
4. 遺跡全景(尾根部 西から)
- PL.44 1. 遺跡全景(尾根部 南西から)
2. 東斜面完掘状況(西から)
- PL.45 1. SI 1 完掘状況(南から)
2. SI 1 検出状況(南東から)
3. SI 1 遺物出土状況(南から)
4. SI 1 土層断面(南東から)
5. SI 1 土層断面(北西から)
- PL.46 1. SI 2 炭化材検出状況(北西から)
2. SI 2 土層断面(南西から)
3. SI 2 - P 4 検出状況(南東から)
- PL.47 1. SI 2 完掘状況(北から)
2. SI 2 検出状況(西から)
3. SI 2 土層断面(南西から)
4. SI 2 土層断面(北東から)
5. SI 2 - P 5 土層断面(北東から)
- PL.48 1. SI 2 炭化材検出状況(東から)
2. SI 2 - P 1 土層断面(西から)
3. SI 2 - P 2 土層断面(南から)
4. SI 2 - P 3 土層断面(西から)
5. SI 2 - P 4 土層断面(南から)
- PL.49 1. SI 3 完掘状況(東から)
2. SI 3 遺物出土状況(北西から)
3. SI 3 炭化材検出状況(南西から)
4. SI 3 土層断面(北西から)
5. SI 3 土層断面(南東から)
- PL.50 1. SI 2・3 完掘状況(南西から)
2. SS 1 完掘状況(東から)
- PL.51 1. SB 1 完掘状況(北から)
2. SS 2・3 完掘状況(北から)
- PL.52 1. SS 4 完掘状況(北から)
2. SS 4 - P 7 土層断面(西から)
3. SS 4 - P 7 土器出土状況(南から)
4. SS 4 - P 9 土層断面(東から)
5. SS 4 遺物出土状況(北から)
- PL.53 1. SS 5 完掘状況(南から)
2. SS 6 遺物出土状況(南東から)
3. SS 6 完掘状況(北から)
- PL.54 1. SK 1 炭化材検出状況(北から)
2. SK 1 土層断面(北西から)
3. SK 2 炭化材検出状況(南東から)
4. SK 2 土層断面(南東から)
5. SK 3 炭化材検出状況(南から)
6. SK 3 土層断面(北西から)
- PL.55 1. SK 4 炭化材検出状況(南西から)
2. SK 4 土層断面(北東から)
3. SK 5 炭化材検出状況(東から)
4. SK 5 土層断面(南東から)
5. SK 6 炭化材検出状況(南から)
6. SK 6 土層断面(南から)
- PL.56 1. SK 7 炭化材検出状況(北から)
2. SK 7 土層断面(北から)
3. SK 8 炭化材検出状況(北から)
4. SK 8 土層断面(南東から)
5. SK 9 土層断面(東から)
6. SK 10 完掘状況(北から)
- PL.57 1. SK 10 土層断面(北西から)
2. SK 11 完掘状況(北から)
3. SK 11 土層断面(北西から)
4. SK 12 完掘状況(東から)
5. SK 12 炭化材検出状況(北から)
6. SK 12 土層断面(北東から)
- PL.58 1. SK 13 完掘状況(東から)
2. SK 14 炭化材検出状況(北東から)
3. SK 14 土層断面(南西から)
4. SK 15 完掘状況(南から)
5. SK 15 炭化材検出状況(東から)
6. SK 16 炭化材検出状況(北東から)
- PL.59 1. SK 16 土層断面(南東から)
2. SK 17 完掘状況(北から)
3. SK 18 完掘状況(西から)
4. SK 19 完掘状況(北東から)
5. SK 20 完掘状況(北から)
6. SK 21 完掘状況(北から)
- PL.60 1. 東斜面平坦部No.53出土状況(1)(北から)
2. 東斜面平坦部No.53出土状況(2)(北から)
3. 東斜面平坦部No.49出土状況(東から)
4. 東斜面平坦部No.50出土状況(北から)
5. 東斜面平坦部No.52出土状況(東から)
6. 東斜面平坦部No.51出土状況(南から)
- PL.61 SI 1 出土土器
- PL.62 1. SI 1 出土礫石器
2. SI 2 出土土器
3. SI 2 出土礫石器
- PL.63 1. SI 3 出土土器

- 2. SI 3 出土礫石器
- PL.64 1. SS 1 出土土器
- 2. 遺構外出土土器(弥生時代)
- PL.65 遺構外出土土器(弥生時代・古墳時代)
- PL.66 1. SB 1 出土土器(1)
- 2. SB 1 出土土器(2)
- PL.67 1. SS 2 出土土器
- 2. SS 2 出土礫石器
- 3. SS 4 出土礫石器
- 4. SS 4 出土土器
- PL.68 1. SS 6 出土須恵器
- 2. SK16出土須恵器
- 3. SS 2・SK 5・SK16出土土器
- 4. 東斜面平坦部出土須恵器壺
- 5. 東斜面平坦部出土須恵器坏
- 6. 東斜面平坦部出土土師器
- PL.69 遺構外出土須恵器
- PL.70 遺構外出土土師器
- PL.71 1. 石器(石鏃・スクレイパー)
- 2. 鉄製品
- 3. 鉄製品(X線写真)
- PL.72 出土炭化材の走査型顕微鏡写真

梅田六ツ塚遺跡

- PL.73 1. 梅田六ツ塚遺跡(南西から日本海を臨む)
- 2. 15(前)・16号墳(奥)(北西から)
- PL.74 1. 15(奥)・16号墳(前)調査前状況(南から)
- 2. 15号墳表土除去後状況(南から)
- PL.75 1. 15号墳表土除去後埋葬施設周辺(西から)
- 2. 15号墳副葬品出土状況(西から)
- 3. 15号墳石棺・副葬品出土状況(西から)
- PL.76 1. 15号墳埋葬施設完掘状況(南西から)
- 2. 15号墳周溝西埋土(南から)
- 3. 15号墳周溝南埋土(北東から)
- PL.77 1. 15号墳断割状況(西から)
- 2. 15号墳断割状況(北西から)
- 3. 15号墳断割状況(南西から)
- PL.78 1. 16号墳表土除去後状況(北西から)
- 2. 16号墳表土除去後状況(南から)
- PL.79 1. 16号墳埋葬施設検出状況(南から)
- 2. 16号墳埋葬施設埋土堆積状況(北東から)
- 3. 16号墳埋葬施設埋土堆積状況(南西から)
- 4. 16号墳埋葬施設埋土堆積状況(南から)
- 5. 16号墳埋葬施設完掘状況(南から)
- PL.80 1. 16号墳周溝南埋土(西から)
- 2. 16号墳周溝西埋土(南西から)
- 3. 16号墳周溝北西埋土(南から)

- 4. 16号墳周溝南西埋土(北西から)
- 5. 16号墳完掘状況(南東から)
- PL.81 1. 16号墳断割状況(南から)
- 2. 16号墳断割状況(北西から)
- 3. 16号墳断割状況(南西から)
- 4. 16号墳盛土内須恵器出土状況(南東から)
- 5. 16号墳盛土内須恵器出土状況(北西から)
- PL.82 1. 14号墳周溝西埋土(南から)
- 2. 19号墳周溝東埋土(南から)
- 3. 14号墳周溝完掘状況(南から)
- 4. 19号墳完掘状況(南東から)
- PL.83 1. SX 1 検出状況(南西から)
- 2. SX 1 遺物出土状況(北東から)
- 3. SX 1 埋土堆積状況(東から)
- 4. SX 1 掘方完掘状況(北から)
- 5. SX 1 配石状況(北東から)
- PL.84 1. SK 1 完掘状況(北から)
- 2. SK 2 完掘状況(南東から)
- 3. SK 3 完掘状況(東から)
- 4. SK 5 埋土堆積状況(南から)
- 5. SD 2～4 完掘状況(南から)
- 6. SD16完掘状況(南東から)
- PL.85 1. 15号墳棺外副葬須恵器
- 2. 15号墳墳丘盛土出土石剣
- 3. 15号墳周溝埋土上層出土須恵器
- PL.86 1. 16号墳墳丘盛土出土須恵器
- 2. 16号墳周溝埋土上層出土須恵器
- 3. 16号墳表土出土鉄器
- 4. 15・16号墳出土土器
- PL.87 1. SX 1 出土小刀
- 2. SD出土土器
- 3. 遺跡内出土石器(1)
- 4. 遺跡内出土石器(2)
- PL.88 遺跡内出土遺物

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

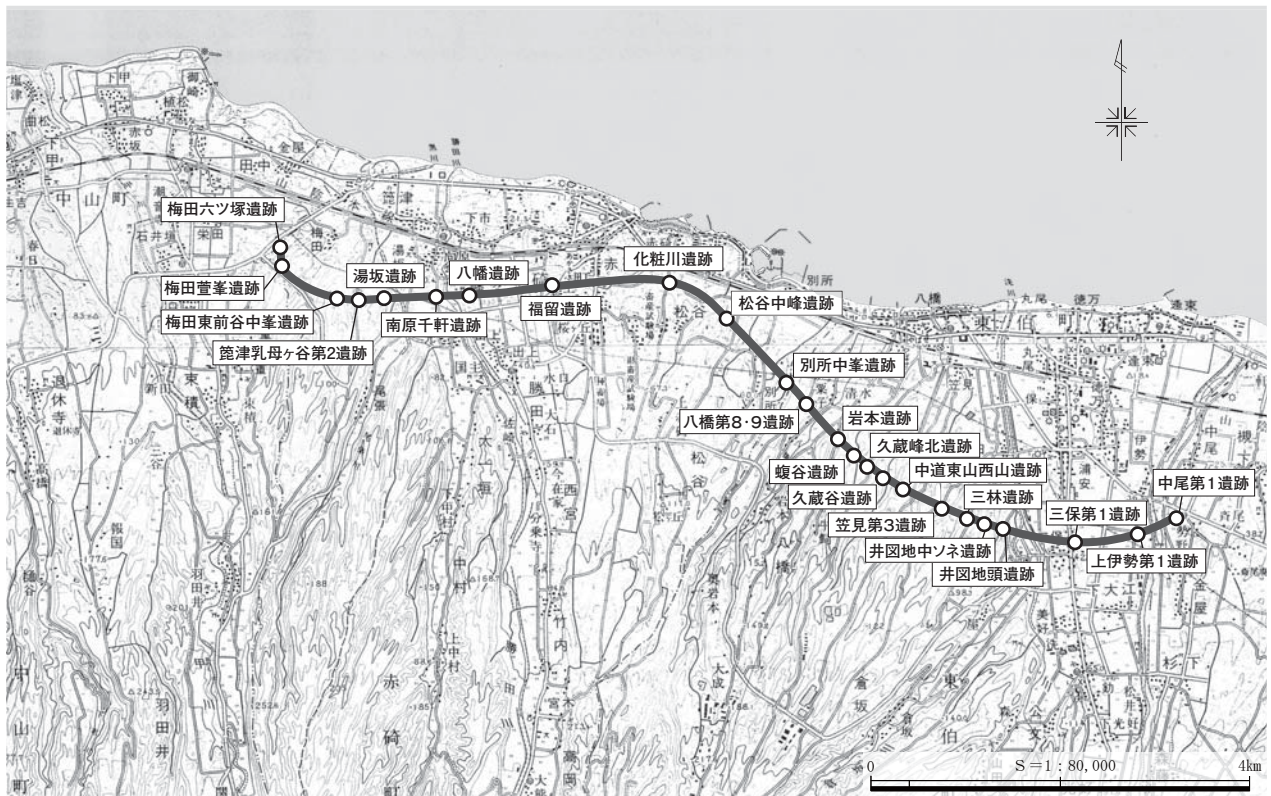
本調査は、平成19年度に一般国道9号東伯中山道路の改築に伴い行った、東伯郡琴浦町湯坂地内の工事予定地に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地である南原千軒遺跡、同町梅田地内の工事予定地に所在する梅田東前谷中峯遺跡、梅田六ツ塚遺跡の発掘調査である。

山陰地方では、国道9号線の交通混雑緩和、荒天時の交通障害解消、災害時の緊急輸送の代替道路確保及び将来の国土幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められている。鳥取県中部地域では、青谷羽合道路、北条道路、東伯中山道路が自動車専用道路として計画、施工され、一部供用されている。

このうち琴浦町を通る東伯中山道路の計画地内及び隣接地には、多数の周知の遺跡があり、建設に先立って計画地内の遺跡の有無並びに遺跡の範囲を確認する必要性が生じた。このため、平成2年度から東伯町、赤碕町各教育委員会(いずれも当時)及び琴浦町教育委員会によって、国庫補助事業として逐次試掘・確認調査が行われた。

その結果を受け、文化財保護法に基づく手続きを踏まえ、平成11年度から平成16年度にかけて、財団法人鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センターが調査主体となり、中尾第1遺跡など20遺跡の発掘調査を行い、各報告書が刊行された。平成17年度からは、鳥取県埋蔵文化財センターが国土交通省倉吉河川国道事務所の委託を受けて調査主体となり、梅田萱峯遺跡など4遺跡の発掘調査を行い、それぞれ報告書を刊行した(第1図参照)。

南原千軒遺跡は、財団法人鳥取県教育文化財団及び鳥取県埋蔵文化財センターが過去2次(平成



第1図 東伯中山道路ルートと関係遺跡位置図

16・17年度)に亘る発掘調査を行ってきたものであるが、遺跡の範囲がさらに西側にも延びることが確認されたため、調査を行うこととなったものである。

梅田東前谷中峯遺跡は、琴浦町教育委員会が平成17・18年度に国庫補助事業として試掘調査を行い、遺構及び遺物を確認した新発見の遺跡である。

梅田六ツ塚遺跡は、旧中山町教育委員会が平成13年度に、琴浦町教育委員会が平成18年度に国庫補助事業として試掘調査を行い、遺構及び遺物を確認したもので、調査区内には周知の梅田15・16号墳が存在している。

これらの結果を受け、平成19年度は、国土交通省倉吉河川国道事務所が、文化財保護法第94条に基づく埋蔵文化財発掘の通知を行った上、鳥取県教育委員会事務局教育長の指示により、鳥取県埋蔵文化財センターが発掘調査を担当着手し、文化財保護法第99条に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を行った。

【参考文献】

西尾秀道2001『町内遺跡発掘調査報告書』中山町文化財調査報告書第23集 中山町教育委員会
小泉傑・石賀太編2002『赤碕町内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』赤碕町埋蔵文化財調査報告書第14集 赤碕町教育委員会
小泉傑・石賀太編2004『赤碕町内遺跡発掘調査報告書Ⅸ』赤碕町埋蔵文化財調査報告書第15集 赤碕町教育委員会
君嶋俊行・西川雄大他2005『南原千軒遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書100 財団法人鳥取県教育文化財団
小口英一郎他2007『南原千軒遺跡2』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書13 鳥取県埋蔵文化財センター

第2節 調査の方法と経過

1 調査区の名称と調査方法

南原千軒遺跡の平成19年度調査地は、町道を挟んで西側の用水路までの部分を4区、用水路の西側部分を5区とした。4区の基準点及び方眼測量については、世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西軸、南北軸交点の北東杭名を採った。座標は、C13杭(X: -54380m、Y: -64830m)、H14杭(X: -54430m、Y: -64840m)などとなった。標高値は、2級基準点H10-2-8の24.408mを使用した。5区も同様に方眼杭を設置し、C14杭(X: -54380m、Y: -64840m)、H18杭(X: -54430m、Y: -64880m)などとなった。標高値は、3級基準点H10-3-12の21.244mを使用した。

梅田東前谷中峯遺跡の調査地は、現況は山林である。この地区の基準点及び方眼測量については、世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西軸、南北軸交点の北東杭の名称を採った。座標は、B2杭(X: -55740m、Y: -75760m)、K10杭(X: -55830m、Y: -75840m)などとなった。標高値は、3級基準点H11-3-1の34.397mを使用した。

梅田六ツ塚遺跡の調査地は、現況は山林及び畑地である。この地区の基準点及び方眼測量については、世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を新たに設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西軸、南北軸交点の北東杭の名称を採った。座標は、B9杭(X: -53750m、Y: -66500m)、P2杭(X: -53890m、Y: -66430m)などとなった。標高値は、3級基準点H10-3-16の53.578mを使用した。

いずれの遺跡も、検出した遺構・遺物の記録には、光波トランシット及び自動レベルを用い、簡易遣り方測量及び光波トランシットによる座標測量を行った。現地での写真撮影は35mm判、ブローニー(6×7)判及び4×5判カメラにより地上又は写真用ヤグラ上から行った。また、調査前状況及び遺

跡完掘状況写真については、ラジコンヘリコプターからの空中写真撮影(ブローニー判カメラ使用)も併せて行った。遺物写真撮影は、ブローニー(6×7)判及び4×5判カメラを用いた。いずれも白黒ネガフィルム並びにカラーポジフィルムを使用し、適宜デジタルカメラも使用した。

2 調査の経過

南原千軒遺跡の調査は、調査区を横断する用水路を挟んで4区・5区に分けて調査を行った。**4区**の調査は、4月12日からの重機による表土剥ぎ作業後、4月18日から方眼杭の打設を行い調査に取り掛かった。4月20日に発掘作業員のオリエンテーションを行い、6月8日まで検出・掘下げ作業を行い、過去の調査で検出した中世の区画溝の西側延長部分などを検出した。

5区の調査は、4区調査終了後この地区を埋め戻し駐車場に造成し直した後、6月13日から重機による表土剥ぎ作業を行い、6月22日から方眼杭打設を検出作業に併行して行った。6月18日から8月10日にかけて発掘作業員による検出掘下げ作業を行い、中世の区画溝の南辺と西辺を確認するに至り、屋敷地の規模を推定することができた。8月4日には、一般の方を対象とした現地説明会を開催したところ、県内外から85名の方々に参加いただいた。その後遺構実測を行い、8月17日にすべての作業を終了した。

調査の結果、平安時代の溝1、鎌倉時代の屋敷地を取り囲む区画溝1、掘立柱建物1、室町時代の区画溝1、掘立柱建物3、道状硬化面1、自然流路2などを検出することができた。

調査面積は、各地区遺構面1面の4区750㎡、5区2,400㎡の計3,150㎡となった。

梅田東前谷中峯遺跡の調査は、5月9日に調査前航空写真撮影、5月11日から調査前地形測量を業者委託し、5月22日から24日、6月4日から6日の2期に亘り重機による表土剥ぎを行った後、6月11日から10月12日にかけて発掘作業員を稼動して調査を行った。調査は西側斜面部から取り掛かったが、この部分に関しては人為的な斜面部の掘削は認められるものの出土遺物はなく、比較的新しい時期の改変であると判断された。丘陵頂部では、全面に厚さ10cm前後の遺物包含層が検出され、その下面で奈良時代の製炭土坑などを検出した。また、急峻な東斜面部でも調査区南側を中心に段状遺構が形成されていることを確認した。10月5日には、梅田萱峯遺跡の現地説明会に併せて、パネルを用いた説明を行った。調査終盤の10月9日に調査後空撮を行い、その後、調査後地形測量を業者委託するとともに、10月19日まで遺構実測を行い、現地でのすべての作業を終了した。

調査の結果、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居3、段状遺構1、奈良時代の掘立柱建物1、製炭土坑17、段状遺構6等を検出することができた。

調査面積は、遺構面1面の4,300㎡となった。

梅田六ツ塚遺跡の調査は、4月5日に調査前航空写真撮影、4月6日から調査前地形測量を業者委託した後、重機による表土剥ぎ作業を4月13日から19日にかけて行った。その後、4月20日から発掘作業員オリエンテーションを行うと伴に検出作業を開始し、8月24日まで検出・掘下げ作業を行った。検出作業は、調査区南側から行うと伴に、調査区内の2基の古墳(梅田15・16号墳)の表土剥ぎ作業を併行して行った。途中調査区内にあった重機等出入路を撤去しながら調査を行い、その結果新たに周溝のみの古墳2基の他、配石墓1、落とし穴1、溝16などを検出することができた。

7月21日には、地元梅田地区の方々を対象とした現地説明会を開催し、27名の方々に参加いただいた他、8月4日には、一般の方々を対象とした現地説明会を開催したところ、県内外から59名の方々

に参加いただいた。その後、遺構実測を行い、9月4日にすべての作業を終了した。

調査面積は、4,200㎡である。

各遺跡とも、調査終了後報告書作成を行い、平成20年3月に報告書を刊行した。

第3節 調査体制

下記の体制で発掘調査、報告書作成を行った。

鳥取県埋蔵文化財センター

所 長 久保 穰二郎
(庶務担当)

次 長 田村 隆志(兼総務係長)

総 務 係

副 主 幹 福田 高之

(調査担当)

発掘事業室

室 長 加藤 隆昭(兼調整係長)

調 整 係

文化財主事 濱 隆造

琴浦調査事務所

副 主 幹 牧本 哲雄

文化財主事 加藤 裕一、森本 倫弘、野口 良也、前田 昌宏(梅田六ツ塚遺跡担当)

小口 英一郎、濱本 利幸、北 浩明(南原千軒遺跡、梅田東前谷中峯遺跡担当)

発掘調査員 原田 克美(南原千軒遺跡担当)

南原千軒遺跡 調査日誌抄

4月12日 4区重機による表土剥ぎ作業開始
4月18日 方眼測量開始
4月20日 発掘作業員オリエンテーション。4区検出作業開始
4月27日 SD6・7検出写真撮影
6月8日 SD6・7完掘写真。4区完掘写真。4区調査終了
6月13日 5区重機による表土剥ぎ作業開始
6月19日 5区検出作業開始
7月9日 自然流路SD20・21完掘写真撮影。SD7検出写真撮影
7月25日 SD7鉄滓出土状況写真撮影
8月4日 現地説明会開催。85名参加
8月8日 5区完掘状況空撮
8月10日 5区掘下げ作業終了
8月17日 遺構測量作業終了。現地作業終了

梅田東前谷中峯遺跡 調査日誌抄

5月9日 調査前空撮
5月14日 調査前地形測量開始
5月22日 重機による表土剥ぎ作業開始
6月11日 検出作業開始
6月20日 西側斜面部調査終了
6月25日 丘陵平坦面遺物包含層上面遺構検出作業
7月18日 竪穴住居、製炭土坑検出。掘下げ
8月23日 SK4・5炭化材出土状況写真撮影
9月10日 SI2で炭化材検出
9月19日 SS2・3完掘
10月9日 調査後空撮
10月12日 現地での掘下げ作業終了
10月19日 実測作業終了。現地調査終了

梅田六ツ塚遺跡 調査日誌抄

4月5日 調査前空撮
4月6日 調査前地形測量開始
4月13日 重機による表土剥ぎ作業開始
4月20日 発掘作業員オリエンテーション。検出作業開始
4月24日 梅田16号墳掘下げ開始
5月2日 配石墓検出
5月21日 梅田15・16号墳周溝検出作業
5月25日 仮設道下重機表土剥ぎ
6月5日 梅田15号墳主体部で須恵器出土
7月18日 調査後空撮。7月24日再撮
7月21日 地元対象の現地説明会
8月4日 現地説明会開催。59名参加
8月6日 梅田19号墳検出
8月24日 現地での掘下げ作業終了
9月4日 測量作業終了。現地調査終了

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

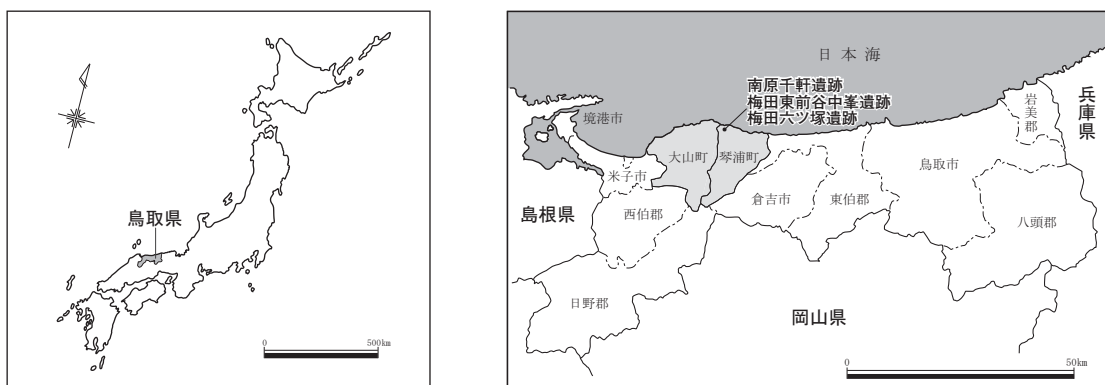
南原千軒遺跡、梅田東前谷中峯遺跡、梅田六ツ塚遺跡が所在する琴浦町は、鳥取県中部地域の西端に位置し、平成16年9月1日に旧東伯町と旧赤碕町が合併して誕生した。県庁所在地の鳥取市からは西に約60km、県西部の商都米子市からは東に約35km離れている。町域は大山山麓から北に向かって広がる三角形で、東は北栄町、倉吉市と、西は大山町、南は江府町と接し、北は日本海に面する。東西15.2km、南北18.5km、総面積は139.88km²を測る。平成19年11月時点の人口は、19,926人である。

地勢は、大山山麓から派生する急峻な丘陵地が北に向かうほど緩やかとなり、町内を南北に流れる加勢蛇川、洗川、勝田川などの流域に平野部が広がる。海岸線は単調であるが、良好な漁場となっている。町の産業は日本海沿岸部と山間部、その中間部にそれぞれ特徴がある。日本海沿岸部は国道9号線沿いを中心に、地酒、地ビール、和牛といった酒造や食品製造などの商工業が盛んである。また海岸部は赤碕港を中心とした沿岸漁場が有名である。中間部は県下有数の生産、販売高を誇る農業が盛んで、二十世紀梨は海外へも輸出されている。山間部は大山滝や、南北朝期の動乱を描いた「太平記」の舞台となった船上山、国指定天然記念物の伯耆の大シイなどの風光明媚な自然に囲まれ、多くの観光客が訪れている。

南原千軒遺跡は町の北西部、旧赤碕町域に位置する。勝田川下流左岸の標高約25mの扇状地上に立地し、日本海までは直線距離で約1.5kmである。

梅田東前谷中峯遺跡は町の北西部、旧赤碕町域に位置する。大山北麓から派生する標高約40～60mの丘陵先端部頂部に立地する。周辺田畠からの比高差は約30mである。日本海までは、約1kmである。

梅田六ツ塚遺跡は、町の北西部、西伯郡大山町との境に位置し、一部は大山町域を含む。大山北麓から延びる標高約50mのなだらかな台地上に立地する。



第2図 遺跡位置図

第2節 歴史的環境

ここでは琴浦町内を中心とした遺跡の概要を述べる。

旧石器・縄文時代 鳥取県下の旧石器資料は15遺跡で確認されており、位置づけがはっきりしない尖頭器類を含めても40遺跡を数えるに過ぎない。町内では三林遺跡(6)と梅田萱峯遺跡(22)でナイフ形

石器の可能性のある資料が、笠見第3遺跡(7)で細石核の可能性のある資料が、本来の位置を遊離した状態で出土している。また水溜、松谷の両地点で槍先形尖頭器が採集されており、住吉第2遺跡(99)では有舌尖頭器が出土している。

縄文時代については、集落像を明らかにしうる調査例は少ない。早期のものとしては、赤坂後口山遺跡(93)、退休寺飛渡り遺跡(101)、上伊勢第1遺跡(2)で押型文土器が検出されている。前・中期では、松ヶ丘遺跡(66)、森藤第1・2遺跡(37)、井岡地中ソネ遺跡(5)、井岡地頭遺跡(4)などで土器が出土している。後期段階では森藤第2遺跡と南原千軒遺跡(19)で石囲炉をもつ竪穴住居が検出されている。森藤第2遺跡では、住居内から土器のほか土器片錘、打ち欠き石錘、土偶が出土している。南原千軒遺跡では遺構外から土偶が出土しており、今朝平タイプの可能性が考えられ、同タイプの日本海側における分布の西限例となりうる。このほか後期から晩期の遺跡として、田中川上遺跡(79)、御崎第2遺跡(80)、住吉第2遺跡がある。

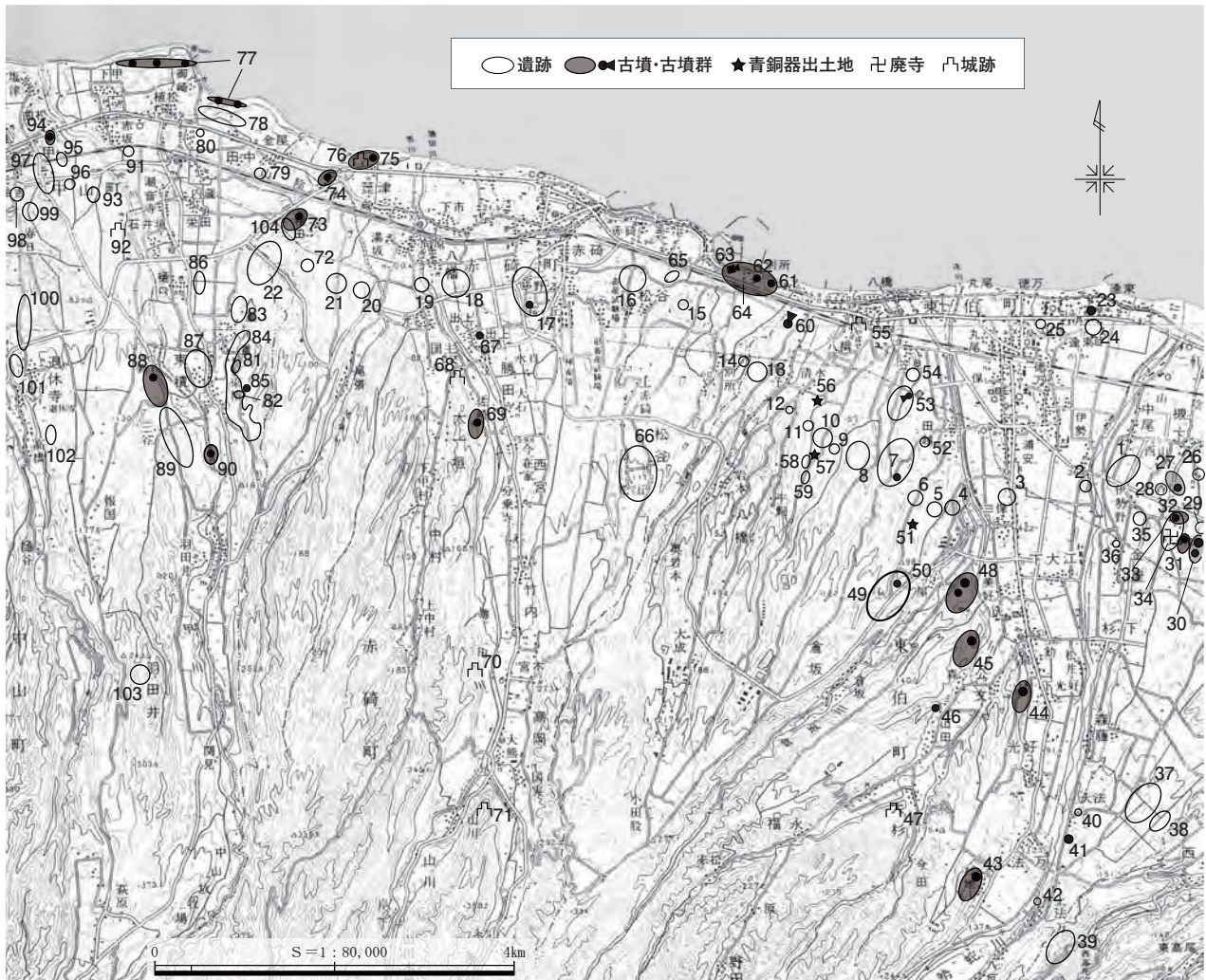
弥生時代 当地域の弥生開始期の様相は明らかではない。前期から中期前半については、近年の低地部の調査でこの時期の集落の一端が見え始めている。上伊勢第1遺跡では前期の竪穴住居が3棟確認され、中尾第1遺跡(1)と三保第1遺跡(3)では同時期の配石墓や土壙墓などの墓域が調査されている。これらの遺跡は加勢蛇川を挟んだ沖積平野の微高地上に近接して存在する。南原千軒遺跡は勝田川沿いの扇状地上に位置し、中期初頭の土器が大量に出土している。また中尾第1遺跡は中期中葉の集落でもある。中期後半から古墳時代初頭にかけては、丘陵上を舞台として集落が大きく展開する。森藤第1遺跡、水溜り・駕籠据場遺跡、大峰遺跡(38)、井岡地中ソネ遺跡、三保遺跡(49)、笠見第3遺跡、三林遺跡、中道東山西山遺跡(8)、久蔵峰北遺跡(10)、福留遺跡(17)、饗津乳母ヶ谷第2遺跡(21)、梅田萱峯遺跡、梅田東前谷中峯遺跡(72)などがあげられる。多数の住居が調査された例から見ると、後期半ばから後半にかけて住居等が激増する様子が窺える。

各種生産に関しては、玉作遺跡の調査例が増えている。南原千軒遺跡では中期初頭から後期までの土器を含む溝から施溝分割技法による管玉素材が多数出土している。また軟質な石材を用いて板状素材から施溝分割する「西川津技法」と同様なものがある点も注目される。笠見第3遺跡、久蔵峰北遺跡では後期の玉作工房が検出されている。笠見第3遺跡では後期前半に属する管玉素材のなかに島根県花仙山産の緑色凝灰岩が使用されていることが判明したほか、管玉の穿孔に鉄針が用いられていた例もあった。笠見第3遺跡、久蔵峰北遺跡ともに後期段階では施溝分割は行わず、打撃分割によっている。笠見第3遺跡では赤色顔料が付着した石杵、石皿も多数出土している。

墳墓では墓ノ上遺跡(65)、別所女夫岩峯遺跡(61)で中期の木棺墓が見つまっている。湯坂遺跡(20)では後期の小型の墳丘墓を増築した例があり、山陰地方では珍しい鉄石英製の管玉が副葬されていた。井岡地中ソネ遺跡では弥生時代終末から古墳時代初頭の区画溝を伴う土壙墓群が検出されている。また、特筆されるものに梅田萱峯遺跡があり、弥生時代中期後葉の貼石を施した長方形の墳丘墓(梅田萱峯弥生墳丘墓)が検出された。現在のところ県内では最古級の弥生墳丘墓で、墳頂部には主体部を取り囲む墓上祭祀施設が認められた。

町内では銅鐸、銅矛、銅剣が出土している。八橋(56)では扁平鈕I式銅鐸のほか、同一丘陵(57)で銅矛も見つまっている。田越(51)では円墳の箱式石棺下30cmの位置から中細形銅剣が4本出土している。

古墳時代 町内には4基の前方後円・後方墳がある。別所1号墳(笠取塚古墳、53m)(63)、八橋狐塚古墳(町史跡、62m)(60)、大塚古墳(34m)、竜ヶ崎3号墳(21m)(48)である。このうち前期に属



1. 中尾第1遺跡、2. 上伊勢第1遺跡、3. 三保第1遺跡、4. 井岡地頭遺跡、5. 井岡地中ソネ遺跡、6. 三林遺跡、7. 笠見第3遺跡、8. 中道東山西山遺跡、9. 久蔵谷遺跡、10. 久蔵峰北遺跡、11. 蛭谷遺跡、12. 岩本遺跡、13. 八橋第8・9遺跡、14. 別所中峯遺跡、15. 松谷中峰遺跡、16. 化粧川遺跡、17. 福留遺跡、18. 八橋遺跡、19. 南原千軒遺跡、20. 湯坂遺跡、21. 筥津乳母ヶ谷第2遺跡、22. 梅田萱峯遺跡、23. 逢東双子塚古墳、24. 逢東遺跡、25. 逢東第2遺跡、26. 槻下豪族居館跡、27. 槻下古墳群、28. 下斎尾2号遺跡、29. 大高野遺跡、30. 大高野古墳群、31. 塚本古墳群、32. 斎尾古墳群、33. 下斎尾1号遺跡、34. 斎尾廃寺、35. 伊勢野遺跡、36. 金屋経塚、37. 森藤第1・2遺跡、38. 大峰遺跡、39. 西高尾谷奥遺跡、40. 大法古瓦出土地、41. 大法3号墳、42. 上法万経塚、43. 杉地古墳群、44. 下光好古墳群、45. 公文古墳群、46. 山田1号墳、47. 妙見山城跡、48. 竜ヶ崎古墳群、49. 三保遺跡、50. 三保6号墳、51. 田越銅剣出土地、52. 田越第4遺跡、53. 笠見第2遺跡・笠見1号墳、54. 笠見第1遺跡、55. 八橋城跡、56. 八橋銅鐸出土地、57. 久蔵峰銅矛出土地、58. 八橋第2遺跡、59. 八橋第4遺跡、60. 八橋孤塚古墳、61. 別所女夫若峯遺跡、62. 別所2号墳、63. 別所1号墳(笠取塚古墳)、64. 別所古墳群、65. 墓ノ上遺跡、66. 松ヶ丘遺跡、67. 出上岩屋古墳、68. 條山城跡、69. 太一垣古墳群、70. 大仏山城跡、71. 山川城跡、72. 梅田東前谷中峯遺跡、73. 梅田(栄田)古墳群、74. 坂ノ上古墳群、75. 筥津古墳群、76. 筥津城跡、77. 御崎古墳群、78. 御崎第1遺跡、79. 田中川上遺跡、80. 御崎第2遺跡、81. 八重第1遺跡、82. 八重第2遺跡、83. 八重第3遺跡、84. 八重第4遺跡、85. 岩屋平ル古墳、86. 樋口第1遺跡、87. 樋口第2遺跡、88. 三谷古墳群、89. 三谷遺跡、90. 東積古墳群、91. 赤坂大五輪塔、92. 岩井垣城跡、93. 赤坂後口山遺跡、94. 曲松古墳群、95. 林之峯遺跡、96. 下甲抜堤遺跡、97. 小松谷遺跡、98. 住吉第1遺跡、99. 住吉第2遺跡、100. 退休寺遺跡、101. 退休寺飛渡り遺跡、102. 退休寺第1遺跡 103. 羽田井遺跡 104. 梅田六ツ塚遺跡

第3図 周辺遺跡分布図

すると思われるのは、前方後方墳の別所1号墳である。

中期から後期にかけては群集墳が築かれる。大高野古墳群(30)、塚本古墳群(31)、斎尾古墳群(32)、公文古墳群(45)、竜ヶ崎古墳群(48)、別所古墳群(64)、筥津古墳群(75)、坂ノ上古墳群(74)、梅田古墳群(73)などである。大高野3号墳では金銅製耳環、青銅製鈴、鉄刀などが副葬されていた。中期後半の高塚古墳は現在は消滅しているが、朝顔形埴輪、形象埴輪などが出土している。横穴式石室が採用される直前の時期の古墳には、この地域独特の河原石を用いた箱式石棺を主体部にもつ御崎古墳群(77)、別所古墳群、梅田古墳群がある。後期以降採用される横穴式石室には、大法3号墳(41)、三保6号墳などのように堅穴系横口石室と呼ばれる構造をもつものがある。槻下古墳群(27)、大高野古墳群、塚本古墳群、斎尾古墳群など後続する石室形態もその系譜に連なるものであることから、加勢蛇川流域に石室形態を同じくする集団が存在したことを示している。終末期に属すると考えられる切石積石室は、山田1号墳(町史跡)(46)、出上岩屋古墳(県史跡)(67)などに認められる。

集落の様相は不明な部分が多い。三保遺跡、上伊勢第1遺跡、笠見第3遺跡、蝮谷遺跡(11)、三林遺跡、久蔵峰北遺跡、中尾第1遺跡、三保第1遺跡、松谷中峰遺跡(15)、井岡地中ソネ遺跡、別所中峯遺跡(14)、八重第3遺跡、住吉第2遺跡など集落遺跡の調査例は多いが、実態は必ずしも明らかではない。そのような中で注目されるのは笠見第3遺跡と八橋第8・9遺跡(13)である。笠見第3遺跡では今のところ県内最古例となる中期末の鍛冶炉が検出された。鉄床石や羽口など鍛冶関連遺物も出土している。八橋第8・9遺跡では6世紀から7世紀代の竪穴住居23棟などが調査されたほか、椀形鍛冶滓なども出土しており、近隣に鍛冶遺構の存在が想定される。籠津乳母ヶ谷第2遺跡では丘陵斜面を造成した段状遺構が、古墳時代後期から奈良時代にかけて多数築かれている。そのうち1棟は鍛冶炉を伴っていた。

古代 町内には山陰地方唯一の国特別史跡である斎尾廃寺(34)がある。金堂や塔、講堂跡が残り、これらを取り囲む土塁状の高まりも存在する。伽藍配置は法隆寺式である。斎尾廃寺が位置する加勢蛇川右岸は伯耆国八橋郡の中心地であったと推定され、近くには出土した炭化米を根拠に正倉または郷倉と考えられる総柱礎石建物群がある大高野遺跡(29)や伊勢野遺跡(35)、水溜り・駕籠据場遺跡といった掘立柱建物群や墨書土器を伴う遺跡がある。やや南には墨書土器や金属器写しの須恵器が出土した森藤第1・第2遺跡、大法古瓦出土地(40)がある。このほか、籠津郷に位置する八幡遺跡(18)では掘立柱建物群や赤色塗彩土師器が多数出土している。田中川上遺跡では埋没河川が確認され、その川辺の一部から須恵器や赤色塗彩の土師器が集中して投棄された状態が検出されており、川辺での祭祀行為が想定されている。

墳墓の関係では、笠見第3遺跡と三林遺跡で火葬墓が見ついている。笠見第3遺跡では土坑を掘り蔵骨器と考えられる土師器坏と火葬骨を木櫃に納めていた。三林遺跡では土坑を掘った中に石槨を設け、その中に土師器を組み合わせた蔵骨器に火葬骨を納めていた。金屋(36)と上法万(42)では経塚が見つかり、金屋では銅経筒が納められていた。

生産関係では、上伊勢第1遺跡で9世紀から13世紀と考えられる畠跡が見つかり、中道東山西山遺跡では9世紀代に位置づけられる鍛冶炉などの鉄関連遺構や遺物が検出されている。

中世 南原千軒遺跡では平安時代末から鎌倉時代の鍛冶関連遺構や遺物が大量に出土した。鍛冶炉や廃棄土坑のほか鉄滓や鍛造剥片などの微細遺物も豊富で、鉄素材から製品まで生産していたと考えられる。

井岡地頭遺跡では平安時代末頃の方形区画溝が検出されている。内部には道路状の硬化面や礎石とおぼしき礫があり、居館跡の可能性もある。槻下館跡(町史跡)(26)は40m四方の主郭のほか、周囲に土塁や壕を巡らせた郭をもつ複郭式と考えられる。鎌倉時代に岩野弾正の居城であったと伝えられるが詳細は不明である。

町南部には標高615mの船上山がそびえる。ここには南北朝期に後醍醐天皇が隠岐から逃れた行宮跡(国史跡)がある。赤碓港から船上山にかけては、鎌倉末期と推定される、宝塔と宝篋印塔の二様式を合わせもつ独特の形態の赤碓塔(県保護文化財)があることでも知られている。

中世城館は町内各地に見られる。南北朝期に西伯耆で勢力をもっていた行松氏が築城し、後に毛利氏が支配し伯耆の経営拠点となった八橋城跡(町史跡)(55)、天正年間の築城と考えられる妙見山城跡(47)、土塁と堀が残る町史跡の籠津城(檳城)跡(76)のほか、條山城跡(68)、大仏山城跡(70)、山川城跡(71)がある。

第3章 南原千軒遺跡の調査

第1節 遺跡の立地と層序

南原千軒遺跡が位置する琴浦町は、大山の裾野から延びた台地が海岸近くまで達し、放射状に流下する中小河川によって尾根状に分断されている。遺跡は、町北西部の勝田川と黒川によって形成された沖積平野に位置し、勝田川左岸の標高約25mに立地する。勝田川は平成16・17年度調査地1～3区の東側を、黒川は調査地の約400m西方をともに北流し、約1.5kmで日本海に至る。

遺跡は琴浦町湯坂地内に所在する。遺跡名は、遺跡周辺が地元で「南原千軒」と呼ばれてきたことに由来している。調査地が位置する小字名は「西南原」であるが、東側は「東南



第4図 調査区周辺の小字名(■：現在の集落)

第3章
南原千軒遺跡の調査



第5図 調査地位置図

原」、南側は「南原口」の小字名が残っており、かつては遺跡周辺が「南原」と呼ばれてきたことが窺える。

今年度の調査地は勝田川によって形成された微高地をやや過ぎた低地に位置しており、中世の遺構面は平成16・17年度調査地1～3区よりも約1m低い⁽¹⁾。現地表面はほぼ平坦であるが圃場整備による盛土造成が行われていることが調査によって明らかとなっている。したがって、本来の原地形は西側と北側に向かって緩やかに低く傾斜している。

調査前の地目は田地と想定されるが、その後の道路造成のための仮土置き場となり、表土は著しく乱されていた。遺構面直上まで削平を受け、4区では約60cm、5区では約2mの客土が盛られている状況であった。こうした理由から、5区の西半部では、表土及び攪乱土直下がただちに地山面となっている。これら現地表面を含めた客土を一括してI層とし、過去の調査成果と整合させるためII層を遺物包含層、III層上面を遺構検出面とする。なお、II層はさらに分層されるが、調査地点によっては大きく削平され、土質が異なることから、基本層序の詳細は調査区ごとに説明する。また、III層以下は平成16年度調査成果に準拠する⁽²⁾。

【註】

(1) 君嶋俊行編2006『南原千軒遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書100 (財)鳥取県教育文化財団

湯村功・小口英一郎編2007『南原千軒遺跡2』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書13 鳥取県埋蔵文化財センター

(2) 註1に同じ。

第2節 4区の調査成果

1. 概要

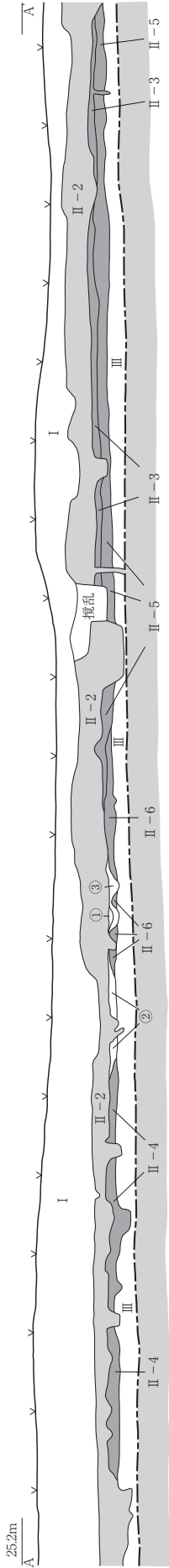
4区からは平安時代前期の溝1条、鎌倉～室町時代の館跡の区画溝1条、溝1条、掘立柱建物3棟、道状硬化面1ヶ所、時期不明の土坑1基、ピット群を検出した。このなかで平安時代と鎌倉～室町時

表1 南原千軒遺跡新旧遺構対照表

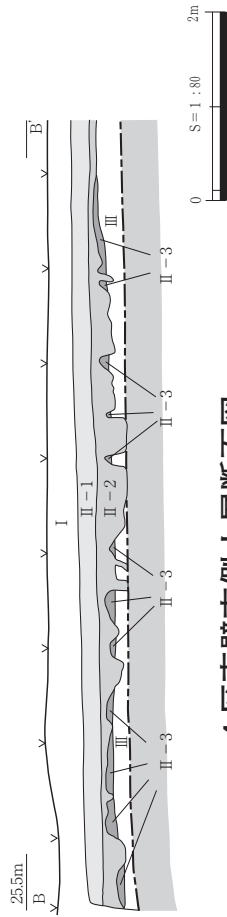
H16年度調査 遺構名	H17年度調査 遺構名	H19年度調査 遺構名	新遺構名	H16年度調査 遺構名	H17年度調査 遺構名	H19年度調査 遺構名	新遺構名	H16年度調査 遺構名	H17年度調査 遺構名	H19年度調査 遺構名	新遺構名
SI1	SI1		SI1				SD20		SK7		SK32
SI2			SI2				SD21		SK8		SK33
SI3			SI3	SK1			SK1		SK9		SK34
SI4			SI4	SK2			SK2		SK10		SK35
SI5			SI5	SK3			SK3		SK11		SK36
SI6			SI6	SK4			SK4		SK12		SK37
	SI2		SI7	SK5			SK5		SK13		SK38
SB1			SB1	SK6			SK6		SK14		SK39
SB2			SB2	SK7			SK7		SK15		SK40
	SB1		SB3	SK8			SK8		SK16		SK41
			SB4	SK9			SK9		SK17		SK42
			SB5	SK10			SK10		SK18		SK43
			SB6	SK11			SK11		SK19		SK44
			SB7	SK12			SK12		SK20		SK45
SD1			SD1	SK13			SK13		SK21		SK46
SD2	SD5		SD2	SK14			SK14		SK22		SK47
SD3	SD6		SD3	SK15			SK15		SK23		SK48
SD4	SD2		SD4	SK16			SK16		SK24		SK49
SD5			SD5	SK17			SK17		SK25		SK50
SD6	SD7	SD2	SD6	SK18			SK18		SK26		SK51
SD7	SD8	SD1	SD7	SK19			SK19		SK27		SK52
SD8			SD8	SK20			SK20		SK28		SK53
SD9			SD9	SK21			SK21		SK29		SK54
SD10			SD10	SK22			SK22		SK30		SK55
	SD1		SD11	SK23			SK23		SK31		SK56
	SD3		SD12	SK24			SK24		SK32		SK57
	SD4		SD13	SK25			SK25			SK58	SK58
	SD9		SD14		SK1		SK26			SK59	SK59
	SD10		SD15		SK2		SK27			SK60	SK60
	SD11		SD16		SK3		SK28			SK61	SK61
	SD12		SD17		SK4		SK29			SK62	SK62
	SD13		SD18		SK5		SK30				
		SD3	SD19		SK6		SK31				



第6図 4・5区遺構配置図



4区東壁北側土層断面図



4区東壁南側土層断面図



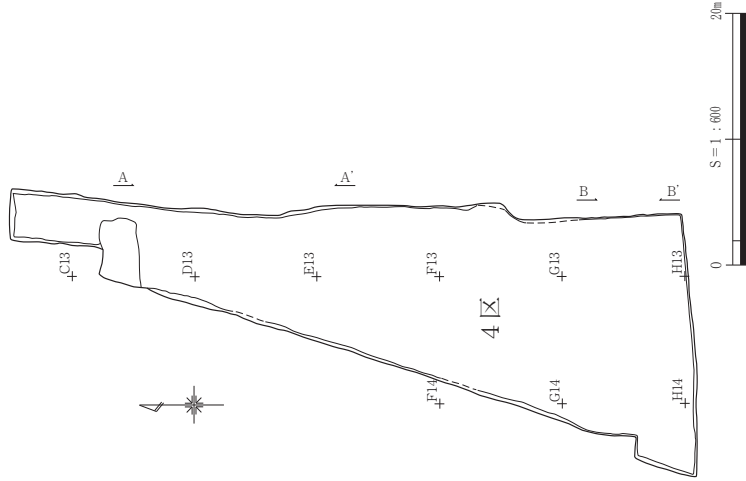
基本層序

- I 表土、バラス、真砂、ロームの客土。
- II-1 暗褐色土 しまり強い。粘性やや強い。白色砂粒・炭化物粒多く含む。褐色ローム粒を含む。近世以降の耕作土。
- II-2 暗褐色土 しまりやや弱い。粘性やや強い。さめの細かいにおい。暗褐色土をベースに黒褐色砂質土、黒褐色シルトのプロックを含む。
- II-3 暗褐色土 しまりやや強い。粘性弱い。II-1層に多量の砂粒が含まれた層。鉄分の沈着が見られる。
- II-4 暗褐色土 砂質土。しまり強い。粘性弱い。白色の砂粒を非常に多く含む。
- II-5 黒褐色土 シルト質。しまりやや強い。粘性やや強い。白色の砂粒を少量含む。III層が土壌化したものか？
- II-6 黒褐色土 シルト質。しまり強い。粘性やや強い。白色の砂粒を多く含む。III層が土壌化したものか？
- III 地山。シルト質。しまりやや強い。粘性やや強い。白色の砂粒を少量含む。

遺状硬化面

- ①灰褐色砂質土 しまり非常に強い。粘性なし。白色の砂粒を非常に多く含む。特に砂が多く硬化が強い。
- ②暗褐色砂質土 しまり非常に強い。粘性なし。白色の砂粒を多く含む。硬化する。II-3ないしはII-5層が硬化したもの。
- ③暗褐色砂質土 しまり非常に強い。粘性やや強い。白色の砂粒を含む。硬化する。II-5層が硬化したもの。

第7図 4区基本層序



代の溝は平成16・17年度調査で確認された溝の続きである。平安時代の溝からは墨書土器が2点、中世の溝からは貿易陶磁や国内産の陶器類、そのほか数多くの鍛冶関連遺物が出土している。また、区画溝の南側からは新たに掘立柱建物が3棟検出され、屋敷外の様相も部分的ではあるが明らかになった。

本調査によって、過去2回の調査で明らかにされた館の範囲が西側へ大きく広がること、屋敷内を区画する溝や道跡、館外の居住地が新たに発見された点が4区の主要な調査成果である。

2. 基本層序

調査地の基本層序は、表土をⅠ層、遺物包含層をⅡ層、Ⅲ層上面を遺構検出面とする。

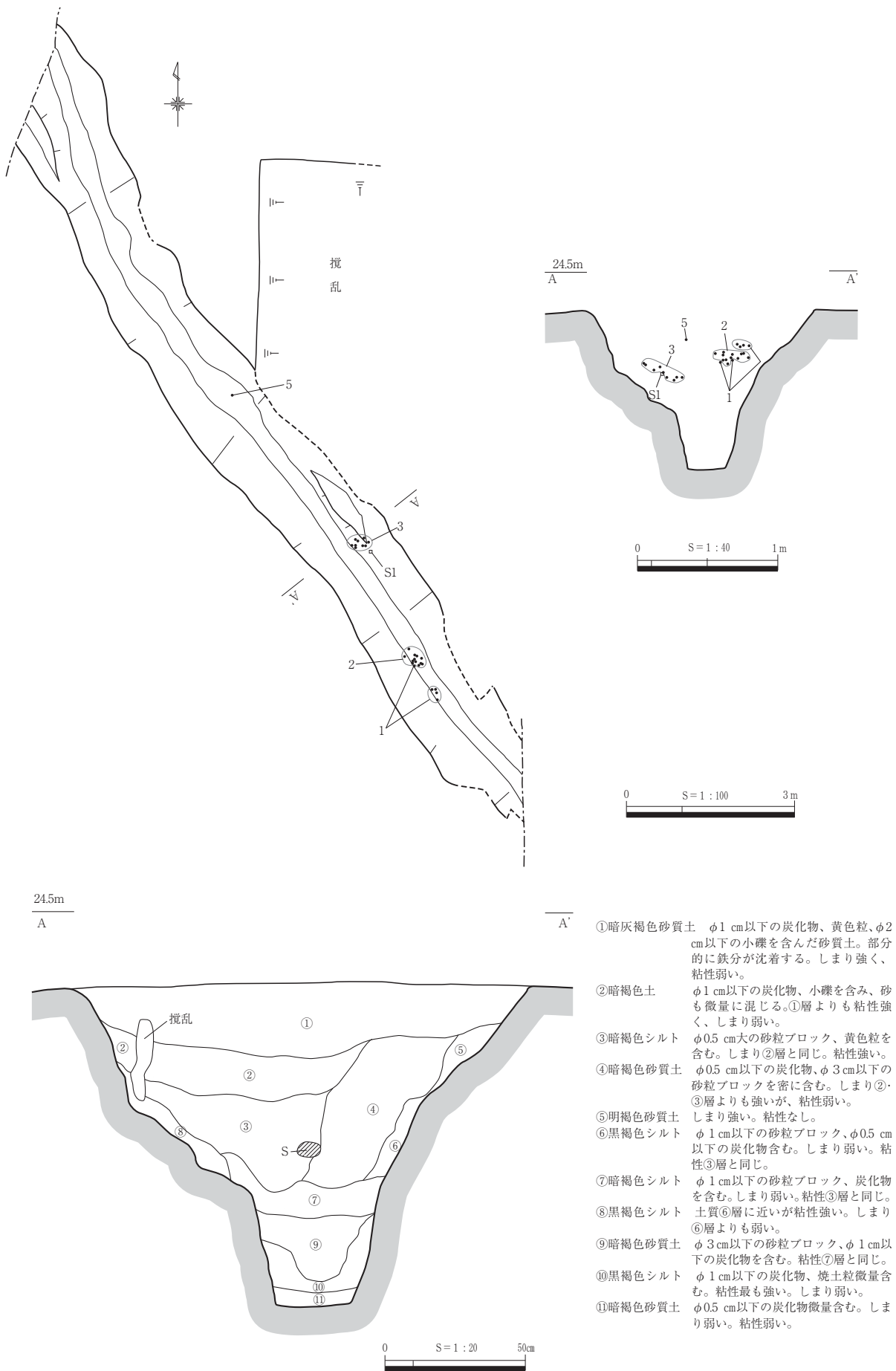
- Ⅰ 層：黄褐～暗褐色土。町道迂回路造成のため、調査地の大部分にバラス、真砂、黄褐色ロームが充填されている。部分的に旧表土(耕作土)が残る。
- Ⅱ - 1層：暗褐色土。調査地南半に約20cmの厚さで堆積する。白色砂粒、炭粒を多く含み、橙色ローム粒が混じる。しまり・粘性ともに強い。包含される遺物は、近世以降であり、当該期の耕作土と考えられる。
- Ⅱ - 2層：暗褐色土。調査区全域に20～40cmの厚さで堆積する。きめの細かいにぶい暗褐色土をベースに黒褐色砂質土、黒褐色シルトのブロックを含む。しまりやや弱い。粘性やや強い。包含される遺物は主に近世以降であり、当該期の耕作土の可能性はある。
- Ⅱ - 3層：暗褐色土。調査地全域に10cmの厚さで堆積する。しまりやや強く、粘性弱い。Ⅱ - 1層に多量の砂粒が含まれた層であり、鉄分が沈着する。包含される遺物は中世以降である。
- Ⅱ - 4層：暗褐色砂質土。調査地北半に約15cmの厚さで堆積する。白色の砂粒を密に含み、鉄分の沈着が見られる。しまり強く、粘性弱い。包含される遺物は古代～中世である。
- Ⅱ - 5層：黒褐色シルト。調査地北端に約15cmの厚さで堆積する。白色の砂粒を少量含む。しまり・粘性強い。Ⅲ層が土壌化した可能性がある。包含される遺物は古墳時代～中世である。
- Ⅱ - 6層：黒褐色シルト。調査地北半のわずかの範囲に堆積する。白色の砂粒を多量含む。しまり・粘性ともに強い。Ⅲ層が土壌化した可能性がある。包含される遺物は縄文時代～中世である。
- Ⅲ 層：黒褐色シルト(地山)。しまり・粘性強い。

3. 古代の遺構・遺物

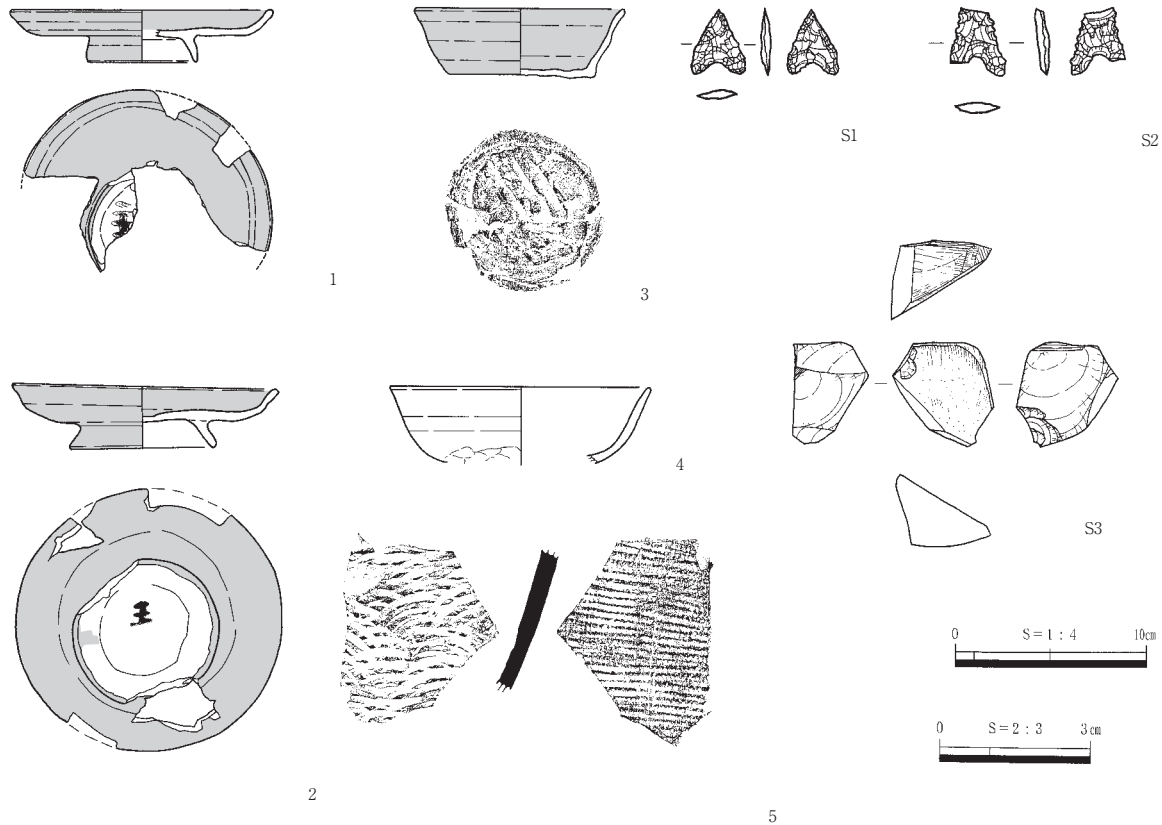
(1) 溝

SD6(第6・8・9図、表18・23、PL.7・21・22・29)

D12・13グリッドに位置する。D12グリッドでSD19に切られている。Ⅱ - 3層を掘り下げ中に暗褐色土のプランを検出し、サブトレンチを設定し精査を行ったところ、深さ約1mの断面V字形の溝であることが判明した。検出した溝の長さは約15m、平成16・17年度調査分を合わせると総延長約100m以上となる。2・3区では概ね東西方向に主軸をとっていたが、4区において北西方向に屈折することが明らかとなった。肩部の幅は中心部で最大1.6m、検出面からの深さは約1mを測り、基本層Ⅴ層まで掘り込んでいる。底面の幅は0.6～0.25mと細く、したがって掘り込み面からの断面形はV字状を呈している。溝底面の標高は、東端で23.2m、中心部で23.0m、西端で22.9mを測り、北西方向に下がっている。



第8図 SD6



第9図 SD6出土遺物

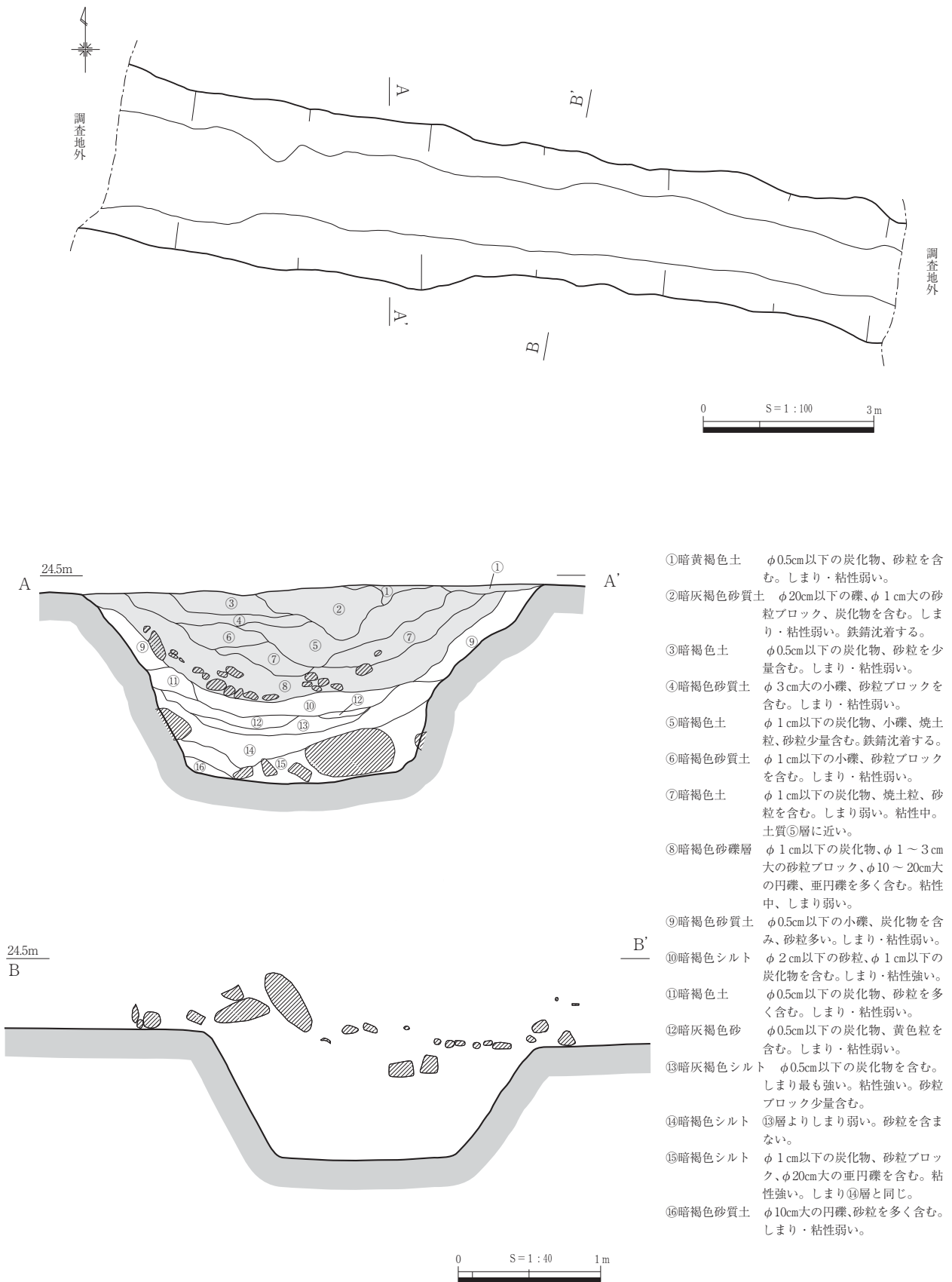
埋土の最上層は暗褐色砂質土であり、部分的に鉄分が沈着していた。以下の層は原則的にシルトと砂質土が互層をなした状況であり、各層とも砂粒ブロックを多く含んでいることで共通している。平成18年度調査地点である3区の西寄りでも類似した埋土の状況が確認されており、SD6は流水と滞水を繰り返していたことがわかる。

遺物は埋土上層を中心に赤彩された土師器片が多く出土した。このなかの2点は墨書土器であり、比較的近距离で出土していることから一括廃棄されたものと考えられる。

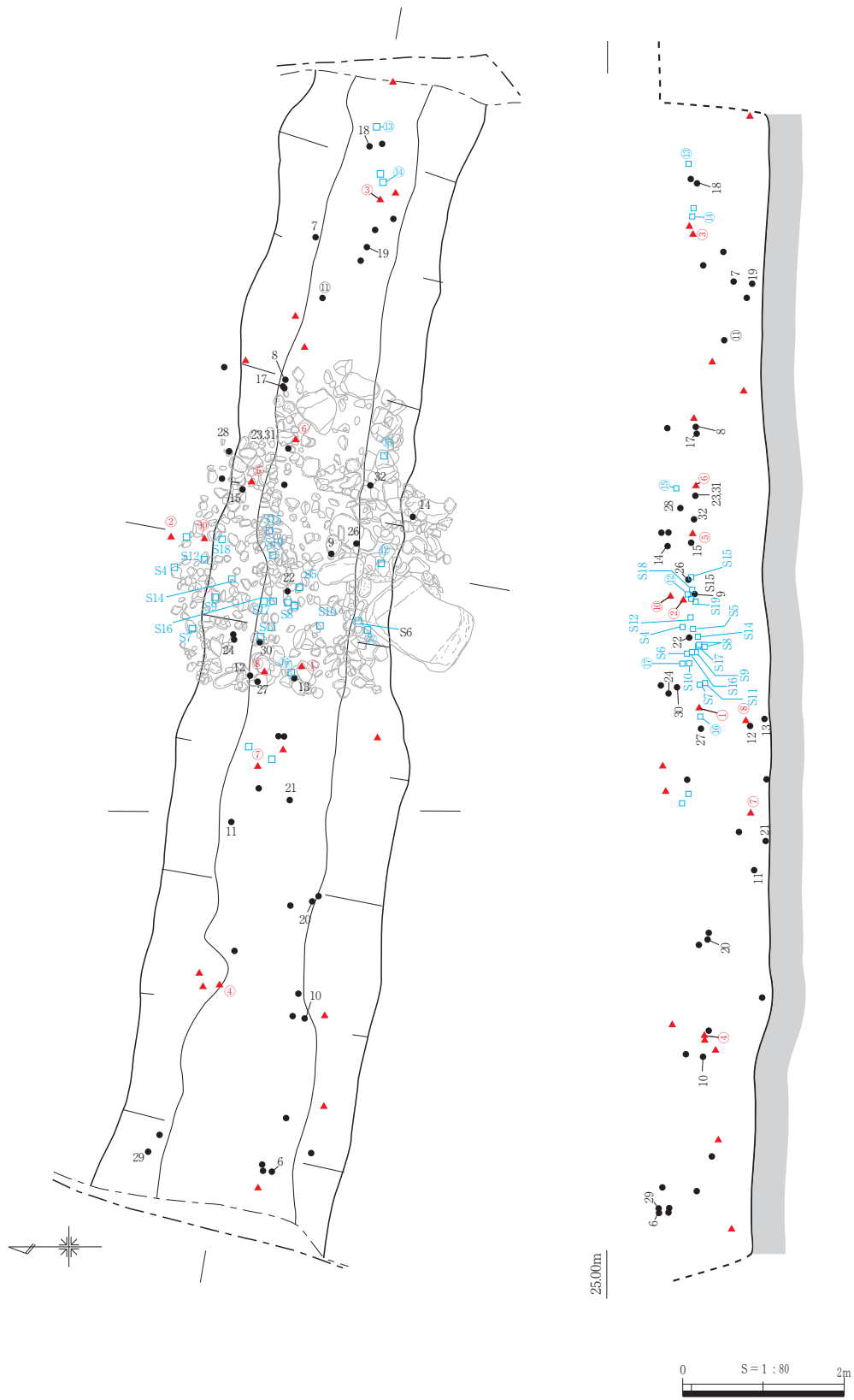
過去の調査分も含め、東西方向に約80m、北西方向に約15m、総延長約100mを超える本遺構は、5区の北東隅を掠め北に向かっていく。このことから、当初想定していた条理制地割の区画溝ではなく、灌漑用水路的な機能を有する可能性が新たに考えられる。

遺物を第9図に掲げている。1～4は赤色塗彩がなされた土師器皿・坏・碗である。1・2は高台付皿の墨書土器であり、口径14.0～14.3cm、底径6.0～7.7cm、器高3.6～3.9cmを測る。底面に「王」？の字が墨書され、両者は非常に類似した土器である。なお、平成17年度調査においても、「五」？と墨書された高台付皿が出土している。3は坏であり、口縁が直線的に外反して立ち上がり、底部が平底となる。底面はヘラ切り後、粗いナデ調整が施されている。4は碗であり、底面は指オサエを残した粗い調整である。以上の赤彩土師器は伯耆国庁編年第2様式に比定され、帰属時期は9世紀と考えられる。5は須恵器甕の体部破片であり、表面は平行タタキ、内面は同心円状当て具痕が見られる。

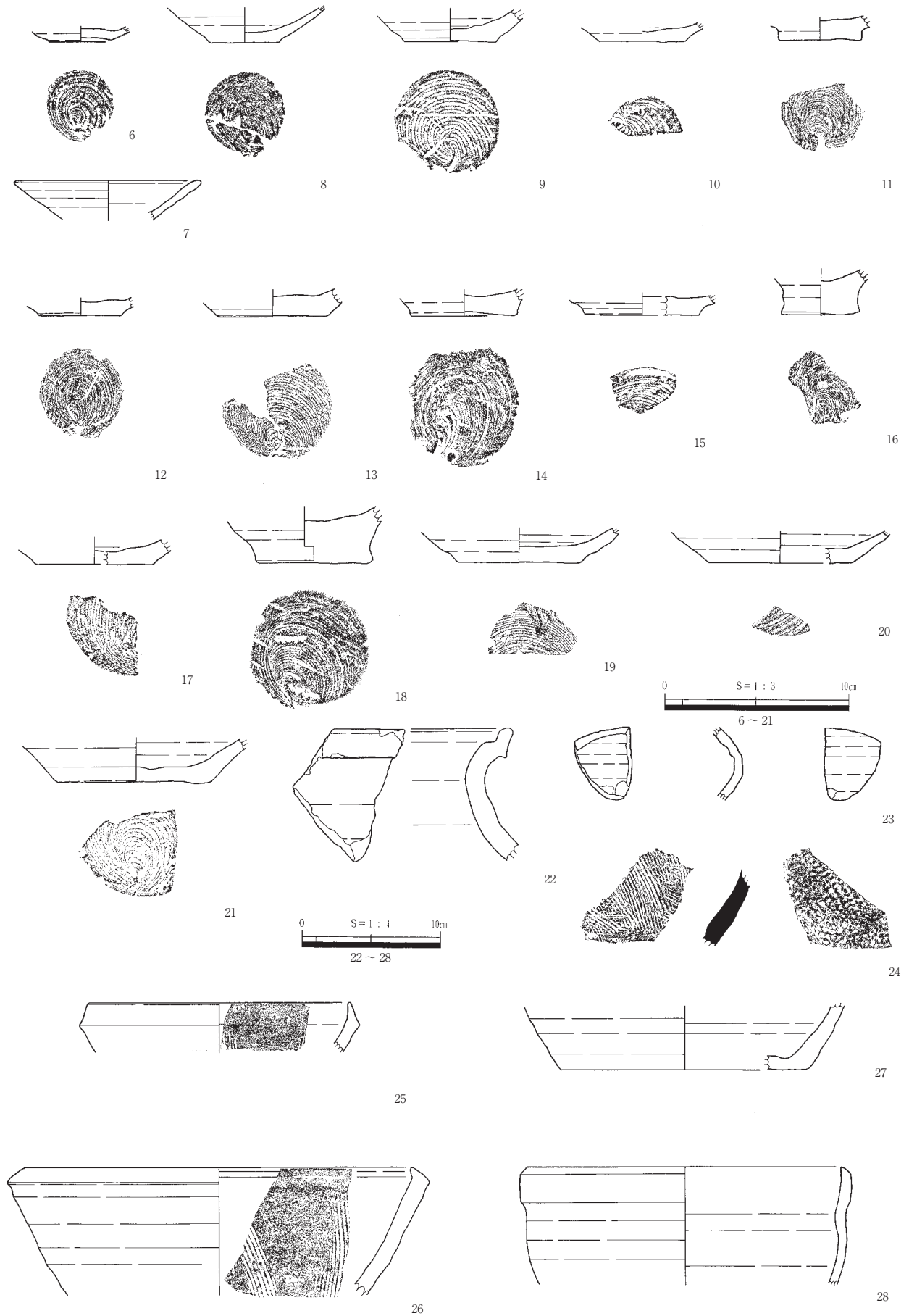
S1・2は黒曜石製の石鏃である。S1は両側辺がほぼ等しく調整加工された凹基式の石鏃である。S2は先端部と脚部が欠損した凹基式であり、S1に比べ挟りが大きい。S3は硬質緑色凝灰岩製の玉作関連資料である。施溝分割による剥片残滓であり、上面は分割後研磨され、背面は原礫または節理



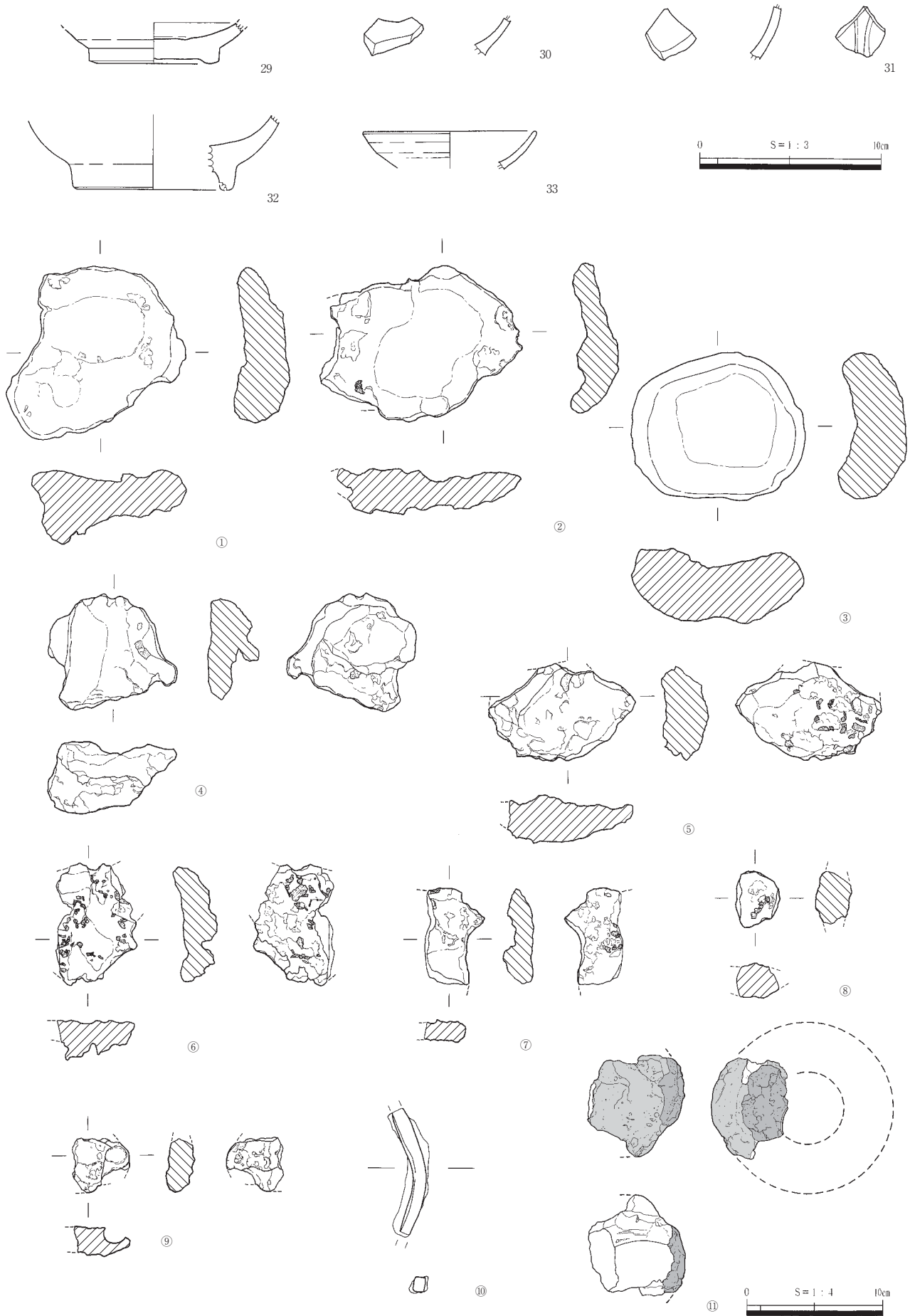
第10図 SD7



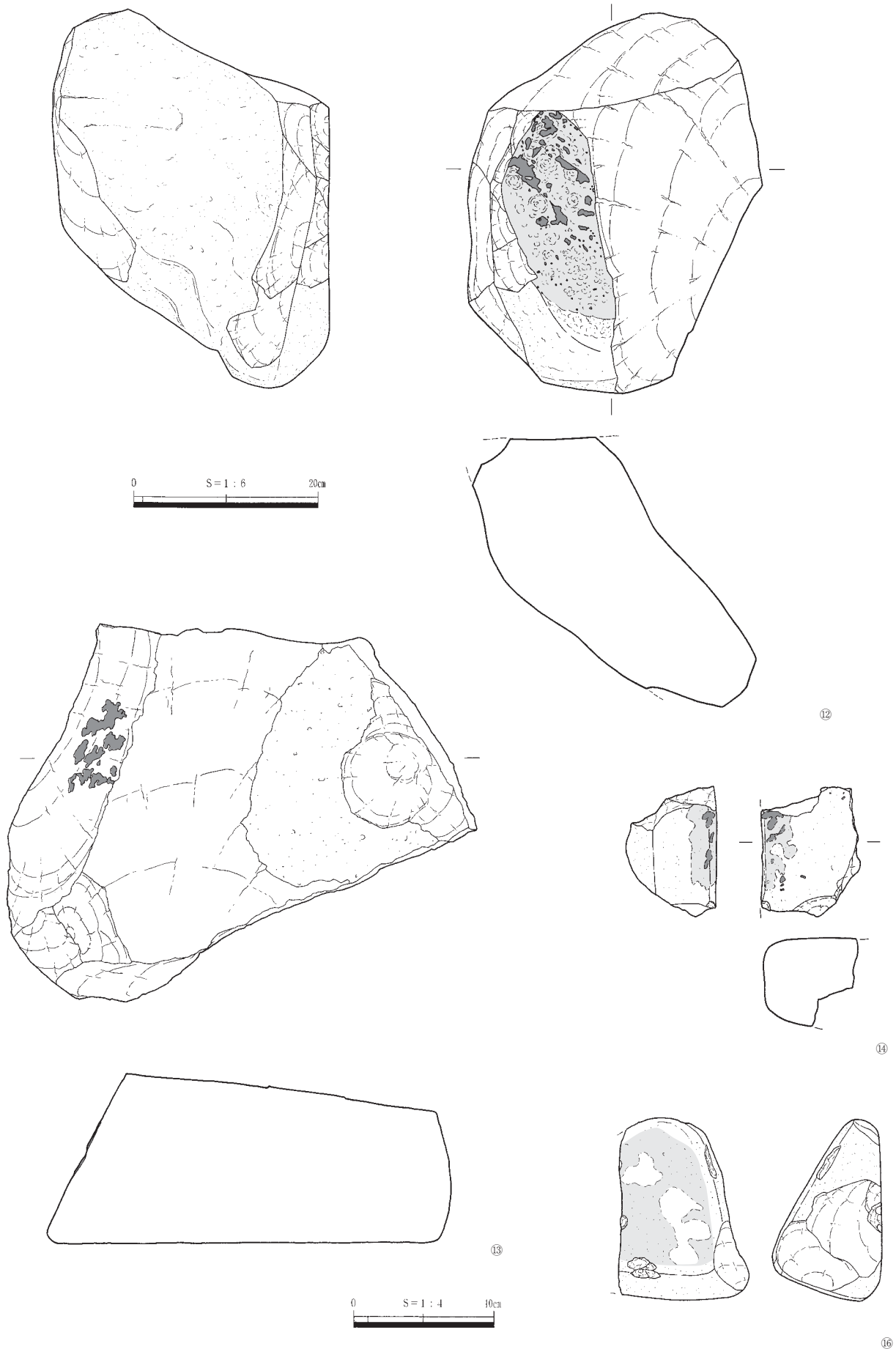
第11図 SD7遺物出土状況



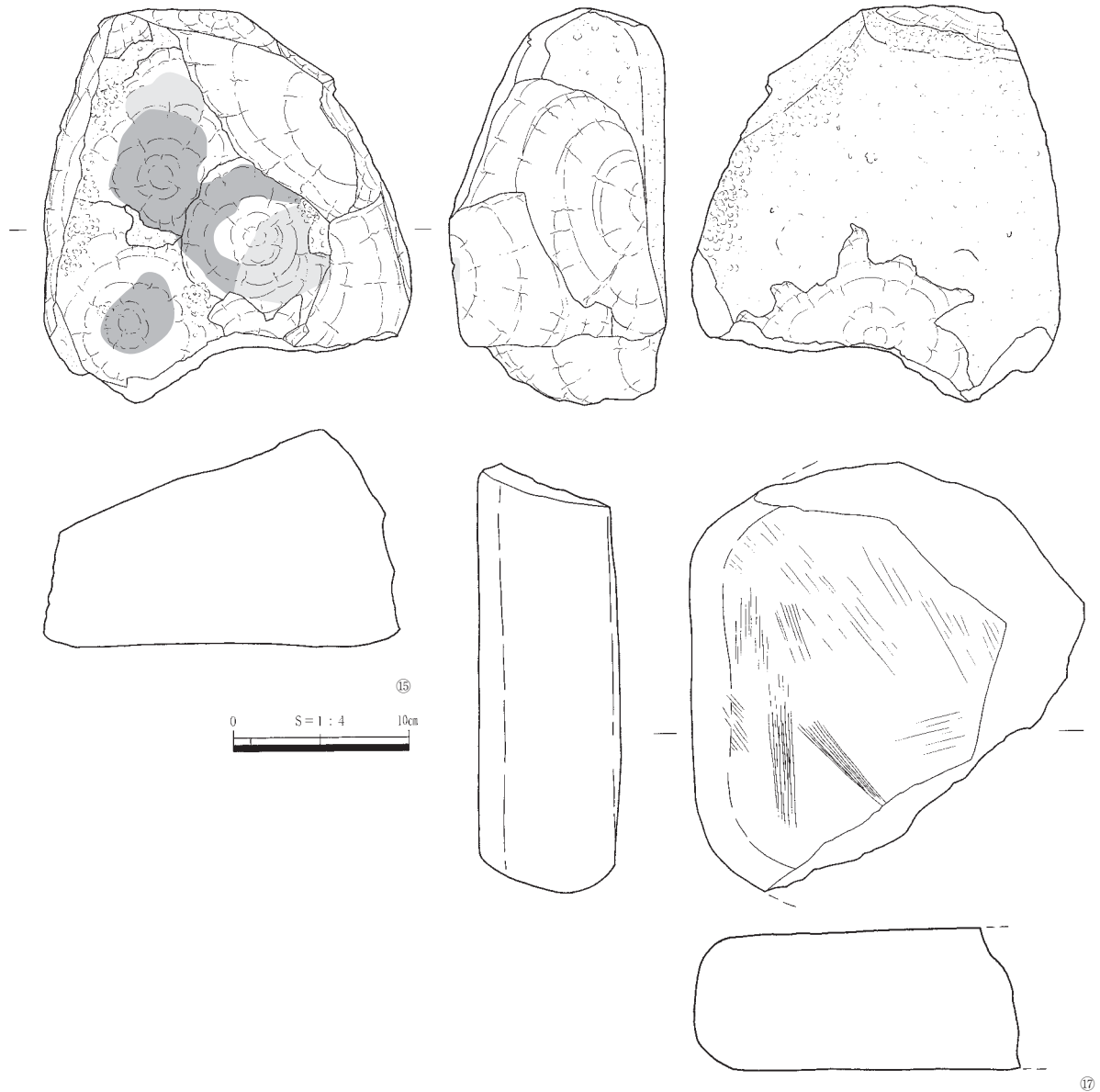
第12図 SD7出土遺物(1)



第13図 SD7 出土遺物及び鍛冶関連遺物(1)



第14図 SD7出土鍛冶関連遺物(2)



第15図 SD7出土鍛冶関連遺物(3)

面である。

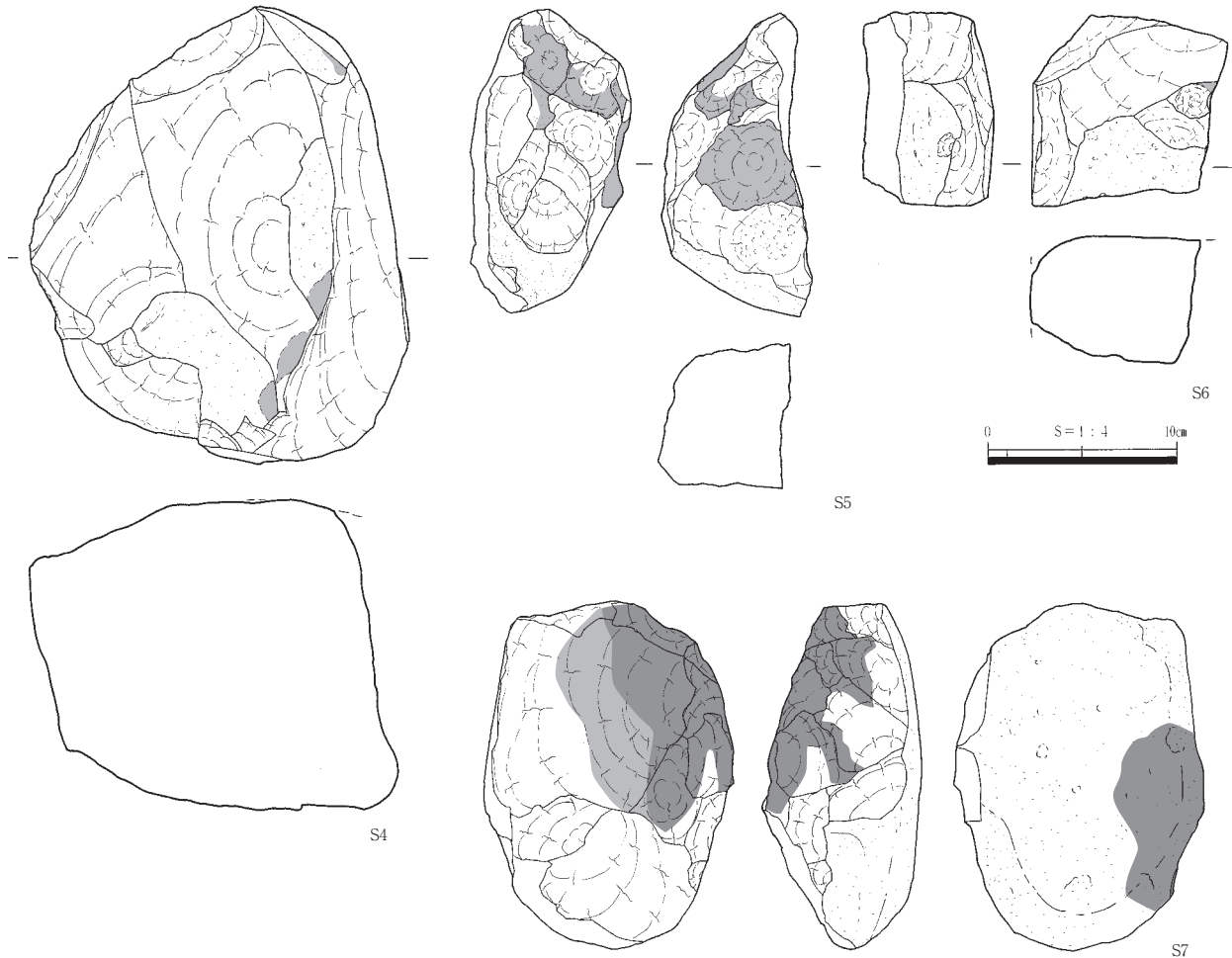
出土土器の様相から、溝の埋没年代を平安時代前期(9世紀代)と考える。

4. 中世の遺構・遺物

(1) 溝

SD7 (第6・10～18・60・64図、表2・6・17・18・19、PL.4・5・8・23～26・28・36・37～40)

F12・13グリッドに位置し、F12グリッドでSD19に切られる。II層上部を掘り下げ中に大型礫と暗褐色土のプランを確認しサブトレンチによって断面観察を行ったところ、平成16・17年度調査で検出された溝の続きであることが明らかとなった。検出した溝の長さは約14.6m、過去の調査分を合わせると総延長約71mとなり、主軸を北西方向に向けて直線的に西方に続く。肩部の幅は2.2～2.9m、底面の幅は約0.9～1.6m、検出面からの深さは約1.35mを測る。掘り方は大型礫を多量に含む基盤層であるVI層まで掘り込み、断面形は逆台形となっている。溝底面の標高は、東端で23.2m、中心部で

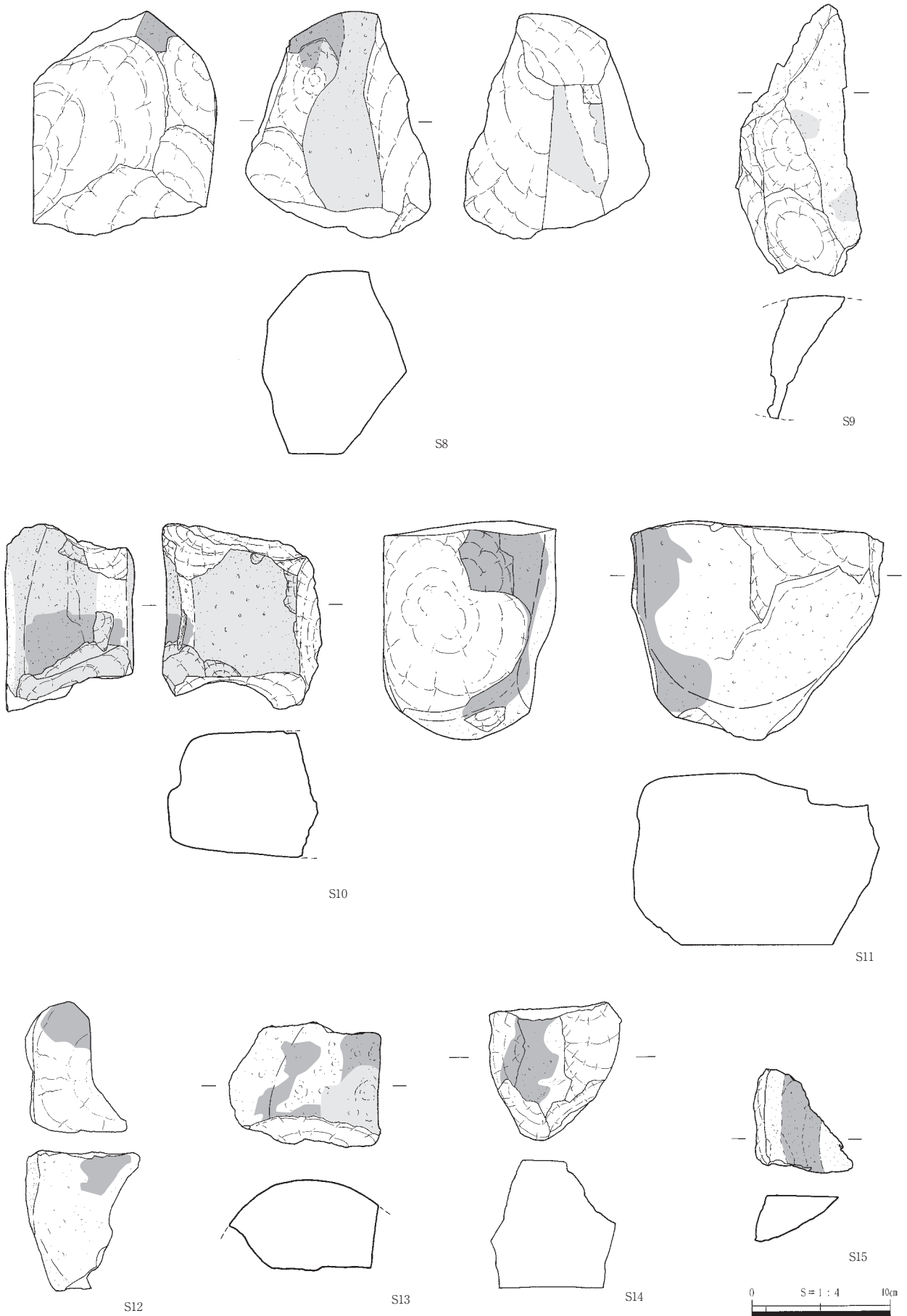


第16図 SD7出土鍛冶関連遺物(4)

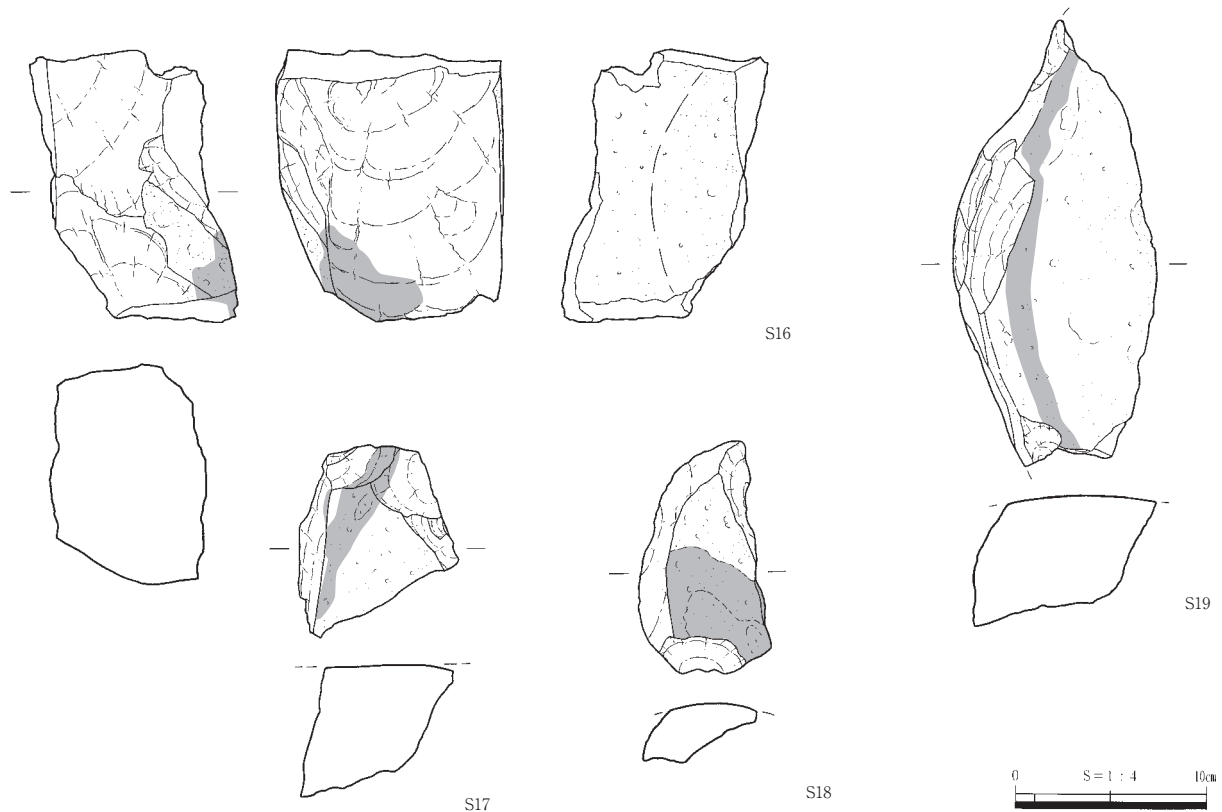
23.0m、西端で23.2mを測り、高低差はほとんどない。平成16・17年度調査における底面標高とほぼ同じレベルとなっている。

埋土は、大きく上層と下層で堆積状況が異なる。下層は暗褐色土、砂質土、シルト層などがレンズ状に互層となって堆積していることから、自然流入により形成されたものと考えられる。一方、⑧層より上層は層序が下層に比べ安定せず、炭化物や焼土粒などの含有物が目立つこと、拳大の礫が数多く混じることなどから人為的な埋め戻しの可能性が想定される。そのことを裏付けるように溝中心部の3×4mの範囲において50cmを超えるサイズの大型礫が一括廃棄されている状況が確認された。礫群のなかには、鉄床石や被熱礫など鍛冶関連遺物も認められるが、中世後半段階の鍛冶遺構が検出されていないこと、鍛冶関連遺物の特徴が平成17年度調査のものと類似することなどから、これらは後世の掘り返しの際に混入したものか、周囲の後片付けによって廃棄された可能性がある。溝底面や壁の一部には鉄分の沈着がみられ、下層は砂質土とシルトが互層となっている層序から、SD7は基本的には空堀であったものの滞水する状況が一定期間繰り返されたものと想定される。

溝の帰属時期であるが、12世紀代に帰属する土師器13・19・21などが底面から埋土最下層中において出土している。一方、14世紀後半から15世紀代に位置づけられる貿易陶磁や備前焼などが上層の礫群と共伴する状況から、堀の下層の埋没年代を11世紀後半から12世紀代、上層の掘り返し範囲は15世紀前半代と考える。



第17図 SD7出土鍛冶関連遺物(5)

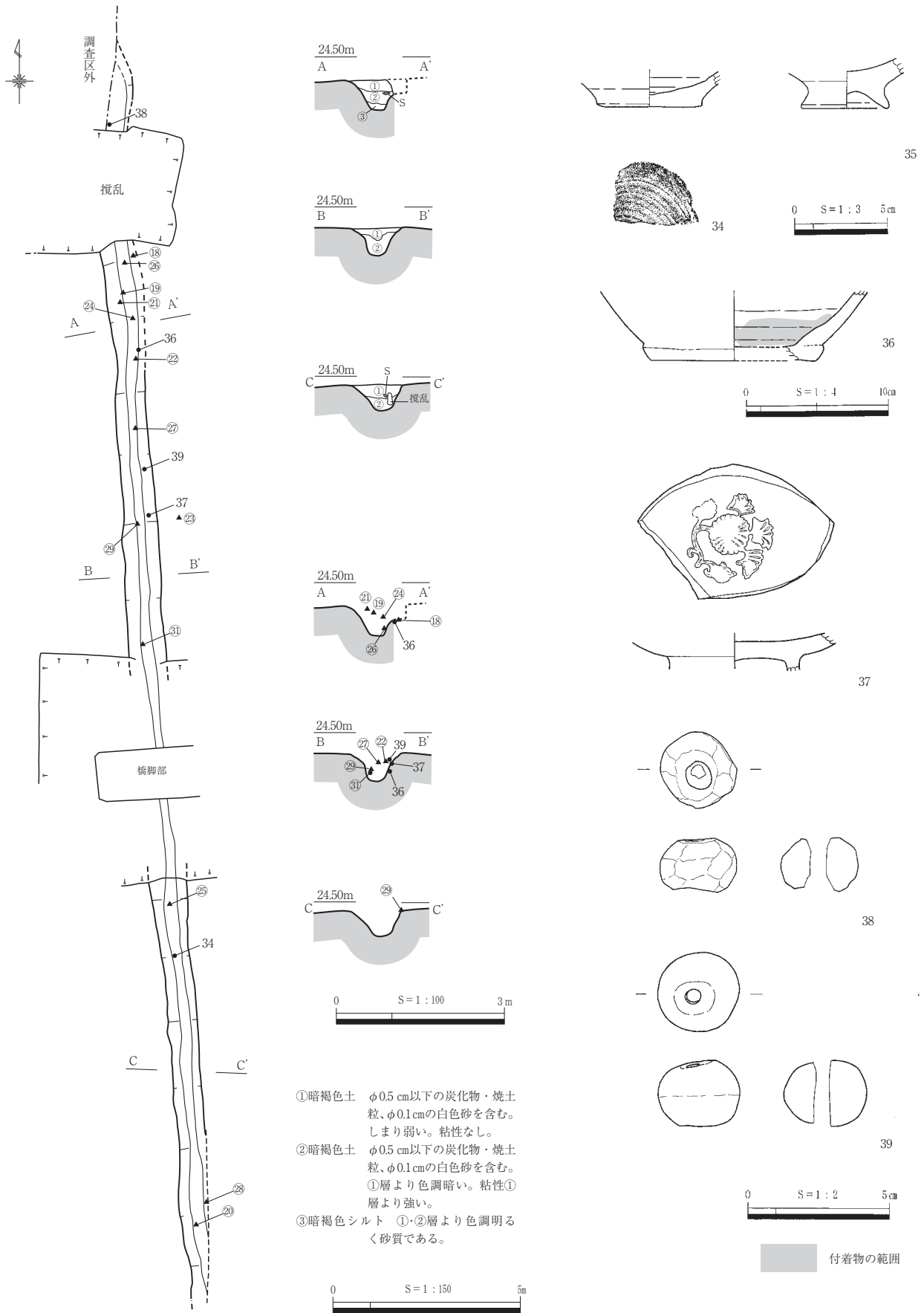


第18図 SD7出土鍛冶関連遺物(6)

遺物は、土師器、須恵器、陶磁器と鍛冶関連遺物であり、中世前期から後期にわたる。6～21は土師器皿・坏・鉢をまとめている。これらの多くが口縁～体部上半が欠損しており、底部のみから器種と時期を特定するのが難しい資料も含んでいる。6・7は回転糸切成形の土師器皿であり、わずかに上げ底状となる。7は口縁部から体部が直線的に開く皿と考えられる。8は坏の体部下半であるが、緩やかに湾曲した体部と底径が4.1cmと小さいことなどから中世後期に下る可能性がある。9～15は底部が肉厚で底径が5～6cmに収まる坏である。16・18は柱状高台皿と坏であるが、後者は底部の切り取りが失敗した可能性も残る。19～21は底径が6cm以上の鉢で、底面に糸切痕を残している。以上の土師器は8を除き、中森編年Ⅱ～Ⅳ期に収まるものと考えられる。22は常滑焼の甕であり、中野編年6～7型式に比定される。23～26は備前焼の小壺と播鉢である。23は小壺の肩部であり、外面には部分的に自然釉が付着する。25・26は口縁端部が外削状を呈する播鉢であり、播目は8本1単位である。重根編年ⅣAに該当する。27は勝間田系須恵器の壺底部と想定される。内外面ヨコナデ調整を施し、底面は未調整である。28は口縁部が直線的に立ち上がり、肥厚する鍋である。内外面丁寧なナデ調整を施しており、外面に煤が付着する。

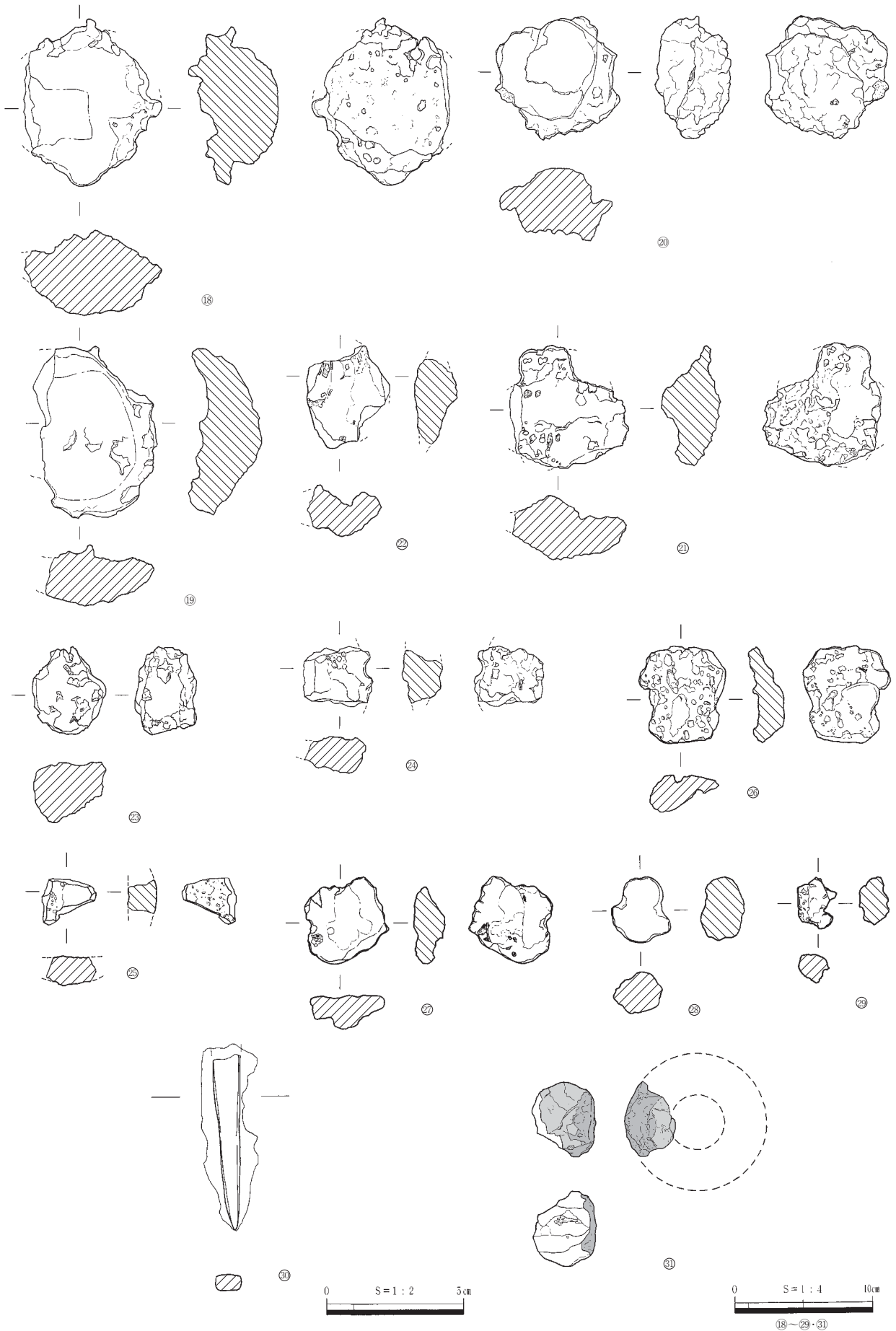
29～33は貿易陶磁器である。29は外面体部下半と底部が露胎となる白磁碗Ⅳ1a類である。内面体部と見込みの境に沈線がめぐっている。30・31は龍泉窯青磁碗Ⅳ類～上田BⅡ類で後者は蓮弁文が描かれている。32は龍泉窯青磁碗上田BⅡ類に該当する。33は外面体部下半が露胎となる白磁皿で、森田D群に比定される。

SD7から最も多く出土した資料が鍛冶関連遺物である。第13～18図に構成資料と関連遺物をまとめている。①～⑨は椀形鍛冶滓であり、中～大型が目立つ。このなかで④は二段椀形鍛冶滓である。



第19図 SD19

第20図 SD19出土遺物



第21図 SD19出土鍛冶関連遺物

⑩は湾曲した釘の芯部、⑪はガラス質化した先端部をもつ羽口片である。⑫～⑰、S8～S15は鍛冶具に関連する資料である。⑫～⑭・⑮は作業面に滓が付着し、被熱より赤化した鉄床石である。このなかで⑫は長さ41.5cm、重量約36kgを測り、今回の調査による最大級の鉄床石である。⑬は板状礫の平坦面を作業面とし、側面に滓が付着している。⑯・⑰は安山岩製の砥石であり、いずれも砥石目が細く、擦痕を有している。S4～S19は被熱痕と剥離痕を有し、煤やタールが付着した礫をまとめている。これらの資料は滓などが付着しないものの、その多くが剥離の特徴などから鉄床石の碎片と想定される。

S4はほぼ全面に剥離面を持ち、正面に被熱によるものと思われるハジケ状の剥離痕が残る。S5は正面から右側面にハジケ状の薄い剥離痕と被熱痕を残し、煤が付着する。S7は正面に被熱痕と剥離痕を有し、黒色のガラス質滓が付着した礫である。平成17年度調査で出土したS148・S150に類似している。S8は、ハジケ状の剥離面と被熱痕を有する礫である。また、原礫面の一部を砥面として利用している。鉄床石と砥石の機能を併せ持った可能性がある。S9～S28は被熱礫であり、いずれも剥離痕がある。被熱部は煤が付着するものが多く、赤化している。S30は扁平礫を素材とし、正面と側面にハジケ状の剥離痕を持つ鉄床石である。

SD19(第6・19～21・60図、表2・6・17・18・19・23、PL.6・9・21・24・25・31・32・36)

C・D・E・F12グリッド、調査地東寄りを南北に縦走する。SD6・7を切っている。Ⅱ層上部を掘り下げ中に、白色砂粒を含む暗褐色プランを検出し、南北に連なる溝として調査を進めた。主軸はN-5°-W。検出した溝の長さは31.5m、肩部の幅は70～90cm、底面幅は20～35cm、検出面からの深さは45～50cmを測る。溝底面の標高は、北端23.6m、中間23.7m、南端23.9mで北側に向かって緩やかに下降している。埋土は炭化物や焼土粒を含有する暗褐色土が主体であるが、いずれも白色砂粒が混入することで類似する。また部分的にシルトが堆積することから、流水の可能性が想定される。遺物は、埋土中位から上層で概ね出土しているが、鍛冶関連遺物などは混入であろう。遺構の性格として、水路の可能性が想定されるが、そのほか屋敷地内の区画溝もその候補に挙げられる。

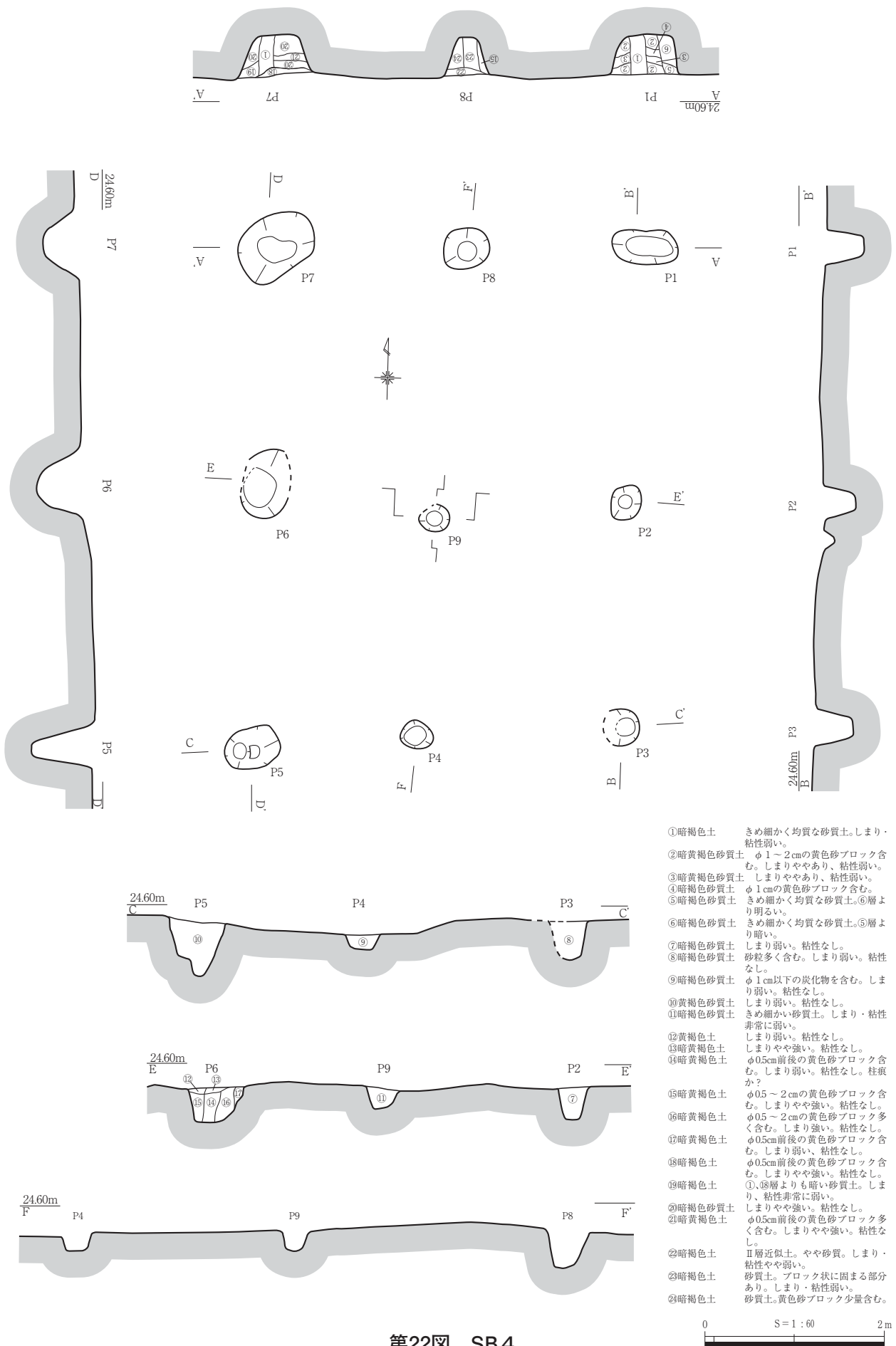
遺物を第20・21図に掲げている。34は土師器坏の底部破片であり、回転糸切成形である。35は高台付坏であり、高台内はナデ調整。36は甕もしくは壺の底部であり、底面の粘土盤と体部粘土帯の接合痕が残る。内外面ともヨコナデ調整を施し、内面には幅3cmほどの鉄錆が付着している。37は高台部が欠損した龍泉窯系青磁碗Ⅳ類である。高台内は釉が削り取られ、内面見込みに草花文が見られる。38・39は有孔土玉であり、前者は面取り痕が残り、後者は全面丁寧なナデ調整によって平滑である。⑱～⑳は鍛冶関連遺物である。⑱～㉑は破面を有する椀形鍛冶滓であり、表面が酸化土砂に覆われたものが多い。㉒は釘もしくは鋸の芯部であろう。㉓はガラス質化した先端部をもつ羽口片である。

SD19の埋没時期は、SD7を切っていること、青磁碗37が出土していることなどから14世紀後半以降と考える。

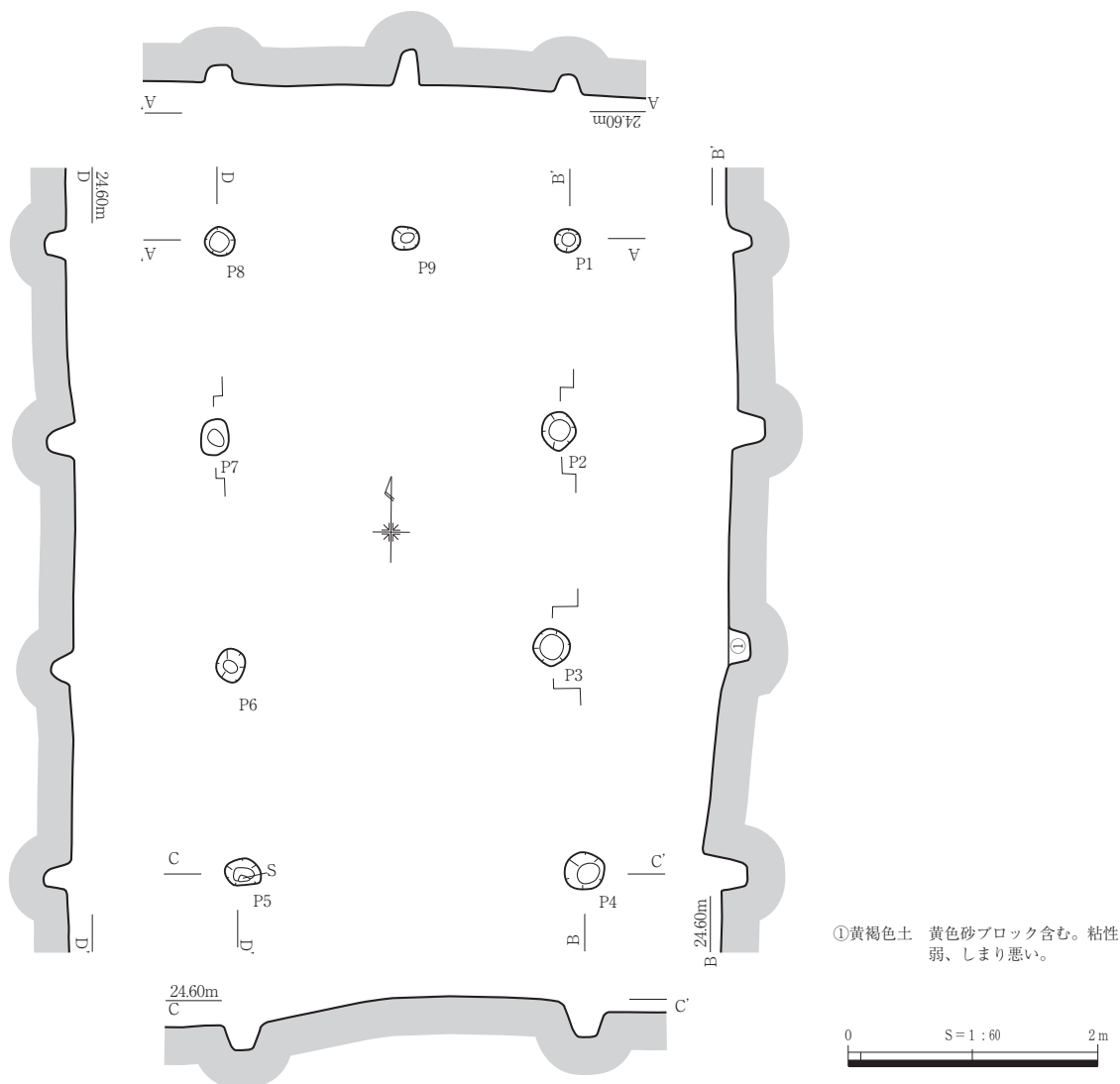
(2) 掘立柱建物

SB4(第6・22・29図、表17・19・26、PL.6・10・11・13)

G13グリッド、調査地南端に位置する。桁行2間(5.6m)、梁行2間(4.1m)、床面積約22.3㎡の総柱建物である。主軸はN-5°-E、柱間距離は2.8m(P1-2)、2.6m(P2-3)、2.3m(P3-4)、1.8m(P



第22図 SB4



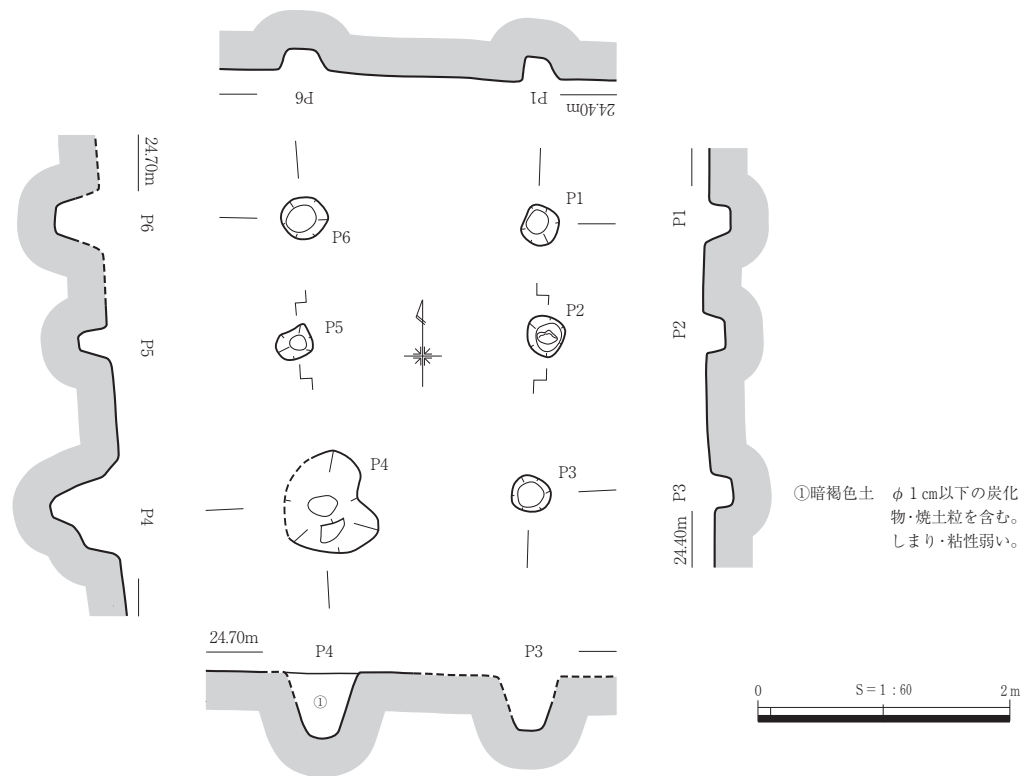
第23図 SB5

4 - 5)、2.9m (P5 - 6)、2.7m (P6 - 7)、2.2m (P7 - 8)、1.9m (P8 - 9)である。柱穴は直径35～80cm、深さ42～48cm、円形あるいは楕円形を呈する。P1・6・7・8で柱痕跡が残っていたが、礎盤石は確認されていない。また、これらの柱穴では黄褐色砂質土と暗褐色砂質土を互層状に詰め込んでいる状況が確認できた。柱径は18cm前後に復元できる。

P5埋土下層から白磁皿森田D群が出土していることから、SB4の帰属時期は15世紀以降と考えられる。

SB5 (第6・23図、表26、PL.13)

G12・13グリッド、調査地南端に位置する。SB4が北西方向約1mにある。桁行3間(5.1m)、梁行2間(2.8m)、床面積約14.3㎡の掘立柱建物である。主軸はN-1°-W、柱間距離は1.55m (P1 - 2)、1.75m (P2 - 3)、1.8m (P3 - 4)、2.75m (P4 - 5)、1.7m (P5 - 6)、1.8m (P6 - 7)、1.6m (P7 - 8)、1.5m (P8 - 9)、1.3m (P9 - 1)である。柱穴は直径20～30cm、深さ20～35cm、円形あるいは楕円形を呈する。ピットの深度がいずれも浅いものが多いが、これは本遺構上層が近世以降の耕作による削平を受けているためである。これらの柱穴からは柱痕跡は確認されなかった。



第24図 SB7

ピット内から遺物は出土しなかったが、検出面がⅢ層上面であること、埋土の特徴がⅡ層下部と近似することから帰属時期は14世紀後半から15世紀前半代と考えられる。

SB7 (第6・24図、表26、PL.13)

G13グリッド、調査区南端に位置する。SB4と重複しているが新旧関係は不明である。桁行2間(2.24m)、梁行1間(1.86m)、床面積約4.2㎡の掘立柱建物である。主軸はN-1°-W、柱間距離は0.94m(P1-2)、1.26m(P2-3)、1.7m(P3-4)、1.28m(P4-5)、0.96m(P5-6)、1.86m(P6-1)を測る。柱穴は直径32~36cm、深さ20~50cm、円形あるいは楕円形を呈する。P1~3・6の深度が浅いが、これは本遺構上層が近世以降の耕作による削平を受けているためである。これらの柱穴からは柱痕跡は確認されなかった。P2底面から、径16×12cm、厚さ4cmほどの礎盤石が確認された。

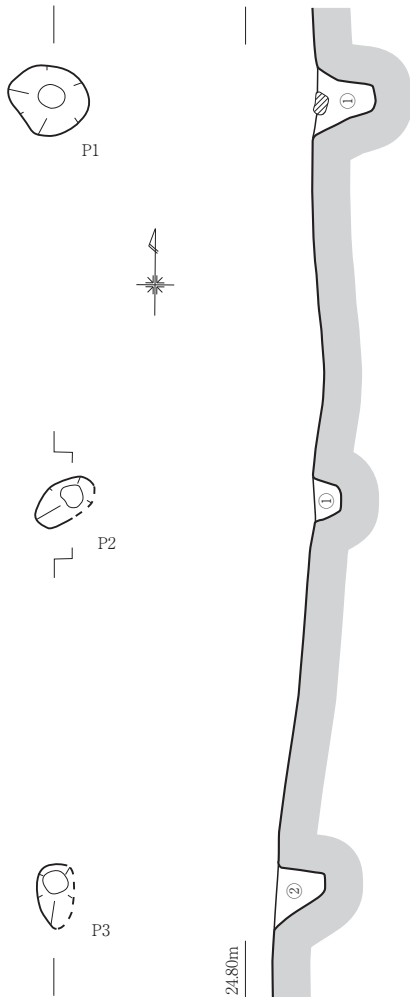
ピット内から遺物は出土しなかったが、検出面がⅢ層上面であること、埋土の特徴がⅡ層下部と近似することから帰属時期は14世紀後半から15世紀前半代と考えられる。

(3) 柵列

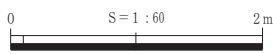
SA1 (第6・25図、表26、PL13)

G13グリッド、SB4西側1mに位置する。Ⅱ層包含層を除去した後にⅢ層上面で検出した。主軸はN-5°-W、3基の柱穴列からなる。柱間距離は、3.2m(P1-2)、3.3m(P2-3)、柱穴はP1(64×54-46cm)、P2(52×32-22cm)、P3(52×26-38cm)である。いずれも単層で柱痕は確認できなかった。SB5とほぼ同じ主軸であることから、同時併存の可能性はある。

出土遺物はないが、埋土の特徴がSB5・6と近似することから14世紀後半から15世紀代と考えら



- ①暗褐色土 φ 1 cm以下の黄色砂ブロック、炭化物を含む。粘性・しまり弱い。
- ②暗褐色土 φ 0.5 cm以下の炭化物含む。



第25図 SA1

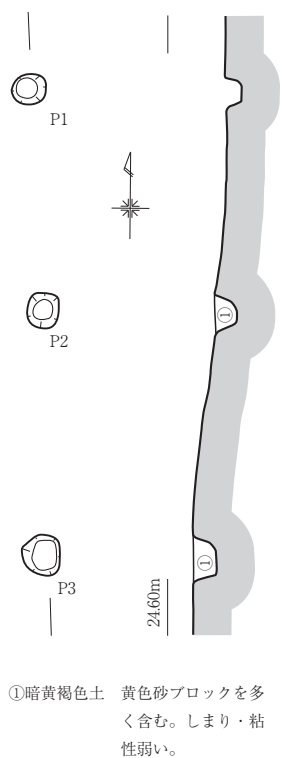
から道状遺構と判断し調査を進めた。

硬化面の範囲は、長さ6m、幅40～90cmを測る。明瞭な掘り込み面は認められず、歩行に伴いわずかに窪地化し、Ⅱ-3・5層の砂質土が硬化して路面となったものとする。出土遺物は、鉄床石破片が付着した極小の椀形鍛冶滓^㉔である。

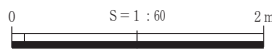
遺構の時期は、中世前期の包含層Ⅱ-5層より上位となっていることから、14世紀後半から15世紀に帰属するものと考えられる。

(5)ピット(第6・28図、表6・18・27・28)

調査地南半部G12・13グリッドを中心に総数92基のピットが検出された。このなかには、柱痕が確認されるものや掘り方などから柱穴と判断されるものも含まれるが、多くが単層で建物や柵列を構成する可能性は低いと考えられる。ピットからの遺物は少なく、そのほとんどが小片であったが、遺存



- ①暗黄褐色土 黄色砂ブロックを多く含む。しまり・粘性弱い。



第26図 SA2

れる。

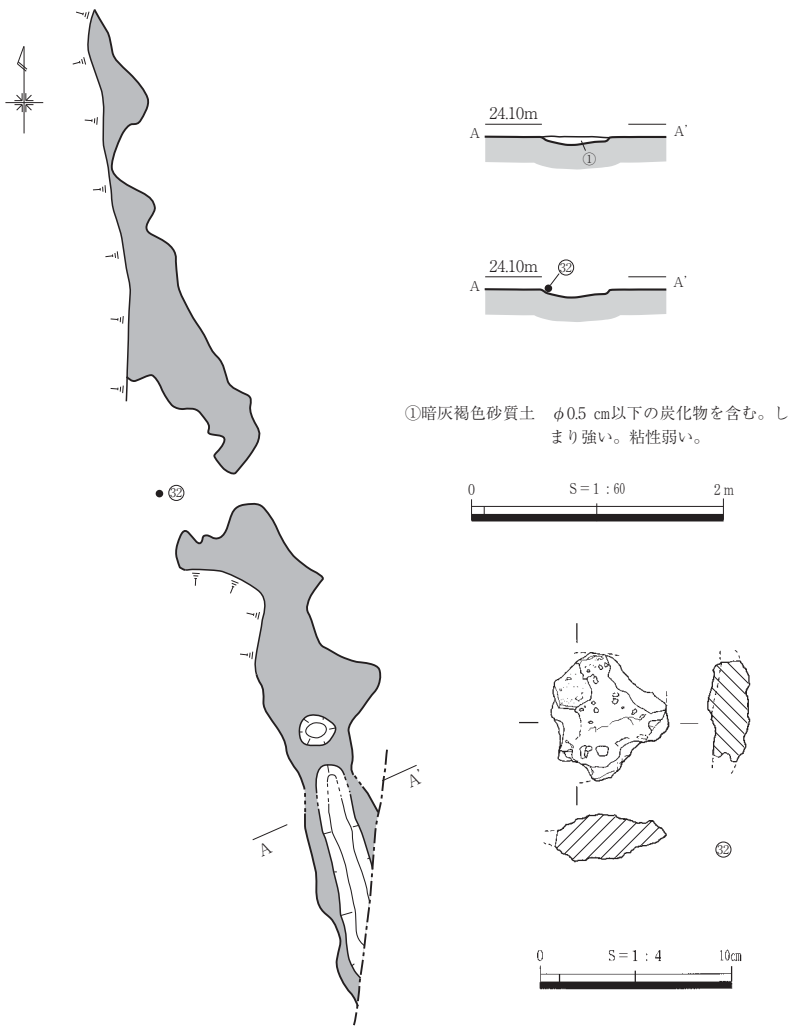
SA2(第6・26図、表26、PL13)

G13グリッド、SB4西側1mに位置する。Ⅱ層包含層を除去した後にⅢ層上面で検出した。主軸はN-1°-W、3基の柱穴列からなる。柱間距離は、1.8m(P1-2)、1.9m(P2-3)、柱穴はP1(28×22-12cm)、P2(28×25-17cm)、P3(32×28-18cm)である。いずれも単層で柱痕は確認できなかった。ピットの深度がいずれも浅いが、これは本遺構上層が近世以降の耕作による削平を受けているためである。

出土遺物はないが、SB5の約1.4m東に位置し、同主軸であることから、同時併存の可能性はある。したがって、帰属時期は14世紀後半から15世紀代と考えられる。

(4)道状硬化面(第6・27図、表2・6、PL10・32)

B12・C12グリッド、調査地北端に位置する。SD19と同じく北西方向に主軸をとる。Ⅱ-2層掘り下げ中に筋状の砂質土を検出したため、サブトレンチによって断面観察を行ったところ、明確な掘り込みがなく、硬化面が広がっていたこと



第27図 道状硬化面及び出土遺物

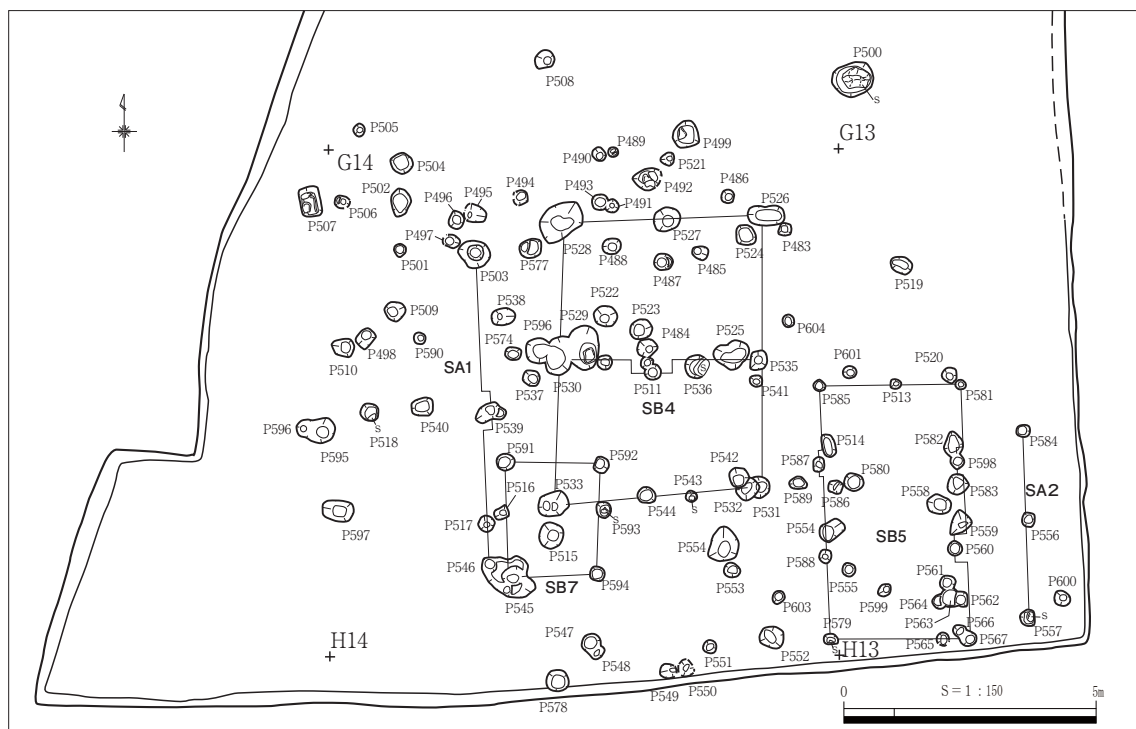
度が高く、時期の特徴を示すものを選んで図示した。時期としては中世が多いが、古墳時代に帰属するものも含まれる。

SB4-P5(第28・29図、表17・19・26、PL.11)

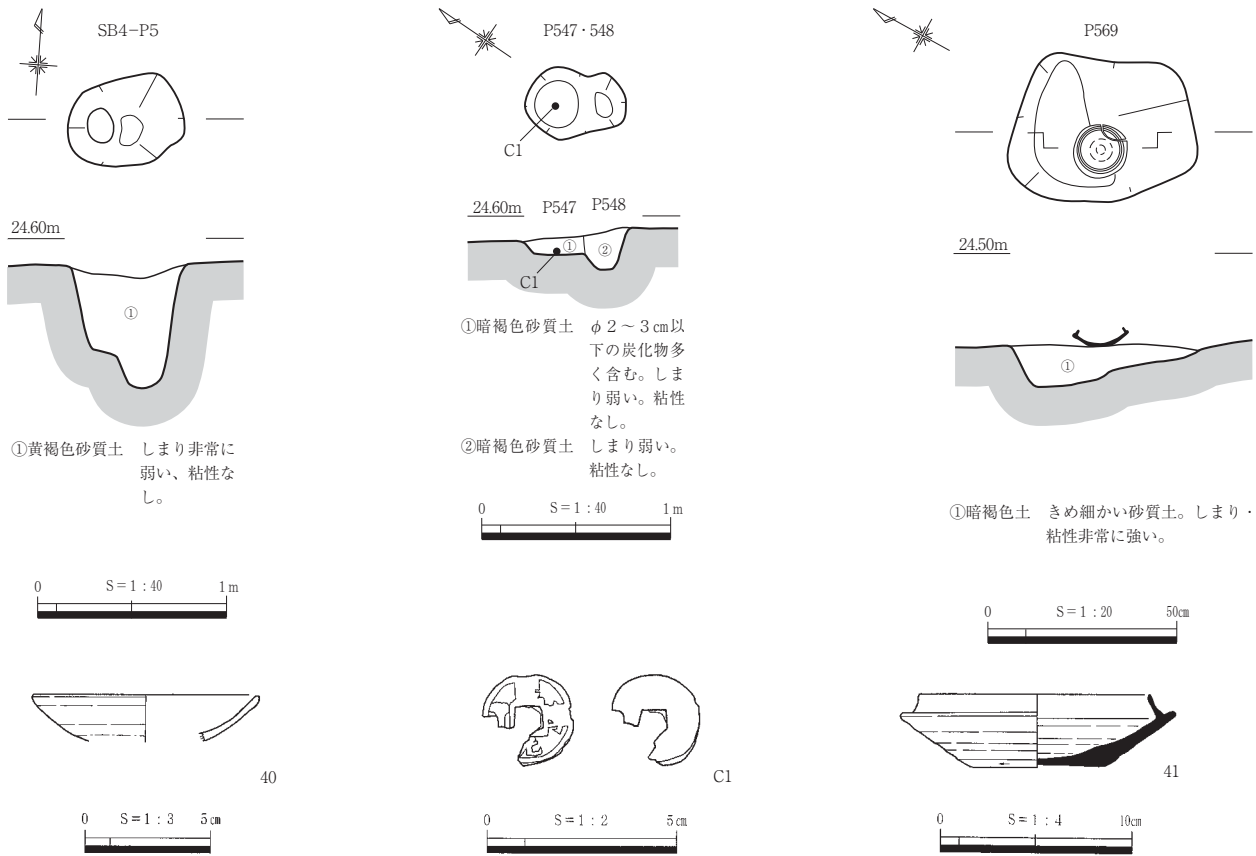
G13グリッド、SB4南西コーナーのピットである。Ⅲ層上面で検出している。平面形は不整楕円形を呈し、長軸60cm、短軸45cm、深さ58cmを測る。埋土は黄褐色砂質土のみで、しまりが弱い。遺物は底面からやや浮いた状態で白磁皿40が出土した。埋没時期は15世紀以降と考えられる。

P547・548(第28・29図、表25・27、PL.11・30)

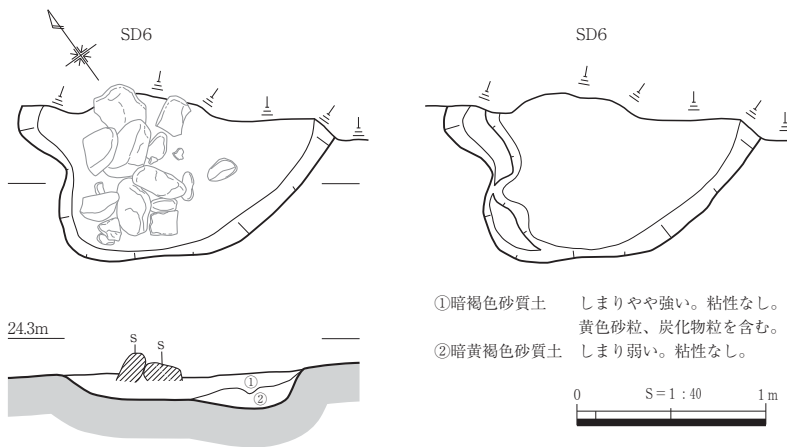
G13グリッド、SB4の約2.5m南に位置する。P548がP547



第28図 ピット配置図



第29図 SB4 - P5・547・548・569及び出土遺物



第30図 SK58

を切り、Ⅲ層上面で検出している。平面形は瓢形を呈し、長軸53cm、短軸38cm、深さ8cmを測る。埋土はしまりの弱い砂質土が堆積する。P547の底面から熙寧元寶C1(北宋・初鑄1068年)が出土している。埋土の特徴から中世前期以降に帰属するものと考えられる。

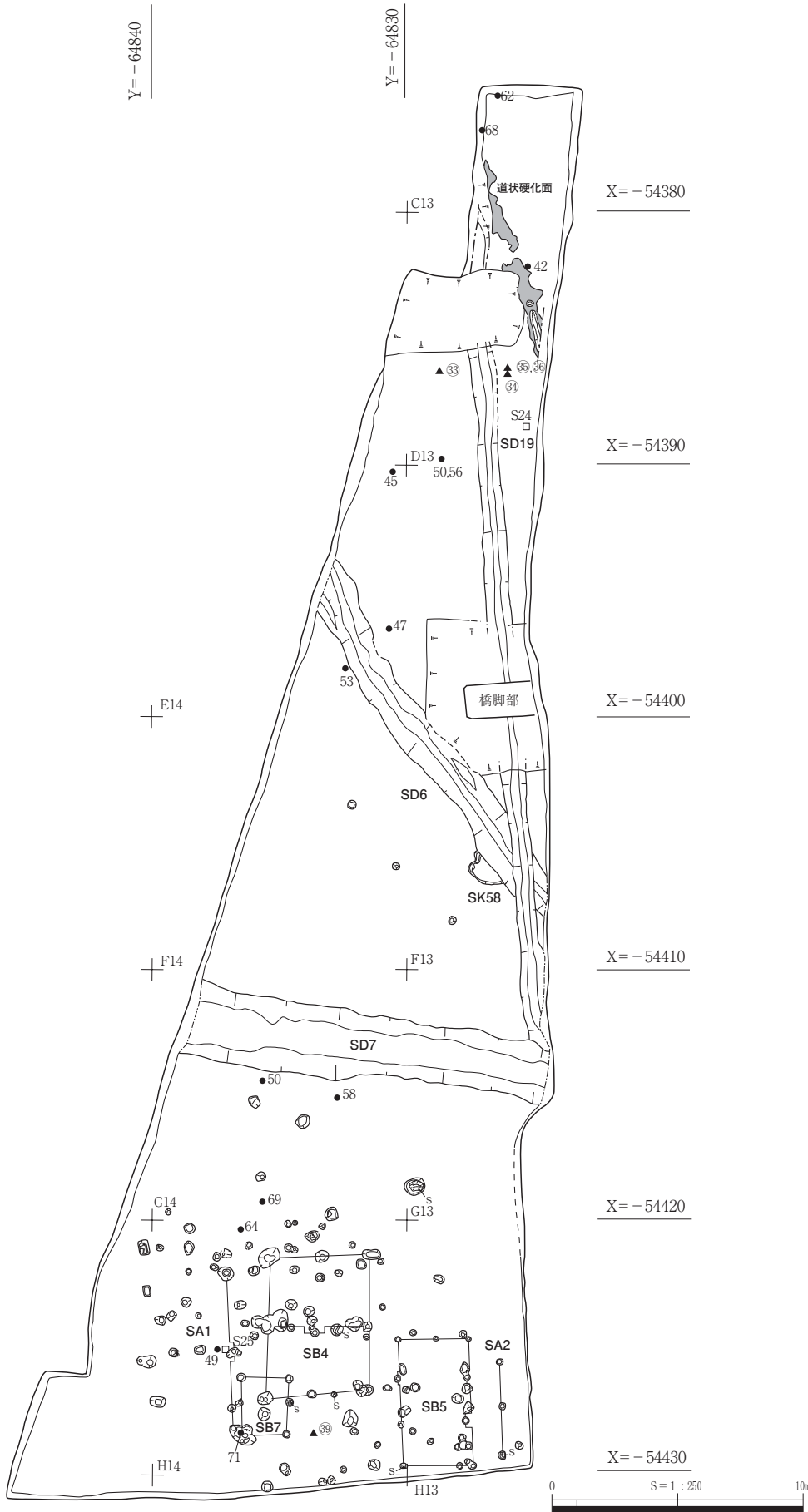
P569(第28・29図、表18・26、PL11・21)

F13グリッド、SD7の約1m南側に位置し、Ⅲ層上面で検出している。平面形は不整五角形を呈し、長軸48cm、短軸40cm、深さ11cmを測る。埋土は暗褐色砂質土であるが、粘性が強い。検出面直上から須恵器坏身41が出土している。須恵器は八橋Ⅷ期に比定され、本遺構は古墳時代後期に帰属する。

5. 時期不明の遺構

SK58(第30図、PL.11)

E12グリッド、SD6の南に位置し、切られている。SD6掘り下げ中に礫群を検出し、土坑と判断し調査を進めた。平面形の全容は不明であるが、不整円形を呈するものと思われる。長軸1.68m、短



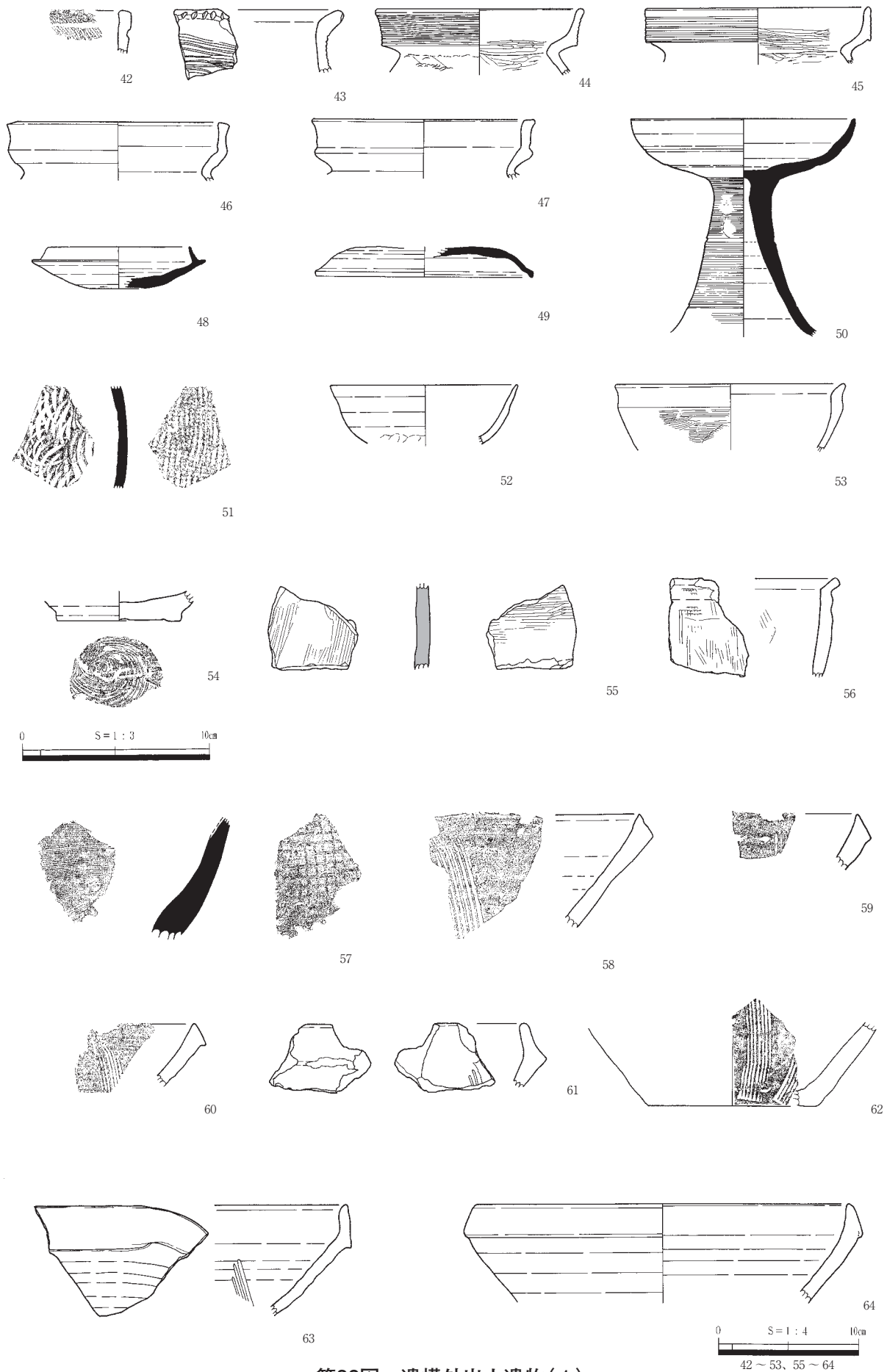
第31図 遺構外出土遺物分布図

軸90cm、深さ18cmを測る。埋土は暗褐色と暗黄褐色砂質土の2層で、①層中に人頭大の礫が密集している。帰属時期は、SD6との重複関係から9世紀以前と考えられる。

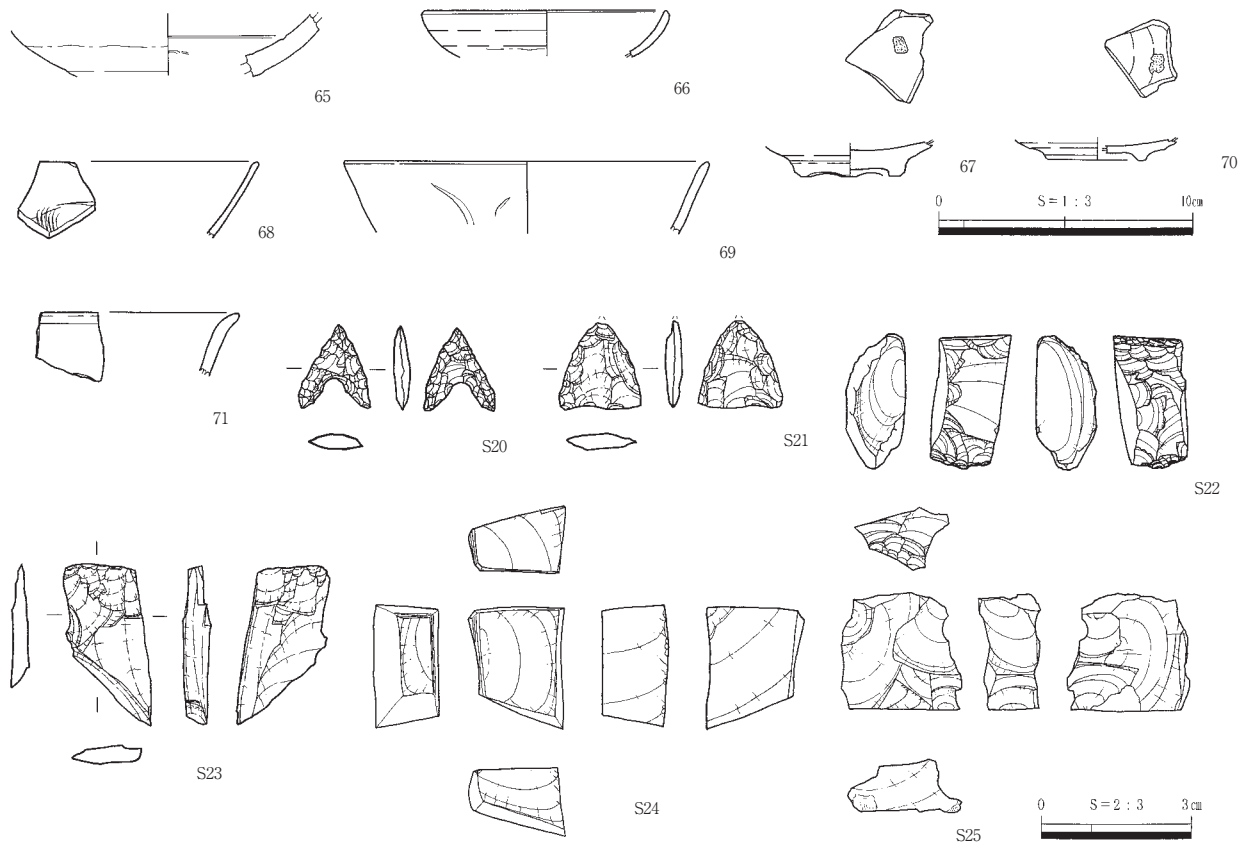
6. 遺構外出土遺物 (第31～34・60図、表6・17～20・24、PL.21・25～30・32・36・40)

表土、包含層、攪乱土から多くの遺物が出土した。これらの中から各時期の特徴を示すものを選別して第32～34図に図示した。また、4区Ⅱ層上部では118点の近世以降の陶磁器が得られている。多くが小片であるため図示できなかったが、表18に集計表を付している。

遺物は、縄文～弥生時代の土器・石器、古墳時代～中世の土師器、須恵器、瓦質土器、備前焼、陶磁器と鍛冶関連遺物がある。これらの遺物の多くが平成16・17年度調査地1～3区



第32図 遺構外出土遺物(1)

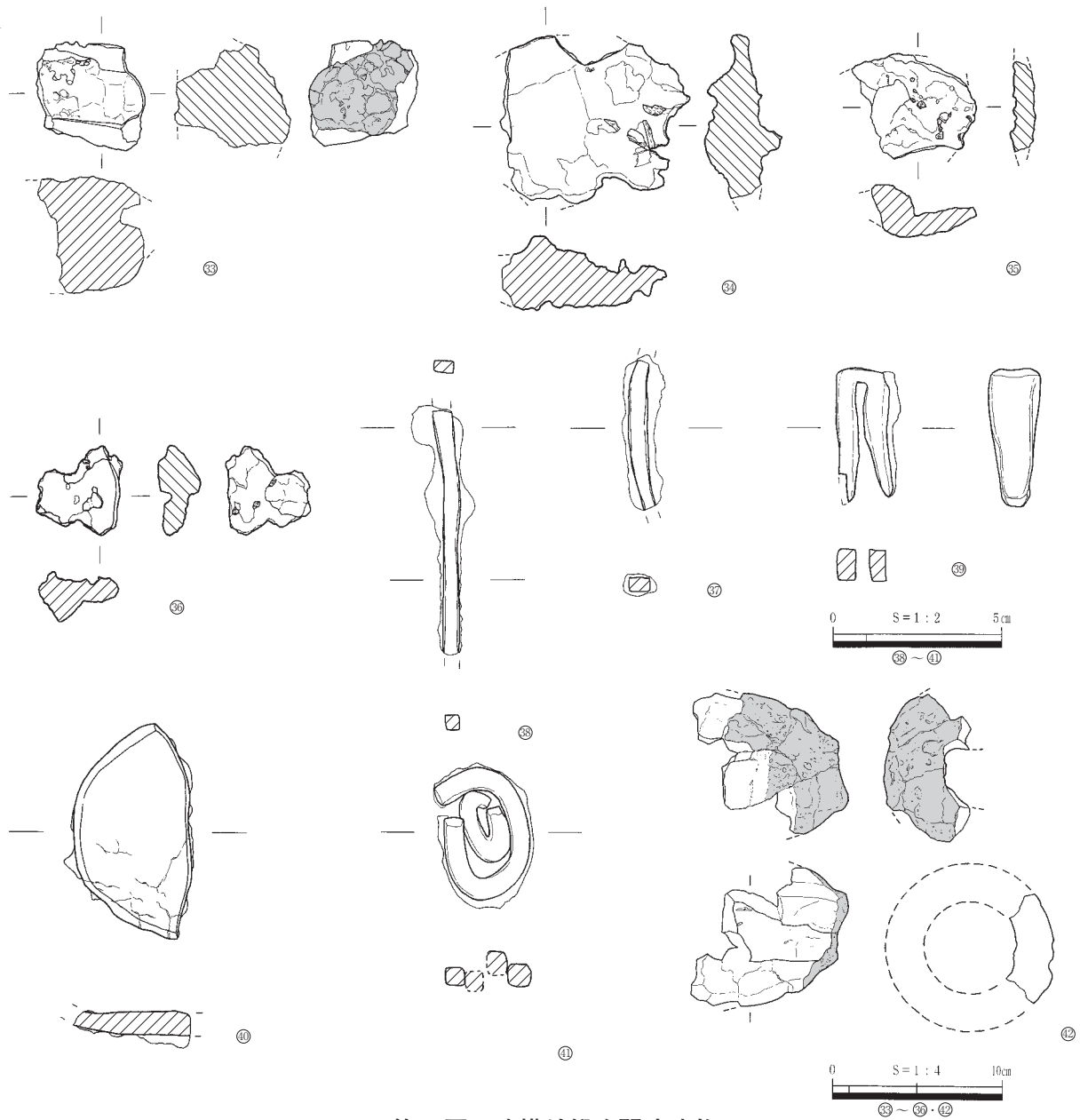


第33図 遺構外出土遺物(2)

から出土したものと時期的に概ね符合するが、4区は中世後期が比較的目立っている。

42は直立した口縁部下に平行沈線を施し、その間隙にR L縄文を充填した縄文後期前葉の中津式である。43は口縁部が外反して端部に刻み、頸部に櫛描平行沈線を施した弥生中期前葉の甕、44・45は口縁部に多条平行沈線を施文する弥生後期中葉の複合口縁甕である。46・47は古墳時代後期の有段口縁甕。48～51は古代以前の須恵器をまとめた。48は八橋Ⅷ期に該当する坏身、49・50は八橋Ⅸ期の坏蓋と長脚の高坏。52は底部に指オサエ調整が残る土師器坏であり、伯耆国庁編年第2様式に比定される。53は口縁部がわずかに外反し横ナデ調整を施し、体部にハケ調整を持つ土師器坏である。胎土や体部調整から中世前期に位置づけられる可能性をもつ。54は回転糸切成形の土師器坏底部である。55は内外面ハケ状工具の擦痕をもつ瓦質の鉢である。56は口縁部がわずかに外反し、体部が直線状に立ち上がる鍋で、外面にススが付着する。57は外面に格子状当て具痕、内面にハケ調整を施した勝間田系甕の底部。58～64は備前焼播鉢をまとめている。口縁端部が外側に突出して下側にわずかに下がる58～60と口縁部の上方への拡張が顕著な61・63・64に分かれ、それぞれ重根分類ⅣAとⅣBに比定される。14世紀中頃から15世紀前半に位置づけられるものとする。

65～70は貿易陶磁を図示している。65は外面上半が施釉、内面見込みにスタンプ文を持つ白磁碗であり、体部と見込みの境に沈線がめぐっている。66は外面上半が施釉された白磁皿である。67は挟り込み高台の白磁皿であり、内面に焼成時の砂目が残っている。65が森田分類C群、66・67が森田D群に該当する。68は同安窯系青磁碗Ⅰ類、69は龍泉窯系青磁碗Ⅳ類であり、外面に櫛描文・蓮弁文が施される。70は李朝期の高台皿であり、内面に焼成時の砂目が残る。上記の貿易陶磁は68が12世紀中頃、それ以外は14世紀後半から15世紀代に位置づけられる。71は口縁端部が外反する灰釉陶器である。



第34図 遺構外鍛冶関連遺物

S20は大きな挟りによって脚部を作出する黒曜石製の凹基式石鎌、S21は先端部がわずかに欠損するサヌカイト製の平基式石鎌である。S22・23は左右側部が剪断面となる黒曜石・サヌカイト製の楔形石器。S24・25は硬質緑色凝灰岩製の玉作関連資料。S24は裏面が打剝による素材主剥離面、他は施溝分割面となる。2面に擦り切り溝が残る。S25は角柱状素材を作出する際に生じた残滓と考えられる。底面は施溝分割後に研磨を施す。

第34図に鍛冶関連遺物と鉄製品を図示している。③③～③⑥は中型から極小サイズの碗形鍛冶滓である。③③は側部がすべて破面となる碗形鍛冶滓中核部で、底面に灰白色の炉床土が付着している。鉄製品③⑦・③⑧は釘、③⑨は鋸か。④⑩は铸造品であり、鍋の底部破片と想定される。④⑪は2個の棒状鉄製品が折れ曲がって固着したもので、器種は不明である。④⑫は黑色ガラス質化した羽口先端部で、胴径9.9cm、通風孔径5.5cmを測る。

第3節 5区の調査成果

1. 概要

5区からは平安時代前期の溝1条、鎌倉～室町時代の館跡の区画溝1条、自然流路2条、掘立柱建物1棟、土坑2基、時期不明の土坑2基、ピット群を検出した。このなかで平安時代の溝と鎌倉～室町時代の区画溝は4区で確認されたものの続きである。5区の調査によって溝が北に向かって折れ曲がる状況が確認され、本遺跡が中世前期の方形館跡であることが明らかになった。また、区画溝には土橋や柵列が伴い、屋敷地内には新たに1棟の掘立柱建物が検出された。区画溝や館外の自然流路からは貿易陶磁や多数の鍛冶関連遺物が出土している。

2. 基本層序

調査地の大部分が造成のために包含層が削平を受け、部分的には地山面まで攪乱土が及んでいた(第36図)。基本層序は、表土をⅠ層、遺物包含層をⅡ層、Ⅲ層上面を遺構検出面とする。

Ⅰ-1～4層：暗褐色土。圃場整備に伴う造成のため、大型礫、現代のゴミ等を含む。また、わずかに弥生時代～近世の遺物が混じる。

Ⅱ-1層：暗褐色土。調査地西半を中心に約10～25cmの厚さで堆積する。白色砂粒、炭化物粒、焼土粒を含む。しまり中、粘性弱い。包含される遺物は、近世以降である。4区Ⅱ-1～4層に対応する。

Ⅱ-2層：暗褐色土。調査区西半部を中心に15～30cmの厚さで堆積する。白色の砂粒、炭化物、焼土粒を含む。しまり・粘性Ⅱ-1層より強い。4区Ⅱ-5・6層に対応し、弥生～中世の遺物を包含する。

Ⅲ層：黒褐色シルト(地山)。しまり・粘性やや強い。

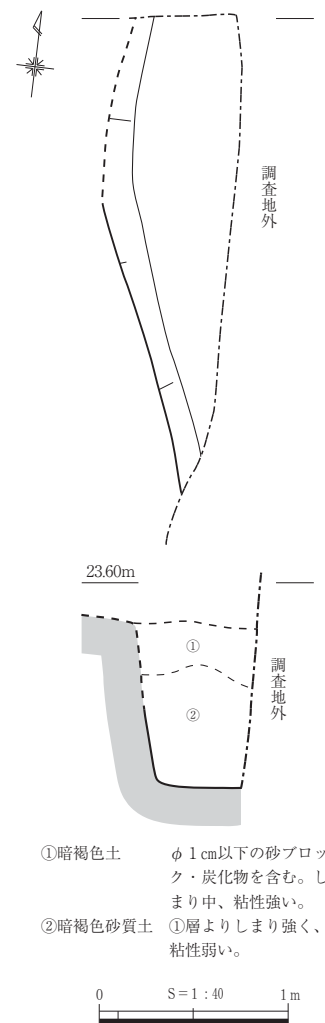
3. 古代の遺構・遺物

(1) 溝

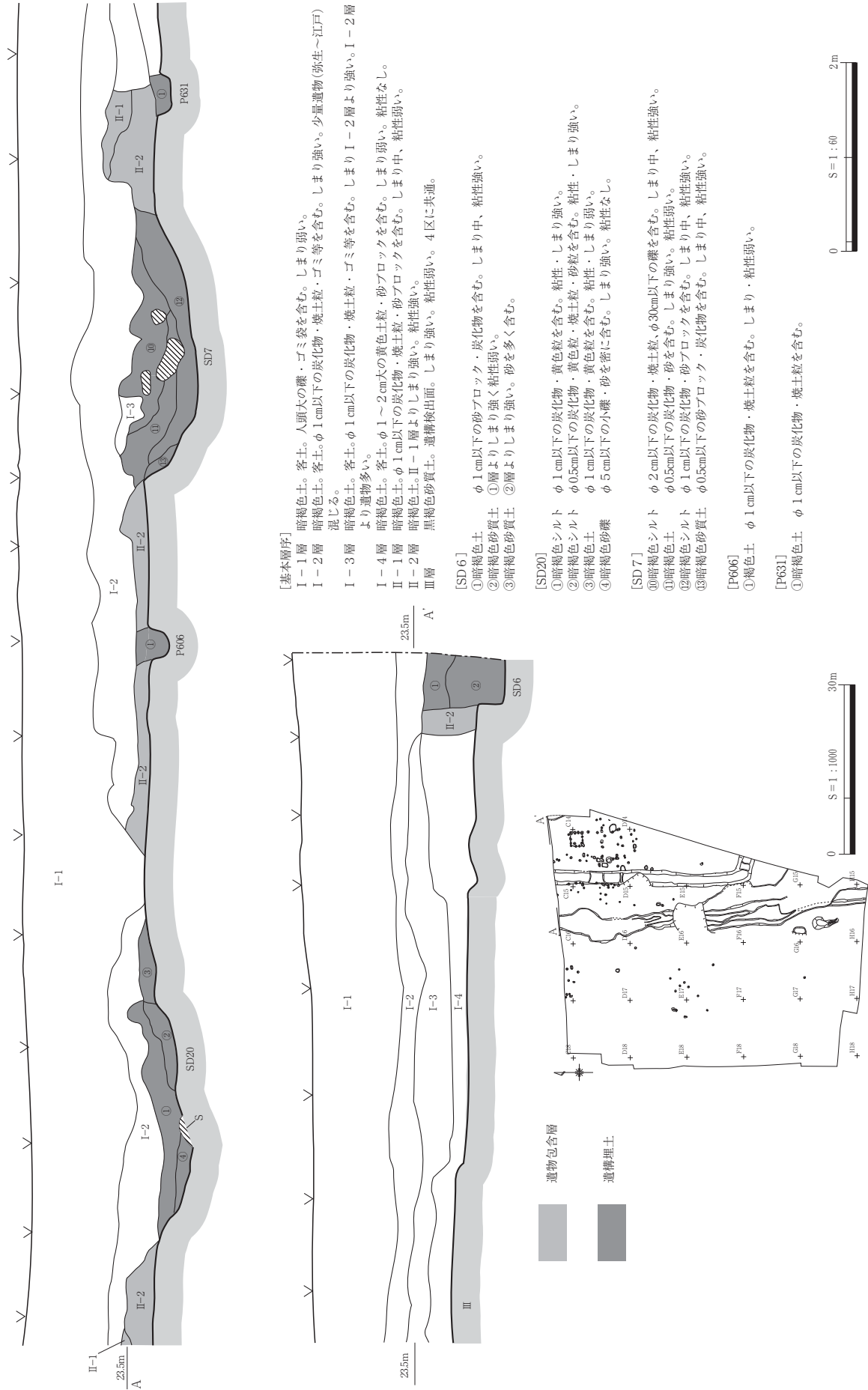
SD6 (第6・35図、PL.14)

B12グリッド、調査地北東隅に位置する。Ⅱ-2層を掘り下げ中に暗褐色土のプランを検出し、サブトレンチを設定し精査を行ったところ、断面逆台形状の溝であることが判明した。本来の掘り込み面は削平を受けている。検出した長さは約2.3m、主軸はN-10°-W、4区より真北寄りに軸が移行している。肩部の東側は調査地外に及び全容は不明であるが、検出幅最大70cm、検出面からの深さは約85cmを測り、基本層序Ⅴ層まで掘り込んでいる。底面の幅は40cmと細く、溝底面の標高は、北端で約22.6m、南端で約22.7mを測り、北に向かって緩やかに下がっている。

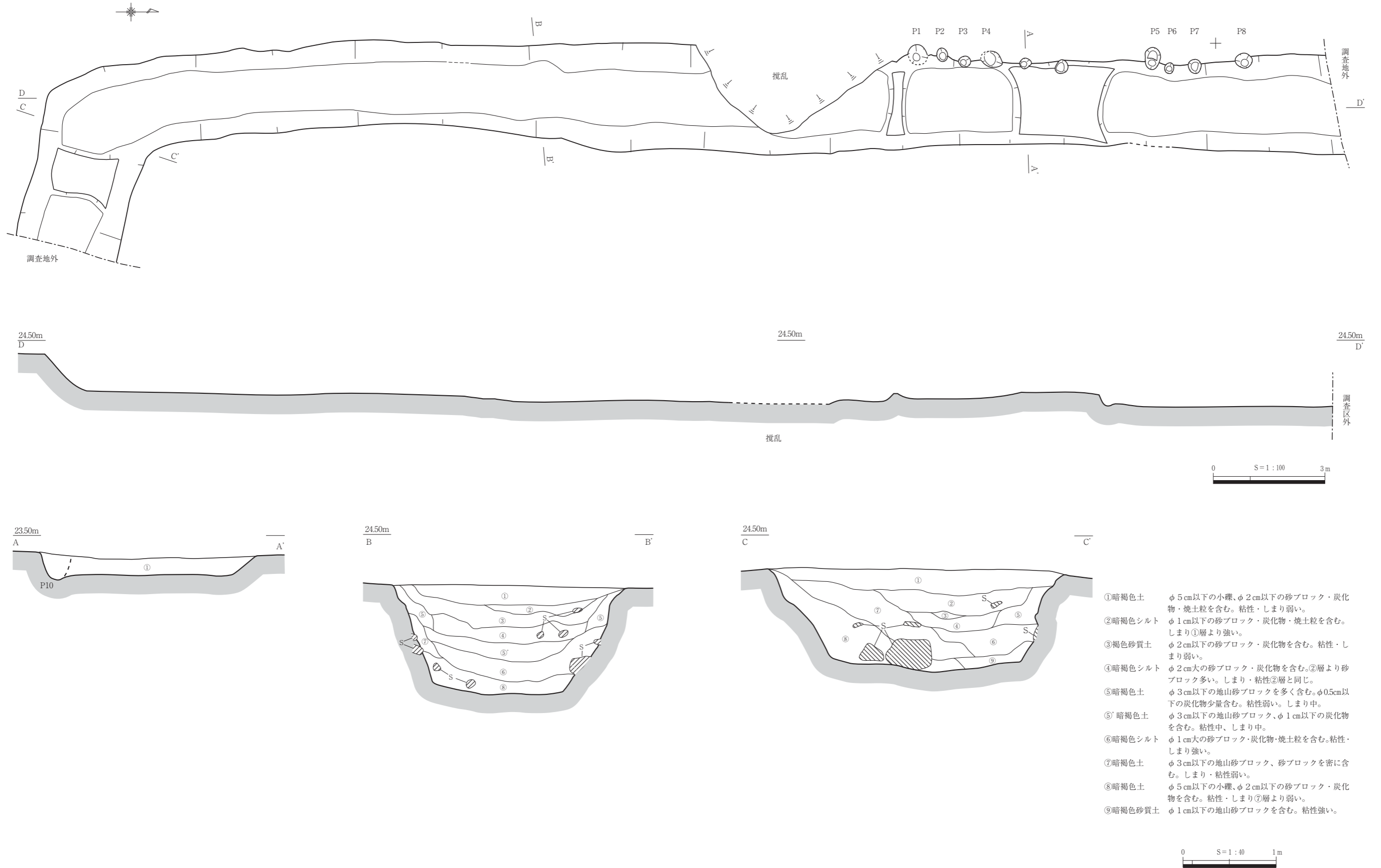
埋土は暗褐色土と暗褐色砂質土に分かれ、①層中には径1cm以下の白色砂ブロックを多く含有していた。埋土中からは図示していないが、赤彩された土師器小片が出土している。



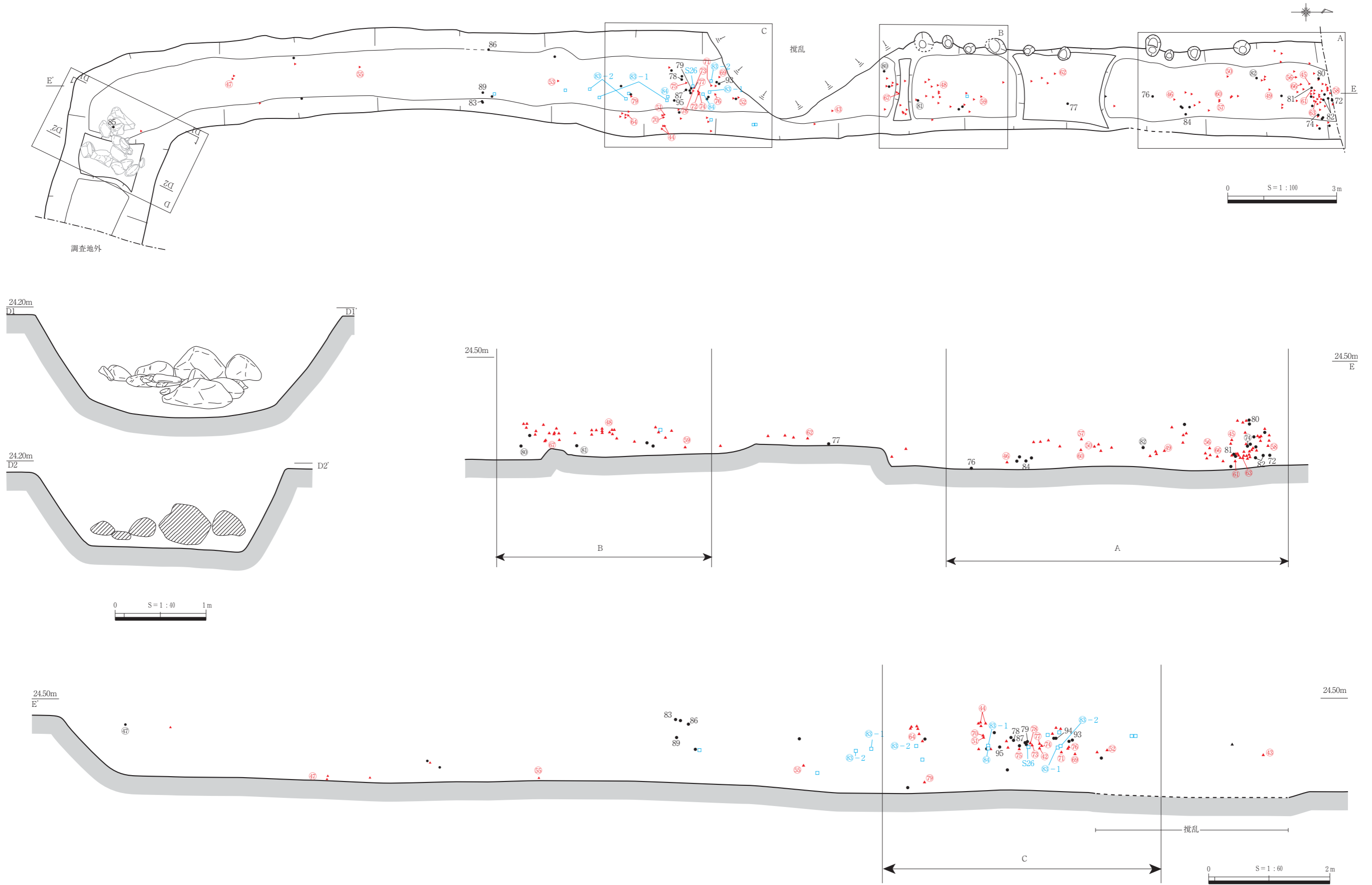
第35図 SD6



第36図 5区基本層序



第37図 SD7



第38図 SD7 出土遺物分布図

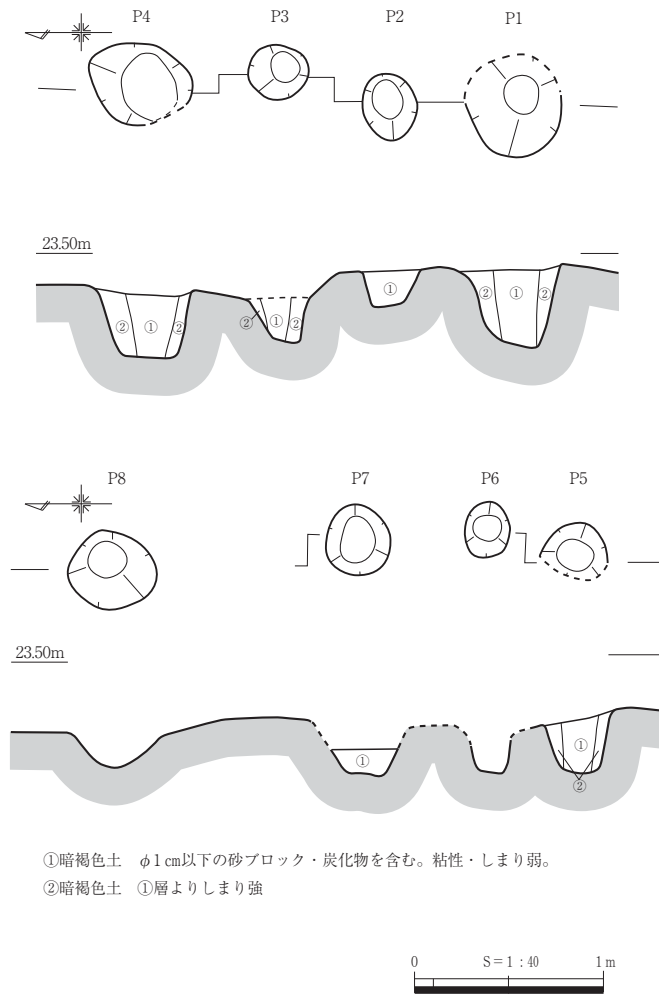
出土土器から、溝の埋没年代を平安時代前期(9世紀代)と考える。

4. 中世の遺構・遺物

(1) 溝

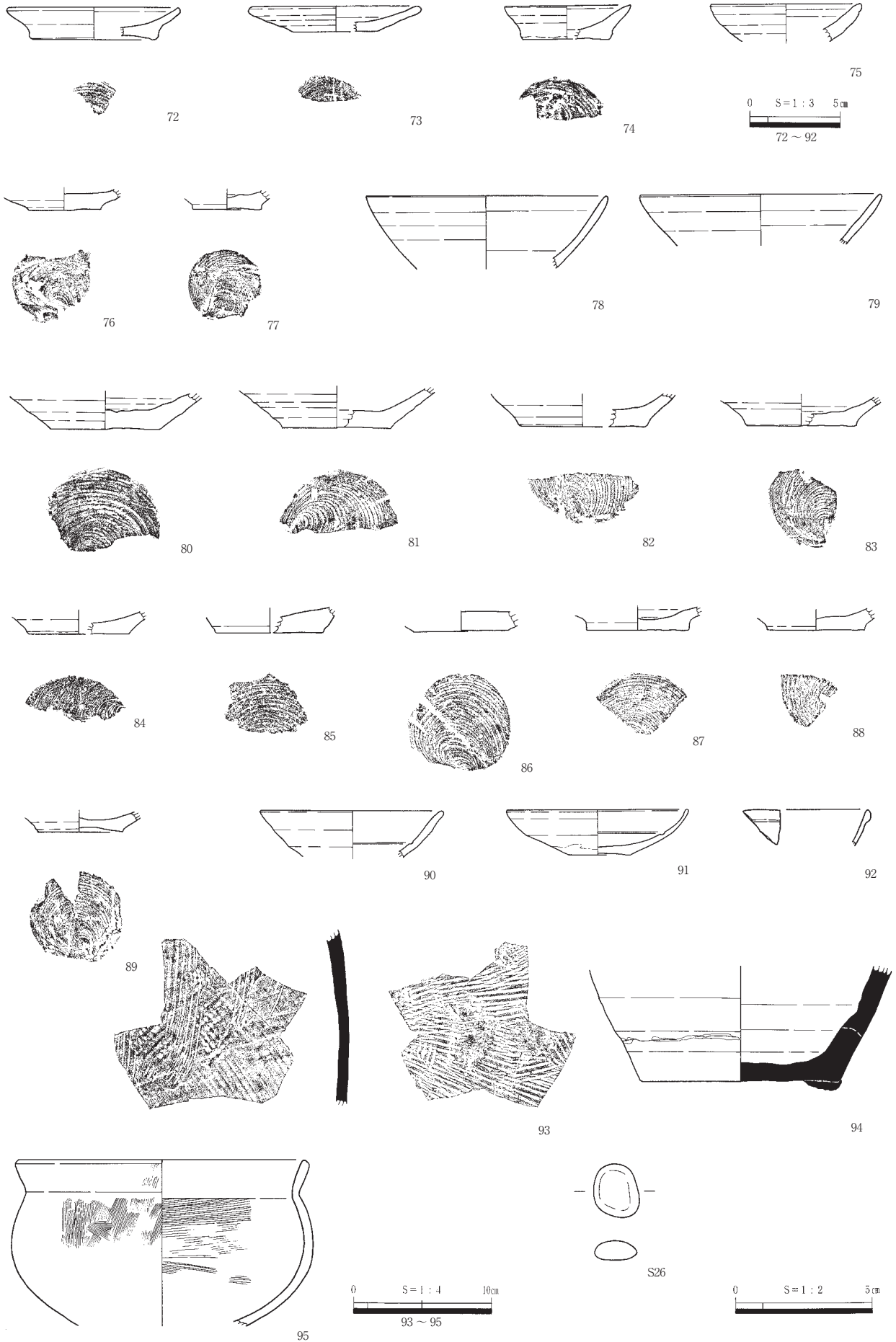
SD7(第6・37～44・60・61・64図、表3・4・6・17・18・20・21・24・26、PL.2～4・6・14～16・19・21・23～25・28～30・32～37・40)

C～F14グリッドに位置する。F15グリッドでSD20に切られ、D15杭周辺で大きく削平を受けている。II層上部を掘り下げ中に暗褐色土のプランを確認し、サブトレンチによって断面観察を行ったところ、4区で検出した溝の続きであることが明らかとなった。また、F14グリッドで北に折れ曲がることが確認され、屋敷地を囲う方形区画溝、「堀」であることが明らかとなった。南北ラインの主軸はN-0°-W。検出した溝の長さは東西ラインで3.5m、南北ラインで34.4m、過去の調査分と4区と5区間の用水路、町道部分を合わせ東西約81m、南北34.4mを加えると

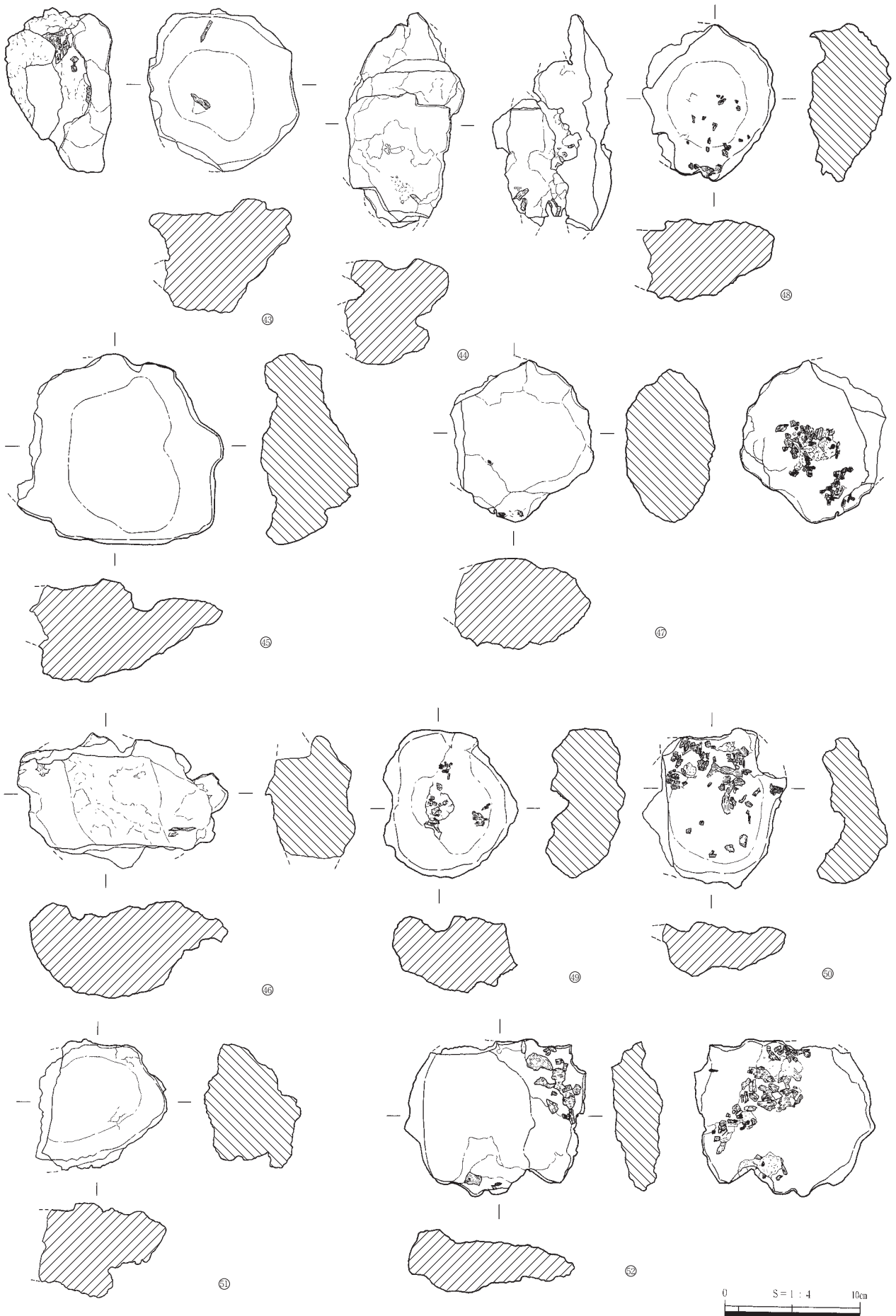


第39図 SD7—柵列

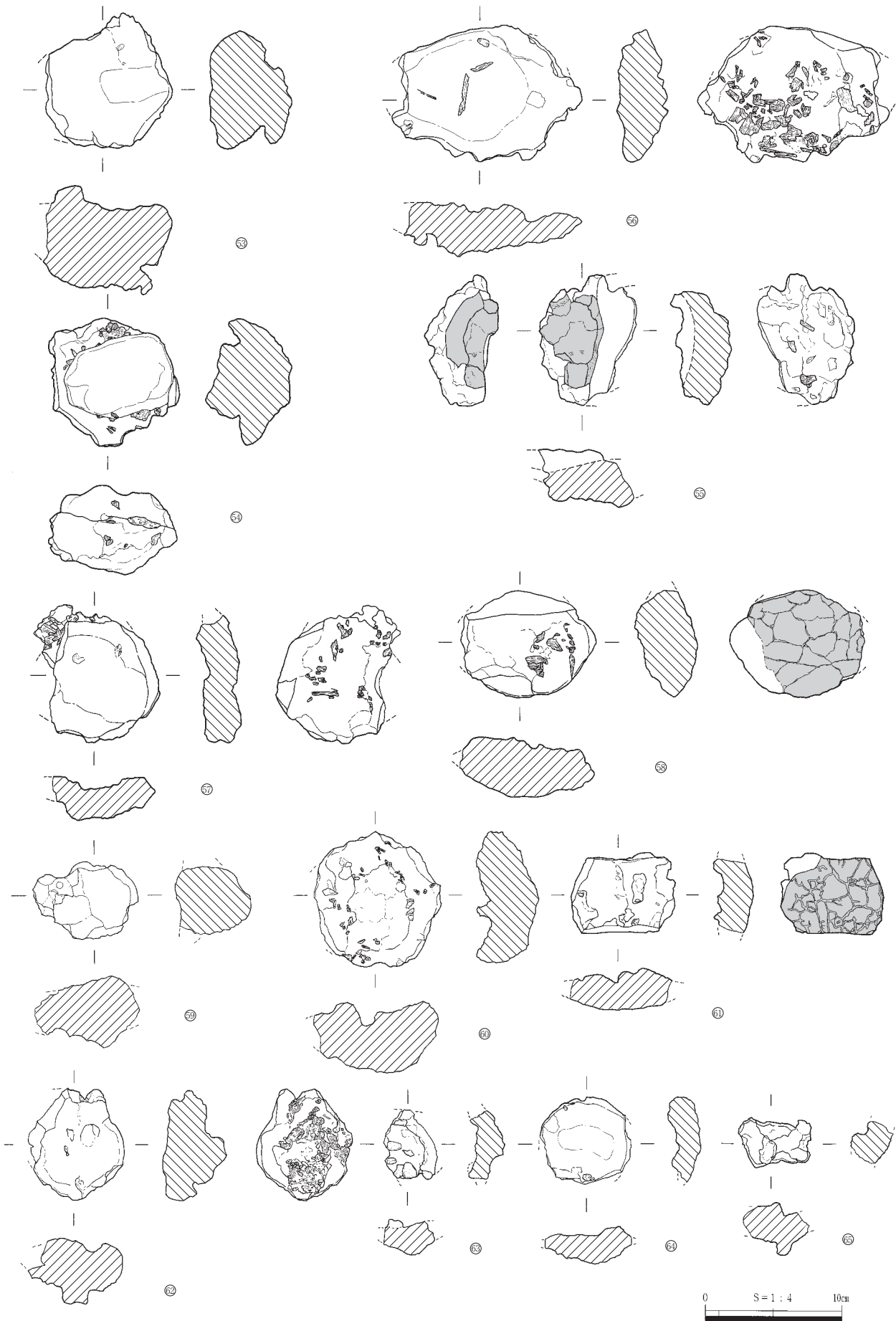
総延長約115.4mとなる。溝の肩部幅は2.6～2.9m、底面幅は約1.15～1.6m、検出面からの深さは最深部で1.15m、北側ほど削平を受け浅くなる。掘り方は大型礫を多量に含む基盤層であるVI層まで掘り込み、断面形は逆台形となっている。堀底面の標高は、南北ラインでは南端で約22.9m、中心部で約22.7m、北端で約22.7mを測り、ほとんど高低差はない。ただし、4区の溝底面が23.0m前後であるのに対し、5区の南北ラインは10～50cm低くなっている。溝底面が北ほど低くなるのは、掘り方の基盤層であるVI層が北に向かって緩やかに下降しているためであろう。また、溝底面には地山を掘り残したブリッジ状の高まりがC14グリッドで2ヶ所、E・F14グリッドで1ヶ所認められた。最も北に位置する高まりは底面から14～30cmほど高く、幅は中心部で約2.1m、両端部で約2.4～2.85mを測り、平面形が弓形となる。その南側約2.85mに位置する高まりは、底面から7～9cm高く、幅は中心部で20cm、両端部で20～30cmを測る。E・F14グリッドの南西隅にある高まりは、底面から15～17cm高く、幅は中心部95cm、両端部で約1.1～1.4mを測る。この高まりには、20～60cm大の礫が意図的に配列されている状況が確認された。一部の礫は西側に崩落していることから、本来は2列1組であった可能性が高い。過去の調査分も合わせると堤状の高まりは6ヶ所で、礫が並べられたものは初例となる。これら堤状遺構の具体的な性格は不明である。ただし、最も北に位置する高まりは、幅が約2.5m前後と広く、上面は溝肩部からわずか13cmほど下がっているが、溝の西壁両脇に4基ずつピットが配されている状況などから土橋の可能性もある。



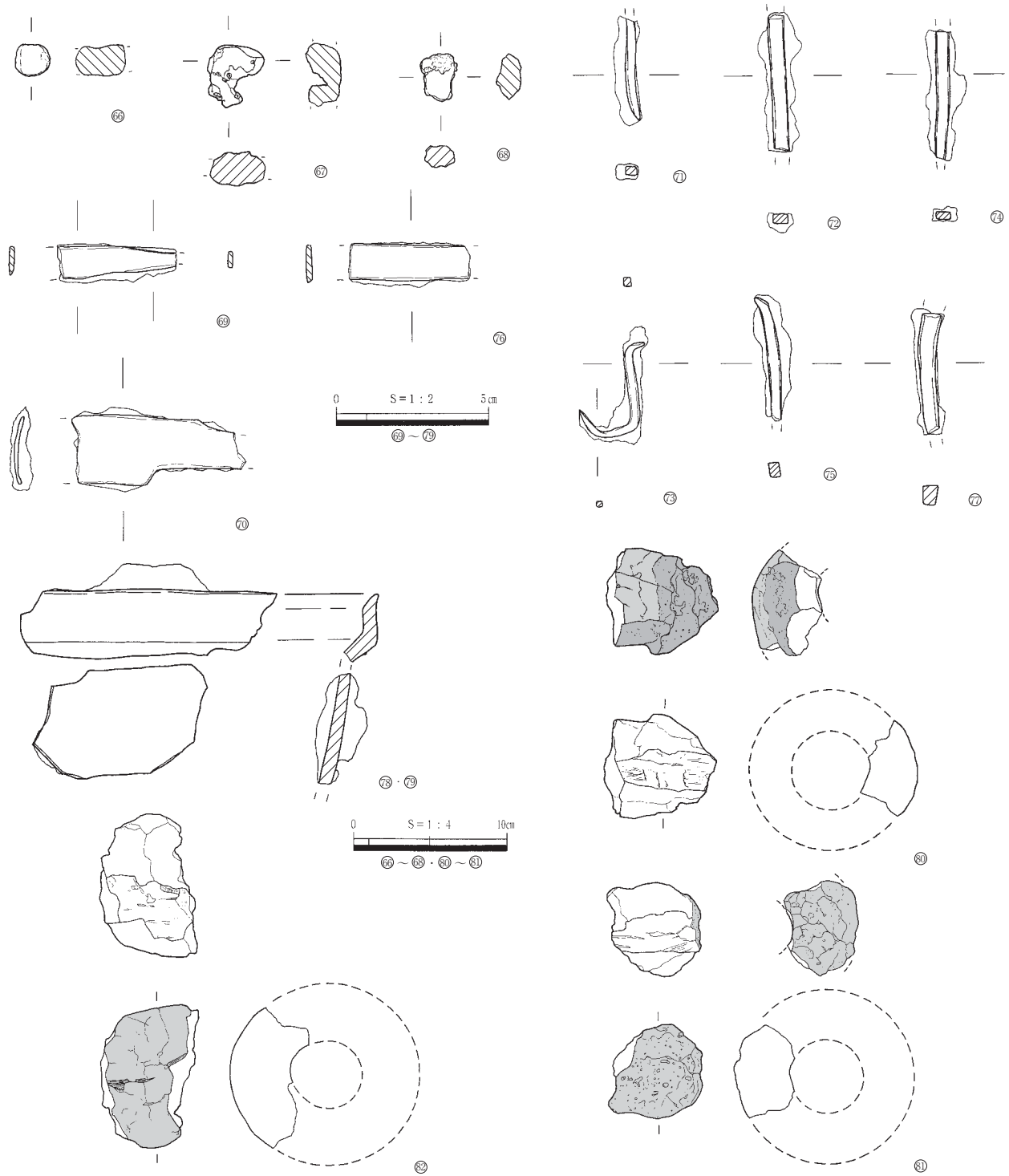
第40図 SD7出土遺物



第41図 SD7出土鍛冶関連遺物(1)



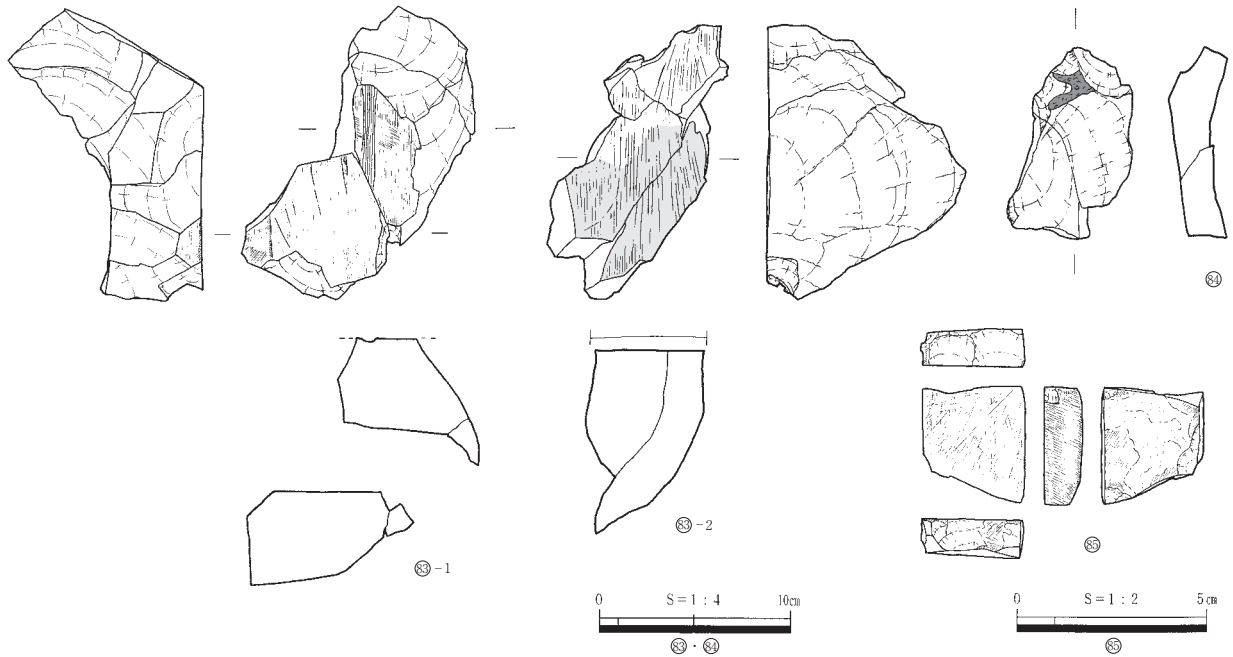
第42図 SD7出土鍛冶関連遺物(2)



第43図 SD7出土鍛冶関連遺物(3)

埋土は、Ⅲ・Ⅳ層に起因する砂ブロックを多く含み、暗褐色土、砂質土、シルト層などがレンズ状に堆積する。これらは基本的に自然流入により形成されたものと考えられる。溝底面や壁の一部には鉄分の沈着がみられ、砂質土とシルトが互層となっている状況から、SD7は基本的には空堀であったものの滞水する状況が一定期間繰り返されたものと想定される。

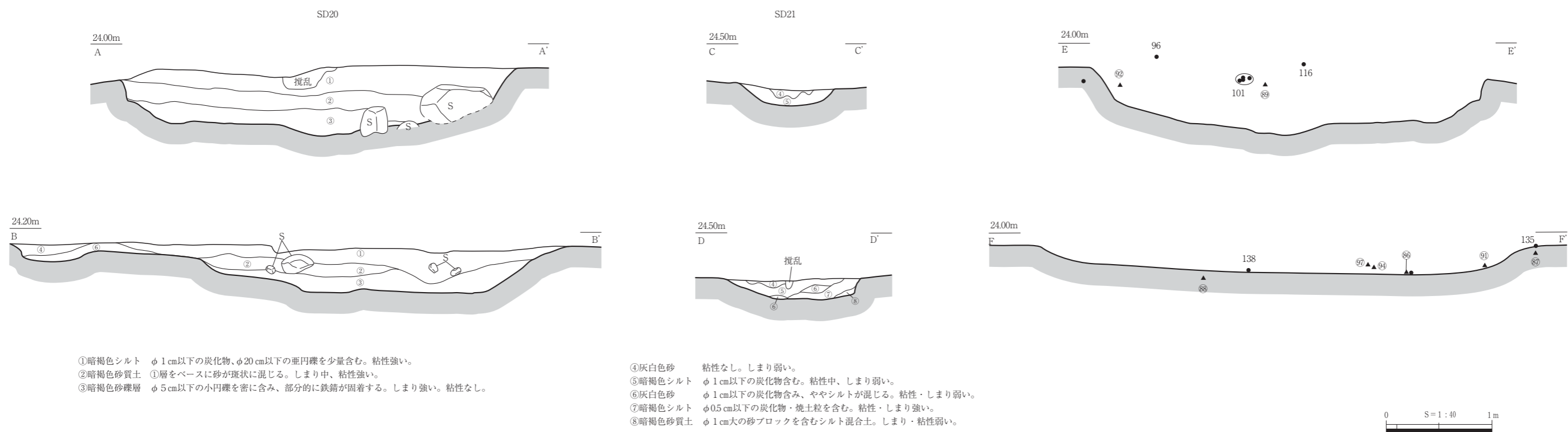
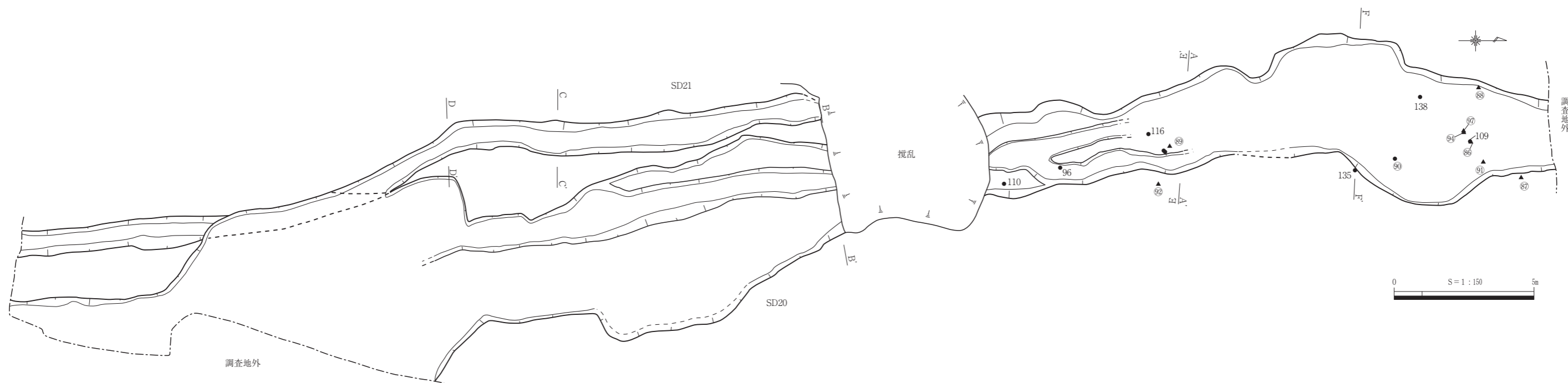
溝の帰属時期であるが、12世紀代に帰属する土師器76が底面直上、77が土橋直上、72・82・84は埋土下層から出土している。また、B14グリッドから出土した椀形鍛冶滓に噛み込んだ炭化材の年代測定を実施した結果、9世紀末から11世紀前半(試料No.1)と11世紀中頃から13世紀前半(試料No.2)の暦年代が得られている。したがって溝の埋没年代は11世紀から12世紀代と考える。



第44図 SD7出土鍛冶関連遺物(4)

遺物は、中世前期の土師器、須恵器、陶磁器と多量の鍛冶関連遺物がある。72～77は土師器小皿であり、これらは中森分類Ⅱ・Ⅲ類に比定される。このうち75は器壁が厚く体部が内湾気味となる。78～89は土師器坏であり、78・79は口径14.2cmで、中森分類Ⅱa類、玉木編年3段階、81～88は底部破片であるが、形態や底径から玉木編年3～4段階に該当すると思われる。90～92は貿易陶磁である。90は口縁端部が丸く、体部内面と見込みの境に段をもつ白磁皿Ⅱ類である。91は底部が上げ底状を呈し、内面に沈線状の段を有する白磁皿Ⅵ類。92は口縁端部が小さな玉縁となる白磁碗Ⅱ類に比定される。これらの磁器は11世紀後半から12世紀前半に位置づけられる。93は外面に格子状タタキ、内面にハケ調整が施される勝間田系甕の体部破片である。94は内外面丁寧なヨコナデ調整を施した須恵器の壺底部。外面に粘土帯の接合痕が残っている。95は口縁が緩やかに外反し、体部が球状に膨らむ鍋である。内外面ハケ調整であり、内面に煤が付着する。加藤分類Ⅰ類に該当し11～12世紀代に位置付けられようか。S26は珪質頁岩製の碁石であり、表面が丁寧に研磨されている。

SD7から最も多く出土した資料が鍛冶関連遺物と鉄製品である。第41～44図に構成資料と関連遺物をまとめている。鍛冶関連遺物は、大きくB～D14グリッドに集中している。④③～④④は大型サイズの椀形鍛冶滓で、④③・④④は上下重層となっている。④⑤～④⑥が中型サイズの椀形鍛冶滓であり、④⑤は羽口顎部が固着している。④⑧の下面には灰白色の炉床土が付着し、亀甲状の亀裂が入っている。④⑥①・④⑥②は小型サイズの椀形鍛冶滓で、④⑥①の下面は同じく炉床土が付着する。④⑥③～④⑥⑦は極小サイズの椀形鍛冶滓で、④⑥③は半溶解石が付いている。④⑥⑨は刀子、④⑦①・④⑦⑥は板状不明品である。④⑦①・④⑦②・④⑦④～④⑦⑦は釘の頭部から芯部。④⑦③は釣針である。鉄製品の④⑦⑧・④⑦⑨は鋳造品の鍋口縁から体部破片である。④⑧①・④⑧②は被熱発泡した羽口先端部、④⑧②は羽口体部である。いずれもスサを多く含み粘質に富んでいる。④⑧③～④⑧⑤は砥石をまとめている。④⑧③は凝灰岩製の破碎した大型置砥石であり、砥石目が細く、砥面は一部溝状に窪んでいる。大部分の砥面が被熱黒色化する。④⑧④は同じく凝灰岩製の砥石であり、表面が被熱し滓が付着する。④⑧③・④⑧④は同一個体であるが、直接接合しない。④⑧⑤は硬質緻密な石材を用いた極めて目が細かい砥石であり、全面被熱赤化している。



第45図 SD20・21

SD7—柵列(第6・39図、表26、PL.3・16・19)

C14グリッド、SD7西壁肩部、土橋両脇に4基ずつ配置されている。SD7の確認面、Ⅲ層上面で検出した。これらのピットはSD7の壁を穿って構築されているため、切り合い関係ではピットが新しくなるが、土橋両脇のみに4基ずつ配列していること、柱痕跡が確認されたことを根拠として、堀に伴う柵列と判断した。主軸はN-0°-W。柱間距離は、70cm (P1-2)、56cm (P2-3)、70cm (P3-4)、48cm (P5-6)、70cm (P6-7)、132cm (P7-8)である。柱穴は不整円形を呈し、P1(55×50-42cm)、P2(35×28-19cm)、P3(32×28-23cm)、P4(55×42-34cm)、P5(35×30-28cm)、P6(30×23-22cm)、P7(38×33-26cm)、P8(46×41-18cm)を測る。柱痕跡はP1・3・4・5で確認され、復元できる柱径は13～18cmである。

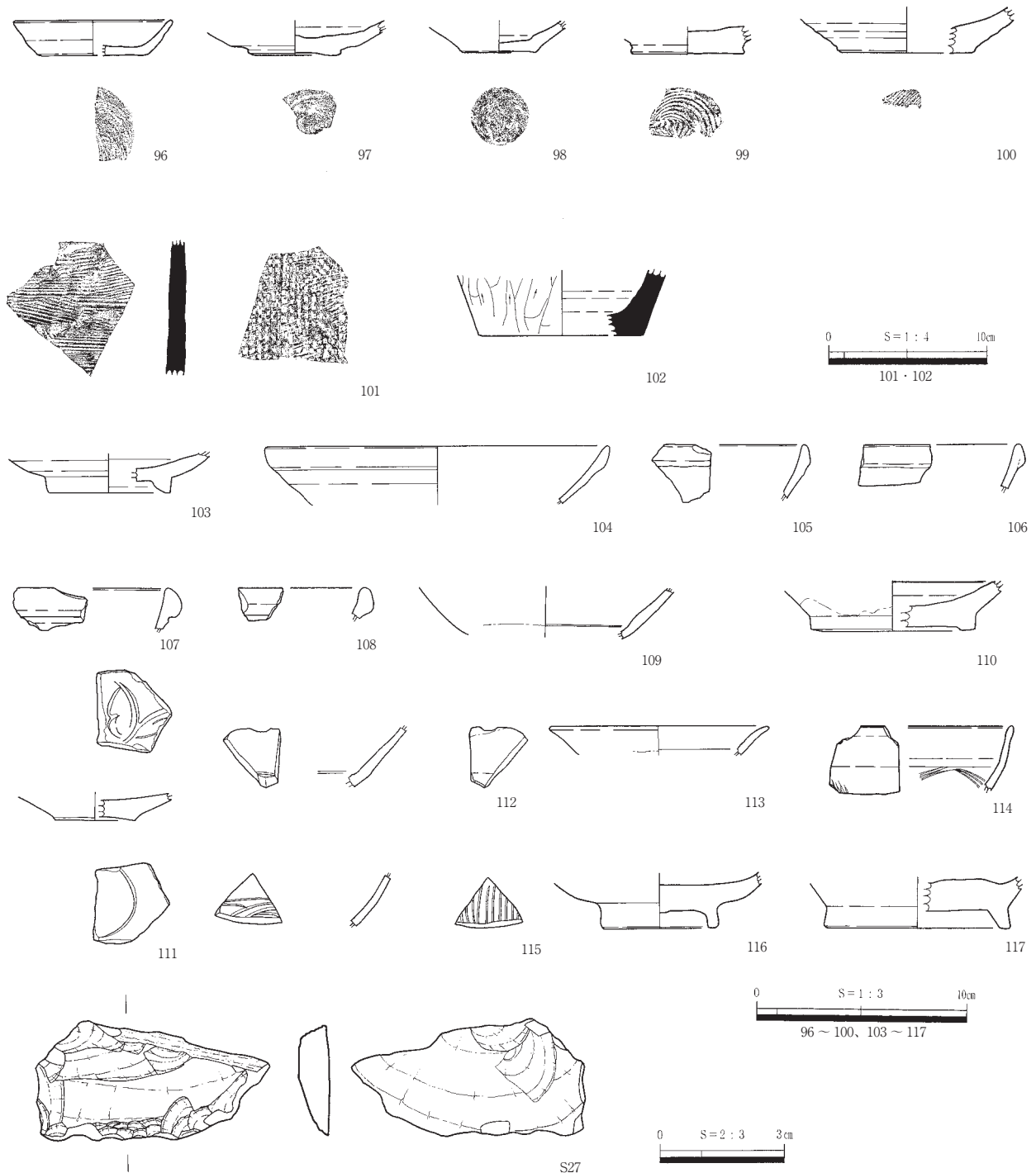
柵列から遺物は出土していないが、構築時期はSD7と同じく12世紀代と考えられる。

(2) 自然流路

SD20(第6・45～47・61図、表4・6・17・18・21・24、PL.2・6・17・18・28～30・35・40)

C～G15グリッド、調査地ほぼ中心を縦走する南北溝である。E・F14グリッドでSD7、G15グリッドでSD21を切っている。Ⅱ層上部を掘り下げ中に、炭化物や径20cm以下の垂円礫を含んだ暗褐色シルトを検出し、南北に連なる溝として調査を進めた。溝底面はⅢ～Ⅵ層まで達しており、E15グリッドより南は底面が砂礫層となっている。主軸はN-20°-W、検出した溝の長さは55m、肩幅は2.2～7.2m、底面幅は1.7～6.6m、検出面からの深さは30～65cmを測る。D・E・F15グリッドの溝底面では幅0.6～1.6mの細い筋状の溝がさらに1条認められた。この溝が最古段階の流路であり、それが後に氾濫などによって拡大していったものとする。溝底面の標高は、南端23.9m、中間部23.7m、北端22.9mで高低差約1mを測り、北側に向かって緩やかに下降している。埋土は①層が暗褐色シルトで中世後期の遺物を多く含む。②層は暗褐色砂質土、③層は5cm以下の円礫を密に含む暗褐色砂礫層である。このなかで③層中に小型の鍛冶滓や中世前期の遺物が多く含まれていた。溝底面は鉄錆が固着する範囲が認められ、上記の埋土の特徴からも自然流路と判断する。この溝は4区の南端に広がる砂礫層と繋がることを確認されており、平成17年度調査地3区南西隅に見られた砂礫層と一連のものと考えられる。河道は勝田川から微高地上を北西に向け、5区の南で川筋を北に変換している。

遺物を第46・47図に掲げている。96～100は土師器をまとめた。96は体部が直線的に外傾して口縁に至る小皿である。97～100は回転糸切成形の坏底部破片であり、97・98は底径4.4cm、3.5cmと小型であることから中世後期の可能性をもつ。101は外面格子状タタキ痕、内面ハケによる調整が施される勝間田系甕の体部破片である。102は外面をヘラケズリ、内面を丁寧なヨコナデ調整で仕上げる須恵器の甕もしくは壺底部。103～116は貿易陶磁を掲げている。103は外面体部下半がヘラケズリ痕を残す露胎となっており、内面見込みに段を有する白磁碗Ⅱ類である。104～110は白磁碗Ⅳ類。104～108口縁部が玉縁で、109は体部下半が露胎、内面に段を持つ。110は体部下半から高台内までが露胎となり、内面見込みに段が認められる。111は釉が厚く、内面見込みにヘラ描きによる草花文が施される白磁皿Ⅷ類。113は口縁部が外傾し、外面体部下半が露胎となる同安窯系青磁皿Ⅰ類である。114は内面上位に沈線がめぐり、櫛描文が施される同安窯系青磁碗Ⅰ類、115は外面櫛描文、内面に劃花文を有する龍泉窯系青磁碗Ⅰ類に該当する。116は釉が厚く、高台内の釉を輪状に削り取る龍泉窯系青磁碗であり、上田Ⅱ類に比定されよう。S27は板状剥片を素材とし、裏面に主剥離面を残すサヌカイト製のスクレイパーである。



第46図 SD20出土遺物

第47図は鍛冶関連遺物と鉄製品をまとめている。⑧⑥～⑧⑨は大型から極小サイズの椀形鍛冶滓で、⑧⑥は二段となっている。⑧④は雁又式の鍬の可能性のある鉄製品で、茎部が折損し錆によって固着している。⑧③～⑧⑥は釘の芯部、⑧⑦は鋳造品の鉄鍋体部から底部破片である。

SD20の帰属時期は、SD7を切り、下層中に12世紀代の貿易陶磁が多く、上層に14世紀後半から15世紀代の青磁類が出土していることなどから、上限は中世前期まで遡る可能性をもつが、埋没時期は14世紀後半以降と考える。

SD21(第6・45・48図、表6・17・18・21、PL.17・18・21・24)

E～H15グリッド、調査地ほぼ中心を縦走する南北溝である。G15グリッドでSD20に切られ、D15グリッド以北は後世の削平のため不明である。Ⅱ層を掘り下げ中に、灰白色砂の筋状のプランを検出し、南北に連なる溝として調査を進めた。主軸はN-20°-W、検出した溝の長さは28.2m、溝幅は0.96～1.5m、底面幅は36～90cm、検出面からの深さは15～20cmを測る。溝底面の標高は、南端23.9m、中間部23.8m、北端23.8mで高低差に大きな変化はない。埋土は最上層が砂層であり、以下暗褐色シルトと砂層が互層状に堆積している。このことから本遺構は自然流路と考えられ、水は比較的穏やかに北流していたものと推測する。埋土中からの遺物は総じて少ないが、第48図に3点図示した。118は土師質の播鉢であり、口縁部が受け口状となって肥厚し、内外面ハケによる調整が施される。在地産の可能性をもつ。119は須恵器の小壺である。120は口縁部が外折し、内外面施釉された白磁碗Ⅴ～Ⅷ類。

SD21の帰属時期は、出土遺物とSD20に切られていることから中世前期に埋没したものと考える。

(3) 掘立柱建物**SB6(第6・49・61図、表4・6、PL.18・19・35)**

B・C14グリッド、調査地北東に位置する。桁行3間(2.32m)、梁行3間(2.2m)の掘立柱建物である。主軸はN-1°-W、床面積は約5.1㎡を測る。柱間距離は、75cm(P1-2)、60cm(P2-3)、65cm(P3-4)、67cm(P4-5)、60cm(P5-6)、97cm(P6-8)、65cm(P8-9)、60cm(P9-10)、85cm(P10-11)、45cm(P11-12)、68cm(P12-13)、117cm(P13-1)である。柱掘り方は直径27～55cm、深さ15～33cm、円形あるいは楕円形を呈する。いずれも柱痕跡は残っていなかった。ピット埋土はしまりが弱く、炭化物や黄褐色ブロックを含有している。柱間が狭く、不規則であることから簡易な建物もしくは柵列の可能性も想定されよう。

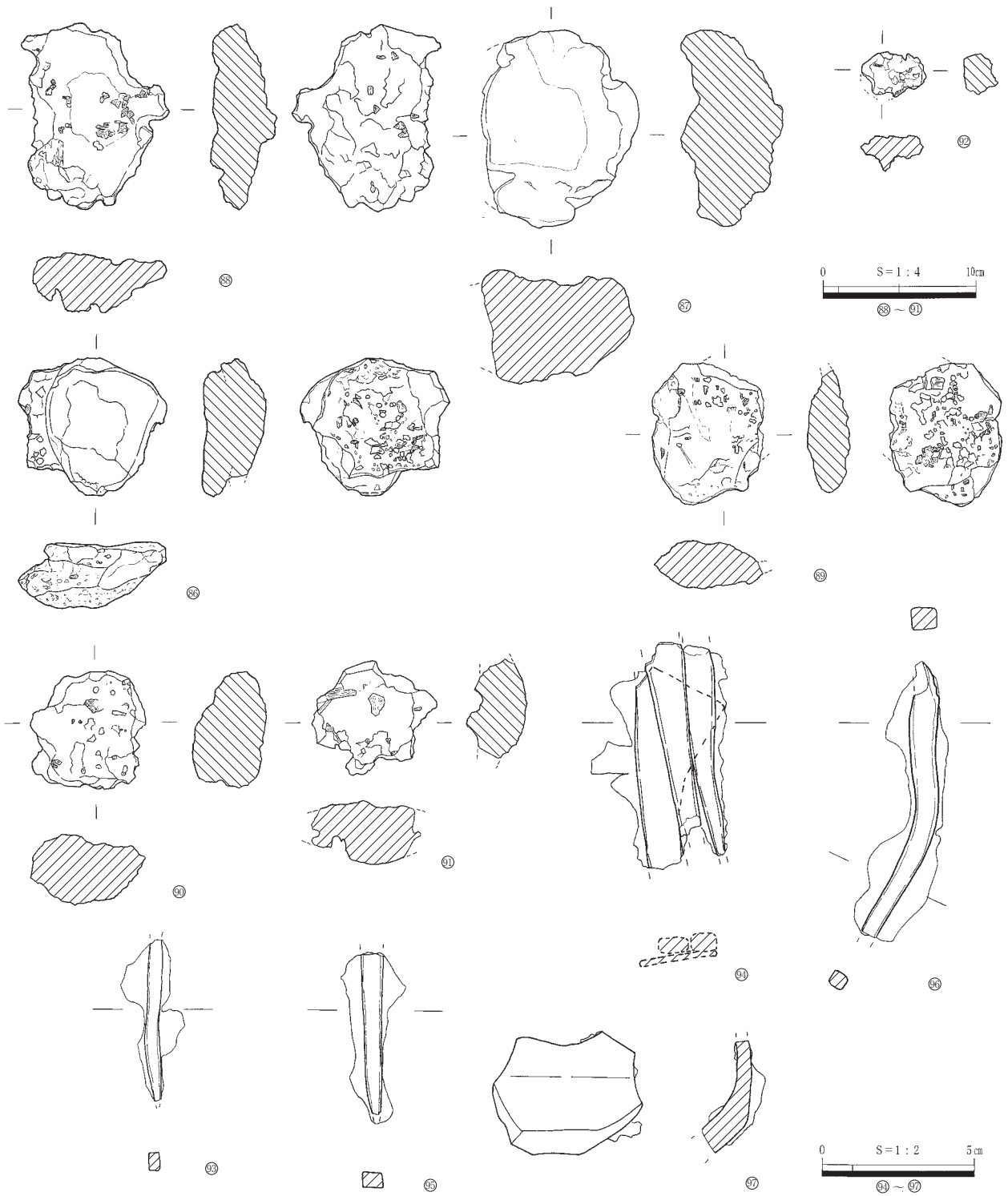
P12から極小サイズの椀形鍛冶滓⁹⁸が出土している。遺構の時期は、埋土の状況や出土遺物から中世前期と考えられる。

(4) 土坑**SK59(第6・50図、表18・22、PL.20・24)**

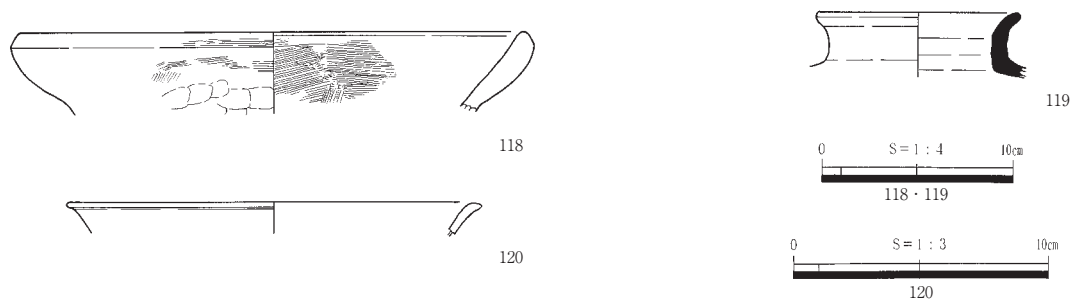
F・G15グリッド、SD21の西約3mに位置し、西壁は削平を受けている。Ⅱ-2層掘り下げ中に暗褐色砂質土のプランを検出し、土坑と判断し調査を進めた。平面形は長軸2.25m、短軸1.2mの楕円形を呈し、深さ18cmを測る。埋土は炭化物、黄色粒を含有する上部の砂質土と下部のシルト層の3層である。②・③層中から土師器皿121が出土している。体部が直線的に外傾することなどから、中森分類Ⅱb類に比定される。遺構の性格は不明である。出土遺物から遺構の帰属時期は、12世紀代と考えられる。

SK60(第6・50、61図、表4・6・18・22、PL.20・24・25・28)

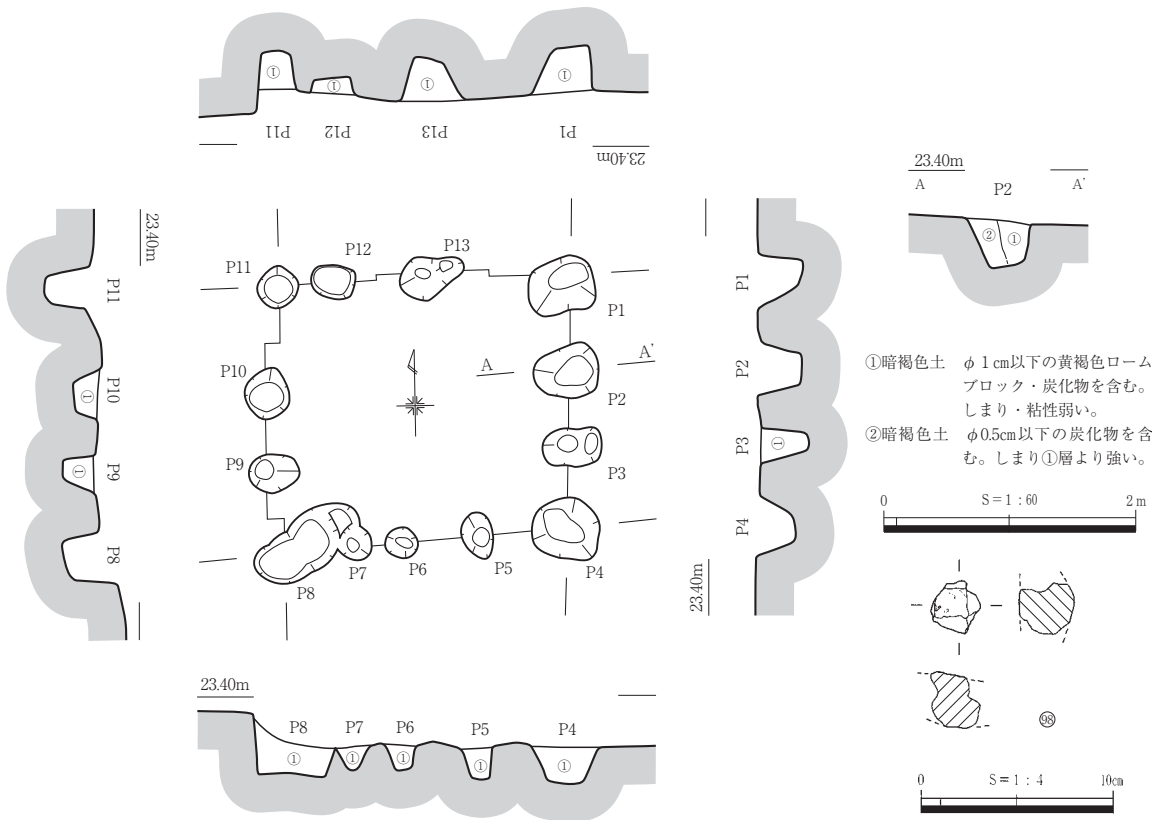
G15グリッド、SK59の南約1.5mに位置する。Ⅱ-2層掘り下げ中に暗褐色シルトのプランを検出し、土坑と判断し調査を進めた。平面形は長軸44.6cm、短軸2.2cmの鍵穴形を呈し、深さ30cmを測る。埋土は炭化物を含有する暗褐色シルトと暗灰褐色砂礫からなり、下層中から多くの遺物が出土してい



第47図 SD20出土鍛冶関連遺物



第48図 SD21出土遺物



第49図 SB6及び出土遺物

る。下層は砂礫を多く含み、遺物は磨耗していることから長期間滞水していたものと考えられる。遺物は、122～125が土師器、126が須恵器、鉄製品⑨⑨が出土している。122・123は坏の体部下半から底部破片であり、中森分類I b類に該当する。124は柱状高台皿、125は高台坏である。126は外面平行タタキ、内面同心円状当て具痕を持つ甕胴部破片。⑨⑨は釘の芯部である。遺構の性格は廃棄土坑と想定される。

出土遺物から、遺構の埋没時期は12世紀以降と考える。

(5)ピット

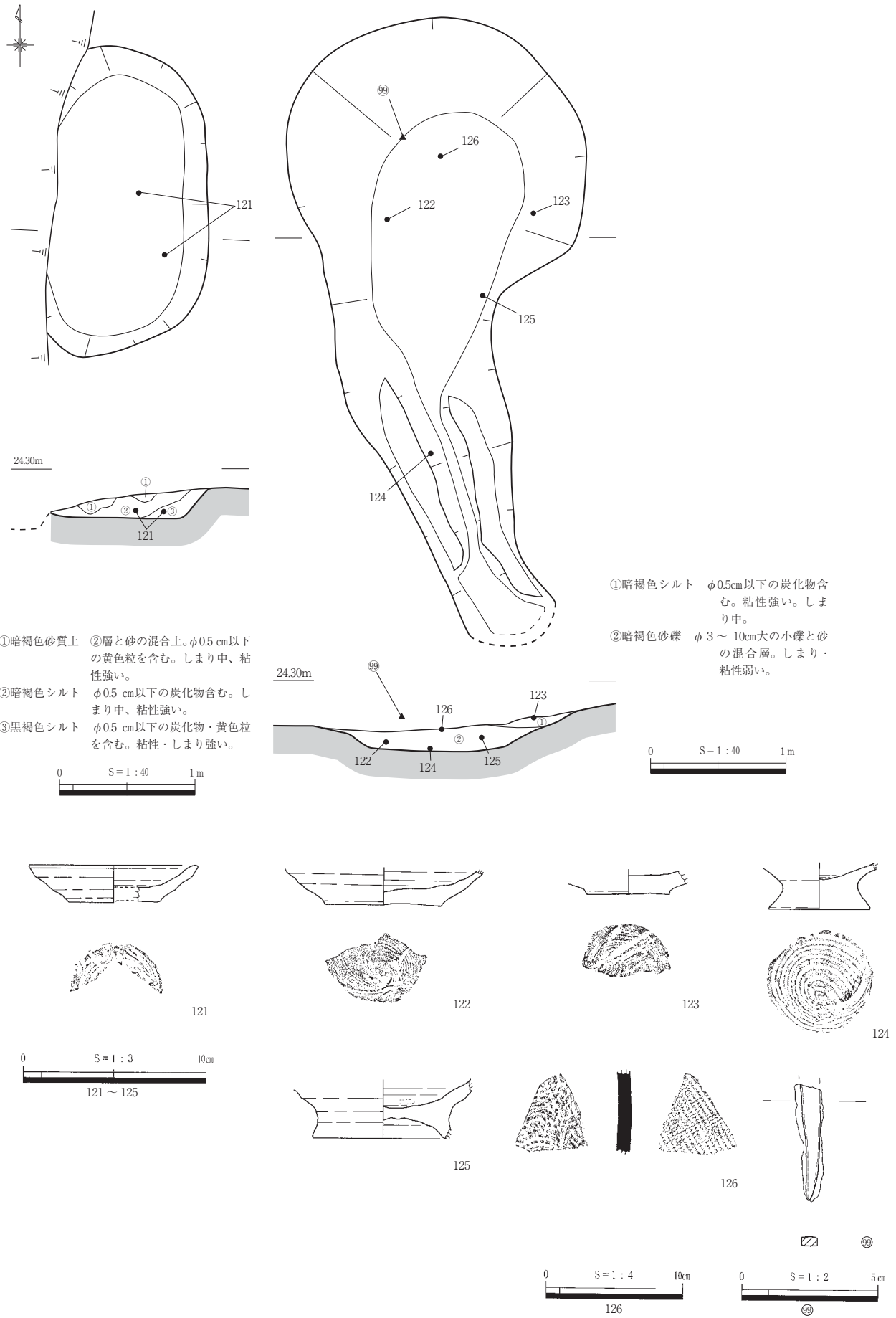
5区では調査区北東部、区画溝内を中心に総数95基のピットが検出された。このなかには、柱痕が確認されるものや掘り方などから柱穴と判断されるものも含まれるが、多くが単層で建物や柵列を構成する可能性は低いと考えられる。ピットからの遺物は少なく、そのほとんどが小片であったが、遺存度が高く、時期の特徴を示すものを選んで図示した。時期としては中世が多いが、古墳時代に帰属するものも含まれる。

P606(第51・52・56・61図、表4・6・28、PL.19・35)

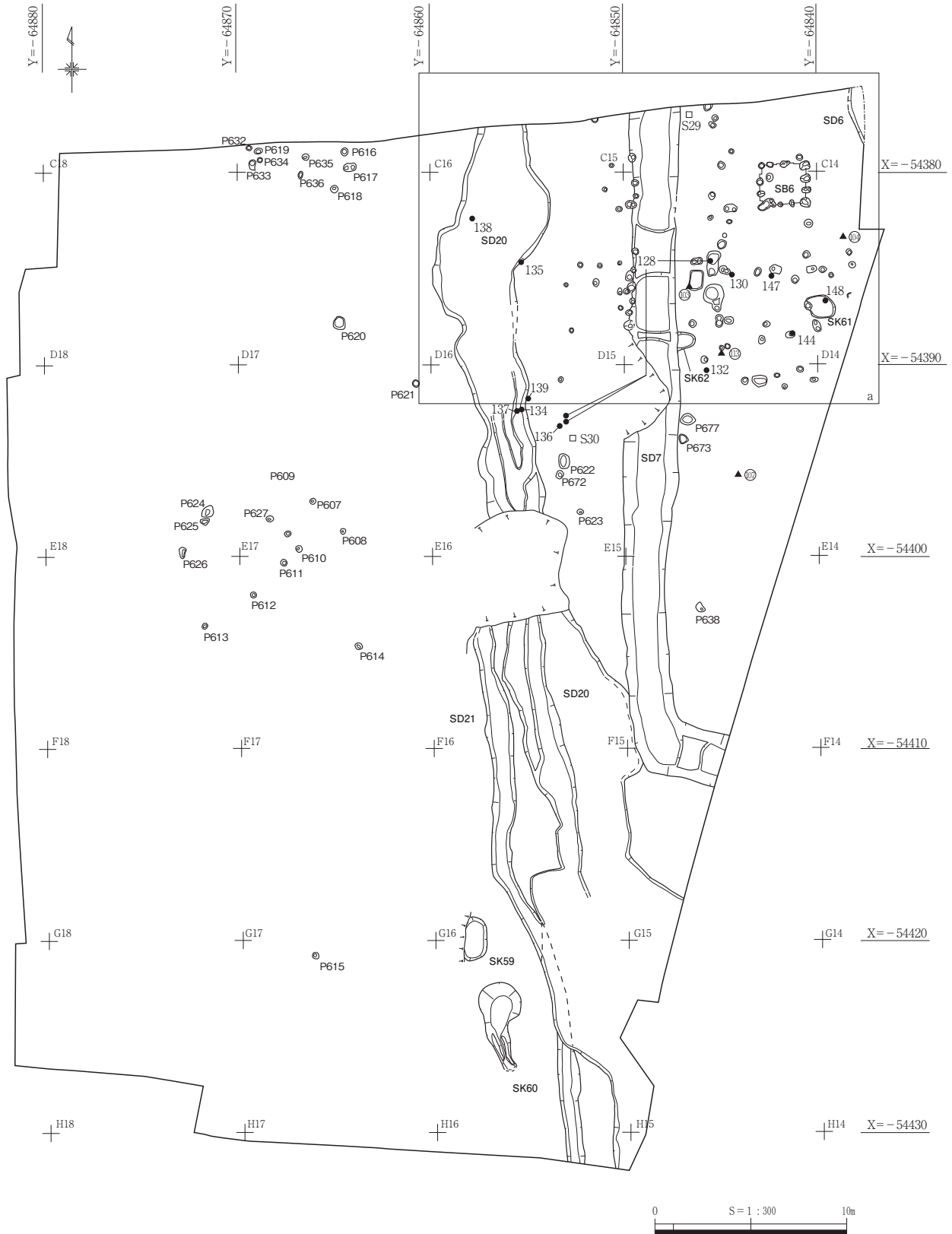
B15グリッド、調査区北壁にかかるピットである。Ⅲ層上面で検出している。平面形は不整円形を呈し、長軸35cm、深さ25cmを測る。埋土は炭化物や焼土粒を含む褐色土のみで、しまりが弱い。埋土中から椀形鍛冶滓⑩⑩が出土している。埋没時期は中世以降と想定される。

P621(第51・52・56図、表22・28、PL.27)

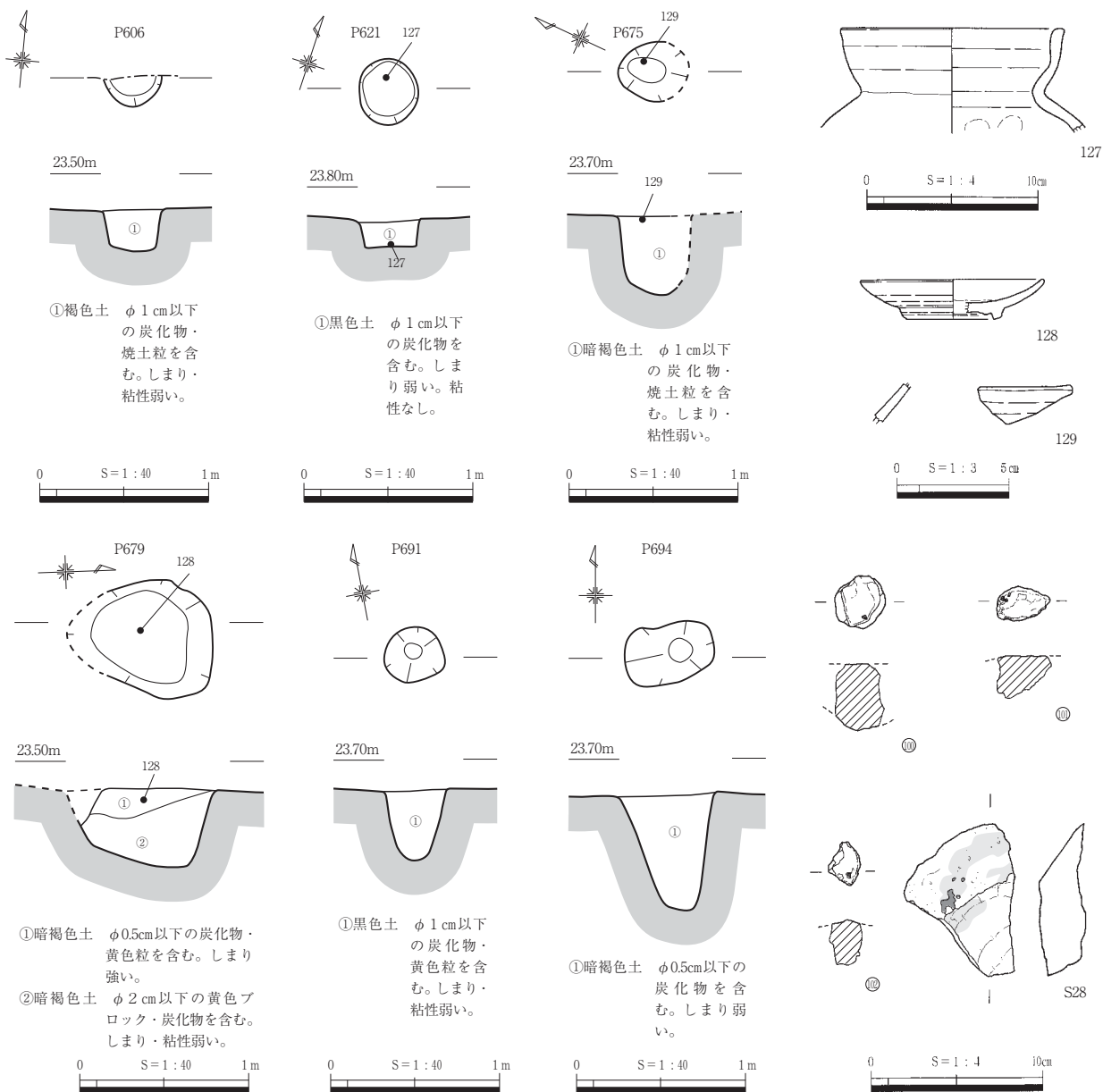
D16グリッド、SD20の西方約2.2mに位置する。Ⅲ層上面で検出しているが上方が削平されている。



第50図 SK59・60及び出土遺物



第51図 ピット配置図(1)・遺構外出土遺物分布図



第52図 P606・621・674・675・679・691

第53図 ピット出土遺物

平面形は楕円形を呈し、長軸39cm、短軸35cm、深さ14cmを測る。埋土はしまりの弱い黒色土の単層で、古墳時代後期の有段口縁甕127が出土している。埋没時期は、古墳時代後期と考えられる。

P675(第51・52・56図、表17・28、PL.6・19)

C14グリッド、SK61の約20cm南側に位置し、P676を切っている。平面形は楕円形を呈し、長軸43cm、短軸37cm、深さ47cmを測る。埋土は砂ブロックを含有する暗褐色土の単層である。埋土中から白磁碗の体部破片が出土している。白磁碗129はIV～VIII類に比定されることから、ピットの埋没時期は、11世紀後半～12世紀後半と考える。

P679(第51・52・56・61図、表4・6・17・20・22・28、PL.6・19・35)

C14グリッド、SD7の約1.5m東に位置しP655を切っている。平面形は不整楕円形を呈し、長軸90cm、短軸70cm、深さ49cmを測る。埋土は炭化物や黄色ブロックを含有する暗褐色土の2層が堆積し、上層から白磁皿128と椀形鍛冶滓⑩が出土した。白磁皿は屋敷地外に当たるD15グリッドの包含層中から出土した2片と接合している。時期は森田分類D群に比定されることから、本遺構は15世紀以降に埋

没したものと考えられる。

P691(第51・52・56・61図、表4・6・28、PL.19・35)

C13グリッド、SK61の約2m北東に位置する。平面形は長軸35cm、短軸32cmの楕円形を呈し、深さ42cmを測る。埋土は炭化物、黄色粒を含有する黒色土の単層である。埋土中から極小サイズの椀形鍛冶滓^⑩が出土している。埋没時期は中世以降と考える。

P694(第51・52・56図、表5・28、PL.19・40)

C14グリッド、SK61の約1.3m北に位置する。平面形は長軸53cm、短軸35cmの楕円形を呈し、深さ68cmを測る。埋土は炭化物を含有する暗褐色土の単層である。埋土中から鍛冶関連遺物と想定される被熱礫S28が出土している。埋没時期は中世以降と考える。

5. 時期不明の遺構

SK61(第6・54図、PL.20)

C13・14グリッド、SD7の東約6.5mに位置する。II-2層掘り下げ中に黄色粒を含んだ暗褐色プランを検出し、土坑と判断し調査を進めた。平面形は長軸1.63m、短軸1.2mの不整楕円形を呈し、深さ14cmを測る。埋土は炭化物、焼土粒、黄色粒を多く含有する暗褐色土の単層である。遺物が出土していないため、帰属時期は不明である。

SK62(第6・55図、PL.20)

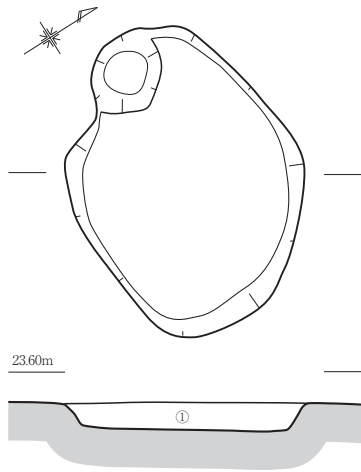
C14グリッド、SD7脇に位置し、SD7に切られる。II-2層掘り下げ中に暗褐色土のプランを検出し、土坑と判断し調査を進めた。平面形は長軸93cm、短軸90cmの不整楕円形を呈し、深さ35cmを測る。埋土は炭化物、焼土粒を多く含有する暗褐色土の単層である。遺構の帰属時期はSD7との重複関係から中世以前と考える。

6. 遺構外出土遺物(第57・58図、表4・5・22・23・24、PL.6・25～29・35・38・40)

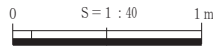
表土、包含層、攪乱土から多くの遺物が出土した。これらの中から各時期の特徴を示すものを選別して第57・58図に図示した。また、5区I・II層上部では39点の近世以降の陶磁器が得られている。多くが小片であるため図示できなかったが、表18に集計表を付している。

遺物は、古墳時代～中世の土師器、須恵器、瓦質土器、備前焼、陶磁器と鉄製品、鍛冶関連遺物、縄文・弥生時代の石器がある。これらの遺物の多くが4区から出土したものと時期的に概ね符合するが、調査区西方ほど遺物が減少する。このことは5区が勝田川の自然堤防上に築かれた屋敷地中心部から外れていることを示唆する。

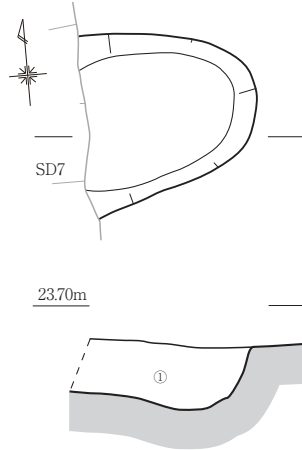
130は外面にミガキ調整痕を残す赤彩された土師器皿である。9世紀前半に位置づけられよう。131は回転糸切成形の土師器坏底部である。132～135は須恵器をまとめている。132は短脚の高坏坏部から脚部破片である。八橋Ⅷ～Ⅸ期に該当しようか。133は長頸壺の頸部であり、外面にカキメが施されている。134は外面に格子状タタキ、内面にナデ調整を施す勝間田系の甕体部破片である。色調は淡黄色を呈し、焼成不良である。135は外面格子状タタキ、内面ハケ調整の勝間田系甕の底部である。底面は未調整。136～138は備前焼播鉢をまとめている。口縁端部が外側に突出して下側にわずかに下がる137と口縁部の上方への拡張が顕著な138に分かれ、それぞれ重根分類ⅣAとⅣBに比定される。播目は8本1組が多い。14世紀中頃から15世紀前半に位置づけられるものと考えられる。139は瓦



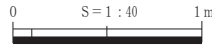
①暗褐色土 φ 1 cm以下の炭化物・焼土粒・黄色粒を多く含む。粘性・しまり弱い。



第54図 SK61

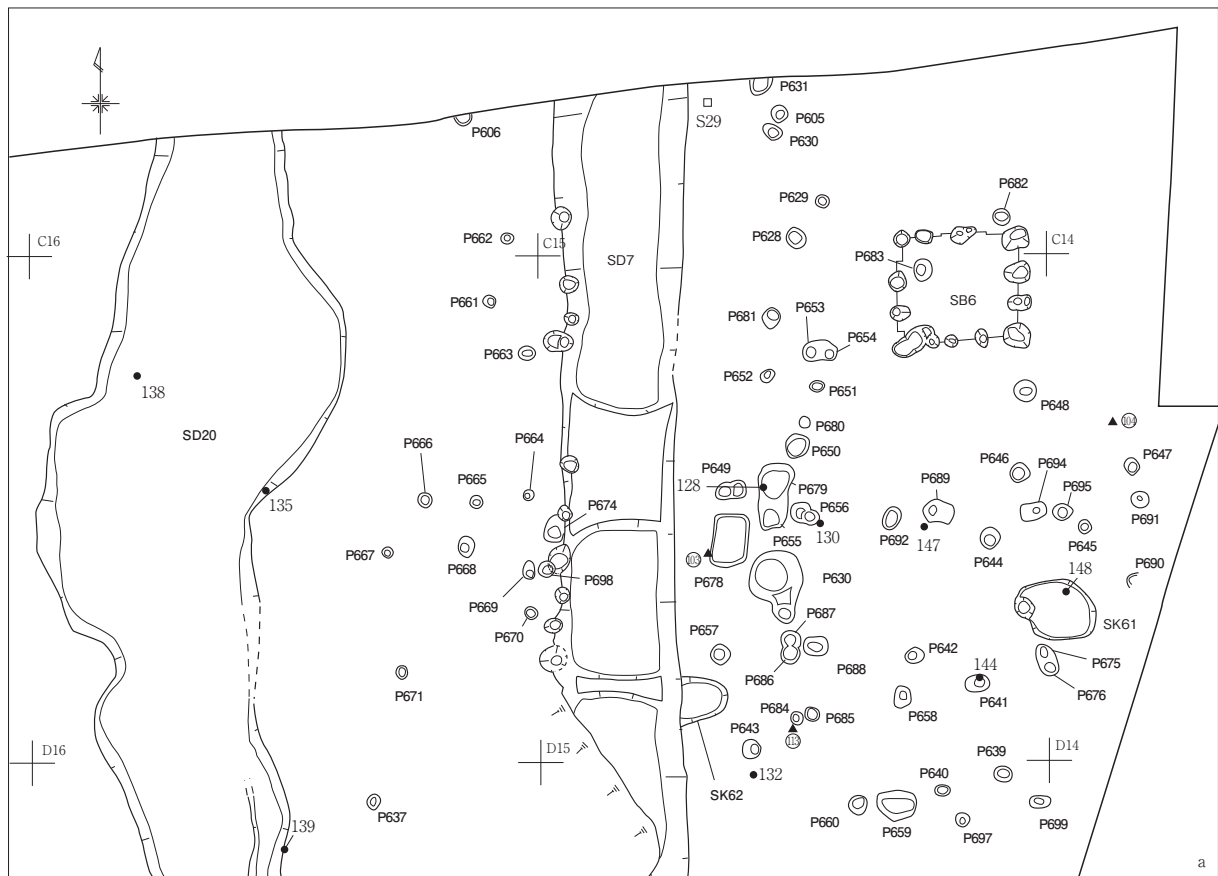


①暗褐色土 φ 1 cm以下の炭化物・焼土粒を含む。粘性・しまり弱い。

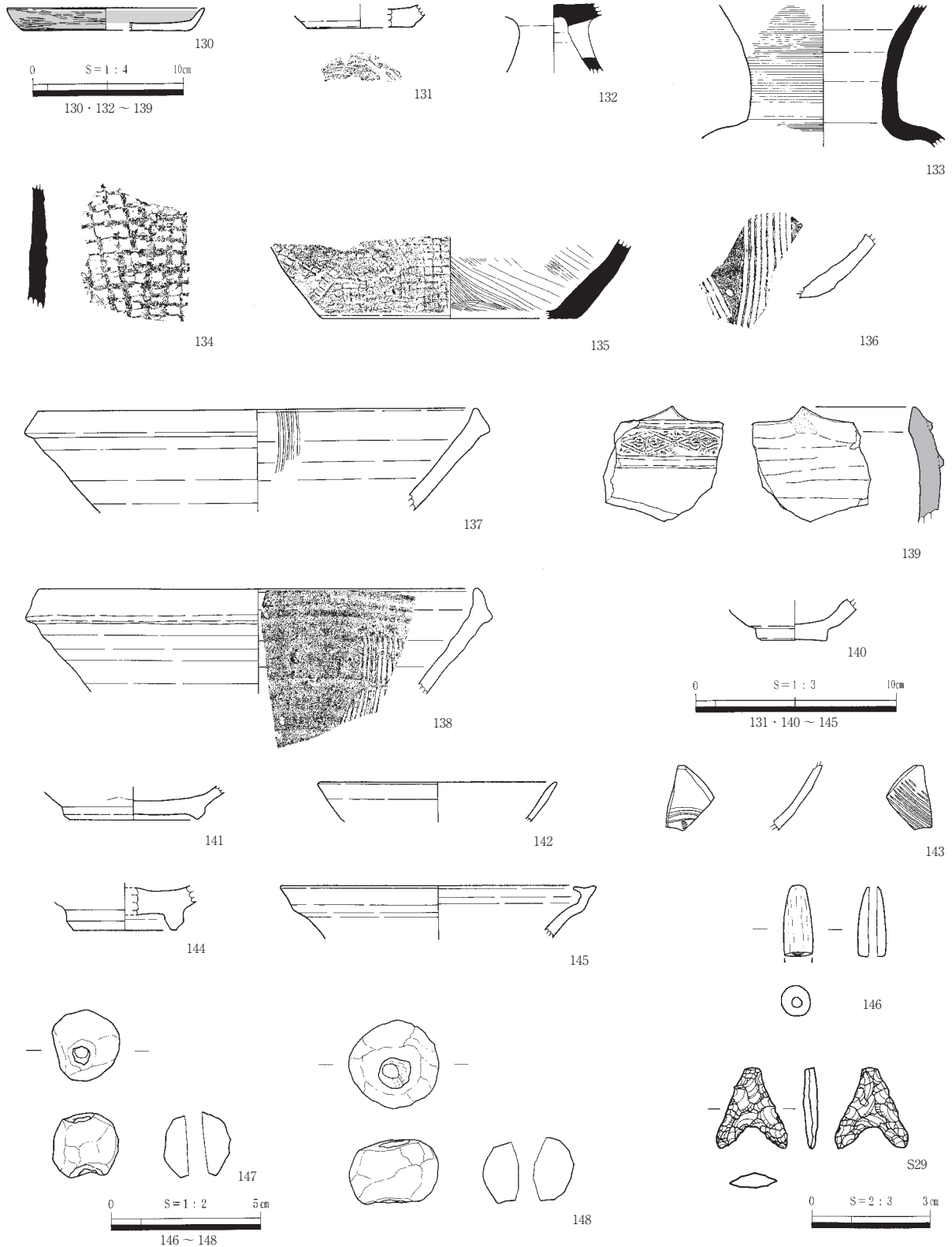


第55図 SK62

質土器の風炉である。外面に2条突帯を有し、その間隙に花菱文が押捺されている。内面はヘラナデ調整が残る。140～144は貿易陶磁を凶示している。140は黒釉陶器碗であり、高台部が露胎となる。141は白磁碗の底部破片であり、高台部が斜めに面取りされている。森田Ⅳ類に比定される。142は白磁皿の口縁部で、森田Ⅱ類に該当する。143は外面に櫛描文、内面に草花文を施す同安窯系青磁碗Ⅰ類、144は龍泉窯系青磁碗上田Ⅱ～Ⅳ類に該当する。145は唐津焼の甕口縁部であり、口縁端部が強く内折している。146～148は土錘であり、147・148は面取り痕が残っている。S20は大きな



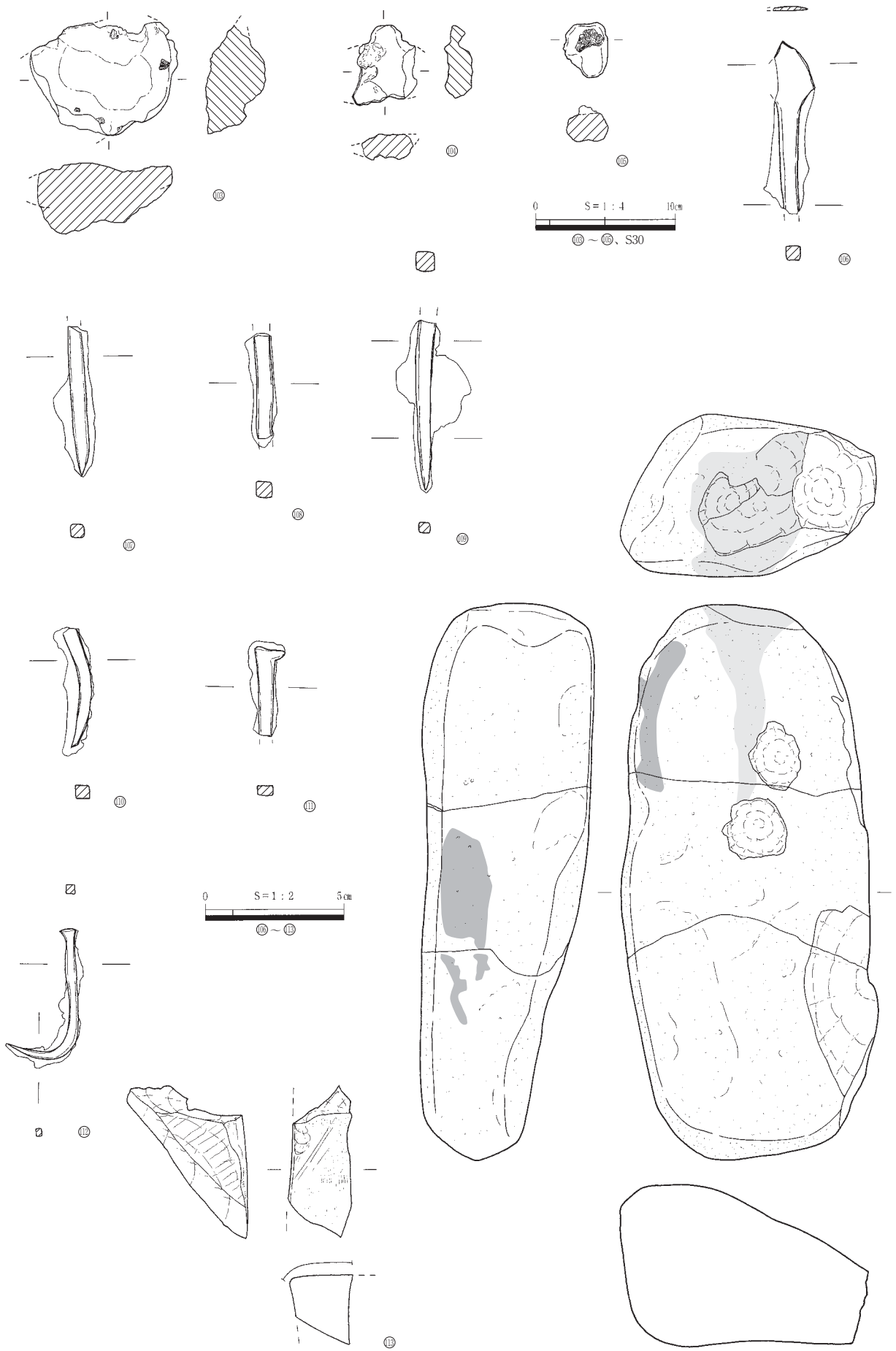
第56図 ピット配置図(2)・遺構外出土遺物分布図



第57図 遺構外出土遺物

抉りによって脚部を作出する黒曜石製の凹基式石鏃である。

第58図に鍛冶関連遺物と鉄製品を図示している。⑩⑪～⑩⑤は中型から極小サイズの椀形鍛冶滓である。⑩⑥は刃部が欠損した鏃、⑩⑦～⑩⑪は釘の頭部と芯部である。⑩⑫は鉄製釣針。⑩⑬は硬質で細粒質の石材を用いた砥石であり、被熱赤化している。S30は被熱赤化し、ハジケ状の剥離痕を有する鉄床石と想定される。



第58図 遺構外出土鍛冶関連遺物

S30

第4節 鍛冶関連遺物

1. 鍛冶関連遺物の整理方法

(1) 遺物の整理方法

南原千軒遺跡4・5区からは、多量の鍛冶関連遺物が出土している。その内訳は、鉄製品、鍛冶滓、羽口、鉄床石、被熱石、砥石から構成される。このなかから、情報量の多い113点の資料を報告書掲載遺物として構成した(第60・61図)。現地で鍛冶関連遺物と判断されたものについて原位置の記録に努め、取り上げを行っている。回収した資料は、調査事務所に持ち帰り強力磁石と特殊金属探知機によって含鉄の遺物を抽出し、肉眼による分類作業を進めた(第59図)。

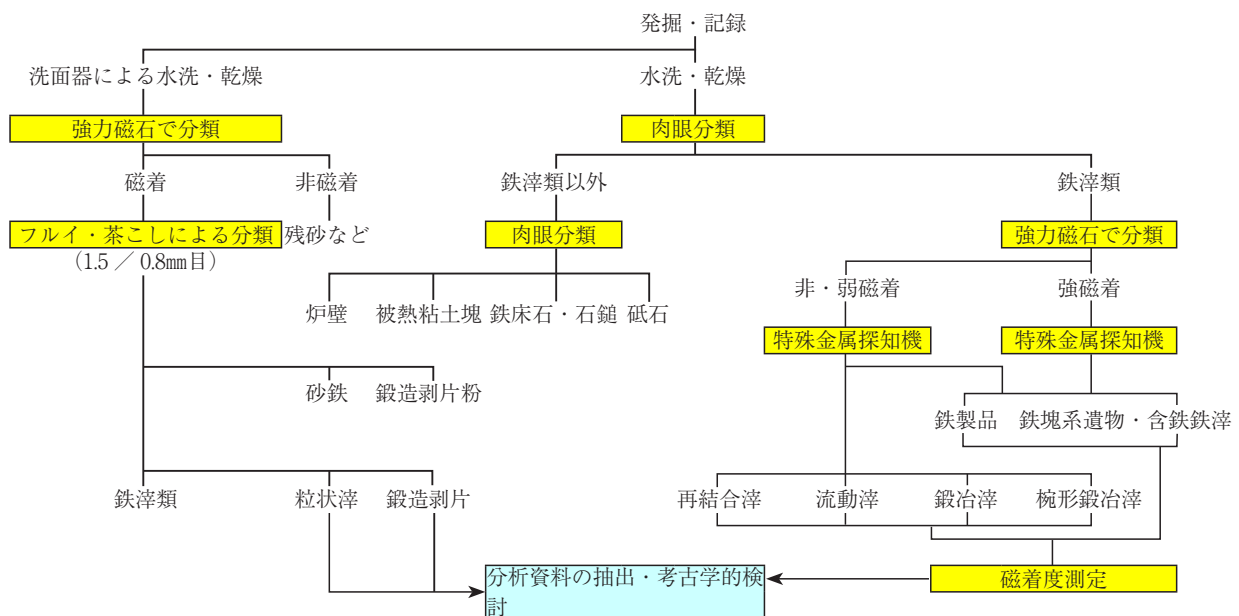
(2) 調査の手順

鍛冶関連遺物については、遺物の機能や工程を的確に把握するため、強力磁石(TAJIMA PUP-M)と小型特殊金属探知機(KDS METAL CHECKER MR-50)による抽出及び肉眼観察による考古学的な分類と構成を行った⁽¹⁾。

(3) 遺物観察表の見方

遺物観察表は、鳥取県中道東山西山遺跡⁽²⁾、南原千軒遺跡⁽³⁾における製鉄・鍛冶関連遺物の検討で採用された様式を基本とし、分析項目などを加えた様式を用いている。主な分析項目の見方は以下のとおりである。

- ①遺物種類 金属学的分析を行う前に、考古学的な観察によって判定した遺物の種類である。
- ②法 量 各遺物の長さ・幅・厚さ(各単位mm)・重量(単位g)を計測したものである⁽⁴⁾。
- ③磁 着 度 製鉄関連遺物分類用の「標準磁石」(TOKINフェライト磁石SR-3 寸法30×17×5mm)を用いて、6mmを1単位として資料の反応の程度を数字で表現したものである。
- ④遺 存 度 資料が完形か破片かを記す。
- ⑤破 面 数 資料が破片の場合、破面がいくつあるかを記す。



第59図 鍛冶関連遺物分類模式図

⑥メタル度 埋蔵文化財専用に整準された小型特殊金属探知機によって判定された金属鉄の残留の程度を示すもので、基準感度は次のとおりである。なお、対象物中に、かつて金属鉄が内包されていた資料で錆化してしまったものは、錆化(△)と表示する。

H(○)：Hは最高感度で、ごく小さな金属鉄(1～2.5mm)が残留することを示す。

M(◎)：Mは最高感度で、Hの倍以上の金属鉄(4～5mm)が残留することを示す。

L(●)：Lは低感度で、Mの倍以上の金属鉄(10～12mm)が残留することを示す。

特L(☆)：特Lは低感度でLの倍以上の大きな金属鉄(20mm以上)が残留することを示す。

なし：元から金属鉄がなかったもの。

椀形鍛冶滓の分類は以下の通りである。

特大：2000g以下

大：1000g以下

中：500g以下

小：250g以下

極小：125g以下

2. 鍛冶関連遺物の概要

南原千軒遺跡4・5区からは、約223kgの鍛冶関連遺物が出土している。地区別の内訳は、4区で178点、重量約145.4kg、5区で290点、重量約77.3kgとなる。遺構別の出土状況は、館跡の区画溝SD7が最も多く4・5区合わせ約181.3kg、5区の自然流路SD20で約11.4kg、4区のSD19で約6.6kgと続く。遺構外では4区C12グリッドで約2.6kg、5区ではD15グリッドで13.3kgと密度が高い。

各遺構の出土状況は、4区ではSD7埋土中位から上層において顕著である。この地点では、鍛冶滓のほか鉄床石など鍛冶具が目立って出土していることが特徴であり、類似した状況は、平成17年度調査地3区のSD7でも確認されている。5区SD7では、B～D14グリッドに集中して認められ、E・F14グリッドは稀薄となる。平成17年度調査で検出された鍛冶工房から、4・5区SD7まで50～70mほどの距離があり、わざわざ遠距離に位置する溝にまで廃棄していた様子が窺える。つまり、屋敷地内の排滓場として区画溝が最も適していたことを示している。

鍛冶関連遺物の特徴として、全調査区を通して大型から中型の椀形鍛冶滓が多いことであろう。また、今回の調査地点では重層椀形鍛冶滓がこれまでになく目立っている。大型の椀形鍛冶滓は精錬鍛冶工程の所産と考えられ⁽⁵⁾、大規模かつ組織的な操業を行っていたことを窺わせる。以下、遺構別に瞥見する。

4区SD7は大型から中型の含鉄の椀形鍛冶滓①～⑤があり、錆化しているものが多いなか、1点のみ金属鉄が残留している③が認められた。また、鍛冶工程のなかで前段階の操業で生成された鍛冶滓が、そのまま鍛冶炉内に残存して新たな鍛冶滓と癒着してしまった重層(二段)椀形鍛冶滓④が見られる。そのほか、滓が付着した鉄床石⑫～⑭、被熱した砥石⑯・⑰、羽口⑱などが出土し、鍛冶滓と鍛冶具が良好なセット関係で廃棄されている状況が確認された。SD19からも多くの鍛冶滓が出土しているが、SD7に比して小型から極小サイズの鍛冶滓が顕著である。いずれも錆化してしまったものが多いが、⑲はわずかに金属鉄が残っている。また、重層(二段)椀形鍛冶滓⑳が1点見られる。鍛

冶具は羽口③のみである。道状硬化面からは滓付きの鉄床石破片を嚙み込んだ椀形鍛冶滓②が直上から出土している。

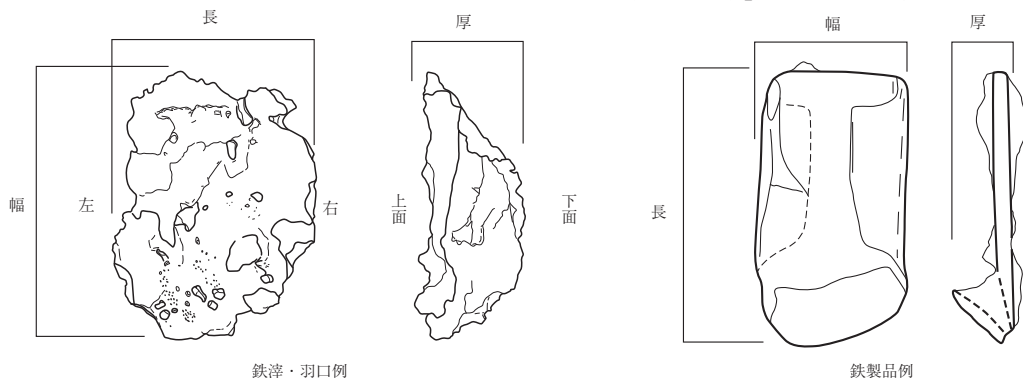
5区SD7では大型から極小サイズまで一連の工程を示す鉄滓が認められる。④・④・⑤は重層(二段)椀形鍛冶滓であり、④は下段がソリ状の特異な形態である。⑤は羽口の顎部が固着しており、鍛冶滓の生成状況が推定できる資料である。⑤⑧・⑥は下面に灰白色の炉床土が付着した椀形鍛冶滓。⑤⑧は長軸10cmの完形品で、鍛冶炉の底面径と大きな相違がないとすれば、これらは比較的小型の鍛冶炉で生成された可能性がある。⑥は半溶解石付きの鍛冶滓であり、鍛冶炉内から除滓する際、冷却するために小石が撒かれものと考えられる。鉄製品では、釘⑦①・⑦②・⑦④・⑦⑤・⑦⑦が目立つが、遺構外を含め2点の釣針⑦③・⑦⑩が出土していることが注目される。その他、鑄鉄製煮沸用具の鉄鍋⑦⑧・⑦⑨が確認された。鉄鍋は口縁部の受け口状の形態から五十川分類鍋Aに該当する⁽⁶⁾。鍛冶具では羽口3点、砥石4点の確認されるが、鉄床石などは発見されていない。SD20では、大型の椀形鍛冶滓は少なく、中・小型のものが多い。そのなかで今回の調査で唯一、金属鉄が良好に残る重層(二段)椀形鍛冶滓⑧⑥が出土している。

以上、構成した鍛冶関連遺物を概観した。鍛冶作業に伴う道具類は羽口6点、鉄床石4点、砥石7点が出土している。遺物の主体を占める鉄滓類の組成であるが、個体数で見ると椀形鍛冶滓62点、鍛冶滓4点である。鉄製品の内訳は、工具の刀子1点、釘が17点、鋸1点、武具の鏃2点、生活雑器の鍋3点、釣針2点、不明品3点となり工具類が主体となっている。



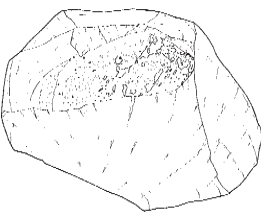



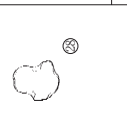
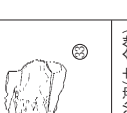








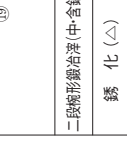







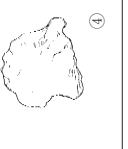
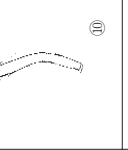
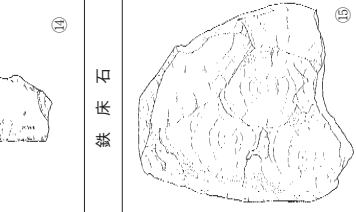


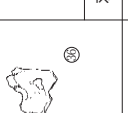





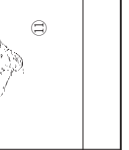







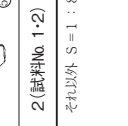
なお、平成17年度調査地3区の鍛冶工房域において、東西8m、南北6mの範囲で土壤サンプルを実施した(第65図、表7～13)。この範囲には1mの大グリッドを設定し、さらに内部を25cmの小グリッド(①～⑬)に分割している。大グリッドは、南北ラインを北からZ・A～E、東西ラインを西から1～8に割り振り、回収番号はたとえばZ-1-①などと付した。鍛冶工房域のピットや土坑など遺構内の土壤サンプル結果は報告済みであるので、合わせて参照されたい(湯村ほか2007)。

【註】

- (1) 穴澤義功 2001「製鉄遺跡発掘調査の視点と方法－製鉄遺跡の本質に迫るために－」『平成12年度奈良国立文化財研究所・発掘技術者専門研修「生産遺跡調査課程」資料』奈良国立文化財研究所
- (2) 高尾浩司・小口英一郎編2005『中道東山西山遺跡』(財)鳥取県教育文化財団調査報告書101 財団法人鳥取県教育文化財団
- (3) 湯村功・小口英一郎編2007『南原千軒遺跡2』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書13 鳥取県埋蔵文化財センター
- (4) 小林信一 1991「製鉄遺跡の発掘調査と整理について」『研究連絡誌』32 財団法人千葉県文化財センター
- (5) 古瀬清秀2004「鉄滓から見た鍛冶技術」『考古論集』河瀬正利先生退官記念事業会
- (6) 五十川伸矢1996「古代から中世前期における鑄鉄鑄物生産」『季刊考古学』第57号 雄山閣



鍛冶関連遺物の計測値は、炉壁・鉄滓・鉄塊系遺物の場合、正位置の図の左右を長さ、上下を幅、横方向に開いたときの左右(縦方向に展開したときの上下)を厚とし、鉄製品については鏃部分を除いた長軸長を長さ、軸長を幅としている。なお、本文・観察表の記述における遺物の各面の呼び方は上の凡例図の通りである。

4区-SD7			SD19			4区-遺構外			5区-SD7		
<p>楕形鋳冶滓(大・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>①</p>	<p>楕形鋳冶滓(小・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑥</p>	<p>鉄床石(滓付き)</p>  <p>⑫</p> <p>S=1:12</p>	<p>砥石</p>  <p>⑬</p>	<p>楕形鋳冶滓(大・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>楕形鋳冶滓(小・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑫</p>	<p>二段鋳冶滓(含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>二段鋳冶滓(中・砂床土付き)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>二段楕形鋳冶滓(大・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>4区-遺構外</p> <p>L (●)</p>  <p>⑮</p>	<p>楕形鋳冶滓(大・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>5区-SD7</p> <p>二段楕形鋳冶滓(中・含鉄)</p>  <p>⑮</p>
<p>楕形鋳冶滓(大・含鉄)</p> <p>H (○)</p>  <p>③</p>	<p>楕形鋳冶滓(小・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑦</p>	<p>鉄床石</p>  <p>⑮</p>	<p>楕形鋳冶滓(小・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑬</p>	<p>楕形鋳冶滓(大・含鉄)</p> <p>H (○)</p>  <p>⑮</p>	<p>楕形鋳冶滓(小・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>二段楕形鋳冶滓(含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>二段楕形鋳冶滓(中・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>楕形鋳冶滓(大・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>4区-遺構外</p> <p>鉄製品(鍛造品)</p> <p>L (●)</p>  <p>⑮</p>	<p>楕形鋳冶滓(大・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>5区-SD7</p> <p>H (○)</p>  <p>⑮</p>
<p>二段楕形鋳冶滓(中・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>④</p>	<p>楕形鋳冶滓(小・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑩</p>	<p>鉄床石</p>  <p>⑮</p>	<p>楕形鋳冶滓(小・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>二段楕形鋳冶滓(中・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>楕形鋳冶滓(小・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>二段楕形鋳冶滓(含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>4区-遺構外</p> <p>羽口(鍛冶)</p>  <p>⑮</p>	<p>楕形鋳冶滓(大・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>5区-SD7</p> <p>二段楕形鋳冶滓(中・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>		
<p>楕形鋳冶滓(大・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑤</p>	<p>楕形鋳冶滓(小・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑪</p>	<p>鉄床石</p>  <p>⑮</p>	<p>楕形鋳冶滓(小・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>二段楕形鋳冶滓(中・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>楕形鋳冶滓(小・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>二段楕形鋳冶滓(含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>4区-遺構外</p> <p>鉄製品(鍛造品)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>楕形鋳冶滓(大・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>	<p>5区-SD7</p> <p>二段楕形鋳冶滓(中・含鉄)</p> <p>錆化(△)</p>  <p>⑮</p>		
分析										2(試料No. 1・2)	

鉄製品 S=1:4 その他以外 S=1:8

第60図 南原千軒遺跡鍛冶関連遺物構成図(1)

表2 南原千軒遺跡鍛冶関連遺物観察表(1)

構成No	挿図PL	遺物名	地区名	遺構名 層位	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考	取上No
					最大長	最大幅	最大厚					
①	第13図 PL.31	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	4区 F13	SD7 8層	13.4	12.9	5.4	7300	2	錆化(△)	下手左側部が張り出すほぼ完成の腕形鍛冶滓。上面にガラス質滓が部分的に付着し、下面には木炭痕が拡がっている。	414
②	第13図 PL.31	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	4区 F13	SD7 埋土	14.9	11.6	3.5	6200	2	錆化(△)	左側部に破面をもつ大型の腕形鍛冶滓。上面中心部は大きく窪み、下面は緩やかに湾曲する。下面は粉炭痕が多く残っている。	459
③	第13図 PL.31	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	4区 F12	SD7 8層	13.0	11.0	5.5	9400	1	H(○)	表面が厚い酸化土砂に覆われた大型の腕形鍛冶滓。上面中心部は大きく窪んでいる。	223
④	第13図 PL.31	二段腕形鍛冶滓(中・含鉄)	4区 F13	SD7 8層	9.5	8.5	5.3	3300	1	錆化(△)	上段が不整形を呈し、上手寄りに下段が付着する重層腕形鍛冶滓。上下段の表面には木炭が付着する。	204
⑤	第13図 PL.31	腕形鍛冶滓(中・含鉄)	4区 F12	SD7 5層	10.8	7.3	3.5	3100	2	錆化(△)	左側部に2ヶ所の小破面をもつ腕形鍛冶滓。上面は流動状で上手寄りに羽目溶解物が付着。下面は木炭が多く付着する。	300
⑥	第13図 PL.31	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	4区 F12	SD7 8層	6.1	9.1	3.4	1800	1	錆化(△)	左側部に主破面をもつ腕形鍛冶滓。上面には木炭が密集し、下面には粉炭痕が拡がり、鍛造剥片が付着する。	399
⑦	第13図 PL.31	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	4区 F13	SD7 5～8層	4.3	7.1	1.7	565	1	錆化(△)	上手側部のみ残存する腕形鍛冶滓。左右・下手側部が破面となり、下面には木炭痕が残っている。	471
⑧	第13図 PL.31	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	4区 F13	SD7 13層	3.3	4.2	2.7	36.8	2	錆化(△)	全面厚く酸化土砂に覆われた腕形鍛冶滓中核部。全側部破面となっており、上面には木炭が付着する。	451
⑨	第13図 PL.31	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	4区 F13	SD7 埋土	4.2	4.0	2.3	50.5	2	錆化(△)	平面不整形三角形を呈した腕形鍛冶滓中核部。上下側部と左側部が破面となる。上面には径1.5cm以下の気孔が散在する。下面は木炭痕を有し、わずかに炉床土が付着している。	165
⑩	第13図 PL.28	鉄製品(鍛造品)釘	4区 F13	SD7 8層	4.7	0.6	0.6	6.6	2	錆化(△)	上下端部が欠損した釘の芯部。断面形は方形を呈していることから小型の釘の可能性あり。	340
⑪	第13図 PL.36	羽口(鍛冶)	4区 F12	SD7 12層	7.2	7.5	5.6	1800	1	なし	羽口先端部の破片。先端部は酸化発泡しており、黒褐色を呈している。体部寄りには青灰色の還元色を呈する。胎土は多量のスサを含み粘土質。外径13.4cm。孔径5.3cm。	228
⑫	第14図 PL.38	鉄床石(滓付き)	4区 F13	SD7 5～8層	△41.5	△32.2	△30.2	358000	1	なし	石材安山岩。鍛造剥片、滓が付着し被熱痕がある。鍛打によって生じた鍛打痕がみられる。	295
⑬	第14図 PL.39	鉄床石(滓付き)	4区 F12	SD7 8層	△27.2	△33.9	△13.4	159600	1	なし	石材安山岩。鍛造剥片、滓が付着。表面には薄いハジケ状剥離がみられる。裏面原礫面。	231
⑭	第14図 PL.39	鉄床石(滓付き)	4区 F12	SD7 8層	△9.2	△7.0	△6.4	5000	1	なし	石材安山岩。原礫縁付近に滓付き。	220
⑮	第15図 PL.39	鉄床石	4区 F12	SD7 8層	△22.7	△21.3	12.5	74500	1	なし	石材安山岩。鍛打によるハジケ状の剥離痕、被熱痕あり。	282
⑯	第14図 PL.37	砥石	4区 F13	SD7 8層	13.0	△9.5	7.8	12200	1	なし	石材安山岩。砥石目やや細い。砥面は平滑で、一部は特に磨耗して油脂光沢を帯びる。擦痕あり。	413
⑰	第15図 PL.37	砥石	4区 F13	SD7 5～8層	△24.6	△22.8	8.2	69100	1	なし	石材安山岩。砥石目やや細い。砥面は平滑で擦痕・傷痕あり。	292
⑱	第21図 PL.31	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	4区 C12	SD19 2層	10.2	12.2	6.6	6900	1	錆化(△)	左側部に主破面をもつ腕形鍛冶滓。上面に酸化土砂が厚く覆い、木炭を噛み込んでいる。下面は平滑な腕形を呈し、わずかに砂粒が貼り付く。	61
⑲	第21図 PL.31	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	4区 C12	SD19 2層	9.0	12.6	5.4	6600	3	H(○)	左側部が主破面となる腕形鍛冶滓。上面下手寄りには厚く酸化土砂に覆われ、木炭痕が散在する。下面は気孔が点在し、部分的に炉床土が付着している。	55
⑳	第21図 PL.31	二段腕形鍛冶滓(中・含鉄)	4区 F12	SD19 1層	9.1	8.9	5.5	4200	2	錆化(△)	上面が厚く酸化土砂に覆われた重層腕形鍛冶滓。左側部にガラス質滓が固着している。下面は大きな膨らみをもっており、粉炭痕が残っている。	119
㉑	第21図 PL.32	腕形鍛冶滓(中・含鉄)	4区 C12	SD19 1層	8.8	9.0	4.7	3200	2	錆化(△)	平面L字形を呈した腕形鍛冶滓。左側部に主破面、上手側部と下手側部に小破面をもつ。上面には部分的に木炭が固着し、下面には粉炭痕が残っている。	53
㉒	第21図 PL.32	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	4区 C12	SD19 1層	6.2	7.5	3.6	1400	2	錆化(△)	全側部が破面となる腕形鍛冶滓中核部。全面が酸化土砂に覆われ、上面は木炭が固着する。	68
㉓	第21図 PL.32	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	4区 D12	SD19 1層	5.4	6.5	4.4	1600	2	錆化(△)	上面下手寄りから右側部が酸化土砂に覆われた断面三角形の腕形鍛冶滓。酸化土砂中には木炭、鍛造剥片が固着している。	76
㉔	第21図 PL.32	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	4区 C12	SD19 2層	5.1	4.5	2.9	88.5	2	錆化(△)	左側部、上下側部が破面となる腕形鍛冶滓中核部。上面上手寄りに気孔が散在し、下面には木炭痕がわずかに残っている。	136
㉕	第21図 PL.32	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	4区 E12	SD19 2層	4.0	3.4	2.2	46.8	1	錆化(△)	平面、不整形三角形の腕形鍛冶滓中核部。全側部破面となっており、上面は平滑で気孔が点在する。下面には炉床土付き。	99
㉖	第21図 PL.32	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	4区 C12	SD19 2層	6.4	7.1	2.7	1200	1	錆化(△)	平面が瓢形を呈する完形の腕形鍛冶滓。表面は平滑で、上下面とも木炭痕および径5mm以下の気孔が密集している。	94
㉗	第21図 PL.32	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	4区 C12	SD19 1層	6.0	6.4	2.5	1000	2	錆化(△)	表面が平滑な完形の腕形鍛冶滓。上面左側部寄りにはガラス質滓が固着する。下面には木炭が付着している。	70
㉘	第21図 PL.32	鍛冶滓(含鉄)	4区 F12	SD19 2層	4.3	4.8	3.2	55.0	2	錆化(△)	全面厚く酸化土砂に覆われた鍛冶滓。酸化土砂中には長さ3mmほどの木炭が噛み込んでいる。	117
㉙	第21図 PL.32	鍛冶滓(含鉄)	4区 D12	SD19 2層	2.8	3.8	2.2	17.6	1	錆化(△)	右側部に2ヶ所の突出部をもつ鍛冶滓。上面左側部寄りに羽目溶解物が固着する。下面から右側部にかけて木炭が付着する。	78
㉚	第21図 PL.29	鉄製品(鍛造品)鏝・釘?	4区 D13	SD19 埋土	6.4	1.0	0.6	22.6	2	錆化(△)	断面長方形の釘もしくは鏝の先端部。上端は欠損。	155
㉛	第21図 PL.36	羽口(鍛冶)	4区 D12	SD19 2層	4.5	5.4	3.7	68.5	1	なし	羽口先端部の破片。先端部は酸化発泡しており黒褐色である。体部寄りには青灰色の還元色を呈している。胎土は多量にスサを含み粘土質。外径10.3cm。孔径4.0cm。	90
㉜	第27図 PL.32	腕形鍛冶滓(極小・含鉄・鉄床石付き)	4区 C12	遺状硬化面	6.2	6.7	2.4	1000	2	錆化(△)	左側部に主破面、上手側部に小破面をもつ極小の腕形鍛冶滓。上面は多くの木炭痕を有し、左側部寄りに2×1.8cmほどの鍛造剥片が付着した鉄床石が固着している。下面は酸化土砂に覆われている。	444
㉝	第34図 PL.32	腕形鍛冶滓(含鉄・炉床土付き)	4区 C12	II層	6.5	6.3	6.9	2900	1	錆化(△)	平面、不整形四角形をした腕形鍛冶滓中核部。全側部破面となっている。滓質は緻密であり、上面には径5mmほどの気孔が散在する。下面は黄灰色の炉床土が付着し、亀甲状のクラックが入っている。	241
㉞	第34図 PL.32	腕形鍛冶滓(中・含鉄)	4区 C12	II層	11.4	10.0	4.6	3900	2	錆化(△)	平面、不整形五角形をした腕形鍛冶滓。上面は厚く酸化土砂に覆われ、長さ1.5cm以下の木炭や砂礫が付着している。左側部が主破面となり、上下手側部に小破面を有している。下面には粉炭痕が拡がっている。	383
㉟	第34図 PL.32	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	4区 C12	II層	7.5	6.3	3.1	1100	1	錆化(△)	平面、不整形五角形をした極小の腕形鍛冶滓。左側部に主破面、下手側部に小破面がある。上面左側部は大きく折れ曲がり、断面L字状を呈する。上面には径5mm以下の木炭が多く付着する。	477
㊱	第34図 PL.32	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	4区 C12	II層	5.2	5.3	3	51.5	2	錆化(△)	平面、瓢形をした極小の腕形鍛冶滓。上面は木炭痕が残り、下面は左側部寄りに厚く酸化土砂が覆う。	477
㊲	第34図 PL.28	鉄製品(鍛造品)釘	4区 G12	II層	4.4	0.5	0.4	5.1	2	錆化(△)	断面長方形の釘の芯部。上下端部は欠損している。	439
㊳	第34図 PL.28	鉄製品(鍛造品)釘	4区 G12	II層	7.2	0.6	0.45	11.2	3	L(●)	断面方形の釘の芯部。上下端部は欠損している。	439
㊴	第34図 PL.29	鉄製品(鍛造品)鏝?	4区 G13	II層	4.1	1.5	1.5	17.2	3	L(●)	U字状に折れ曲がった鉄製品。先端部は細くなり、頭部が最も幅広となる。断面は長方形を呈する。	393
㊵	第34図 PL.30	鉄製品(鍛造品)鏝?	4区 G13	II層	6.4	3.4	0.7	59.5	4	特L(☆)	平面半円形の盤状鉄製品。縁部はやや上向きに破面となっている。表面は錆化により放射割れが認められる。	511

表3 南原千軒遺跡鍛冶関連遺物観察表(2)

構成No	挿図PL	遺物名	地区名	遺構名層位	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考	取上No
					最大長	最大幅	最大厚					
④	第34図 PL.30	鉄製品(鍛造品)渦巻状不明品	4区 G12	II層	2.9	3.9	0.7	34.6	3	L(●)	断面方形の渦巻状不明品。外側はC字状、中心部は直交するように巻き上がっている。本来は同一個体の可能性もある。	441
⑫	第34図 PL.36	羽口(鍛冶)	4区 C12	II層	9.2	8.4	3.7	110.0	1	なし	羽口先端部の破片。先端部は酸化発泡しており、黒褐色〜オリーブ色を呈している。体部寄りには青灰色の還元色である。胎土は多量にスサを含み粘土質。外径9.9cm、孔径5.5cm。	476
⑬	第41図 PL.32	二段腕形鍛冶滓(大・含鉄)	5区 D14	SD7 4層	11.4	12.2	8.5	1110.0	1	錆化(△)	平面、不整六角形の重層腕形鍛冶滓。上段は厚く酸化土砂が覆い、小礫や木炭が付着する。下段下面は粉炭痕が広がっている。左側部の上下段の間隙には径5mm以下の木炭が多く固着する。	1030
⑭	第41図 PL.32	二段腕形鍛冶滓(大・含鉄)	5区 D14	SD7 1層	8.7	16.2	8.9	1120.0	2	H(○)	平面、舟形の重層腕形鍛冶滓。左側部に主破面をもち、上段の上・下手側部と下段の下手側部に小破面がある。不整五角形をした上段はやや下手寄りに位置し、表面は酸化土砂に覆われている。下段はソリ状を呈し、下面には灰床土が部分的に付着している。	999・1001
⑮	第41図 PL.33	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	5区 B14	SD7 9層	15.5	14.2	7.5	1340.0	1	錆化(△)	平面、不整五角形の大型腕形鍛冶滓。左側部が主破面となり、上面窪部には木炭や小礫が付着した酸化土砂が認められる。下面左側部寄りには大きく突出し粉炭痕が広がっている。	935
⑯	第41図 PL.33	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	5区 C14	SD7 11層	15.7	10.2	7.2	910.0	2	錆化(△)	平面、舟形の大型腕形鍛冶滓。上・下手側部に小破面がある。表面は酸化土砂に覆われ、木炭が付着する。	899
⑰	第41図 PL.33	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	5区 E14	SD7 7層	10.8	12.1	6.8	830.0	1	錆化(△)	平面、不整五角形の大型腕形鍛冶滓。左側部は主破面で、上面は酸化土砂に覆われている。下面中心部は木炭が密集し、粒状滓が付着している。	883
⑱	第41図 PL.33	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	5区 C14	SD7 7層	9.9	11.7	6.1	780.0	1	錆化(△)	左側部に主破面をもつ大型の腕形鍛冶滓。上面上手寄りに厚く酸化土砂が覆い、木炭や鍛造剥片を噛み込んでいる。	1050
⑲	第41図 PL.33	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	5区 B14	SD7 11層	10.1	11.1	5.7	740.0	2	錆化(△)	表面が厚い酸化土砂に覆われた大型の腕形鍛冶滓。上面中心部は大きく窪み、長さ1cm以下の木炭が付着している。本資料から年代測定試料No2を採取している。	915
⑳	第41図 PL.33	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	5区 B14	SD7 10層	10.7	11.9	5.2	520.0	2	錆化(△)	平面、不整五角形の大型腕形鍛冶滓。左側部と上手側部に小破面をもつ。上面上手寄りに木炭が密集し、ガラス質が固着している。本資料から年代測定試料No1を採取している。	911
㉑	第41図 PL.33	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	5区 D14	SD7 2層	9.8	9.8	7.3	640.0	2	錆化(△)	平面、不整形の大型腕形鍛冶滓。左側部が主破面となっている。上面は酸化土砂に覆われ、放射割れが生じている。下面は下手寄りにやや突出し、粉炭痕が残っている。	1004
㉒	第41図 PL.33	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	5区 D14	SD7 4層	13.5	11.6	4.7	720.0	1	H(○)	平面、方形の大型腕形鍛冶滓。上手側部に小破面がある。上面左側部寄りに径1.5cm以下の木炭が付着する。下面には粉炭痕が広がり、中心部に長さ1cm以下の木炭が密集している。	1028
㉓	第42図 PL.34	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	5区 D14	SD7 6層	9.4	10.0	8.0	520.0	1	H(○)	平面、不整五角形の大型腕形鍛冶滓。左側部が破面となる。表面は厚く酸化土砂が覆い、木炭を噛み込んでいる。	1099
㉔	第42図 PL.34	腕形鍛冶滓(大・含鉄)	5区 E14	SD7 埋土	9.7	9.5	6.6	490.0	3	錆化(△)	平面、不整五角形の中型腕形鍛冶滓。左側部と下手側部の一部が破面となる。上下面厚く酸化土砂が覆い、木炭、鉄床石破片を噛み込んでいる。	849
㉕	第42図 PL.34	腕形鍛冶滓(中・含鉄・羽口付き)	5区 E14	SD7 9層	7.2	9.7	5.4	300.0	1	錆化(△)	羽口先端部が付着した中型の腕形鍛冶滓。左側部寄りに羽口頸部が溶着している。羽口は被熱溶解し黒褐色を呈している。胎土はスサを多く含み、粘土質。通風孔部は橙〜赤褐色で、ナデ調整である。鍛冶滓左右側部は小破面となり、下面には木炭痕が残る。	886
㉖	第42図 PL.34	腕形鍛冶滓(中・含鉄)	5区 B14	SD7 10層	13.2	10.1	3.9	460.0	2	錆化(△)	左側部に小破面をもつ中型の腕形鍛冶滓。上面窪部には酸化土砂が乗り、木炭を噛み込んでいる。下面は粉炭痕が広がり、径1.5cm以下の木炭が密集する。	933
㉗	第42図 PL.34	腕形鍛冶滓(中・含鉄)	5区 B14	SD7 10層	9.3	10.2	3.5	320.0	1	錆化(△)	左側部と上手側部に小破面をもつ腕形鍛冶滓。上面は中心部が大きく窪み、木炭が散在する。下面は粉炭痕が広がり、径1.5cm以下の木炭が密集している。	908
㉘	第42図 PL.34	腕形鍛冶滓(中・含鉄・灰床土付き)	5区 B14	SD7 9層	10.0	8.0	4.8	370.0	1	錆化(△)	平面、不整楕円形の中型腕形鍛冶滓。左側部と上手側部が破面となり、上面に径1.5cm以下の木炭が付着する。下面は全体に灰白色の灰床土が付着し、亀甲状のクラックが入る。	964
㉙	第42図 PL.34	腕形鍛冶滓(中・含鉄)	5区 C14	SD7 9層	7.8	5.7	5.7	260.0	2	錆化(△)	全側部破面となる腕形鍛冶滓中核部。滓質は緻密で、表面が平滑である。上面左側部寄りにはガラス質が部分的に溶着する。下面は粉炭痕が残っている。	1062
㉚	第42図 PL.34	腕形鍛冶滓(中・含鉄)	5区 B14	SD7 11層	9.4	10.0	5.2	490.0	2	H(○)	平面、不整五角形の腕形鍛冶滓。左側部に小破面をもつ。中心部が大きく窪み、木炭が密集する。下面中心部は酸化土砂が覆い、周囲に木炭が付着する。	920
㉛	第42図 PL.34	腕形鍛冶滓(小・含鉄・灰床土付き)	5区 B14	SD7 11層	7.6	6.0	3.1	160.0	1	錆化(△)	全側部が破面となる小型腕形鍛冶滓中核部。上面右半は酸化土砂が覆い、木炭を噛み込んでいる。左半は滓質が緻密で平滑。下面は灰白色から橙色の灰床土が付着し、亀甲状のクラックが入る。	957
㉜	第42図 PL.34	腕形鍛冶滓(小・含鉄)	5区 C14	SD7 6層	7.1	8.2	4.7	190.0	1	錆化(△)	平面、不整五角形の小型腕形鍛冶滓。上面から側部が厚く酸化土砂に覆われている。下面は瘤状の突出し、木炭が密集して付着する。	1088
㉝	第42図 PL.34	腕形鍛冶滓(極小・半溶解石付き)	5区 B14	SD7 11層	3.9	5.2	2.6	36.4	2	錆化(△)	全側部が破面となる極小の腕形鍛冶滓。上面に径1.2〜1.5cmの半溶解石が付着し、表面はガラス質溶けしている。	975
㉞	第42図 PL.34	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	5区 D14	SD7 2層	6.8	6.4	2.8	110.0	2	錆化(△)	左右側部と下手側部が破面となる極小の腕形鍛冶滓。上下面とも酸化土砂が覆い、木炭を噛み込んでいる。	1070
㉟	第42図 PL.34	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	5区 D14	SD7 埋土	5.4	3.7	3.8	58.5	3	H(○)	全側部破面となる腕形鍛冶滓の中核部。表面は酸化土砂に覆われ、左側部は錆影れによる放射割れが生じている。	830
㊱	第43図 PL.34	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	5区 B14	SD7 11層	2.3	2.1	3.3	17.2	1	錆化(△)	表面が厚く酸化土砂に覆われた極小の腕形鍛冶滓中核部。酸化土砂中に木炭、砂が固着している。	932
㊲	第43図 PL.34	腕形鍛冶滓(極小・含鉄)	5区 C14	SD7 9層	3.7	4.1	2.3	24.4	1	錆化(△)	平面、C字状の極小腕形鍛冶滓の中核部。表面は酸化土砂が覆い、径5mm以下の木炭が付着する。	1044
㊳	第43図 PL.34	鍛冶滓(含鉄)	5区 D14	SD7 埋土	2.4	3.1	1.6	11.8	2	錆化(△)	平面、方形の鍛冶滓。表面は酸化土砂が覆い、上手側部は錆影れによる放射割れが生じている。	1100
㊴	第43図 PL.29	鉄製品(鍛造品)刀子	5区 D14	SD7 2層	4.0	1.1	0.15	3.7	2	錆化(△)	残存長4cm、厚さ0.15cmの板状鉄製品。切先側と茎側が欠損している。厚さと断面形状から刀子と考えられる。	845
㊵	第43図 PL.29	鉄製品(鍛造品)板状不明品	5区 D14	SD7 2層	5.7	2.3	0.15	9.7	2	錆化(△)	厚さ0.15cmの板状不明品。表面が大きく湾曲し、左右端部が欠損している。	1002
㊶	第43図 PL.28	鉄製品(鍛造品)釘	5区 D14	SD7 4層	3.3	0.35	0.3	5.9	2	錆化(△)	方形断面の小型の釘の芯部。頭部側が欠損している。	1081
㊷	第43図 PL.28	鉄製品(鍛造品)釘	5区 D14	SD7 4層	4.5	0.5	0.35	5.6	2	錆化(△)	方形断面の釘の芯部。頭部と先端部が欠損している。	1080
㊸	第43図 PL.29	鉄製品(鍛造品)釣針	5区 D14	SD7 2層	3.1	2.2	0.3	3.6	2	錆化(△)	方形断面で頭部が折れ曲がる。芯部が大きく湾曲し、先細りしていることから釣針の可能性あり。	842
㊹	第43図 PL.28	鉄製品(鍛造品)釘	5区 D14	SD7 4層	4.2	0.5	0.25	5.7	2	錆化(△)	断面長方形の中型の釘の芯部。頭部と先端部が欠損している。	1079
㊺	第43図 PL.28	鉄製品(鍛造品)釘	5区 D14	SD7 2層	4.1	0.4	0.5	4.9	1	錆化(△)	方形断面の頭折れ釘。先端部は欠損している。	843
㊻	第43図 PL.29	鉄製品(鍛造品)板状不明品	5区 D14	SD7 3層	4.0	1.2	0.2	5.9	3	L(●)	残存長4cm、厚さ2mmの板状鉄製品。左右端部が欠損している。	846
㊼	第43図 PL.28	鉄製品(鍛造品)釘	5区 D14	SD7 2層	4.0	0.65	0.6	250.0	7	なし	方形断面の中型の釘芯部。頭部と先端部は欠損している。	841
㊽	第43図 PL.30	鉄製品(鍛造品)鍋	5区 D14	SD7 3層	8.4	2.2	0.5	61.0	2	錆化(△)	口縁端部が外削状となり、体部との境が「く」字状に屈曲する鍋口縁部破片。厚さ0.5cmを測る。構成No29と同一個体。	1016
㊾	第43図 PL.30	鉄製品(鍛造品)鍋	5区 D14	SD7 9層	5.8	3.4	0.5	43.8	3	錆化(△)	厚さ0.5cmの鍋体部破片。全側部破面となるが、構成No29と同一個体である。	1073

表4 南原千軒遺跡鍛冶関連遺物観察表(3)

構成No	挿図PL	遺物名	地区名	遺構名 層位	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考	取上No
					最大長	最大幅	最大厚					
㉔	第43図 PL.36	羽口(鍛冶)	5区 C14	SD7 9層	7.3	6.9	4.5	1400	1	なし	羽口先端部の破片。先端部は滓化発泡しており、黒褐色を呈している。体部寄りには青灰色の還元色である。胎土は多量にスサを含み粘土質。外径11.0cm、孔径5.1cm。	1045
㉕	第43図 PL.36	羽口(鍛冶)	5区 C14	SD7 7層	6.1	6.2	3.7	1200	1	なし	羽口先端部の破片。先端部は滓化発泡しており、黒褐色を呈している。胎土は多量にスサを含み粘土質。外径11.5cm、孔径4.8cm。	1085
㉖	第43図 PL.36	羽口(鍛冶)	5区 B14	SD7 11層	6.4	9.9	3.9	2000	1	なし	羽口の体部破片。外径12.4cm、内径4.8cm。成・整形は基本的に長軸方向のケズリの後、ナデ。通風孔部は基部側に向かってわずかに広がり気味。胎土は粗いスサを混じえる粘土質。色調は灰白色から橙色。	922
㉗-1	第44図 PL.37	砥石	5区 D14	SD7 4層	△15.5	△12.4	△10.3	7900	1	なし	石材凝灰岩。破砕した大型置砥石。砥石目細く、砥面は一部溝状に窪む。砥面の大部分が被熱黒色化している。	991・1006・1076
㉗-2	第44図 PL.37	砥石	5区 D14	SD7 4層	△14.5	△9.5	△10.6	7000	1	なし	構成No㉗-1と同一個体。	990・992・1018
㉘	第44図 PL.37	砥石(滓付着)	5区 D14	SD7 4層	△10.2	△6.6	△3.1	1600	1	なし	石材凝灰岩。滓付着。構成No㉗-1・2と同一個体。	1007・1017
㉙	第44図 PL.40	砥石	5区 B14	SD7 埋土	3.0	2.7	1.0	180	1	なし	硬質緻密な石材使用。全面被熱により赤化している。砥石目極細。	825
㉚	第47図 PL.35	二段椀形鍛冶滓(大・含鉄)	5区 C15	SD20 2層	9.9	9.1	4.3	5300	3	特L(☆)	上段が不整形円形、下段が不整形五角形の重層椀形鍛冶滓。上段の表面は平滑で、右側部寄りに放射割れが認められる。下段木炭痕が密集している。	738
㉛	第47図 PL.35	椀形鍛冶滓(大・含鉄)	5区 B15	SD20 2層	10.5	13.0	7.5	9600	2	錆化(△)	平面、不整形五角形の大型椀形鍛冶滓。全面厚く酸化土砂が覆い、左側部は破面となる。酸化土砂中には木炭・砂が付着する。	744
㉜	第47図 PL.35	椀形鍛冶滓(大・含鉄)	5区 C15	SD20 3層	9.8	12.3	4.4	4200	2	錆化(△)	右側部に突出部をもつ椀形鍛冶滓。上面中心部に木炭が付着し、下面は木炭痕が拡がっている。	742
㉝	第47図 PL.35	椀形鍛冶滓(中・含鉄)	5区 D15	SD20 1層	7.7	7.8	4.6	2900	1	錆化(△)	上手側部と右側部に小破面をもつ中型の椀形鍛冶滓。上面は酸化土砂に覆われ、木炭痕が残る。下面は粉炭痕が拡がっている。	712
㉞	第47図 PL.35	椀形鍛冶滓(中・含鉄)	5区 C15	SD20 2層	7.4	9.3	3.1	3400	2	H(○)	表面が厚く酸化土砂に覆われた中型の椀形鍛冶滓。酸化土砂中には木炭が付着する。下面は粉炭痕が拡がっている。	735
㉟	第47図 PL.35	椀形鍛冶滓(小・含鉄)	5区 C15	SD20 3層	8.3	7.5	4.1	1900	2	錆化(△)	全側部が破面となる椀形鍛冶滓中核部。上下面厚く酸化土砂が覆い、上面に長さ2cm以下の木炭が付着する。	743
㊱	第47図 PL.35	椀形鍛冶滓(極小・含鉄)	5区 D15	SD20 2層	4.2	3.0	2.3	204	2	錆化(△)	左側部と下手側部に小破面をもつ極小の椀形鍛冶滓。上下面に多くの木炭が付着する。	728
㊲	第47図 PL.28	鉄製品(鍛造品) 釘	5区B・C15	SD20 埋土	5.3	0.45	0.6	118	2	錆化(△)	断面方形の釘の先端部。頭部は欠損している。	652
㊳	第47図 PL.29	鉄製品(鍛造品) 鎌?	5区 C15	SD20 2層	7.4	2.7	0.6	525	1	錆化(△)	方形断面の基部が並列し、下部にと刃部が錆によって固着した鎌?	737
㊴	第47図 PL.28	鉄製品(鍛造品) 釘	5区 E15	SD20 埋土	5.3	0.7	0.5	162	2	錆化(△)	方形断面の釘の芯部。頭部は欠損している。	588
㊵	第47図 PL.29	鉄製品(鍛造品) 釘	5区B・C15	SD20 埋土	9.1	0.9	0.7	390	2	L(●)	方形断面の大型釘の芯部。芯部は折れ曲がり、先端と頭部は欠損している。	652
㊶	第47図 PL.30	鉄製品(鑄造品) 鍋	5区 C15	SD20 2層	4.9	4.1	0.9	620	3	特L(☆)	鍋の体部から底部の屈曲部。全体に錆割れが拡がり、放射割れが生じている。	736
㊷	第49図 PL.35	椀形鍛冶滓(極小・含鉄)	5区 B14	SB6-P12 埋土	2.5	2.8	2.9	182	1	錆化(△)	全側部破面となる極小の椀形鍛冶滓中核部。下面にわずかに木炭が付着する。	987
㊸	第50図 PL.28	鉄製品(鍛造品) 釘	5区 G15	SK60 1層	4.2	0.7	0.35	4.0	2	H(○)	方形断面の釘先端部。頭部は欠損。	603
㊹	第53図 PL.35	椀形鍛冶滓(極小・含鉄)	5区 B15	P606 埋土	2.9	3.1	3.9	530	2	錆化(△)	全側部破面となる椀形鍛冶滓中核部。全面酸化土砂に覆われ、長さ3mm以下の木炭が付着する。下面は錆割れによる放射割れが生じている。	833
㊺	第53図 PL.35	椀形鍛冶滓(極小・含鉄)	5区 C14	P679 埋土	3.1	2.0	2.5	154	2	錆化(△)	全側部と下面が破面となる極小の椀形鍛冶滓中核部。表面は薄く酸化土砂が覆い、木炭、鍛造剥片を噛み込んでいる。	989
㊻	第53図 PL.35	椀形鍛冶滓(極小・含鉄)	5区 C13	P691 埋土	1.8	2.6	2.6	9.0	1	錆化(△)	全側部と下面が破面となる極小の椀形鍛冶滓中核部。表面は薄く酸化土砂が覆い、木炭、鍛造剥片を噛み込んでいる。	1105
㊼	第58図 PL.35	椀形鍛冶滓(中・含鉄)	5区 C14	II層	10.6	8.0	5.1	3700	3	錆化(△)	平面、不整形五角形の椀形鍛冶滓。左側部に主破面、上手寄りに小破面をもつ。表面は酸化土砂が覆い、木炭が散在する。	799
㊽	第58図 PL.35	椀形鍛冶滓(極小・含鉄)	5区 C13	II層	4.6	5.7	1.9	720	2	錆化(△)	左右側部に破面をもつ極小の椀形鍛冶滓。上面左側部寄りに羽口溶解物が付着し、下面は木炭痕が残る。滓質は緻密。	802
㊾	第58図 PL.35	鍛冶滓(含鉄)	5区	表土	3.2	3.9	1.9	20.8	1	H(○)	平面、不整形円形の鍛冶滓。全面厚く酸化土砂に覆われ、上面に長さ1.5cmの木炭が付着する。	537
㊿	第58図 PL.29	鉄製品(鍛造品) 鎌	5区 D14	II層	6.2	1.4	0.15	2300	3	なし	鎌刃部から基部破片。	880
㊽	第58図 PL.28	鉄製品(鍛造品) 釘	5区 D14	II層	5.3	0.55	0.5	570	2	錆化(△)	方形断面の釘先端部。頭部は欠損。	871
㊿	第58図 PL.28	鉄製品(鍛造品) 釘	5区	表土	3.7	0.6	0.6	152	2	錆化(△)	方形断面の大型釘の芯部。先端と頭部は欠損している。	533
㊽	第58図 PL.28	鉄製品(鍛造品) 釘	5区C13・14	II層	6.1	0.65	0.7	6.8	3	錆化(△)	方形断面の釘先端部。頭部は欠損。	667
㊽	第58図 PL.28	鉄製品(鍛造品) 釘	5区B13・14	II層	4.3	0.5	0.5	5.1	2	錆化(△)	方形断面の釘先端部。頭部は欠損。芯部が折れ曲がっている。	666
㊽	第58図 PL.28	鉄製品(鍛造品) 釘	5区	II層	3.2	1.1	0.4	4.3	2	M(◎)	方形断面の釘頭部。先端部は欠損。	541
㊽	第58図 PL.29	鉄製品(鍛造品) 釣針	5区 C14	II層	4.7	2.6	0.3	4.7	3	M(◎)	頭部がやや潰れ、芯部が大きく湾曲する。	792
㊽	第58図 PL.40	砥石	5区 D15	II層	△5.5	△2.3	△2.5	400	1	なし	硬質で細粒質の石材。砥石目細い。被熱により赤化している。	674

* 重量100g以上のものは10g単位で計量

表5 南原千軒遺跡鍛冶関連石器観察表

No	挿図 PL	地区・遺構	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	備考	取上No
S4	第16図 PL.39	4区・F13 SD7・8層	鉄床石	△ 24.5	△ 19.7	△ 16.6	10,940	石材安山岩。ハジケ状の剥離痕が見られる。被熱痕(黒色化)あり。	351
S5	第16図 PL.40	4区・F13 SD7・5層	鉄床石	△ 16.1	△ 8.3	△ 6.6	1,060	石材安山岩。ハジケ状の薄い剥離痕多数見られる。敲打痕あり。被熱痕(黒色化)あり。	306
S6	第16図 PL.39	4区・F13 SD7・8層	剥離痕のある礫	9.8	9.5	6.9	1,050	石材安山岩。剥離痕のある礫。一部ハジケ状に剥離。一部摩耗。	411
S7	第16図 PL.40	4区・F13 SD7・8層	鉄床石	△ 18.7	△ 13.4	△ 8.4	2,320	石材安山岩。剥離・被熱痕(黒色化)のある扁平礫。黒色ガラス質滓が広く付着。	352
S8	第17図 PL.39	4区・F13 SD7・5～8層	砥石・鉄床石	△ 16.4	△ 13.3	13.4	3,200	石材安山岩。原礫面の一部を砥面として使用。砥石目やや細。被熱痕(赤化・黒色化)あり。ハジケ状の剥離痕もみられ、鉄床石に機能を併せもっている。	312・405
S9	第17図 PL.40	4区・F13 SD7・8層	被熱礫	19.8	8.6	6.3	820	石材安山岩。被熱痕(黒色化)、剥離痕のある礫破片。	348
S10	第17図 PL.39	4区・F13 SD7・5～8層	被熱礫	13.7	11.5	9.5	2,080	石材安山岩。被熱痕(赤化)、剥離痕のある礫。煤付着。	302
S11	第17図 PL.39	4区・F13 SD7・8層	被熱礫	15.6	17.0	12.7	5,400	石材安山岩。被熱痕(黒色化)、剥離痕のある礫。	415
S12	第17図 PL.39	4区・F13 SD7・8層	被熱礫	10.1	8.2	6.5	740	石材安山岩。被熱痕(黒色化)のある礫破片。	321
S13	第17図 PL.40	4区・F13 SD7・埋土	被熱礫	9.1	10.9	6.7	720	石材安山岩。被熱痕(赤化・黒化)のある礫破片。	193
S14	第17図 PL.40	4区・F13 SD7・8層	被熱礫	9.7	9.5	8.8	1,140	石材安山岩。被熱痕(黒色化)、剥離痕のある礫。	345
S15	第17図 PL.40	4区・F13 SD7・8層	被熱礫	6.9	6.7	3.2	140	石材安山岩。環状の被熱痕(黒色化)のある礫破片。外側のほうが強く変色。	324
S16	第18図 PL.39	4区・F13 SD7・8層	被熱礫	14.7	8.3	11.7	2,330	石材安山岩。被熱痕(黒色化)、剥離痕のある礫。	344
S17	第18図 PL.40	4区・F13 SD7・8層	被熱礫	9.0	8.3	7.4	480	石材安山岩。被熱痕(黒色化)、剥離痕のある礫破片。	343
S18	第18図 PL.40	4区・F13 SD7・8層	被熱礫	10.4	6.5	3.0	290	石材安山岩。被熱痕(黒色化)のある礫破片。原礫面のうち被熱範囲のみ平滑。特に強く変色し、油脂光沢を帯びる範囲も見られる。	337
S19	第18図 PL.40	4区・F13 SD7・8層	被熱礫	22.7	10.8	6.0	1,500	石材安山岩。環状の被熱痕(黒色化)、剥離痕のある礫破片。	329
S28	第53図 PL.40	5区・C13 P694・埋土	被熱礫	9.0	6.4	2.7	150	石材安山岩。被熱痕(黒色化)のある礫破片。一部に黒色ガラス質滓付着。	1107
S30	第58図 PL.38	5区・D15 II層	鉄床石	40.4	18.1	12.8	12,900	石材安山岩。ハジケ状の剥離痕が見られる。被熱痕(赤化・黒色化)あり。	770

* 重量100g以上のものは10g単位で計量



写真1 調査を終えて



写真2 現地説明会

表6 鍛冶関連遺物集計表(非掲載分を含む)

遺構名	遺物名	鉄滓		鉄製品		羽口		砥石		鉄床石		被熱石	
		重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数
4区	SD6	69.7	1										
	SD7	7120.7	30	6.6	1	228.8	5	9350	3	101140	11	16690	12
	SD19	6244.1	53	22.6	1	255.2	7						
	道状硬化面	210	2			61.5	1						
	P496	2.4	1										
	P529	7.5	1										
	P546	2.3	1										
	B12グリッド	430	1										
	C12グリッド	2475.3	13			110	1						
	C13グリッド	80.2	3										
	B・C12グリッド	12.4	1										
	B・C13グリッド	22	1										
	D12グリッド	301.9	5					2.5	1				
	D13グリッド	95.7	4										
	D12・13グリッド	122.7	2			4	1						
	E13グリッド	36.8	1										
	F12グリッド	15.6	2										
	F13グリッド	5.8	1										
	G12グリッド	28.1	2	52.6	4								
	G13グリッド	69.9	2	76.7	2								
不明	72.5	1											
5区	SD6	4.3	1										
	SD7	43641.7	141	399.8	11	558.8	7	1988	5				
	SD20	11215.6	43	181.5	5								
	SD21	76.1	6										
	SB6-P12	18.2	1										
	SK60	18	1	4	1								
	P606	53	1										
	P616	33	2										
	P617	8.9	1										
	P618	41.2	2										
	P656	20	1										
	P657	18.4	1										
	P674	13.2	1										
	P679	15.4	1										
	P691	9	1										
	P694											150	1
	B14グリッド	23.4	2										
	C13グリッド	476.3	7										
	C14グリッド	1151.2	5	4.7	1	24.8	1						
	C16グリッド	22.5	4										
	B13・14グリッド	118.4	2	5.1	1								
	C13・14グリッド	938	2	6.8	1								
	D14グリッド	160	1	287	2								
	D15グリッド	375.4	7			40	1	12900	1				
	D17グリッド	43.8	1										
	E15グリッド	220	1										
	E17グリッド	1.4	1										
	F15グリッド	1.6	1										
	F17グリッド	3.7	1										
G15グリッド	1.3	1											
不明	2000.5	9	40.3	3									
合計	78149.1	377	1087.7	33	1283.1	24	24240.5	10	101140	11	16840	13	

表7 3区鍛冶工房土壌サンプル集計表(1)

出土位置	粒状滓(g)		鍛造剥片(g)				合計(g)	粒状滓・鍛造剥片合計(g)	鉄滓(滓)(g)	炉壁(g)	炭化材(g)	土器		羽口		その他の微細遺物合計(g)	微細遺物合計(g)	備考
	～2.0mm	合計(g)	個数	～0.8mm	0.8～2.0mm	2.0mm～						(g)	個数	個数	個数			
Z-1-⑤	0.2	0.2	92	1.0	0.9	2.7	4.6	4.8	0.0	0.0	0.0	5.0	5	0.0		5.0	9.8	炭化種0.1g(8)
Z-1-⑥	0.1	0.1	17	1.1	0.4	0.7	2.2	2.3	4.5	0.0	0.0	3.6	5	0.0		3.6	10.4	炭化種0.1g(8)
Z-1-⑦	0.1	0.1	71	1.9	0.8	0.8	3.5	3.6	0.0	0.0	0.0	1.7	7	0.0		1.7	5.3	鉄床石1.4g(2)
Z-1-⑧	0.1	0.1	75	1.3	1.0	0.6	2.9	3.0	0.9	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	3.9	鉄床石0.1g(3)
Z-1-⑨	0.1	0.1	112	0.9	1.2	3.1	5.2	5.3	0.0	0.0	0.0	6.8	4	0.0		6.8	12.1	鉄床石1.3g(2)
Z-1-⑩	0.1	0.1	24	1.8	0.6	0.7	3.1	3.2	0.0	0.0	0.0	2.6	6	0.0		2.6	5.8	
Z-1-⑪	0.1	0.1	6	0.5	0.1	1.7	2.3	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.4	
Z-1-⑫	0.1	0.1	101	0.8	0.5	0.4	1.7	1.8	11.4	0.0	0.0	2.4	2	0.0		2.4	15.6	
Z-1-⑬	0.1	0.1	8	0.3	0.1	0.1	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	14.4	3	0.0		14.4	15.0	
Z-1-⑭	0.1	0.1	8	0.3	0.1	0.1	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.6	
Z-1-⑮	0.1	0.1	2	0.6	0.1	0.2	0.9	1.0	1.2	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.2	
Z-1-⑯	0.1	0.1	3	0.4	0.1	0.0	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	9.4	2	0.0		9.4	10.0	
Z-2-⑤	0.1	0.1	26	1.9	1.2	0.8	3.9	4.0	0.0	0.0	0.0	3.8	3	0.0		3.8	7.8	
Z-2-⑥	0.2	0.2	21	1.9	1.1	1.1	4.1	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	4.3	
Z-2-⑦	0.1	0.1	81	3.2	2.5	1.6	7.3	7.4	0.0	0.0	0.0	16.4	5	0.0		16.4	23.8	
Z-2-⑧	0.1	0.1	7	1.4	0.4	0.1	1.9	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.0	
Z-2-⑨	0.1	0.1	6	1.6	0.3	0.1	2.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.1	
Z-2-⑩	0.0	0.0		1.6	0.1	0.0	1.7	1.7	0.0	0.0	0.0	16.4	1	0.0		16.4	18.1	
Z-2-⑪	0.1	0.1	5	1.1	0.2	1.6	2.9	3.0	0.0	0.0	0.0	3.5	4	0.0		3.5	6.5	
Z-2-⑫	0.1	0.1	5	0.9	0.1	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.1	
Z-2-⑬	0.1	0.1	3	1.3	0.3	0.4	2.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.1	
Z-2-⑭	0.1	0.1	26	2.1	0.5	0.2	2.8	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.9	
Z-2-⑮	0.1	0.1	9	0.9	0.2	0.1	1.2	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.3	
Z-3-①	0.1	0.1	268	0.9	1.1	1.4	3.4	3.5	1.1	0.0	0.0	14.2	8	0.5	1	14.7	19.3	鉄床石1.0g(7)
Z-3-②	0.1	0.1	19	1.0	0.3	0.6	1.9	2.0	0.0	0.0	0.0	5.6	5	0.0		5.6	7.6	
Z-3-③	0.1	0.1	5	2.5	0.2	0.6	3.3	3.4	0.0	0.0	0.0	12.6	10	0.0		12.6	16.0	
Z-3-④	0.1	0.1	5	2.5	0.2	0.0	2.7	2.8	0.0	0.0	0.0	2.5	2	0.0		2.5	5.3	
Z-3-⑤	0.1	0.1	170	1.9	1.5	1.5	4.9	5.0	15.6	0.0	0.5	1.3	1	0.0		1.8	22.4	鉄床石2.1g(8)
Z-3-⑥	0.1	0.1	19	1.4	0.5	0.2	2.1	2.2	0.0	0.0	0.0	4.8	4	0.0		4.8	7.0	
Z-3-⑦	0.1	0.1	1	1.0	0.3	0.0	1.3	1.4	0.0	0.0	0.0	9.6	2	0.0		9.6	11.0	鉄床石0.4g(2)
Z-3-⑧	0.1	0.1	49	1.1	1.9	1.7	4.7	4.8	0.0	0.0	0.0	4.8	7	1.2	2	6.0	10.8	
Z-3-⑨	0.1	0.1	4	0.7	0.3	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.1	
Z-3-⑩	0.0	0.0		0.8	0.1	0.2	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.1	
Z-3-⑪	0.1	0.1	8	1.4	0.4	0.1	1.9	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.0	
Z-3-⑫	0.1	0.1	3	0.5	0.2	0.0	0.7	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.8	
Z-3-⑬	0.1	0.1	8	1.5	0.4	0.3	2.2	2.3	0.0	0.0	0.0	1.6	1	0.0		1.6	3.9	
Z-3-⑭	0.1	0.1	6	0.5	0.4	0.0	0.9	1.0	0.0	0.0	0.0	4.9	2	0.0		4.9	5.9	
Z-3-⑮	0.1	0.1	3	0.8	0.2	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	9.2	7	0.0		9.2	10.3	
Z-4-①	0.1	0.1	3	1.8	0.4	0.2	2.4	2.5	0.0	0.0	0.0	5.1	2	0.0		5.1	7.6	
Z-4-②	0.0	0.0		0.5	0.1	0.1	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	4.5	4	0.0		4.5	5.2	
Z-4-④	0.0	0.0		0.9	0.1	0.1	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	22.4	11	0.0		22.4	23.5	
Z-4-⑤	0.1	0.1	18	3.2	1.8	1.6	6.6	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	6.7	
Z-4-⑥	0.1	0.1	25	1.3	0.6	0.6	2.5	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.6	
Z-4-⑦	0.0	0.0		0.7	0.1	0.2	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.0	
Z-4-⑧	0.0	0.0		1.1	0.1	0.0	1.2	1.2	0.0	0.0	0.0	22.4	5	0.0		22.4	23.6	
Z-4-⑨	0.1	0.1	8	1.8	0.4	0.3	2.5	2.6	0.0	0.0	0.0	3.4	12	0.0		3.4	40.0	
Z-4-⑩	0.0	0.0		1.2	0.1	0.0	1.3	1.3	0.0	0.0	0.0	17.4	12	0.0		17.4	18.7	
Z-4-⑪	0.1	0.1	2	0.9	0.1	0.1	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	4.0	3	0.0		4.0	5.2	
Z-4-⑫	0.1	0.1	3	0.4	0.2	0.2	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.9	
Z-4-⑬	0.0	0.0		0.5	0.1	0.1	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	5.4	1	0.0		5.4	6.1	
Z-4-⑭	0.1	0.1	2	0.7	0.1	0.1	0.9	1.0	0.0	0.0	0.0	9.2	7	0.0		9.2	10.2	
Z-4-⑮	0.1	0.1	2	0.8	0.1	0.0	0.9	1.0	0.0	0.0	0.0	17.8	7	0.0		17.8	18.8	
Z-5-①	0.0	0.0		0.7	0.1	0.1	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	7.1	7	0.0		7.1	8.0	
Z-5-②	0.1	0.1	1	0.7	0.2	0.1	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	3.7	6	0.0		3.7	4.8	
Z-5-③	0.1	0.1	2	1.5	0.2	0.1	1.8	1.9	0.0	0.0	0.0	4.3	7	0.0		4.3	6.2	
Z-5-④	0.0	0.0		1.3	0.1	0.0	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	4.8	3	0.0		4.8	6.2	
Z-5-⑤	0.1	0.1	1	1.6	0.1	0.1	1.8	1.9	0.0	0.0	0.0	21.4	6	0.0		21.4	23.3	
Z-5-⑥	0.1	0.1	5	2.5	0.2	0.0	2.7	2.8	0.0	0.0	0.0	14.2	7	0.0		14.2	17.0	
Z-5-⑦	0.0	0.0		1.4	0.1	0.1	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	8.1	3	0.0		8.1	9.7	
Z-5-⑨	0.1	0.1	3	1.5	0.4	0.2	2.1	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.2	鉄床石0.1g(2)
Z-5-⑩	0.1	0.1	7	1.3	0.1	0.1	1.5	1.6	0.0	0.0	0.0	7.8	5	0.0		7.8	9.4	
Z-5-⑪	0.1	0.1	13	1.5	0.2	0.0	1.7	1.8	0.0	0.0	0.0	10.0	4	0.0		10.0	11.8	
Z-5-⑫	0.1	0.1	5	0.6	0.0	0.0	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.7	
Z-5-⑬	0.1	0.1	18	1.6	0.2	0.3	2.1	2.2	0.0	0.0	0.0	21.8	9	0.0		21.8	24.0	
Z-5-⑭	0.1	0.1	6	2.3	0.1	0.0	2.4	2.5	0.0	0.0	0.0	17.8	7	0.0		17.8	20.3	
Z-5-⑮	0.1	0.1	4	1.6	0.1	0.0	1.7	1.8	0.0	0.0	0.0	6.8	4	0.0		6.8	8.6	
Z-5-⑯	0.0	0.0		1.2	0.1	0.0	1.3	1.3	0.0	0.0	0.0	3.8	2	0.0		3.8	5.1	
Z-6-①	0.1	0.1	1	0.9	0.2	0.1	1.2	1.3	0.0	0.0	0.0	4.6	7	0.0		4.6	5.9	
Z-6-②	0.0	0.0		0.9	0.1	0.4	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	4.4	5	0.0		4.4	5.8	
Z-6-⑦	0.1	0.1	3	0.6	0.1	0.1	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.9	
Z-6-⑧	0.1	0.1	1	0.6	0.1	0.0	0.7	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.8	
Z-6-⑨	0.0	0.0		0.4	0.1	0.1	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.6	
Z-6-⑩	0.1	0.1	1	0.8	0.1	0.1	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.1	
Z-6-⑪	0.1	0.1	1	0.7	0.1	0.1	0.9	1.0	0.0	0.0	0.0	2.7	4	0.0		2.7	3.7	
Z-6-⑫	0.0	0.0		1.0	0.1	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.3	1	0.0		0.3	1.4	

*カッコ内は個数

表8 3区鍛冶工房土壌サンプル集計表(2)

出土位置	粒状滓(g)		鍛造剥片(g)				合計(g)	粒状滓・鍛造剥片合計(g)	鉄滓(滓)(g)	炉壁(g)	炭化材(g)	土器		羽口		その他の微細遺物合計(g)	微細遺物合計(g)	備考
	～20mm	合計(g)	個数	～0.8mm	0.8～2.0mm	2.0mm～						(g)	個数	(g)	個数			
Z6-13	0.0	0.0		0.8	0.1	0.1	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.0	
Z6-14	0.0	0.0		0.6	0.1	0.1	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	1.7	2	0.0		1.7	2.5	
Z6-15	0.0	0.0		0.9	0.1	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	2.1	2	0.0		2.1	3.1	
Z6-16	0.1	0.1	2	1.7	0.1	0.0	1.8	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.9	
Z7-1	0.0	0.0		1.7	0.1	0.0	1.8	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.8	
Z7-2	0.1	0.1	6	2.1	0.1	0.0	2.2	2.3	0.0	0.0	0.0	29.4	10	0.0		29.4	31.7	
Z7-3	0.1	0.1	4	2.1	0.1	0.0	2.2	2.3	0.0	0.0	0.0	30.0	8	0.0		30.0	32.3	
Z7-4	0.1	0.1	3	1.5	0.1	0.0	1.6	1.7	0.0	0.0	0.0	4.4	4	0.0		4.4	6.1	
Z7-5	0.0	0.0		1.9	0.1	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.0	
Z7-6	0.1	0.1	4	0.8	0.1	0.0	0.9	1.0	0.0	0.0	0.0	4.0	3	0.0		4.0	5.0	
Z7-7	0.0	0.0		0.1	0.1	0.1	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	21.6	10	0.0		21.6	21.9	
Z7-8	0.0	0.0		2.2	0.1	0.0	2.3	2.3	0.0	0.0	0.0	56.4	15	0.0		56.4	58.7	
Z7-9	0.1	0.1	2	0.9	0.1	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.1	
Z7-10	0.0	0.0		0.9	0.1	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	7.2	2	0.0		7.2	8.2	
Z7-11	0.0	0.0		0.8	0.1	0.1	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	5.4	3	0.0		5.4	6.4	
Z7-12	0.1	0.1	2	1.2	0.1	0.1	1.4	1.5	0.0	0.0	0.0	16.2	17	0.0		16.2	17.7	
Z7-13	0.1	0.1	4	1.0	0.2	0.2	1.4	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.5	
Z7-14	0.1	0.1	6	0.9	0.1	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.1	
Z7-15	0.0	0.0		0.8	0.1	0.1	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	5.2	2	0.0		5.2	6.2	
Z7-16	0.0	0.0		0.5	0.1	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	12.4	8	0.0		12.4	13.0	
Z8-1	0.1	0.1	32	2.4	1.1	1.4	4.9	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0		3.9	3	3.9	8.9	鉄床石0.7g(1)
Z8-2	0.1	0.1	11	1.5	0.2	0.1	1.8	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0		7.5	1	7.5	9.4	
Z8-3	0.1	0.1	90	1.9	0.6	0.5	3.0	3.1	0.0	0.0	0.0	3.5	4	0.0		3.5	6.6	鉄床石1.2g(5) 炭化種0.1g(2)
Z8-4	0.0	0.0		2.2	0.1	0.1	2.4	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.4	鉄床石0.1g(2) 炭化種0.1g(2)
Z8-5	0.6	0.6	465	13.0	16.0	9.2	38.2	38.8	20.2	0.0	0.0	4.4	2	5.1	19	9.5	68.5	鉄床石4.1g(13) 炭化米0.1(2)
Z8-6	0.1	0.1	84	3.6	3.2	4.3	11.1	11.2	1.4	0.0	0.0	4.7	3	0.1	2	4.8	17.4	
Z8-7	0.1	0.1	83	1.8	0.9	0.8	3.5	3.6	2.3	0.0	0.0	2.9	1	1.3	1	4.2	10.1	鉄床石1.8g(11) 炭化種0.1g(1)
Z8-8	0.1	0.1	3	0.6	0.1	0.1	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.9	炭化種0.1g(3)
Z8-9	0.1	0.1	5	1.2	0.1	0.1	1.4	1.5	0.0	0.0	0.0	11.4	8	0.0		11.4	12.9	
Z8-10	0.1	0.1	13	2.5	0.5	0.9	3.9	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	4.0	炭化米0.1g(1)
Z8-11	0.1	0.1	2	2.6	0.1	0.1	2.8	2.9	0.0	0.0	0.0	11.2	4	0.0		11.2	14.1	鉄床石0.1g(2)
Z8-12	0.0	0.0		1.1	0.1	0.8	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	6.9	4	0.0		6.9	8.9	
Z8-13	0.1	0.1	3	0.3	0.2	0.1	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.7	
Z8-14	0.0	0.0		1.6	0.2	0.1	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.9	
Z8-15	0.0	0.0		2.2	0.1	0.1	2.4	2.4	0.0	0.0	0.0	5.0	1	0.0		5.0	7.4	
A1-1	0.1	0.1	5	0.8	0.5	0.3	1.6	1.7	0.0	0.0	0.0	5.5	1	0.0		5.5	7.2	
A1-2	0.1	0.1	7	1.2	0.4	0.5	2.1	2.2	0.0	0.0	0.0	17.6	4	0.0		17.6	19.8	
A1-3	0.1	0.1	3	0.6	0.2	0.3	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.2	
A1-4	0.1	0.1	5	1.4	0.1	0.1	1.6	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.7	
A1-5	0.1	0.1	5	0.9	0.3	0.6	1.8	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.9	
A1-6	0.1	0.1	1	0.3	0.2	0.1	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.7	
A1-7	0.1	0.1	2	0.6	0.4	0.6	1.6	1.7	0.0	0.0	0.0	4.2	2	0.0		4.2	5.9	
A1-8	0.0	0.0		0.6	0.2	0.0	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.8	
A1-9	0.2	0.2	3	0.6	0.5	0.2	1.3	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.5	
A1-10	0.1	0.1	8	0.6	0.5	0.5	1.6	1.7	0.0	0.0	0.0	2.7	2	0.0		2.7	4.4	
A1-11	0.1	0.1	1	0.5	0.3	0.6	1.4	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.5	
A1-12	0.1	0.1	3	0.5	0.2	0.1	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.9	
A1-13	0.1	0.1	1	0.2	0.1	0.0	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.4	
A1-14	0.1	0.1	6	0.4	0.4	0.6	1.4	1.5	2.9	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	4.4	
A2-1	0.1	0.1	1	0.2	0.1	0.0	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	6.9	1	0.0		6.9	7.3	
A2-2	0.1	0.1	2	0.4	0.1	0.1	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	11.8	3	0.0		11.8	12.5	
A2-3	0.2	0.2	11	0.7	0.4	0.5	1.6	1.8	2.9	0.0	0.0	6.2	3	0.0		6.2	10.9	
A2-4	0.2	0.2	6	0.9	0.3	0.2	1.4	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.6	
A2-5	0.1	0.1	6	1.1	0.2	0.3	1.6	1.7	0.0	0.0	0.0	11.8	4	0.0		11.8	13.5	
A2-6	0.2	0.2	4	1.4	0.3	0.2	1.9	2.1	0.0	0.0	0.0	3.6	3	0.0		3.6	5.7	
A2-7	0.3	0.3	11	0.7	0.5	0.5	1.7	2.0	0.0	0.0	0.0	18.0	6	0.0		18.0	20.0	
A2-8	0.1	0.1	1	0.8	0.2	0.1	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.2	
A2-9	0.1	0.1	2	1.5	0.3	0.8	2.6	2.7	2.5	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	5.2	
A2-10	0.1	0.1	23	1.7	1.2	1.4	4.3	4.4	1.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	5.4	
A2-11	0.1	0.1	26	1.2	1.5	1.4	4.1	4.2	1.8	0.0	0.0	19.8	2	0.0		19.8	25.8	
A2-12	0.1	0.1	4	0.5	0.1	0.2	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.9	
A2-13	0.0	0.0		0.4	0.1	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.5	
A2-14	0.0	0.0		0.5	0.1	0.1	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	3.8	1	0.0		3.8	4.5	
A2-15	0.1	0.1	3	0.6	0.2	0.3	1.1	1.2	1.3	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.5	
A3-1	0.1	0.1	1	0.2	0.1	0.4	0.7	0.8	0.0	0.0	0.0	3.5	2	0.0		3.5	4.3	
A3-2	0.1	0.1	3	0.5	0.1	0.0	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	7.5	4	0.0		7.5	8.2	
A3-3	0.0	0.0		0.6	0.1	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	5.3	5	0.0		5.3	6.0	
A3-4	0.0	0.0		0.3	0.4	0.2	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.9	
A3-5	0.1	0.1	2	0.5	0.1	0.0	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	12.6	3	0.0		12.6	13.3	
A3-6	0.1	0.1	5	0.4	0.2	0.0	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	7.1	3	0.0		7.1	7.8	
A3-7	0.1	0.1	10	0.8	0.7	0.2	1.7	1.8	6.1	0.0	0.0	6.9	3	0.0		6.9	14.8	
A3-8	0.1	0.1	1	0.8	0.1	0.0	0.9	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.0	
A3-9	0.0	0.0		0.8	0.1	0.1	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.0	
A3-10	0.1	0.1	6	0.8	0.3	0.2	1.3	1.4	0.0	0.0	0.0	1.9	1	0.0		1.9	3.3	
A3-11	0.2	0.2	68	2.4	2.3	3.5	8.2	8.4	5.5	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	13.9	
A3-12	0.1	0.1	10	1.3	0.7	0.3	2.3	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.4	
A3-13	0.1	0.1	23	1.2	0.8	0.6	2.6	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.7	
A3-14	0.1	0.1	2	0.7	0.1	0.1	0.9	1.0	0.0	0.0	0.0	2.8	3	0.0		2.8	3.8	

*カッコ内は個数

表9 3区鍛冶工房土壌サンプル集計表(3)

出土位置	粒状滓(g)			鍛造剥片(g)				粒状滓・鍛造剥片合計(g)	鉄滓(滓)(g)	炉壁(g)	炭化材(g)	土器		羽口		その他の微細遺物合計(g)	微細遺物合計(g)	備考
	～20mm	合計(g)	個数	～0.8mm	0.8～20mm	20mm～	合計(g)					(g)	個数	個数	個数			
A-3⑮	0.1	0.1	4	0.6	0.3	0.3	1.2	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	
A-3⑯	0.1	0.1	7	0.7	0.3	0.2	1.2	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	
A-4①	0.1	0.1	2	0.4	0.1	0.1	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	
A-4②	0.1	0.1	1	0.5	0.1	1.0	1.6	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	
A-4③	0.0	0.0		0.6	0.1	0.1	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	11.2	9	0.0		11.2	12.0	
A-4④	0.0	0.0		0.1	0.1	0.5	0.7	0.7	8.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.8	
A-4⑤	0.0	0.0		0.1	0.4	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	5.8	8	0.0		5.8	6.3	
A-4⑥	0.0	0.0		0.5	0.1	0.1	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	
A-4⑦	0.1	0.1	1	0.2	0.1	0.3	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	
A-4⑧	0.1	0.1	2	0.4	0.1	0.0	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	
A-4⑨	0.1	0.1	5	0.5	0.2	0.1	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	2.3	5	0.0		2.3	3.2	
A-4⑩	0.1	0.1	3	0.4	0.2	0.6	1.2	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	
A-4⑪	0.1	0.1	3	0.4	0.1	0.1	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	21.6	6	0.0		21.6	22.3	
A-4⑫	0.0	0.0		0.6	0.1	0.3	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	
A-4⑬	0.4	0.4	132	8.6	17.6	14.8	41.0	41.4	101.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	142.7	
A-4⑭	0.3	0.3	88	3.8	7.1	6.6	17.5	17.8	0.0	0.0	0.0	5.6	3	0.0		5.6	23.4	
A-4⑮	0.1	0.1	1	0.8	0.1	0.0	0.9	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	
A-4⑯	0.1	0.1	1	0.5	0.1	0.0	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	13.0	8	0.0		13.0	13.7	
A-5①	0.2	0.2	300	6.6	6.2	6.0	18.8	19.0	25.0	0.0	0.0	8.2	2	3.5	3	11.7	33.2	鉄床石0.7g(12)
A-5②	0.1	0.1	14	1.8	0.2	0.1	2.1	2.2	0.0	0.0	0.0	29.0	3	0.0		29.0	31.2	炭化種0.1g(3)
A-5③	0.1	0.1	7	2.3	0.1	0.6	3.0	3.1	0.0	0.0	0.0	3.2	6	0.0		3.2	6.3	
A-5④	0.2	0.2	133	2.6	4.2	7.0	13.8	14.0	10.4	0.0	0.0	1.8	2	1.9	6	3.7	28.1	鉄床石0.2g(4)
A-5⑤	0.1	0.1	7	0.6	0.2	0.2	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	1.4	2	0.0		1.4	2.5	
A-5⑥	0.1	0.1	3	0.8	0.1	0.1	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	2.3	2	0.0		2.3	3.4	炭化種0.1g(1)
A-5⑦	0.1	0.1	7	1.0	0.1	0.1	1.2	1.3	0.0	0.0	0.0	4.7	2	0.0		4.7	6.0	
A-5⑧	0.1	0.1	10	1.6	0.2	0.1	1.9	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	
A-5⑨	0.0	0.0		0.7	0.1	0.3	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	20.2	6	0.0		20.2	21.3	
A-5⑩	0.1	0.1	1	1.1	0.1	0.1	1.3	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	炭化種0.1g(1)
A-5⑪	0.1	0.1	57	2.2	1.4	1.6	5.2	5.3	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	1	0.8	9.2	炭化種0.1g(1)
A-5⑫	0.1	0.1	4	1.6	0.2	0.1	1.9	2.0	0.0	0.0	0.0	12.6	4	0.0		12.6	14.6	
A-5⑬	0.1	0.1	2	1.5	0.1	0.0	1.6	1.7	0.0	0.0	0.0	10.6	5	0.0		10.6	12.3	
A-5⑭	0.0	0.0		1.7	0.2	0.1	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	7.6	3	0.0		7.6	9.6	炭化種0.1g(3)
A-5⑮	0.1	0.1	13	1.2	0.2	0.1	1.5	1.6	0.0	0.0	0.0	14.6	3	0.0		14.6	16.2	
A-5⑯	0.1	0.1	3	1.8	0.2	0.1	2.1	2.2	0.0	0.0	0.0	3.4	3	0.0		3.4	5.6	
A-6①	0.1	0.1	9	0.8	0.1	0.1	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	
A-6②	0.1	0.1	1	0.4	0.1	0.0	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	
A-6③	0.1	0.1	2	0.4	0.1	0.0	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	3.8	2	0.0		3.8	4.4	
A-6④	0.0	0.0		0.4	0.1	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	11.2	1	0.0		11.2	11.7	炭化種0.1g(1)
A-6⑤	0.1	0.1	3	1.2	0.1	0.0	1.3	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	
A-6⑥	0.0	0.0		0.7	0.1	0.1	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	3.6	1	0.0		3.6	4.5	
A-6⑦	0.0	0.0		0.8	0.1	0.1	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	3.3	1	0.0		3.3	4.3	
A-6⑧	0.0	0.0		1.3	0.1	0.0	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	
A-6⑨	0.1	0.1	1	0.7	0.1	0.1	0.9	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	
A-6⑩	0.0	0.0		0.9	0.1	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	
A-6⑪	0.0	0.0		1.3	0.1	0.2	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	
A-6⑫	0.1	0.1	1	1.0	0.1	0.0	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	
A-6⑬	0.1	0.1	6	1.4	0.4	0.7	2.5	2.6	0.0	0.0	0.0	0.2	1	0.0		0.2	2.8	
A-6⑭	0.0	0.0		1.0	0.1	0.1	1.2	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	
A-6⑮	0.1	0.1	1	0.4	0.1	0.0	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	
A-6⑯	0.1	0.1	2	0.7	0.1	0.0	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	1.9	3	0.0		1.9	2.8	
A-7①	0.0	0.0		1.0	0.1	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	1.8	1	0.0		1.8	2.9	
A-7②	0.1	0.1	1	0.9	0.3	0.1	1.3	1.4	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	
A-7③	0.0	0.0		0.3	0.1	0.1	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	
A-7④	0.0	0.0		0.1	0.1	0.1	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	
A-7⑤	0.0	0.0		0.6	0.1	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	
A-7⑥	0.1	0.1	1	0.2	0.1	0.0	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	
A-7⑦	0.0	0.0		0.2	0.1	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	
A-7⑧	0.1	0.1	1	0.9	0.1	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	3.3	1	0.0		3.3	4.4	
A-7⑨	0.1	0.1	4	0.8	0.2	0.2	1.2	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	炭化種0.1g(2)
A-7⑩	0.0	0.0		0.7	0.1	0.1	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	
A-7⑪	0.0	0.0		0.8	0.1	0.0	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	6.5	2	0.0		6.5	7.4	
A-7⑫	0.1	0.1	25	1.3	0.9	0.3	2.5	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	
A-7⑬	0.1	0.1	7	1.1	0.7	0.2	2.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0		0.1	2.2	
A-7⑭	0.0	0.0		0.8	0.1	0.0	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	
A-7一括	0.1	0.1	1	1.1	0.1	0.0	1.2	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	
A-8①	0.1	0.1	2	0.9	0.1	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	2.7	2	0.0		2.7	3.8	
A-8②	0.0	0.0		1.2	0.1	0.0	1.3	1.3	0.0	0.0	0.0	13.4	9	0.0		13.4	14.7	
A-8③	0.1	0.1	3	1.1	0.1	0.1	1.3	1.4	0.0	0.0	0.0	1.6	2	0.0		1.6	3.0	
A-8④	0.1	0.1	1	1.2	0.2	0.0	1.4	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	
A-8⑤	0.1	0.1	1	0.6	0.1	0.0	0.7	0.8	0.0	0.0	0.0	3.5	3	0.0		3.5	4.3	
A-8⑥	0.0	0.0		1.4	0.1	0.0	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	1.6	2	0.0		1.6	3.1	
A-8⑦	0.1	0.1	1	1.0	0.1	0.0	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	21.0	3	0.0		21.0	22.2	
A-8⑧	0.1	0.1	1	1.1	0.1	0.1	1.3	1.4	0.0	0.0	0.0	2.8	1	0.1		2.9	4.3	
A-8⑨	0.0	0.0		0.3	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	
A-8⑩	0.1	0.1	2	0.3	0.1	0.1	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	8.2	4	0.0		8.2	8.8	
A-8⑪	0.0	0.0		0.2	0.1	0.1	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	
A-8⑫	0.1	0.1	1	0.2	0.1	0.0	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	
A-8⑬	0.1	0.1	1	0.5	0.1	0.0	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	0.8	1	0.0		0.8	1.5	炭化種0.1g(2)
A-8⑭	0.1	0.1	1	0.9	0.1	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	
A-8⑮	0.0	0.0		0.4	0.1	0.0	0.5	0.5										

表10 3区鍛冶工房土壌サンプル集計表(4)

出土位置	粒状滓(g)			鍛造剥片(g)				粒状滓・鍛造剥片合計(g)	鉄滓(滓)(g)	炉壁(g)	炭化材(g)	土器		羽口		その他の微細遺物合計(g)	微細遺物合計(g)	備考
	～2.0mm	合計(g)	個数	～0.8mm	0.8～2.0mm	2.0mm～	合計(g)					(g)	個数	(g)	個数			
B-1-③	0.1	0.1	1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.4	
B-1-④	0.0	0.0		0.1	0.1	0.1	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.3	
B-1-⑤	0.1	0.1	33	0.1	0.1	0.1	0.3	0.4	1.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.4	
B-1-⑥	0.1	0.1	19	0.2	0.1	0.1	0.4	0.5	0.0	0.0	0.0	1.8	2	0.0		1.8	2.3	
B-1-⑦	0.1	0.1	10	0.1	0.1	0.1	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.4	
B-1-⑧	0.1	0.1	2	0.2	0.1	0.1	0.4	0.5	0.0	0.0	0.0	0.4	1	0.0		0.4	0.9	
B-1-⑨	0.1	0.1	16	0.2	0.1	0.1	0.4	0.5	3.3	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	3.8	
B-1-⑩	0.1	0.1	4	0.1	0.1	0.1	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.4	
B-1-⑪	0.1	0.1	10	0.2	0.1	0.2	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	1.3	1	0.0		1.3	1.9	
B-1-⑫	0.1	0.1	2	0.1	0.1	0.0	0.2	0.3	0.0	0.0	0.0	20.8	3	0.0		20.8	21.1	
B-1-⑬	0.1	0.1	8	0.1	0.1	0.0	0.2	0.3	0.6	0.0	0.0	3.2	4	0.0		3.2	4.1	鉄製品1.4g(3) 鉄床石0.5g(1)
B-1-⑭	0.1	0.1	5	1.2	0.2	0.0	1.4	1.5	0.0	0.0	0.0	10.1	4	0.0		10.1	11.6	
B-1-⑮	0.1	0.1	4	0.9	0.1	0.6	1.6	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.7	炭化種0.1g(2)
B-2-③	0.1	0.1	1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.2	
B-2-④	0.1	0.1	4	0.1	0.1	0.0	0.2	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.3	
B-2-⑤	0.0	0.0		0.1	0.1	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.2	
B-2-⑥	0.1	0.1	1	0.1	0.1	0.0	0.2	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.3	
B-2-⑦	0.1	0.1	2	0.1	0.1	0.1	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	10.4	2	0.0		10.4	10.8	
B-2-⑧	0.0	0.0		0.1	0.1	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.2	
B-2-⑨	0.1	0.1	2	0.3	0.1	0.1	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.6	
B-2-⑩	0.0	0.0		0.1	0.1	0.1	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	5.9	1	0.0		5.9	6.2	
B-2-⑪	0.1	0.1	7	0.1	0.1	0.0	0.2	0.3	0.0	0.0	0.0	12.2	3	0.0		12.2	12.5	
B-2-⑫	0.1	0.1	2	0.1	0.1	0.0	0.2	0.3	0.0	0.0	0.0	12.6	2	0.0		12.6	12.9	
B-2-⑬	0.1	0.1	42	0.3	0.2	0.5	1.0	1.1	4.9	0.0	0.0	2.4	1	0.0		2.4	8.4	
B-2-⑭	0.1	0.1	1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.4	0.0	0.0	0.6	1	0.0		0.6	1.2	
B-2-⑮	0.0	0.0		0.1	0.1	0.1	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	3.7	2	0.0		3.7	4.0	鉄床石0.2g(1)
B-2-⑯	0.1	0.1	1	0.2	0.1	0.1	0.4	0.5	0.0	0.0	0.0	4.3	5	0.0		4.3	4.8	鉄床石11.0g(1)
B-3-②	0.1	0.1	10	1.3	0.2	0.1	1.6	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.7	
B-3-③	0.1	0.1	3	1.3	0.2	0.1	1.6	1.7	0.0	0.0	0.0	9.2	5	0.0		9.2	10.9	
B-3-④	0.1	0.1	8	1.2	0.2	0.1	1.5	1.6	0.0	0.0	0.0	4.9	10	0.0		4.9	6.5	
B-3-⑤	0.1	0.1	16	1.0	0.2	0.3	1.5	1.6	0.0	0.0	0.0	3.0	7	0.0		3.0	4.6	炭化種0.1g(2)
B-3-⑥	0.1	0.1	1	0.8	0.1	0.5	1.4	1.5	0.0	0.0	0.0	15.0	16	0.0		15.0	16.5	
B-3-⑦	0.1	0.1	2	0.6	0.1	0.1	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	25.8	15	0.0		25.8	26.7	
B-3-⑧	0.1	0.1	7	0.9	0.1	0.5	1.5	1.6	0.0	0.0	0.0	5.1	6	0.0		5.1	6.7	
B-3-⑨	0.1	0.1	2	0.6	0.1	0.1	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.9	
B-3-⑩	0.1	0.1	1	0.6	0.1	0.1	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	9.8	7	0.0		9.8	10.7	
B-3-⑪	0.0	0.0		0.8	0.1	0.1	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	7.7	6	0.0		7.7	8.7	
B-3-⑫	0.1	0.1	3	0.8	0.2	0.1	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	3.9	4	0.0		3.9	5.1	
B-3-⑬	0.1	0.1	4	1.6	0.1	0.0	1.7	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.8	
B-3-⑭	0.1	0.1	9	2.0	0.1	0.0	2.1	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.2	
B-3-⑮	0.1	0.1	9	0.9	0.1	0.1	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.2	
B-3-⑯	0.1	0.1	3	0.8	0.1	0.2	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	3.8	7	0.0		3.8	5.0	
B-4-①	0.1	0.1	12	0.4	0.1	0.1	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.7	
B-4-②	0.1	0.1	9	0.7	0.1	0.1	0.9	1.0	0.0	0.0	0.0	16.4	1	0.0		16.4	17.4	
B-4-③	0.1	0.1	4	0.3	0.1	0.1	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	1.7	1	0.0		1.7	2.3	鉄床石4.2g(2) 炭化種0.1g(4)
B-4-④	0.1	0.1	15	0.6	0.1	0.1	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	10.6	15	0.0		10.6	11.5	鉄床石0.1g(2) 炭化種0.1g(5)
B-4-⑤	0.1	0.1	14	0.8	0.2	0.8	1.8	1.9	0.0	0.0	0.0	9.0	2	0.0		9.0	10.9	炭化米・炭化種 0.1g(5)
B-4-⑥	0.1	0.1	5	0.5	0.1	0.1	0.7	0.8	0.0	0.0	0.0	1.8	8	0.0		1.8	2.6	
B-4-⑦	0.1	0.1	181	2.4	4.9	9.6	16.9	17.0	22.6	0.0	0.0	13.4	28	0.1	8	13.5	53.1	鉄床石0.9g(13) 炭化米・炭化種0.1g(14)
B-4-⑧	0.1	0.1	493	5.3	9.2	18.6	33.1	33.2	39.8	0.0	0.0	30.2	22	2.9	13	33.1	106.1	鉄床石1.8g(13) 炭化米・炭化種0.4g(50)
B-4-⑨	0.1	0.1	18	0.6	0.1	0.5	1.2	1.3	0.1	0.0	0.0	21.0	4	0.0		21.0	22.4	
B-4-⑩	0.1	0.1	108	2.1	2.2	4.8	9.1	9.2	38.9	0.0	0.0	31.0	9	0.5	6	31.5	79.6	炭化種0.1g(7)
B-4-⑪	0.4	0.4	548	18.2	26.0	27.2	71.4	71.8	64.7	0.0	0.2	7.0	7	8.8	18	16.0	152.5	鉄床石1.8g(14) 炭化種0.4g(138)
B-4-⑫	0.8	0.8	738	18.4	28.2	47.2	93.8	94.6	47.6	0.0	0.1	11.2	8	8.6	7	19.9	162.1	炭化米・炭化種他 4.6g(多数)
B-4-⑬	0.1	0.1	5	1.1	0.3	1.2	2.6	2.7	0.0	0.0	0.0	0.5	1	0.0		0.5	3.2	鉄床石0.2g(3) 炭化種0.1g(2)
B-4-⑭	0.1	0.1	38	0.9	2.1	1.2	4.2	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	4.3	
B-4-⑮	0.3	0.3	240	4.5	13.2	11.4	29.1	29.4	39.4	0.0	0.0	8.6	8	24.2	16	32.8	101.6	鉄床石2.5g(18) 炭化種0.1g(3)
B-4-⑯	0.7	0.7	262	3.3	4.6	9.0	16.9	17.6	45.8	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	63.4	鉄床石0.3g(6) 炭化種0.3g(43)
B-5-①	0.1	0.1	7	1.4	0.4	0.1	1.9	2.0	0.0	0.0	0.0	13.0	5	0.0		13.0	15.0	鉄床石1.8g(2) 炭化種0.1g(4)
B-5-②	0.1	0.1	7	0.7	0.2	0.1	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	2.7	2	0.6	1	3.3	4.4	炭化種0.1g(9)
B-5-⑤	0.1	0.1	5	1.7	0.4	0.2	2.3	2.4	0.0	0.0	0.0	11.4	11	0.0		11.4	13.8	鉄床石0.3g(3) 炭化種0.1g(11)
B-5-⑥	0.1	0.1	5	2.2	0.7	0.5	3.4	3.5	0.0	0.0	0.0	23.8	7	0.0		23.8	27.3	鉄床石0.2g(2) 炭化種0.1g(3)
B-5-⑨	0.1	0.1	20	3.0	1.1	0.9	5.0	5.1	7.6	0.0	0.0	12.4	9	0.9	7	13.3	26.0	鉄床石5.9g(2) 炭化種0.1g(4)
B-5-⑩	0.1	0.1	15	2.9	0.7	1.3	4.9	5.0	0.0	0.0	0.0	33.0	13	0.0		33.0	38.0	鉄床石0.2g(3) 炭化種0.1g(5)
B-5-⑪	0.1	0.1	6	0.9	0.2	0.4	1.5	1.6	0.0	0.0	0.0	67.9	20	0.0		67.9	69.5	鉄床石0.3g(5)
B-5-⑫	0.1	0.1	27	2.7	2.4	3.6	8.7	8.8	15.2	0.0	0.0	33.2	10	2.2	8	35.4	59.4	鉄床石0.3g(5) 炭化種0.1g(6)
B-5-⑬	0.1	0.1	16	2.6	0.5	0.3	3.4	3.5	0.0	0.0	0.0	32.6	12	0.0		32.6	36.1	炭化種0.1g(5)
B-5-⑭	0.1	0.1	5	2.7	0.6	0.4	3.7	3.8	0.0	0.0	0.0	24.8	12	0.0		24.8	28.6	
B-5-⑮	0.1	0.1	13	4.7	1.0	0.9	6.6	6.7	0.0	0.0	0.3	22.2	16	0.0		22.5	29.2	鉄床石1.0g(11) 炭化種0.2g(13)
B-5-⑯	0.1	0.1	5	4.6	0.5	0.2	5.3	5.4	0.0	0.0	0.0	15.8	10	0.0		15.8	21.2	炭化種0.1g(10)

*カッコ内は個数

表11 3区鍛冶工房土壌サンプル集計表(5)

出土位置	粒状滓(g)		鍛造剥片(g)					粒状滓・鍛造剥片合計(g)	鉄滓(滓)(g)	炉壁(g)	炭化材(g)	土器		羽口		その他の微細遺物合計(g)	微細遺物合計(g)	備考
	～2.0mm	合計(g)	個数	～0.8mm	0.8～2.0mm	2.0mm～	合計(g)					(g)	個数	個数	個数			
B5一括	0.1	0.1	7	1.1	0.4	0.0	1.5	1.6	7.4	0.0	0.0	11.8	5	0.0		11.8	20.8	炭化種0.1g(8)
B6①	0.1	0.1	21	1.0	0.3	0.3	1.6	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.7	
B6②	0.1	0.1	11	1.1	0.3	0.3	1.7	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.8	
B6③	0.1	0.1	5	1.2	0.2	0.0	1.4	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.5	
B6④	0.1	0.1	1	1.4	0.1	0.0	1.5	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.6	
B6⑤	0.1	0.1	55	1.7	1.4	2.0	5.1	5.2	0.0	0.0	0.0	4.3	5	0.0		4.3	9.5	
B6⑥	0.1	0.1	5	1.1	0.1	0.4	1.6	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.7	炭化種0.1g(2)
B6⑦	0.1	0.1	4	1.3	0.2	0.1	1.6	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.7	炭化種0.1g(2)
B6⑧	0.1	0.1	2	0.9	0.1	0.1	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	3.0	3	0.0		3.0	4.2	
B6⑨	0.1	0.1	34	1.1	1.1	1.8	4.0	4.1	0.0	0.0	0.0	2.6	2	0.0		2.6	6.7	炭化種0.1g(1)
B6⑩	0.1	0.1	5	0.9	0.1	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	20.6	5	0.0		20.6	21.7	炭化種0.1g(4)
B6⑪	0.1	0.1	2	0.5	0.1	0.0	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	8.7	1	0.0		8.7	9.4	
B6⑫	0.1	0.1	7	1.6	0.2	0.1	1.9	2.0	0.0	0.0	0.0	9.6	3	0.0		9.6	11.6	
B6⑬	0.1	0.1	5	3.8	0.3	0.1	4.2	4.3	0.0	0.0	0.0	10.0	5	0.0		10.0	14.3	炭化種0.1g(4)
B6⑭	0.1	0.1	2	3.8	0.1	0.0	3.9	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	4.0	炭化種0.1g(10)
B6⑮	0.1	0.1	1	2.0	0.2	0.1	2.3	2.4	0.0	0.0	0.0	1.4	1	0.0		1.4	3.8	
B6⑯	0.1	0.1	4	2.0	0.1	0.0	2.1	2.2	0.0	0.0	0.0	8.5	2	0.0		8.5	10.7	
B7①	0.1	0.1	1	0.4	0.1	0.1	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.7	
B7②	0.0	0.0		0.8	0.1	0.1	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.0	
B7④	0.0	0.0		0.8	0.1	0.0	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.9	
B7⑦	0.0	0.0		0.8	0.1	0.0	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	5.8	2	0.0		5.8	6.7	
B7⑧	0.1	0.1	2	2.5	0.1	0.0	2.6	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.7	
B7⑪	0.1	0.1	1	0.7	0.1	0.0	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.9	
B7⑫	0.0	0.0		0.7	0.1	0.0	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	3.6	1	0.0		3.6	4.4	
B7⑬	0.0	0.0		0.8	0.1	0.1	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	6.4	4	0.0		6.4	7.4	
B7⑭	0.0	0.0		0.7	0.1	0.0	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.8	
B8③	0.0	0.0		0.4	0.1	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.5	
B8④	0.1	0.1	2	0.8	0.1	0.0	0.9	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.0	
B8⑤	0.1	0.1	2	0.8	0.1	0.0	0.9	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.0	
B8⑥	0.1	0.1	6	0.5	0.3	0.3	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.2	
B8⑦	0.1	0.1	2	0.4	0.1	0.2	0.7	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.8	
B8⑧	0.0	0.0		0.8	0.1	0.0	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	13.8	2	0.0		13.8	14.7	
B8⑨	0.1	0.1	1	1.3	0.1	0.0	1.4	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.5	
B8⑩	0.0	0.0		1.4	0.1	0.0	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.5	
B8⑪	0.0	0.0		0.8	0.1	0.0	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.9	
B8⑫	0.1	0.1	1	1.4	0.1	0.0	1.5	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.6	
B8⑬	0.0	0.0		1.0	0.1	0.1	1.2	1.2	0.0	0.0	0.0	5.3	1	0.0		5.3	6.5	
B8⑭	0.0	0.0		0.8	0.1	0.0	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.9	
B8⑮	0.1	0.1	1	0.9	0.1	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.1	
B8⑯	0.0	0.0		0.5	0.1	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.6	
C1-①	0.1	0.1	2	0.8	0.2	0.7	1.7	1.8	0.0	0.0	0.0	5.8	2	0.0		5.8	7.6	
C1-②	0.0	0.0		0.6	0.1	0.2	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	12.6	2	0.0		12.6	13.5	
C1-③	0.1	0.1	2	0.7	0.1	0.0	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	11.2	5	0.0		11.2	12.1	
C1-④	0.1	0.1	4	0.9	0.1	0.2	1.2	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.3	
C1-⑤	0.1	0.1	2	0.5	0.1	0.3	0.9	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.0	炭化種0.1g(1)
C1-⑥	0.1	0.1	1	0.6	0.1	0.4	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.2	
C1-⑦	0.1	0.1	2	0.3	0.1	0.0	0.4	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.5	
C1-⑧	0.1	0.1	1	0.3	0.1	0.1	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.6	
C1-⑨	0.0	0.0		0.4	0.1	0.4	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.9	
C1-⑩	0.0	0.0		0.6	0.1	0.1	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.8	
C1-⑪	0.1	0.1	4	0.7	0.2	0.5	1.4	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.5	
C1-⑫	0.1	0.1	5	0.4	0.1	0.1	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	20.8	6	0.0		20.8	21.5	
C1-⑬	0.1	0.1	1	0.5	0.1	0.1	0.7	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.8	
C1-⑭	0.1	0.1	2	0.6	0.1	0.1	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.9	
C1-⑮	0.1	0.1	2	0.6	0.1	0.1	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	8.8	5	0.0		8.8	9.7	
C1-⑯	0.1	0.1	1	0.4	0.1	0.1	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.7	
C2-①	0.1	0.1	1	0.1	0.2	0.2	0.5	0.6	1.6	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	2.2	
C2-②	0.0	0.0		0.2	0.1	0.3	0.6	0.6	2.9	0.0	0.0	9.2	7	0.0		9.2	12.7	
C2-③	0.1	0.1	1	0.5	0.1	0.1	0.7	0.8	0.0	0.0	0.0	2.90	10	0.0		2.90	2.98	
C2-④	0.1	0.1	1	0.9	0.1	0.1	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.2	
C2-⑤	0.1	0.1	4	0.6	0.1	0.6	1.3	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.4	炭化種0.1g(2)
C2-⑥	0.1	0.1	3	0.5	0.1	0.4	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	2.7	2	0.0		2.7	3.8	
C2-⑦	0.0	0.0		0.7	0.1	0.0	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.8	
C2-⑧	0.1	0.1	1	0.5	0.1	1.2	1.8	1.9	0.0	0.0	0.0	2.5	3	0.0		2.5	4.4	
C2-⑨	0.1	0.1	2	0.8	0.1	0.2	1.1	1.2	3.7	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	4.9	
C2-⑩	0.1	0.1	2	0.7	0.2	0.2	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.2	
C2-⑪	0.1	0.1	3	0.6	0.1	0.1	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	5.8	3	0.0		5.8	6.7	
C2-⑫	0.1	0.1	2	0.6	0.1	0.1	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	2.1	3	0.0		2.1	3.0	
C2-⑬	0.0	0.0		0.3	0.1	0.3	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.7	
C2-⑭	0.1	0.1	1	0.5	0.1	0.4	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	3.2	1	0.0		3.2	4.3	
C2-⑮	0.0	0.0		0.6	0.1	0.1	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.8	
C2-⑯	0.0	0.0		0.6	0.1	0.5	1.2	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.2	
C3-①	0.1	0.1	1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.4	
C3-②	0.0	0.0		0.1	0.1	0.1	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	20.8	5	0.0		20.8	21.1	
C3-③	0.0	0.0		0.1	0.1	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	17.8	6	0.0		17.8	18.0	

* カッコ内は個数

表12 3区鍛冶工房土壌サンプル集計表(6)

出土位置	粒状滓(g)		鍛造剥片(g)				粒状滓・鍛造剥片合計(g)	鉄滓(滓)(g)	炉壁(g)	炭化材(g)	土器(g)		羽口(g)		その他の微細遺物合計(g)	微細遺物合計(g)	備考
	～2.0mm	合計(g)	個数	～0.8mm	0.8～2.0mm	2.0mm～					合計(g)	個数	個数	個数			
C3-④	0.0	0.0		0.2	0.1	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	122	4	0.0		122	125	
C3-⑤	0.1	0.1	1	0.6	0.1	0.1	0.8	0.9	0.0	0.0	5.1	6	0.0		5.1	6.0	
C3-⑥	0.1	0.1	1	0.2	0.1	2.3	2.6	2.7	0.0	0.0	4.3	7	0.0		4.3	7.0	
C3-⑦	0.0	0.0		0.2	0.1	0.1	0.4	0.4	0.0	0.0	28	6	0.0		28	32	
C3-⑧	0.0	0.0		0.2	0.1	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	124	4	0.0		124	127	
C3-⑨	0.0	0.0		0.1	0.1	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	4.3	3	0.0		4.3	4.5	
C3-⑩	0.1	0.1	1	0.2	0.1	0.0	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.4	
C3-⑪	0.0	0.0		0.1	0.1	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.2	
C3-⑫	0.0	0.0		0.7	0.1	0.1	0.9	0.9	0.0	0.0	23	3	0.0		23	32	
C3-⑬	0.1	0.1	2	0.3	0.1	0.0	0.4	0.5	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.5	
C3-⑭	0.1	0.1	2	0.3	0.1	0.0	0.4	0.5	0.0	0.0	0.8	3	0.0		0.8	1.3	
C3-⑮	0.0	0.0		0.1	0.1	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.2	
C3-⑯	0.0	0.0		0.1	0.1	0.1	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.3	
C4-①	0.0	0.0		0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.0	0.0	8.2	4	0.0		8.2	8.6	
C4-②	0.1	0.1	7	0.3	0.5	4.3	5.1	5.2	14.8	0.0	0.0		0.0		0.0	20.0	
C4-③	0.1	0.1	3	0.3	0.1	0.2	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.7	
C4-④	0.0	0.0		0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.0	0.0	122	5	0.0		122	126	
C4-⑤	0.0	0.0		0.4	0.1	0.1	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.6	
C4-⑥	0.1	0.1	1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.4	
C4-⑦	0.0	0.0		0.3	0.1	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	1.9	3	0.0		1.9	2.3	
C4-⑧	0.1	0.1	3	0.6	0.1	0.0	0.7	0.8	0.0	0.0	32	3	0.0		32	4.0	
C4-⑨	0.1	0.1	1	0.6	0.1	0.0	0.7	0.8	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.8	
C4-⑩	0.0	0.0		0.1	0.1	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.2	
C4-⑪	0.0	0.0		0.4	0.1	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	20	1	0.0		20	2.5	
C4-⑫	0.1	0.1	1	0.1	0.1	0.2	0.4	0.5	0.0	0.0	7.0	3	0.0		7.0	7.5	
C4-⑬	0.0	0.0		0.5	0.1	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.6	
C4-⑭	0.0	0.0		0.5	0.1	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.6	
C4-⑮	0.0	0.0		0.5	0.1	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.6	
C5-①	0.1	0.1	54	1.3	1.3	1.9	4.5	4.6	6.9	0.0	146	4	0.0		146	26.1	炭化種0.1g(1)
C5-②	0.1	0.1	10	1.2	0.2	0.1	1.5	1.6	0.0	0.0	27	5	0.0		27	4.3	
C5-③	0.1	0.1	4	1.1	0.1	0.2	1.4	1.5	0.0	0.0	140	11	0.0		140	15.5	
C5-④	0.1	0.1	1	1.3	0.1	0.4	1.8	1.9	0.0	0.0	136	8	0.0		136	15.5	
C5-⑤	0.1	0.1	1	1.3	0.1	0.1	1.5	1.6	0.0	0.0	5.0	3	0.0		5.0	6.6	
C5-⑥	0.1	0.1	9	1.1	0.1	0.1	1.3	1.4	0.0	0.0	3.5	3	0.0		3.5	4.9	
C5-⑦	0.1	0.1	4	0.8	0.2	0.1	1.1	1.2	0.0	0.0	3.5	5	0.0		3.5	4.7	
C5-⑧	0.1	0.1	1	0.5	0.1	0.1	0.7	0.8	0.0	0.0	148	13	0.0		148	15.6	
C5-⑨	0.1	0.1	5	1.1	0.1	0.1	1.3	1.4	0.0	0.0	7.7	4	0.0		7.7	9.1	
C5-⑩	0.1	0.1	3	0.9	0.1	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0	3.1	4	0.0		3.1	4.2	
C5-⑪	0.1	0.1	5	1.1	0.1	0.1	1.3	1.4	0.0	0.0	3.4	5	0.0		3.4	4.8	
C5-⑫	0.1	0.1	1	1.1	0.1	0.1	1.3	1.4	0.0	0.0	142	6	0.0		142	15.6	
C5-⑬	0.0	0.0		0.9	0.1	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	1.2	2	0.0		1.2	2.2	
C5-⑭	0.0	0.0		0.3	0.1	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	6.6	3	0.0		6.6	7.0	
C5-⑮	0.1	0.1	2	0.3	0.1	0.0	0.4	0.5	0.0	0.0	8.8	7	0.0		8.8	9.3	
C5-⑯	0.1	0.1	2	0.6	0.1	0.0	0.7	0.8	0.0	0.0	1.3	3	0.0		1.3	2.1	
C6-①	0.1	0.1	1	0.6	0.1	0.0	0.7	0.8	0.0	0.0	21.4	13	0.0		21.4	22.2	
C6-②	0.0	0.0		0.8	0.1	0.1	1.0	1.0	0.0	0.0	14.8	8	0.0		14.8	15.8	
C6-③	0.1	0.1	1	0.4	0.1	0.1	0.6	0.7	0.0	0.0	2.5	2	0.0		2.5	3.2	
C6-④	0.0	0.0		0.8	0.1	0.0	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.9	
C6-⑤	0.1	0.1	2	0.8	0.1	0.1	1.0	1.1	0.0	0.0	35.2	15	0.0		35.2	36.3	
C6-⑥	0.1	0.1	2	0.5	0.1	0.1	0.7	0.8	0.0	0.0	9.2	8	0.0		9.2	10.0	
C6-⑦	0.0	0.0		0.8	0.1	0.2	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.1	
C6-⑧	0.1	0.1	4	0.9	0.1	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0	1.9	2	0.0		1.9	3.0	
C6-⑨	0.0	0.0		0.6	0.1	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	30.8	10	0.0		30.8	31.5	
C6-⑩	0.0	0.0		1.0	0.1	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0	3.5	2	0.0		3.5	4.6	
C6-⑪	0.0	0.0		0.7	0.1	0.0	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.8	
C6-⑫	0.1	0.1	1	0.7	0.2	0.0	0.9	1.0	0.0	0.0	6.1	3	0.0		6.1	7.1	
C6-⑬	0.0	0.0		1.2	0.1	0.0	1.3	1.3	0.0	0.0	26.0	13	0.0		26.0	27.3	
C6-⑭	0.0	0.0		0.6	0.1	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	7.0	5	0.0		7.0	7.7	
C6-⑮	0.0	0.0		1.5	0.1	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0	6.1	5	0.0		6.1	7.7	
C7-①	0.1	0.1	1	0.9	0.1	0.1	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.2	
C7-②	0.0	0.0		0.9	0.1	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	3.6	3	0.0		3.6	4.6	
C7-③	0.1	0.1	12	1.1	0.4	0.1	1.6	1.7	1.1	0.0	0.0		0.0		0.0	2.8	
C7-④	0.1	0.1	5	0.6	0.2	0.0	0.8	0.9	0.9	0.0	0.0		0.0		0.0	1.8	
C7-⑤	0.1	0.1	1	0.9	0.1	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0	3.0	2	0.1	1	3.1	4.2	
C7-⑥	0.1	0.1	2	2.0	0.1	0.1	2.2	2.3	0.0	0.0	4.7	3	0.0		4.7	7.0	
C7-⑦	0.1	0.1	3	1.5	0.1	0.0	1.6	1.7	0.0	0.0	24.8	5	0.0		24.8	26.5	
C7-⑧	0.0	0.0		0.6	0.1	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.7	
C7-⑨	0.1	0.1	1	1.6	0.1	0.0	1.7	1.8	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.8	
C7-⑩	0.0	0.0		1.3	0.2	0.1	1.6	1.6	0.0	0.0	9.8	2	0.0		9.8	11.4	
C7-⑪	0.0	0.0		1.5	0.1	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.6	
C7-⑫	0.0	0.0		0.2	0.1	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.3	
C7-⑬	0.1	0.1	2	1.3	0.1	0.0	1.4	1.5	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.5	
C7-⑭	0.0	0.0		1.4	0.2	0.1	1.7	1.7	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.7	鉄床石5.4g(1)
C7-⑮	0.0	0.0		0.9	0.1	0.4	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	1.4	
C7-一括	0.0	0.0		0.6	0.1	0.0	0.7	0.7	0.0	0.1	0.0		0.0		0.1	0.8	

*カッコ内は個数

表13 3区鍛冶工房土壌サンプル集計表(7)

出土位置	粒状滓(g)			鍛造剥片(g)				粒状滓・鍛造剥片合計(g)	鉄滓(滓)(g)	炉壁(g)	炭化材(g)	土器		羽口		その他の微細遺物合計(g)	微細遺物合計(g)	備考
	～20mm	合計(g)	個数	～0.8mm	0.8～20mm	20mm～	合計(g)					(g)	個数	個数	個数			
C8-①	0.1	0.1	1	1.6	0.1	0.0	1.7	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	
C8-②	0.1	0.1	2	1.6	0.1	0.0	1.7	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	
C8-③	0.1	0.1	2	1.8	0.1	0.0	1.9	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	
C8-④	0.0	0.0		1.0	0.1	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	
C8-⑤	0.0	0.0		0.5	0.1	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	
C8-⑥	0.0	0.0		1.4	0.1	0.0	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	
C8-⑦	0.0	0.0		0.4	0.1	0.1	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	
C8-⑧	0.0	0.0		0.8	0.1	0.0	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	
C8-⑨	0.0	0.0		0.4	0.0	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.6	
C8-⑩	0.0	0.0		0.8	0.0	0.0	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	2.4	1	0.0	0.0	2.4	3.2	
C8-⑪	0.0	0.0		0.6	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	
C8-⑫	0.1	0.1	1	1.2	0.1	0.0	1.3	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	
D-1-①	0.1	0.1	1	0.6	0.1	0.1	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	1.5	2	0.0	0.0	1.5	2.4	
D-1-②	0.1	0.1	2	0.6	0.1	0.1	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	3	0.7	1.6	
D-1-③	0.1	0.1	3	0.4	0.1	0.1	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	3.3	2	0.0	0.0	3.3	4.0	
D-1-④	0.1	0.1	7	0.7	0.1	0.3	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	9.2	2	0.0	0.0	9.2	10.4	
D-1-⑤	0.1	0.1	8	2.8	1.0	0.7	4.5	4.6	0.0	0.0	0.2	7.4	8	0.1	2	7.7	12.3	
D-1-⑥	0.1	0.1	9	1.5	0.2	0.3	2.0	2.1	0.0	0.0	0.0	11.4	3	0.0	0.0	11.4	13.5	
D-1-⑦	0.1	0.1	1	1.3	0.1	0.0	1.4	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	
D-1-⑧	0.0	0.0		1.7	0.1	0.0	1.8	1.8	0.0	0.0	0.0	6.9	3	0.0	0.0	6.9	8.7	
D-1-⑨	0.1	0.1	3	1.6	0.4	0.5	2.5	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	2	0.2	2.8	
D-1-⑩	0.1	0.1	7	1.6	0.2	0.2	2.0	2.1	0.0	0.0	0.0	2.1	2	0.0	0.0	2.1	4.2	
D-1-⑪	0.1	0.1	2	1.1	0.1	0.0	1.2	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	
D-1-⑫	0.1	0.1	5	1.8	0.4	0.7	2.9	3.0	5.6	0.0	0.0	2.5	1	0.1	1	2.6	11.2	鉄床石0.3g(2)
D-1-⑬	0.1	0.1	3	0.8	0.1	0.0	0.9	1.0	0.0	0.0	0.0	3.0	4	0.0	0.0	3.0	4.0	
D-1-⑭	0.1	0.1	6	1.9	0.6	0.4	2.9	3.0	0.0	0.0	0.0	8.8	9	0.0	0.0	8.8	11.8	
D-1-⑮	0.1	0.1	1	1.3	0.1	0.0	1.4	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	
D-2-①	0.1	0.1	5	4.1	0.5	0.7	5.3	5.4	1.1	0.0	0.0	2.6	4	0.0	0.0	2.6	9.1	鉄床石0.9g(3)
D-2-②	0.1	0.1	3	2.0	0.2	0.6	2.8	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	
D-2-③	0.1	0.1	29	3.4	1.2	1.0	5.6	5.7	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0	10.8	9	10.8	21.7	炭化種0.1g(3)
D-2-④	0.3	0.3	157	5.8	8.4	12.6	26.8	27.1	9.5	0.0	0.0	3.5	3	0.0	0.0	3.5	40.1	鉄床石6.1g(9) 炭化種0.1g(6)
D-2-⑤	0.1	0.1	3	2.3	0.2	0.1	2.6	2.7	0.0	0.0	0.0	3.7	2	0.0	0.0	3.7	6.4	鉄床石0.4g(1) 炭化種0.1g(2)
D-2-⑥	0.1	0.1	3	3.3	0.2	0.1	3.6	3.7	0.0	0.0	0.0	9.6	4	0.0	0.0	9.6	13.3	
D-2-⑦	0.3	0.3	292	8.1	11.0	11.2	30.3	30.6	34.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	10	3.4	68.0	鉄床石1.3g(8) 炭化種0.1g(6)
D-2-⑧	1.4	1.4	855	19.4	39.4	51.9	110.7	112.1	143.4	0.0	0.2	2.4	5	30.0	60	32.6	288.1	鉄床石3.0g(19) 炭化米0.1g(1)
D-2-⑨	0.1	0.1	2	2.5	0.3	0.1	2.9	3.0	0.0	0.0	0.0	1.4	4	0.0	0.0	1.4	4.4	炭化種0.1g(2)
D-2-⑩	0.1	0.1	1	2.3	0.2	0.6	3.1	3.2	0.0	0.0	0.0	1.7	3	0.0	0.0	1.7	4.9	炭化種0.1g(6)
D-2-⑪	0.1	0.1	15	2.2	0.5	0.4	3.1	3.2	0.0	0.0	0.0	10.8	2	0.0	0.0	10.8	14.0	炭化種0.1g(2)
D-2-⑫	0.1	0.1	13	0.9	0.4	2.7	4.0	4.1	0.0	0.0	0.0	3.7	1	0.0	0.0	3.7	7.8	鉄床石0.1g(1) 炭化種0.1g(3)
D-2-⑬	0.1	0.1	2	1.5	0.1	0.1	1.7	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	炭化種0.1g(3)
D-2-⑭	0.1	0.1	2	1.9	0.2	0.1	2.2	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	
D-2-⑮	0.1	0.1	8	0.9	0.4	0.5	1.8	1.9	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.7	炭化種0.1g(1)
D-2-⑯	0.1	0.1	6	1.7	0.3	0.9	2.9	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	鉄床石0.3g(1)
D-4-⑩	0.1	0.1	4	0.9	0.2	0.0	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	4.7	1	0.0	0.0	4.7	5.9	
D-4-⑪	0.1	0.1	6	1.8	0.4	0.2	2.4	2.5	4.9	0.0	0.0	4.0	2	0.0	0.0	4.0	11.4	
D-4-⑫	0.1	0.1	1	0.7	0.1	0.5	1.3	1.4	0.0	0.0	0.0	2.9	1	0.0	0.0	2.9	4.3	
D-5-①	0.1	0.1	3	1.0	0.1	1.5	2.6	2.7	0.0	0.0	0.0	2.4	1	0.0	0.0	2.4	5.1	
D-5-②	0.1	0.1	1	1.0	0.1	0.2	1.3	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	
D-5-③	0.1	0.1	1	0.8	0.1	0.1	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	
D-5-④	0.1	0.1	3	0.8	0.1	0.0	0.9	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	
D-5-⑤	0.1	0.1	12	0.7	0.7	0.8	2.2	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	
D-6-①	0.1	0.1	1	0.7	0.1	0.3	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	8.6	4	0.0	0.0	8.6	9.8	
D-6-②	0.1	0.1	1	1.0	0.1	0.0	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	21.6	5	0.0	0.0	21.6	22.8	
D-6-③	0.0	0.0		0.4	0.0	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	6.8	1	0.0	0.0	6.8	7.2	
D-6-④	0.1	0.1	1	0.6	0.1	0.0	0.7	0.8	0.0	0.0	0.0	21.6	2	0.0	0.0	21.6	22.4	
D-6-⑤	0.0	0.0		0.7	0.1	0.1	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	
D-6-⑥	0.0	0.0		1.0	0.1	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	6.4	2	0.0	0.0	6.4	7.5	炭化種0.1g(1)
D-6-⑦	0.0	0.0		0.4	0.1	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	17.2	4	0.0	0.0	17.2	17.7	
D-6-⑧	0.1	0.1	5	0.9	0.1	0.2	1.2	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	
D-7一括	0.5	0.5	260	15.6	16.4	12.6	44.6	45.1	124.4	0.0	0.1	46.4	17	14.4	10	60.9	230.4	鉄床石1.1g(10) 炭化米0.1g(1)
D一括	0.2	0.2	122	2.3	2.6	3.7	8.6	8.8	33.0	0.0	0.0	21.0	9	0.0	0.0	21.0	62.8	鉄床石13.4g(1)
E-7一括	0.1	0.1	40	3.5	2.1	1.4	7.0	7.1	0.0	0.0	0.0	5.4	3	2.3	4	7.7	14.8	鉄床石0.1g(2) 炭化種0.1g(8)
E-8一括	0.1	0.1	29	2.4	1.5	1.3	5.2	5.3	7.5	0.0	0.0	13.6	10	0.0	0.0	13.6	26.4	鉄床石0.1g(1)
合計	436	436	8837	628.4	337.2	393.0	1358.6	1402.2	958.1	0.0	1.9	2710.5	1365	136.9	227	2849.3	5209.6	

*カッコ内は個数

第5節 自然科学分析の成果

1. 南原千軒遺跡SD7出土炭化材放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
小林紘一・丹生越子・伊藤茂・廣田正史・瀬谷薫
Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎

(1) はじめに

南原千軒遺跡は鳥取県東伯郡琴浦町に所在する。同遺跡において鎌倉時代(12～13世紀代)とされる堀を伴う屋敷跡が検出された。屋敷跡を囲む堀跡から出土した椀形鍛冶滓に含まれていた炭化材を試料として、加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。同遺跡では屋敷跡の他に屋敷跡と同時代とされる鍛冶工房が検出されている。放射性炭素年代測定の目的は、鍛冶工房の操業時期と堀跡の埋没年代を検討する資料を得ることである。

試料の調製は廣田、瀬谷、Lomtadze、Jorjolianiが行い、測定は小林、丹生、伊藤が行なった。本文は伊藤、中村が作成した。

(2) 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表14のとおりである。

試料は、屋敷の堀跡とされるSD7(溝)より出土した椀形鍛冶滓に含まれていた微小な炭化材2点である。試料No.1(PLD-8945)を含む椀形鍛冶滓は⑪層、試料No.2(PLD-8946)を含む椀形鍛冶滓は⑫層より出土した。試料No.1と2は、いずれも木材の部位と年輪数が不明である。

試料は調製後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS: NEC製 1.5SDH)を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

(3) 結果

表14 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-8945	遺跡名：南原千軒遺跡 遺構：SD7(溝) 層位：⑪層 試料No.1(構成No⑤) その他：屋敷の堀跡、椀形鍛冶滓中の炭化材	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N) サルフィックス
PLD-8946	遺跡名：南原千軒遺跡 遺構：SD7(溝) 層位：⑫層 試料No.2(構成No④) その他：屋敷の堀跡、椀形鍛冶滓中の炭化材	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.25N,塩 酸:1.2N)

表15に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代範囲を、図62に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代(yrBP)の算出には、¹⁴Cの

半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差($\pm 1\sigma$)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期 5730 ± 40 年)を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の暦年較正にはOxCal3.10(較正曲線データ:INTCAL04)を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

(4) 考察

表15 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-8945 試料No.1 (構成No.50)	-24.42 ± 0.20	1089 ± 23	1090 ± 25	895AD(23.8%) 920AD 945AD(44.4%) 990AD	<u>890AD(95.4%) 1020AD</u>
PLD-8946 試料No.2 (構成No.49)	-24.41 ± 0.22	896 ± 23	895 ± 25	<u>1040AD(31.1%) 1090AD</u> 1120AD(9.8%) 1140AD 1150AD(27.3%) 1190AD	<u>1040AD(95.4%) 1220AD</u>

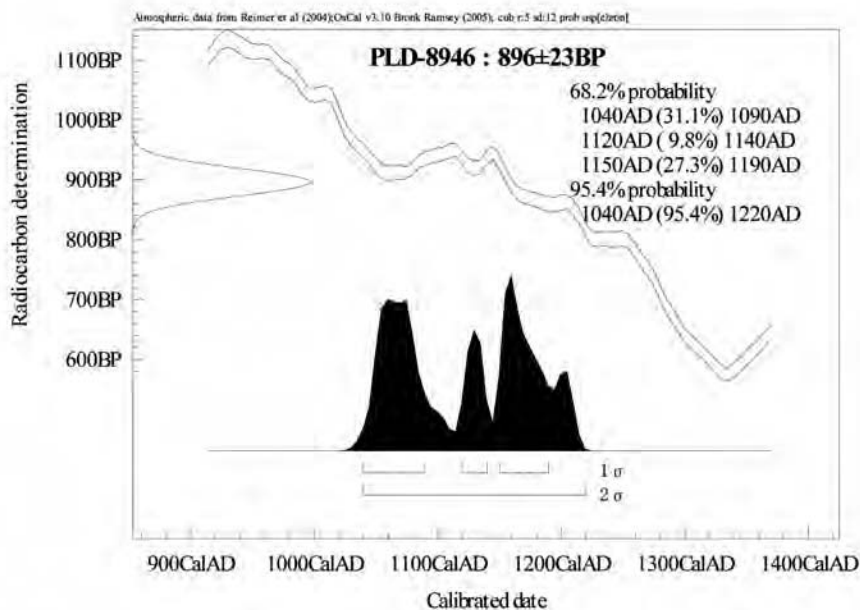
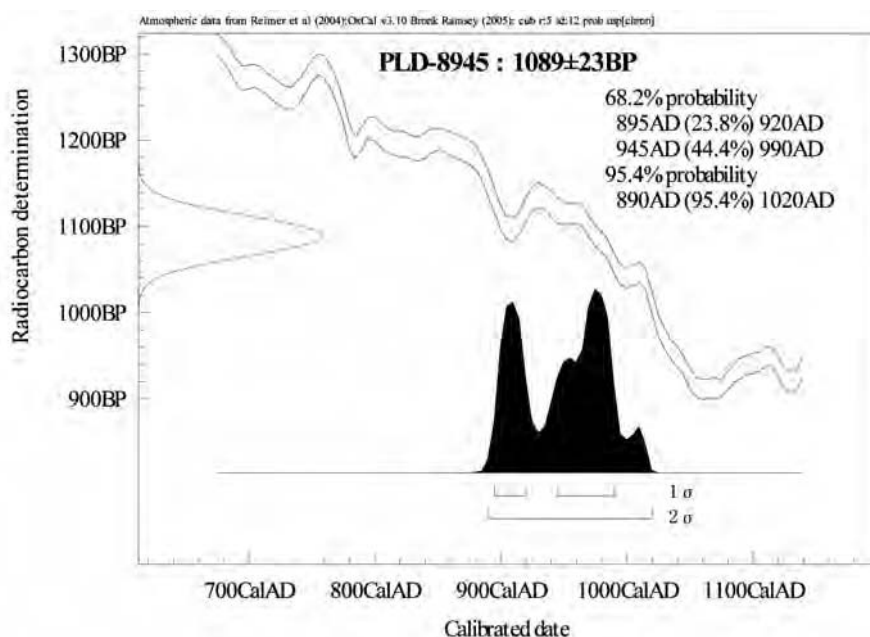
試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。以下、 2σ 暦年代範囲に着目して暦年較正結果を整理する。 2σ 暦年代範囲は、95.4%の確率で年代がこの範囲に収まることを意味する。

試料No.1(PLD-8945)の 2σ 暦年代範囲は、890-1020calAD(95.4%)であり、9世紀末から11世紀前半に相当する。試料No.2(PLD-8946)の 2σ 暦年代範囲は、1040-1220calAD(95.4%)であり、11世紀中頃から13世紀前半に相当する。発掘調査所見による12～13世紀代という堀跡の年代に比べ、試料No.1はおおむね整合的であり、試料No.2は整合的である。

なお、木材の¹⁴C年代が示すのは、その部分の年輪が形成された年代である。最外年輪を試料とした場合、その年代が示すのは枯死あるいは伐採の年代であり、木材が利用された年代に近いと考えることができる。一方、最外年輪より内側の部位を試料とした場合、その年代が示すのは枯死あるいは伐採の年代よりも古い年代である。これは古木効果と呼ばれる。今回の測定試料は、いずれも部位が不明であり、年代の評価にあたって古木効果の影響を考慮する必要がある。

参考文献

中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代. 3-20.
 Ramsey, C.B. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.
 Ramsey, C.B. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.
 Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Bertrand, C.J.H., Blackwell, P.G., Buck, C.E., Burr, G.S., Cutler, K.B., Damon, P.E., Edwards, R.L., Fairbanks, R.G., Friedrich, M., Guilderson, T.P., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Ramsey, C.B., Reimer, R.W., Remmele, S., Southon, J.R., Stuiver, M., Talamo, S., Taylor, F.W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C.E. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP. Radiocarbon, 46, 1029-1058.



第62図 南原千軒遺跡出土炭化材暦年較正結果

第6節 南原千軒遺跡の総括

はじめに

南原千軒遺跡は、縄文時代から中世に至る複合遺跡である。平成16・17年度調査分を合わせると縄文時代後期の竪穴住居1棟、弥生時代中期から後期の自然流路3条、土坑9基、古墳時代後期・終末期の竪穴住居4棟、溝1条、土坑1基、平安時代前期の溝3条、そして鎌倉時代から室町時代の溝2条、自然流路3条、掘立柱建物7棟、墓1基、鍛冶工房1ヶ所、土坑38基などを検出している。当地が各時代にわたって人々が諸活動を営むために適した地であったことが窺える。このうち、中世の屋敷地と溝からなる本遺跡は今回の調査によって、方形館跡であることが判明した。

本節では、中世の調査成果に焦点をしばり、館跡としての南原千軒遺跡の性格と意義についてまとめを行いたい。

1. 南原千軒遺跡出土土器の様相

今年度の調査によって、土師器、須恵器、勝間田系須恵器、備前焼、瀬戸・美濃焼、常滑焼、瓦質土器、中国産の陶磁器などが出土している。国内産の土器・陶磁器の内訳は、在地産の土師器が約8割を占め、備前焼が1割と続く(第63図)。これらは、11世紀後半から15世紀にかけての時間幅が見られるが、当該期における産地別の組成をある程度反映しているものと思われる。本論では過去の調査分を含め出土土器・陶磁器を整理する。

(1) 土師器

県内の中世前期の土師器坏・皿は中森祥、玉木秀幸によって編年案が提示されている(表16、中森2005、玉木2006)。ここでは、その成果に基づき量的に最もまとまって出土したSD7出土土師器で検討したい。ただし、口径・器高がわかるものが少ないため、玉木分類による底径の計測値を主に見ていくことにする。

4区の坏14点の底径は4.1～9.0cm。平均5.6cmで玉木編年Ⅱ期6段階(以下、時期・段階のみ表記)である。5区の坏10点の底径は5.0～7.4cm。平均6.2cmとなり、Ⅱ期3～4段階に収まる。4区から出土した坏の底径が小型なのは、中世後期に堆積した上層出土土師器を含んでいることに起因するものと思われる。小皿は4区で口径10cmと底径3.6cmで、それぞれⅡ期1段階、Ⅱ期5段階に位置づけられる。5区は3点の底径が平均5.9cmでⅡ期1～3段階、1点はⅡ期1・2・4段階となる。4・5区の法量から判断すると、坏・小皿は12～13世紀代に該当する。

鍋は4区遺構外で56、5区SD7から95が出土している。56は内外面ハケ調整を施し、短縮した口縁が「く」字状に屈曲する。体部は直線的である。一方、95は口縁部が「く」字状に屈曲し、直線的に外傾し、体部は球状に丸味を帯びている。これは加藤裕一の分類によれば土師質鍋Ⅰ類に相当し、東伯耆では12世紀から13世紀前半に位置づけられる(加藤2007)。過去の調査資料を瞥見すると、Ⅰ類が平成16年度SD7で2点、SD4で1点、SK10で2点、平成17年度調査ではSK30で1点見られ、受け口状の鍋Ⅱ・Ⅲ類がほとんど認められない。また、同じ煮沸具のなかで土師質の羽釜が平成16年度SD4で1点、SK9で1点出土している。いずれも加藤分類の羽釜Ⅰ類に該当し、倉吉市大日寺遺跡予備トレンチ、三朝町福呂Ⅰ遺跡土坑8出土資料と形態が類似する。これらの資料はいずれも12世紀中頃から後半に相当する。

(2) 焼締陶器

a. 須恵器系

勝間田・亀山系は9点出土しており、遺構別では4区SD7で2点、5区SD7で1点、SD20で3点、4区包含層1点、5区包含層2点を数える。いずれも格子叩きをもつ甕で、内面はハケ調整が多い。平成16年度調査ではSK13出土須恵器の胎土分析を行い、勝間田産と推定された(白石2005)。また、SK15では勝間田系と考えられる須恵器が中森編年Ⅲ～Ⅳ期(12世紀代)の土師器小皿と共伴している(君嶋2005・2006)。そのほか、産地不明の須恵器が3点あり、このうち5区SD7出土94は、粘土紐巻き上げ成形で、内外面ナデ調整を施している。外面は光沢を帯び、色調は灰色で焼成が堅地であるなど勝間田系須恵器壺の可能性もある。また、SD19から底部粘土板と体部粘土紐との接合痕が残り、内外面ナデ調整を施す産地不明の須恵器壺36が認められる。

備前焼は、4区SD7上層と5区SD20、各区包含層から18点出土している。器種は播鉢16点、壺1点、小壺1点である。このうち播鉢は、重根分類(重根2003・2005)でⅣA～ⅣBに比定され、14世紀中葉から15世紀代に位置づけられる。

b. 瓷器系

常滑焼がある。常滑焼では甕片1点が4区SD7から出土している。口縁部の形態から中野分類6～7型式に相当し、14世紀前半代と考えられる(中野2005)。そのほか、非掲載であるが甕の体部破片がSD20で散見される(PL.26)。

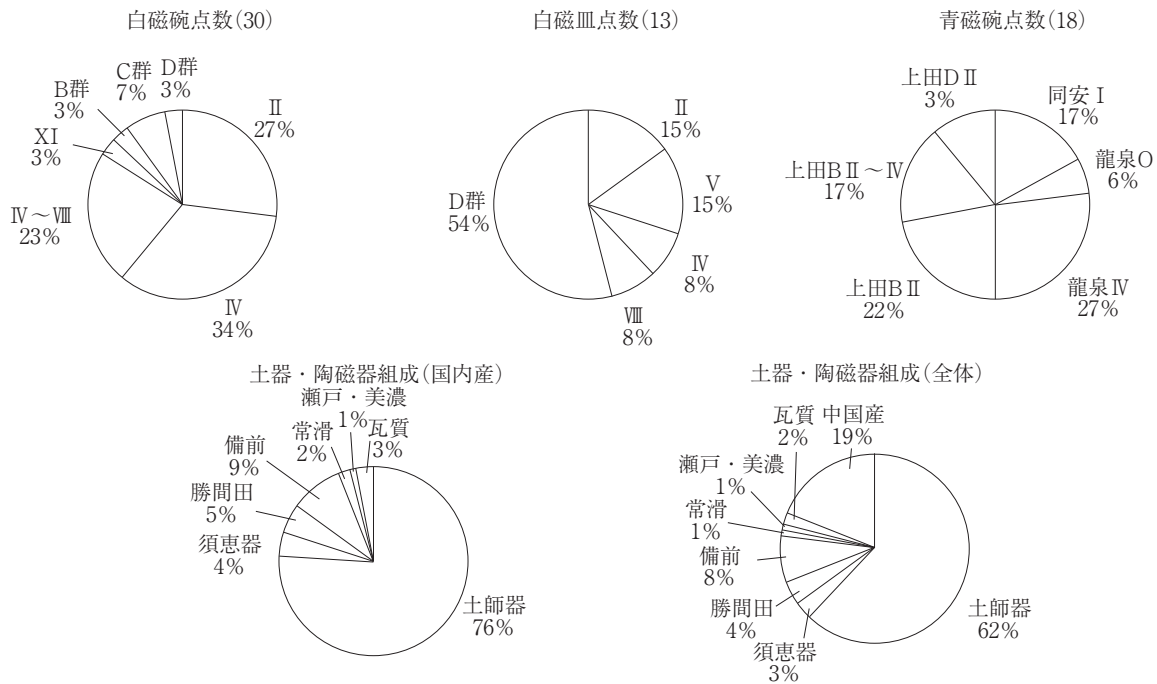
(3) 輸入陶磁器

今回の調査では白磁49点、青磁22点、青白磁2点、黒釉陶器4点、雑釉陶器1点の合計78点の貿易陶磁が出土した⁽¹⁾。平成16・17年度調査分26点(掲載分のみ)を合わせると104点となり、白磁が青磁の2倍以上となる。

第63図に貿易陶磁の器種組成を示している。白磁碗はⅣ類が3割を占め、Ⅳ～Ⅶ類を合わせると6割近くになることから中世前期が主体となる。白磁皿は中世前・後期が5割ずつとほぼ拮抗している。青磁碗も中世前・後期がそれぞれ半数を占めている。このことから、貿易陶磁は10世紀後半から12世紀代と14世紀後半以降の2時期に分かれ、13世紀から14世紀前半が空白となること、青花を伴わないことが本遺跡の特色である。なお、中世前期の貿易陶磁の1㎡あたりの出土点数は、4・5区で0.014点、調査地1～5区で0.010点である。西伯耆の中世集落である茶畑六反田遺跡・押平弘法堂遺跡で0.002

表16 中世土師器編年と南原千軒遺跡遺構変遷表

中森(2005)	年代観	玉木(2006)	年代観	調査地1・2区	調査地3区	調査地4・5区							
		I期	1段階 2段階	11世紀									
I期	11世紀末～12世紀初	II期	1段階	12世紀初頭～後半	SK5・15	SK3・6・7	SB2	SD7	SD4	SD7	SB6	SD7	
II期	12世紀		2段階		SK2	SK13・18・21	SB1	鍛冶工房	SK30	SK39			
III期			3段階		SK10								
IV期			4段階		SK12								
			5段階										
V期	13世紀前半	6段階	13世紀～14世紀前半										
14世紀後半～15世紀											SB4・5・6	SD19	SD20



第63図 貿易陶磁・国産陶磁器類の組成

点(榊原2005)、中世前期の屋敷地と想定される門前上屋敷遺跡では0.009点であり、南原千軒遺跡は後者に近い。この数値の差は一般集落と居館との違いを反映している可能性がある⁽²⁾。

2. 遺構の変遷

以上の出土土器の検討を踏まえ、遺跡内の遺構変遷について整理したい(第64図)。出土土器・陶磁器のおよそ6割を占め、当該期編年の基軸となる土師器は、中森編年Ⅱ～Ⅳ期、玉木編年Ⅱ期2～5段階の時間幅に相当し、およそ12世紀から13世紀前半に位置づけられる(表16)。玉木秀幸は、土師器の良好な一括資料が出土するSI2を3段階、SK10を4段階、SK12を5段階に位置づける(玉木2006)。これらの一括資料を基軸として他の遺構を見ていくと、土坑群は2段階から5段階の資料が混在する。屋敷墓であるSK2は和鏡の製作年代から12世紀後半代となる。大型建物SB1・2は、SB1の柱穴から蓮弁文を有する青磁椀が出土することから廃絶年代を13世紀初めと考える。SB2は年代を決定する出土遺物がないため確定できないが、SB1と主軸が異なることから同時存在よりも、時間差があったものと推定する。仮にそうであるならば、SB1に切られるSD4とほぼ軸が同じであるSB2をSB1より古く位置づけたい。鍛冶工房はSB2と近接するため両者は同時存在とは考えにくく、さらに、鍛冶炉3基を結ぶ主軸がSB1と同じであることから、両者はほぼ同時期であると考えた方が理解しやすい。屋敷地を回繞するSD7は、玉木編年Ⅱ期2段階から5段階を伴うことから、上限を12世紀前半、下限の最終埋没年代を13世紀初めまで下るものとした。

次に館外の様相を見ていこう。4区で検出された建物群SB4・5はほぼ主軸を同じくすることから同時存在と考える。SB4とSB7は重複するが、新旧関係は不明である。廃絶年代は、SB4柱穴から白磁椀D群が出土していることから、SB4・5は14世紀後半から15世紀に位置づけられる。そして、4区のSD7の一定範囲でこの時代に掘り返しが行われたことがわかっている。5区の自然流路であるSD20・21は重複関係からSD21が古く、SD20が続く。SD20の埋没年代は青磁椀や国産陶磁器などの出土から、14世紀後半から15世紀と考えられるが、下層を中心に白磁椀Ⅱ・Ⅳ類などが認められるこ

とから、上限は館跡とほぼ同じ12世紀まで遡る可能性が高い。

以上をまとめると、居館の成立年代はほぼ12世紀初頭、廃絶年代を13世紀初めとし、館外の建物群は14世紀後半から15世紀代に位置づけられよう。

3. 南原千軒遺跡における鉄・鉄器生産

南原千軒遺跡では、12世紀代の居館内の鍛冶工房が検出され、多量の鍛冶関連遺物が出土した。今回の調査でも、鉄滓や羽口など鍛冶関連遺物が出土遺物全体の中で主要な位置を占めている。そこで、過去の調査成果を踏まえ、遺跡全体の鉄・鉄器生産の様相をまとめてみたい。

(1) 鍛冶工房の構造

鍛冶工房は屋敷地内のほぼ中心部に位置し、東西約11m、南北約8mの範囲にわたって鍛冶炉3基、関連ピット32基、土坑2基が検出された。鍛冶炉3基は主軸をW-5°-Nにとって並んだ状態で検出されている。相互の間隔は、鍛冶炉1-2は約3m、鍛冶炉2-3は約2.5mである。工房域西端の鍛冶炉1を挟むようにP1・3が位置し、埋土中から粒状滓・鍛造剥片が合わせて約813g回収されている。鍛冶炉2は工房域のほぼ中心部にあり、東南方向にP16、南にP7が約0.9m間隔で位置する。P7からは粒状滓・鍛造剥片が890gと際立って多く出土している。鍛冶炉3周辺にはピットが密集しているが、このなかで微細遺物が100g以上回収されているものはP9(154g)、P10(258g)、P15(162g)である。鍛冶炉付近に位置するピットは径0.3~0.6mの不整形円で、断面形が桶状のP1・15・16と段状のP3・7・9の二形態に分かれる。いずれの埋土も木炭片や焼土粒を密に含み、粒状滓・鍛造剥片などの微細遺物も多いことが特徴である。このようなピットは鍛冶炉とセット関係を有していると考えられる。

平成17年度調査では8×6mの範囲に、25cmメッシュを組んで土壌を回収し、水洗・選別作業を実施している(第65図)。このうち、0.8mm目以上のフルイにかかった遺物を、①粒状滓、②鍛造剥片、③鍛冶滓、④炉壁、⑤炭化材、⑤土器片、⑥羽口に分類し集計を行った(表6~13)。

その結果、鍛冶工房では総重量6.4kgの鍛造剥片・粒状滓が回収されている。工房域で微細遺物が集中する地点は、鍛冶炉2の西側B4・5グリッドと鍛冶炉1の南側約1.5mのD2グリッドである。前者が鍛冶炉2に伴う鍛打作業の中心であった可能性が高い。また、後者はやや離れるが鍛冶炉1に伴うものと想定される。鍛冶炉3周辺は密度が低いが、サンプリング対象地外の東側で鍛打作業が行われていたものと推定される。

(2) 操業内容と規模

今年度調査地4・5区は居館の西端に当たるが、堀や包含層から多量の鍛冶関連遺物が出土している。4・5区から出土した鍛冶関連遺物は468点、重量約223kgである。調査地別では1・2区で645点、重量約100kg、3区で837点、重量約208kgであり、遺跡全体での総点数1950点、総重量531kgにのぼる。

4・5区での内訳は、鉄滓・鉄製品が約25kg、鉄床石・砥石・被熱石などの鍛冶具が約141kgである。このうち、112点の資料を構成し、構成外で被熱石などの関連資料を図示している(第60・61図)。遺物の特徴は、精錬工程の所産と考えられる1000gを超える大型の椀形鍛冶滓が多い点である。また、石製鍛冶具も4区を中心に出土しており平成17年度調査地3区と同様な状況となっている。鍛冶工房から約60m以上も離れている堀にわざわざ廃棄している状況から、おそらく堀全体が排滓場の役割を果たしていたものと考えられる。したがって、未調査地を含めた遺跡全体の鍛冶関連遺物の数量・重

量は現在の倍以上にのぼるものと推定される。

遺跡から出土した鉄製品の総数は125点である。その内訳は、鍛造品の工具として釘が最も多く39点、刀子7点、鋸3点、ヤリガンナ2点、武具の刀1点、鍬4点、釣針2点、不明品3点、鋳造品は鍋4点で全体の傾向として工具類が主体となっている。鍛冶工房域から出土した鉄製品は総数7点、そのうち3点は鍛冶炉1脇のP1から出土している。いずれも釘やその未製品であり、炭素量の高い鉄塊を除滓・脱炭する精錬鍛冶のほかに、工具類の製作や修復など鍛錬鍛冶が行われていたものと考えられる。

このことは、平成17年度調査で実施した鉄塊系遺物、鉄滓、粒状滓・鍛造剥片、鉄製品の金属学的分析でも明らかとなっている(小口2007)。以下、その要点をまとめる。

- ①構成資料や分析試料からは製錬滓に該当するものは認められず、製錬遺跡は本遺跡とは別の場所に存在することが指摘できる。
- ②鍛冶鉄塊系遺物は炭素量が低く、鍛冶炉によって不純物の成分調整のための精錬・鍛錬鍛冶がなされていたことが明らかとなった。
- ③鍛冶滓の多くが、精錬鍛冶工程で生成されたものである。

次に、操業規模と内容について県内における鍛冶関連遺跡と比較してみたい。中世前期の集落遺跡である鳥取市円護寺坂ノ下遺跡からは、掘立柱建物に伴う5基の鍛冶炉が検出されているが、回収された鋳造・鍛冶関連遺物はわずか11kg、鍛錬鍛冶工程が主体であったことが金属学的分析により明らかとなっている。日南町霞牛ノ尾遺跡では鍛冶炉は未検出であるが、中世後期の鉄滓溜を中心に鍛冶関連遺物117点、総重量約58kgが出土している。金属学的分析により、精錬から鍛錬鍛冶が一貫して行われていることが明らかとなっている。大山町門前鎮守山遺跡⁽³⁾では11～12世紀の段状遺構から椀形鍛冶滓、粒状滓・鍛造剥片、羽口、鉄床石など54点、総重量約2kgが出土している。さらに、隣接する門前上屋敷遺跡では包含層中から13～15世紀に比定される鍛冶関連遺物143点、総重量約6kgが回収された。円護寺坂ノ下遺跡のような鍛錬鍛冶を主眼に置いている遺跡や、門前鎮守山遺跡のような小規模な鍛冶操業であるなど遺跡によってその状況は異なるようである。いずれにしても、南原千軒遺跡が大規模かつ組織的に鉄素材と鉄製品を生産していたことが、これらの遺跡を見ても窺えるのである。

4. 居館の構造

これまでの南原千軒遺跡の調査をまとめると、平成16年度は主殿や墓を中心とした屋敷地主要部の調査、平成17年度は鍛冶工房域の調査、平成19年度は堀と館外の調査に分けることができる。そこで、居館としての南原千軒遺跡の構造について整理する。

(1) 堀

「堀と土塁に回繞された政治的かつ生活的空間」(広瀬2006)と領主居館を定義するならば、南原千軒遺跡は土塁の痕跡こそ確認されなかったが、領主居館の可能性をもつ有力候補である。広瀬和雄は、領主居館を形状・規模・構造などの諸要素から、いくつかに分類を行っているが、これまで「方形居館」と呼ばれてきたものをA型居館とし、方1町ものをA1型、方半町ものをA2型とする(広瀬前掲)。南原千軒遺跡は検出された東西の堀が80m以上に及ぶことから方1町規模のA1型に相当する。屋敷地の東には勝田川が北流するため、堀は四辺ではなく、勝田川を後背とした「コ」字状を呈する可能性

が高い。

回繞する堀は幅約2.5～3m、深さ1～1.5mで、堀底には仕切りのようなブリッジ状の高まりがあり、埋土はシルト層や砂質土であることから水が溜められた状態にあった可能性がある。また、日野尚志によって復元された調査地西側の条里地割と堀の方位が合致することから、条里地割に規制されていることが窺われる(日野1990)。中世前期の居館の多くが、条里地割が施行された平野に営まれること、当該期の屋敷地が1町程度の空間を占有することにも符合する。このようなA1型居館は、近畿およびその周辺では12世紀末頃に出現するようであり、南原千軒遺跡も出現期の居館として位置づけられる。

(2) 居館の内部構造

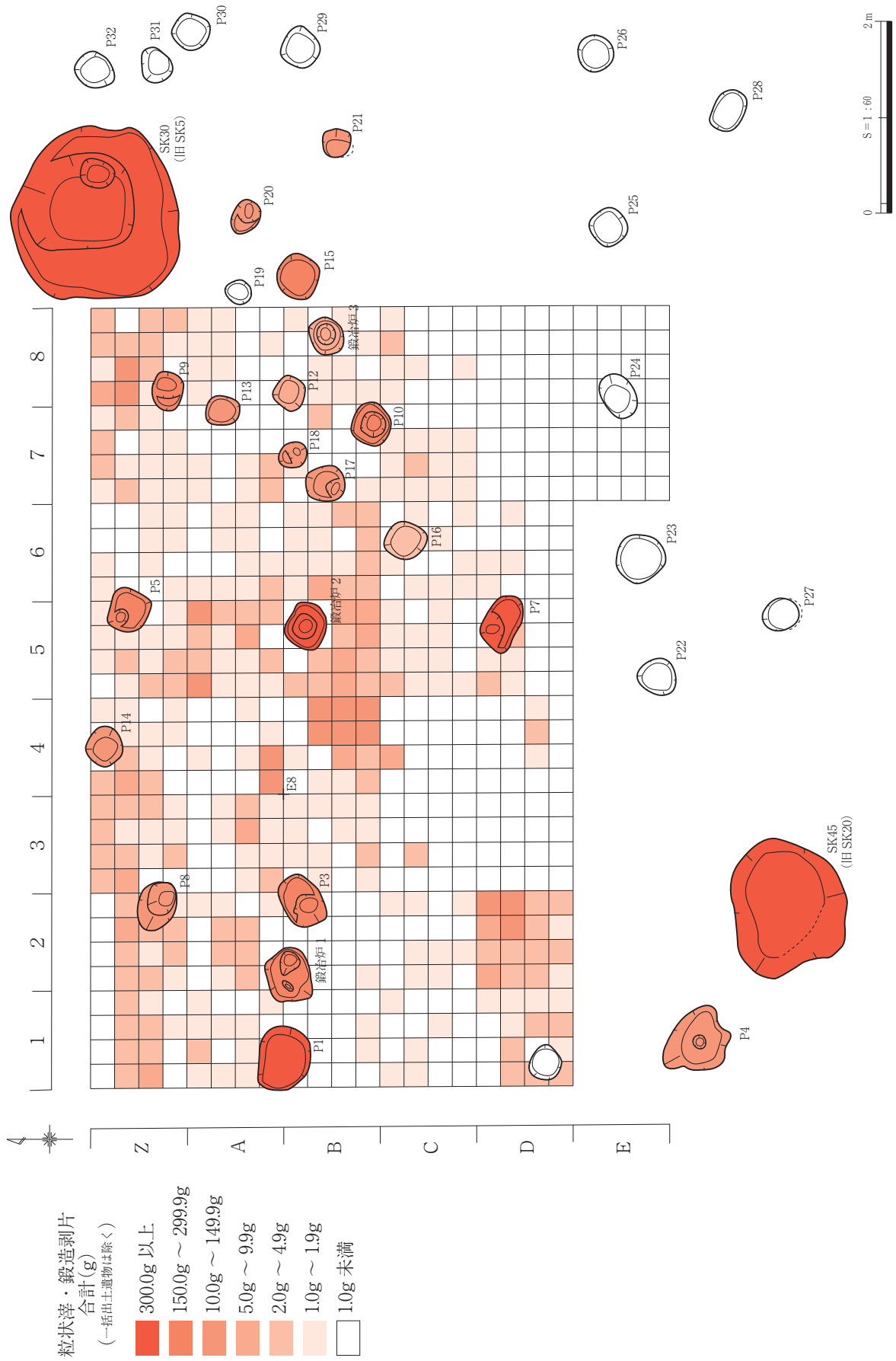
これまでの調査によって、居館内部の半分ほどが明らかになったにすぎないが、主要構造はある程度判明しているものと考えられる。まず、堀の南と西の2ヶ所から土橋状の入り口が確認されている。このうち西側の土橋の両脇には4基ずつのピットが配列され、そこから約4m東側に3間×3間の建物SB6がある。ピット列は柵の可能性が想定され、SB6は柱間が狭く小規模であることから、出入口に付随する見張り所のような施設だった可能性を想定したい。

屋敷地の東寄りに主殿としての大型建物2棟がある。SB1は桁行5間、梁行2間の庇付総柱建物で、底部分を含めた面積は約78㎡である。柱穴には唐から北宋に至る銅銭4枚(開元通寶、至道元寶、元祐通寶、元豊通寶)が確認されていることから、地鎮のために埋納されたものと考えられる(西川2005)。SB2は桁行5間、梁行2間の庇付総柱建物で、底部分を含めた面積は約66㎡である。両者は約18m離れ、軸線の交わる角度が80°と直交しない。さらに、SB2の南東には桁行3間、梁行1間、面積約14㎡の小規模建物がある。このような建物群は北側の調査地外にも存在するものと想定される。また、2区西側から4区にかけて遺構が稀薄なのは、この周辺が大きな削平や攪乱を受けていたためであり、本来はさらに建物などが存在していた可能性がある。

大型建物の周囲には大小の25基以上の土坑が散在し、日常雑器や鉄器などが大型礫を伴って廃棄されている。土坑は約1～2.5mの中小型、6m以上の大型⁽⁴⁾のものに分かれ、形態はさまざまである。とくに口縁を意図的に打ち欠いた土師器坏・小皿が多いことから、儀式に伴う宴会などで消費されたものが廃棄されたのであろうか。

大型建物SB1の約10m東側に屋敷墓がある。長軸約1.7m、短軸約1m、深さ約20cmの長方形を呈し、和鏡1面と輪状鉄製品が出土している。和鏡は山吹双鳥鏡であり、紐座は振菊座となる。文様構成や紐座の形態などから12世紀半ば頃の製作と考えられる(西川2005)。なお、橋田正徳によると屋敷墓は主に百姓層(名主層)に受容されたことを論じているが(橋田1991)、狭川真一は、12世紀後半から13世紀中頃に西日本で主体的に見出される屋敷墓造営の主体者を在地領主層と想定している(狭川2006)。

館内のほぼ中心部には、東西約11m、南北約8mの範囲に鍛冶炉を中心とした工房跡が検出された。明確な上屋は確認されていないが、鍛冶炉3基が東西方向に並んでおり、周囲には関連ピット約30基が付随する。工房内には、鍛冶関連遺物が一括廃棄された土坑が1基あり、鉄塊系遺物、椀形鍛冶滓、鉄床石、石鎚、砥石、被熱礫と白磁碗Ⅳ類と中森分類Ⅲ期の土師器小皿が共伴している。また、堀に廃棄された椀形鍛冶滓2点の放射性炭素年代測定(AMS法)の結果では、9世紀末から11世紀前半、11世紀中頃から13世紀前半の暦年代が出されている。



第65図 鍛冶工房出土微細遺物重量分布図

5. 南原千軒遺跡の性格と意義

県内および周辺地域における館跡を概観してみたい。現在中世の館跡⁽⁵⁾とされる遺跡は36遺跡を数えるが、その全容が窺える遺跡は数少ない(山川2002、錦織2004)。館跡と断定はできないまでも、溝の規模と形状から推測されるものを見ていきたい。鳥取市秋里遺跡には、長さ約26m、幅約2m、深さ約0.7m箱掘状の溝があり、鍋や土師器小皿が数多く出土している。古代～室町時代まで断続的に掘り返しが行われていることから、条里制地割溝の可能性もあろう(山柁1990)。琴浦町井岡地頭遺跡には、11世紀から12世紀初めの方形区画溝がある。その規模は25×50m、幅約2m、深さ約1mを測る箱掘状の溝である。区画内からは同時期の建物跡は検出されず、わずかに礎石の可能性のある礫群が出土している。報告では、日常的な館的性格より、見張り所のような臨時的・非日常的な性格を想定する(君嶋2003)。大山町門前上屋敷遺跡では、鎌倉から室町期の箱掘状の溝が検出されている。その規模は、長さ20m、幅約2～3m、深さ0.67mを測り、時代や形状とも南原千軒遺跡と類似する。溝に伴う建物跡は検出されていないが、土塁の痕跡や直交する柵列、溝などの存在から屋敷地の区画溝と想定されている(牧本2007)。

県外に目を向けると、鳥根県出雲市蔵小路西遺跡で12世紀後半から15世紀前半頃の方1町規模の方形居館が検出されている。東西に並行する大溝と区画内には掘立柱建物や墓、井戸、土坑などが配置され、貿易陶磁や国産陶磁、土師器、鍛冶関連遺物、木製品など数多くの遺物が出土し、中世朝山氏惣領家の屋敷と想定されている(足立ほか1999)。また、岡山県苫田郡鏡野町久田堀ノ内遺跡は、「久田庄」に比定される居館である(弘田ほか2005)。およそ14世紀から16世紀にわたり3回堀が拡張されており、吉井川を後背として「コ」字状に堀がめぐっている。

上記の遺跡から類例を求めるならば、南原千軒遺跡は堀、大型建物や墓、鍛冶工房などの存在から、蔵小路西遺跡や久田堀ノ内遺跡に類似する。これらの遺跡は在地領主層の居館と想定されており、本遺跡も勝田川流域を治めた領主層クラスの屋敷であったと考えられる。

おわりに

本遺跡の性格について、君嶋俊行は文献史料の検討から「勝田荘」と関連づけ荘園遺跡として推定している。(君嶋2005・2006)。遺跡周辺には「上公文給」、「屋敷」などの小字名が残り、確かに荘域に含まれる可能性がある(第4図)。また、伯耆国は鉄を貢納していた荘園が多いことで知られていることから、その可能性を持つ遺跡の1つであるかもしれない(福田1996)。いずれにしても、現状では直接的な証拠がないため推測の域を出ないが、居館の構造と鍛冶操業の規模・内容から見れば、少なくとも勝田川流域を治める在地武士団、在地領主層の屋敷であった可能性は高い。本地が大山を源とする豊富な水源と広い可耕地があり、さらに山陰道の近傍であること、潤沢な鉄資源に恵まれている点が、居館の選地条件を満たしたものと考えられる。

本報告にあたり、穴澤義功氏、君嶋俊行氏、佐伯純也氏、佐々木稔氏、中森 祥氏、西尾克己氏、浜野浩美氏、山本信夫氏の諸氏から有益なご教示をいただいた。末筆ながら厚く御礼を申し上げます次第である。

【註】

- (1) 貿易陶磁については山本信夫氏にご教示いただいた。
- (2) なお、榊原博英氏によれば中世前期における都市部の貿易陶磁の㎡当たりの出土数は、博多で25点、大宰府で3.1点、鎌倉で1.5点、平安京中枢部で1.18点である(2006年山陰考古学研究集会での口頭発表による)。
- (3) 門前上屋敷遺跡、門前鎮守山遺跡の数量・重量は報告書掲載資料のみから算出したものである。調査担当者の牧本哲雄氏によれば、いずれも総数はコンテナ数10箱程度であったとのことである。
- (4) 平成16年度調査報告では中世前期の竪穴住居と報告されているが、ここでは大型サイズの廃棄土坑として理解する。
- (5) 錦織 勤氏が集成した県下の平城32ヶ所に新たにその可能性のある鳥取市秋里遺跡、北栄町殿屋敷遺跡、琴浦町南原千軒遺跡、大山町門前上屋敷遺跡を加えた数である。

【参考文献】

- 足立克己ほか1999『蔵小路西遺跡』鳥根県教育委員会
- 大川泰広編2004『鳥取県中世城館分布調査報告書(伯耆編)』第2集 鳥取県教育委員会
- 小口英一郎2007「第2節 南原千軒遺跡における鉄・鉄器生産の様相」『南原千軒遺跡2』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書13 鳥取県埋蔵文化財センター
- 加藤裕一2007「因幡・伯耆の調理具」『山陰における中世の調理具』第6回山陰中世土器検討会資料集 山陰中世土器検討会
- 橘田正徳1991「屋敷墓試論」『中近世土器の基礎研究』Ⅶ 日本中世土器研究会
- 君嶋俊行編2003『井岡地頭遺跡・井岡地中ソネ遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書80 (財)鳥取県教育文化財団
- 君嶋俊行編2005『南原千軒遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告100 (財)鳥取県教育文化財団
- 2006「鳥取県琴浦町南原千軒遺跡の調査」『山陰における中世前期の諸様相』第5回山陰中世土器検討会資料集 山陰中世土器検討会
- 榊原博英2006「中世前期の貿易陶磁の様相」『山陰における中世前期の諸様相』第5回山陰中世土器検討会資料集 山陰中世土器検討会
- 狭川真一2006「墓制の画期と地域」小野正敏・萩原三雄編『鎌倉時代の考古学』高志書院
- 重根弘和2003「中世備前焼に関する考察－形態と変遷と年代について－」『山口大学考古学論集』近藤喬一先生退官記念事業会
- 2005「中世備前焼に関する考察－製作技法から－」『古文化談叢』第54集
- 白石 純2005「南原千軒遺跡出土土器の胎土分析」『南原千軒遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告100 (財)鳥取県教育文化財団
- 谷口恭子編2000『円護寺坂ノ下遺跡』(財)鳥取市教育福祉振興会
- 玉木秀幸2006「伯耆の土器様相」『山陰における中世前期の諸様相』第5回山陰中世土器検討会資料集 山陰中世土器検討会
- 中野晴久2005「常滑・渥美」『中世窯業の諸相－生産技術の展開と編年－』「中世窯業の諸相－生産技術の展開－」実行委員会
- 中森 祥 2005「中世前期の遺物について」『門前上屋敷遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書105 (財)鳥取県教育文化財団
- 中森 祥・濱 隆造編2001『霞遺跡群』鳥取県教育文化財団報告書73 (財)鳥取県教育文化財団
- 西川雄大2005「南原千軒遺跡SK2の出土遺物について」『南原千軒遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告100 (財)鳥取県教育文化財団
- 錦織 勤2004「鳥取県中世城館の特質」『鳥取県中世城館分布調査報告書(伯耆編)』第2集 鳥取県教育委員会
- 野口良也編2005『八幡遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書99 (財)鳥取県教育文化財団
- 樋口和夫・松田雅彦編1988『殿屋敷遺跡』北条町埋蔵文化財報告書6 北条町教育委員会
- 広瀬和雄2006「領主居館の成立と展開」小野正敏・萩原三雄編『鎌倉時代の考古学』高志書院
- 弘田和司ほか2005『久田堀ノ内遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告192 岡山県教育委員会
- 福田豊彦1996「文献からみた鉄の生産と流通」『季刊考古学』57 雄山閣
- 牧本哲雄・玉木秀幸編2007『門前上屋敷遺跡Ⅱ・門前鎮守山城跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書17 鳥取県埋蔵文化財センター
- 森田 勉1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』2 日本貿易陶磁研究会
- 山川茂樹2002『鳥取県中世城館分布調査報告書(因幡編)』第1集 鳥取県教育委員会
- 山柁雅美編1990『秋里遺跡(西皆竹)』鳥取県教育文化財団報告書25 (財)鳥取県教育文化財団
- 山本信夫1998「中世前期の貿易陶磁器－その分析視点と近年の研究動向－」『山陰における中世前期の貿易陶磁器』第26回山陰考古学研究集会 山陰考古学研究集会
- 横田賢次郎・森田 勉1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4

表19 南原千軒遺跡出土土器観察表(1)

遺物番号	採回PL	遺構層位	器種	部位残存率	法量	調整・形態上の特徴	胎土	色調	焼成	備考	取上No.
1	第9回 PL.22	4区・SD6 埋土	土師器 高台付杯	口縁～底部 1/2	口径※14.3 底径※6.0 器高3.0	口縁～高台部はヨコナデ調整。内外面赤色塗彩。高台内に「王?」墨書あり。	径1mm以下の白色砂粒	外面：赤褐色 内面：赤褐色	良好	墨書土器	170・175・179・180～182・187
2	第9回 PL.22	4区・SD6 埋土	土師器 高台付皿	口縁～底部 1/8	口径14.0 底径7.7 器高3.6	口縁～高台部はヨコナデ調整。内外面赤色塗彩。高台内に「王?」墨書あり。	径1mm以下の白色砂粒	外面：にぶい赤褐～橙色 内面：赤褐～黒褐色	良好	墨書土器	166～169・171～174・176～178・186
3	第9回 PL.21	4区・SD6 3層	土師器 坏身	口縁～底部 1/1	口径12.0 底径8.5 器高3.9	内外面回転ナデ調整。底面回転ヘラ切後、粗いナデ調整を施す。内外面赤色塗彩。	径1mm以下の白色砂粒	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	良好		31・252～258・261・263
4	第9回 PL.27	4区・SD6 1層	土師器 坏	口縁～底部 破片	口径※14.8 器高△4.3	口縁～体部はヨコナデ調整。外面底部には指押さえ痕あり。	径1mm以下の白色砂粒	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	良好		22
5	第9回 PL.25	4区・SD6 埋土	須恵器 甕	体部 破片	口径10.5 器高△10.5	外面平衡タタキ、内面は同心円状当て具痕。	密	外面：灰色 内面：灰色	良好		133
6	第12回 PL.24	4区・SD7 2層	土師器 皿	底部 破片	底径3.6 器高△1.0	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の長石	外面：橙～明赤褐色 内面：明赤褐色	良好		213
7	第12回 PL.23	4区・SD7 12層	土師器 皿	口縁～底部 破片	口径※10.0 器高△2.2	回転台成形。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の赤色砂粒	外面：赤褐色 内面：赤褐色	良好		227
8	第12回 PL.23	4区・SD7 8層	土師器 坏	体部～底部 1/5	底径※4.1 器高△2.1	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径5mm以下の長石	外面：黄橙～にぶい黄褐色 内面：橙色	良好		234
9	第12回 PL.23	4区・SD7 8層	土師器 坏	体部～底部 1/6	底径※5.4 器高△1.9	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好		408
10	第12回 PL.24	4区・SD7 8層	土師器 坏	底部 破片	底径※5.2 器高△1.1	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		207
11	第12回 PL.23	4区・SD7 5～8層	土師器 坏	底部 破片	底径※4.4 器高△1.3	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の白・赤色砂粒	外面：明黄褐色 内面：明赤褐色	良好		472
12	第12回 PL.23	4区・SD7 13層	土師器 坏	底部 破片	底径※4.5 器高△1.0	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の白・赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		452
13	第12回 PL.23	4区・SD7 14層	土師器 坏	底部 破片	底径※5.8 器高△1.5	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径4mm以下の白・赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		163・453
14	第12回 PL.23	4区・SD7 8層	土師器 坏	底部 破片	底径※6.2 器高△1.6	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		274
15	第12回 PL.24	4区・SD7 5層	土師器 坏	底部 破片	底径※6.8 器高△1.1	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好		301
16	第12回 PL.24	4区・SD7 検出面	土師器 坏	底部 破片	底径※4.7 器高△2.1	回転台成形、底部は回転糸切、円盤状高台。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の白・赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		28
17	第12回 PL.23	4区・SD7 14層	土師器 坏	底部 破片	底径※7.0 器高△1.4	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の赤色砂粒	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好		232
18	第12回 PL.23	4区・SD7 8層	土師器 坏	底部 破片	底径※6.8 器高△2.4	回転台成形、底部は回転糸切、円盤状高台。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の長石・石英	外面：黄褐色 内面：黄褐色	良好		219
19	第12回 PL.23	4区・SD7 14層	土師器 坏	体部～底部 破片	底径※6.6 器高△1.9	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の白・赤色砂粒	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好		225
20	第12回 PL.24	4区・SD7 8層	土師器 坏	体部～底部 破片	底径※7.8 器高△1.7	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		200
21	第12回 PL.23	4区・SD7 5～8層	土師器 坏	体部～底部 破片	底径※9.0 器高△2.3	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		474
22	第12回 PL.26	4区・SD7 5層	常滑焼 甕	口縁～頸部 破片	口径※8.5 器高△8.5	中野瀬年6～7型式。口縁端部がやや外側下部に張り出し、内面には凹線がめぐる。内外面ヨコナデ調整。	径2mm以下の長石・石英	外面：褐色 内面：褐～暗褐色	良好		308
23	第12回 PL.26	4区・SD7 8層	備前焼 小壺	肩～体部 破片	口径※9.0 器高△2.9	内外面ともヨコナデを施す。肩部に自然釉あり。	密	外面：暗褐色 内面：褐～黒褐色	良好		398
24	第12回 PL.25	4区・SD7 6層	須恵器 甕	体部～底部 破片	口径※6.0 器高△6.0	勝間田系。外面格子状タタキ後、部分的に粗いナデ調整。内面ハケム調整を施す。	密	外面：褐灰色 内面：褐灰色	良好		314
25	第12回 PL.26	4区・SD7 埋土	備前焼 播鉢	口縁部 破片	口径※20.6 器高3.9	乘国編年中世3期。重根IV A。外割き状の口縁部がやや張り出す。外面口縁～体部はヨコナデ。内面はヨコナデ後、描目が付く。	径5mm以下の長石	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	良好		197
26	第12回 PL.26	4区・SD7 8層	備前焼 播鉢	口縁～体部 破片	口径※28.8 器高△9.5	乘国編年中世3期。重根IV A。外割き状の口縁部がやや張り出す。外面口縁～体部はヨコナデ。内面はヨコナデ後、8本1単位の描目。	径1mm以下の長石・石英	外面：灰褐～黒褐色 内面：褐～暗褐色	良好		407
27	第12回 PL.25	4区・SD7 8層	須恵器 壺	体部～底部 破片	底径※19.8 器高△5.0	勝間田系? 外面粗いヨコナデ調整、内面丁寧なヨコナデ調整。底面未調整。	径3mm以下の長石	外面：灰色 内面：灰色	良好		432
28	第12回 PL.24	4区・SD7 6層	土師器 鍋	口縁～体部 破片	口径※23.2 器高△8.5	口縁部が肥厚し、端部が外削状を呈する。内外面ともヨコナデを施す。外面に煤付着。	径1mm以下の長石・石英	外面：にぶい黄橙～にぶい 内面：にぶい橙～褐色	良好		298
29	第13回 PL.6	4区・SD7 4層	白磁碗	体部～底部 破片	底径※7.2 器高△1.9	白磁碗IV 1a類。高台厚く、外面体部下と高台内は露胎。内面は施釉で、体部と見込みの境に沈線状の段を有する。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		216
30	第13回 PL.6	4区・SD7 5層	青磁碗	体部下 破片	口径※11.8 器高△2.1	龍泉窯系青磁碗IV類～上田B II類。体部下～高台近くの破片。	密	外面：オリーブ灰 内面：オリーブ灰	良好		313
31	第13回 PL.6	4区・SD7 8層	青磁碗	体部 破片	口径※11.8 器高△3.2	龍泉窯系青磁碗IV類～上田B II類。体部に連弁文を有する。	密	外面：灰オリーブ色 内面：灰オリーブ色	良好		398
32	第13回 PL.6	4区・SD7 8層	青磁碗	体～底部 破片	底径※8.7 器高△3.8	龍泉窯系青磁碗上田B II類。高台部も施釉。釉は畳付を越えて高台内面途中までかかる。	密	外面：灰オリーブ～褐色 内面：オリーブ灰色	良好		401
33	第13回 PL.6	4区・SD7 埋土	白磁皿	口縁～体部 破片	口径※9.5 器高△2.0	白磁碗森田D群。外面体部上半施釉、下半露胎。内面施釉。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		195
34	第20回 PL.24	4区・SD19 2層	土師器 坏	底部 破片	底径※6.0 器高△2.0	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の白・赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		127
35	第20回 PL.24	4区・SD19 埋土中	土師器 高台付坏	底部 破片	底径※5.0 器高△2.8	回転台成形、高台内ナデ調整。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の白色砂粒	外面：橙～明褐色 内面：にぶい黄褐色	良好		156
36	第20回 PL.25	4区・SD19 2層	須恵器 甕	体部～底部 破片	底径※11.8 器高△4.9	内外面ヨコナデ調整を施す。円盤状の底部と体部の接合痕あり。内面には薄く筋が付着する。	径1mm以下の長石・石英	外面：青灰色 内面：青灰色	良好		83
37	第20回 PL.6	4区・SD19 1層	青磁碗	体部～底部 破片	口径※11.8 器高△2.1	龍泉窯系青磁碗IV類。高台部欠損。高台内は施釉後、削り取られる。内面見込みに草花文あり。	密	外面：明緑灰～灰色 内面：明緑灰色	良好		75
40	第29回 PL.6	4区・P533 埋土	白磁皿	口縁～体部 破片	口径※9.0 器高△1.3	白磁皿森田D群。外面体部下は露胎。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		498
41	第29回 PL.21	4区・P569 検出面	須恵器 坏身	口縁～底部 破片	口径12.3 底径7.2 器高3.9	外面は口縁～体部は回転ナデ、底部は回転ヘラズリ。口縁部には2本の平行沈線がめぐる、その間隙にRL縄文が充填される。内面はナデ調整が施される。	径2mm以下の白色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		475
42	第32回 PL.27	4区・C13 II層	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	口径※11.8 器高△2.4	口縁部には2本の平行沈線がめぐる、その間隙にRL縄文が充填される。内面はナデ調整が施される。	径2mm以下の長石・石英	外面：黒褐色 内面：にぶい黄褐色	良好		447

表20 南原千軒遺跡出土土器観察表(2)

遺物番号	挿入PL	遺構層位	器種	部位 残存率	法量	調整・形態上の特徴	胎土	色調	焼成	備考	取上No.
43	第32図 PL.27	4区・D12 II層	弥生土器	口縁部破片	- 器高△3.7	口縁部が外側に屈曲し、端部に刻みが施される。頸部は櫛状工具による多条平行沈線がある。	径1mm以下の白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		506
44	第32図 PL.27	4区・D13 II層	弥生土器	口縁～肩部破片	口径※14.5 器高△4.6	口縁部には8条の多条平行沈線がめぐり、肩部に櫛状沈線が施される。内面は口縁部ミガキ、頸部ヘラケズリ後ミガキ調整。	径1mm以下の白色砂粒	外面：橙色 内面：にぶい橙～橙色	良好		160
45	第32図 PL.27	4区・D13 II層	弥生土器	口縁～頸部破片	口径※15.8 器高△3.9	口縁部には6条の多条平行沈線が施される。頸部はヨコナデ。 内面口縁部はヨコナデとミガキ調整、頸部ヘラケズリ調整。	径1mm以下の長石	外面：にぶい黄橙～橙色 内面：にぶい黄橙～橙色	良好		243
46	第32図 PL.27	4区・D12 II層	土師器	口縁～頸部破片	口径※14.6 器高△4.2	内外面は口縁～頸部ヨコナデ調整。外面に煤付着。	径1mm以下の白色砂粒	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	良好		507
47	第32図 PL.27	4区・D13 II層	土師器	口縁～頸部破片	口径※15.7 器高△4.0	複合口縁調整。内外面とも口縁部～頸部ヨコナデ調整を施す。	径3mm以下の長石	外面：浅黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好		122
48	第32図 PL.25	4区・F13 II層	須恵器 坏身	口縁～底部1/3	口径※11.0 底径※4.4 器高△3.2	口縁部～体部は回転ヨコナデ、底部は回転ヘラケズリ。 内面は口縁～底部は回転ナデ調整。	径3mm以下の長石	外面：黄灰色 内面：黄灰色	良好		437
49	第32図 PL.25	4区・G13 II層	須恵器 坏蓋	天井～口縁部1/4	口径※16.9 器高△2.4	天井部回転ヘラケズリ後、ナデ調整を施す。内面は回転ナデ調整。つまみ剥落。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		491
50	第32図 PL.21	4区・F13 II層	須恵器 高坏	口縁～脚部1/2	口径※16.0 器高△15.8	坏部は内外面回転ヨコナデ。脚部外面はカキメ、部分的に指押さえ痕有り。 内面は回転ヨコナデ調整が施される。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		242・248
51	第32図 PL.25	4区・G12 II層	須恵器	体部破片	- 器高△7.3	外面平行タタキ、内面同心円状当て具痕残る。外面は自然軸が見られる。	密	外面：灰白色 内面：灰色	良好		8
52	第32図 PL.27	4区・D13 II層	土師器 坏	口縁～体部破片	口径※14.8 器高△4.4	口縁～体部はヨコナデ調整。外面底部には指押さえ痕あり。	径1mm以下の白色砂粒	外面：赤褐色 内面：赤褐色	良好		188
53	第32図 PL.27	4区・D13 II層	土師器 鉢	口縁～体部破片	口径※17.8 △4.6	口縁部は緩やかに外反し、ナデ調整が施される。外面体部はケズリ後、ハケメ調整。内面はヨコナデ調整。	径1mm以下の長石	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	良好		514
54	第32図 PL.27	4区 表土	土師器 坏	底部破片	底径※6.6 器高△1.1	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の長石	外面：橙～にぶい橙色 内面：橙～にぶい橙色	良好		1
55	第32図 PL.25	4区 II層	瓦質土器 鉢	体部破片	- 器高△4.8	外面はタテ方向のハケメ後、ナデ調整を施す。内面はヨコ方向のナデ後、ハケ調整。	密	外面：暗灰黄色 内面：暗灰黄色	良好		12
56	第32図 PL.27	4区・C12 II層	土師器 鍋	口縁～体部破片	- 器高△7.1	口縁部が外反し、体部が若干張る。口縁部はヨコナデ、体部は内外面ハケ調整を施す。 体部に煤が付着する。	径1mm以下の白色砂粒	外面：明黄褐～黒褐色 内面：橙色	良好	外面煤付着	242
57	第32図 PL.25	4区 表土	須恵器	体部破片	- 器高△9.8	藤岡田系。外面格子状タタキ、内面はハケメ調整を施す。	密	外面：灰色 内面：灰色	良好		1
58	第32図 PL.26	4区 表土	備前焼 播鉢	口縁～体部破片	- 器高△8.2	乘岡編年中世3期。口縁部は外削状になる。口縁～体部はヨコナデ調整。内面はヨコナデ後、8本1単位の播目が付く。	径1mm以下の長石	外面：にぶい赤褐～黒褐色 内面：灰褐～暗赤褐色	良好		1
59	第32図 PL.26	4区・F13 II層	備前焼 播鉢	口縁部破片	- 器高△4.0	乘岡編年中世3期。外削ぎ状の口縁部がやや張り出す。外面口縁～体部はヨコナデ。内面はヨコナデ調整を施す。	径1mm以下の長石	外面：赤褐色 内面：暗褐色	良好		26
60	第32図 PL.26	4区・G13 II層	備前焼 播鉢	口縁～体部破片	- 器高△4.8	乘岡編年中世3期。外削ぎ状の口縁部がやや張り出す。外面口縁～体部ヨコナデ。内面はヨコナデ調整後、6本1単位の播目が付く。	径3mm以下の長石	外面：暗赤褐色 内面：暗赤褐色	良好		361
61	第32図 PL.26	4区・G13 II層	備前焼 播鉢	口縁部破片	- 器高△5.0	乘岡編年中世4期。口縁部は「く」字状に内折する。外面口縁～体部はヨコナデ。内面はヨコナデ後、播目が付く。	径2mm以下の長石	外面：赤褐～暗赤褐色 内面：暗赤褐色	良好		361
62	第32図 PL.26	4区・B12 II層	備前焼 播鉢	体部～底部破片	底径※13.0 器高△6.5	乘岡編年中世3期？外面体部はヨコナデが施され、底部は未調整。 内面はヨコナデ後、8本1単位の播目が付く。	径3mm以下の長石	外面：にぶい黄褐色 内面：褐灰色	良好		445
63	第32図 PL.26	4区・F13 II層	備前焼 播鉢	口縁部破片	- 器高△8.0	乘岡編年中世4期。幅広い口縁部は「く」字状に屈曲し、注口をもつ。外面はヨコナデ。内面はヨコナデ後、太い播目が付く。	径2mm以下の長石	外面：明赤褐～暗赤褐色 内面：赤褐～暗赤褐色	良好		360
64	第32図 PL.26	4区・G13 II層	備前焼 播鉢	口縁～体部破片	口径※27.0 器高△7.1	乘岡編年中世3期。外削ぎ状の口縁部がやや張り出す。外面口縁～体部はヨコナデ。内面はヨコナデ調整を施す。	径1mm以下の長石	外面：暗褐色 内面：暗褐色	良好		372
65	第33図 PL.6	4区・F14 II層	白磁碗	体部破片	- 器高△2.5	白磁碗森田C群。外面体部上半は施軸、下半は露胎。内面は見込みと体部の境に沈線、見込みにスタンプ文あり。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		516
66	第33図 PL.6	4区・G12 II層	白磁皿	口縁～体部破片	口径※9.6 器高△1.8	白磁皿森田D群。外面上半施軸、体部下半露胎。内面施軸。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		8
67	第33図 PL.6	4区・G14 II層	白磁皿	底部破片	底径※4.4 器高△1.3	白磁皿森田D群。挟りこみ高台で高台内は露胎。内面は施軸、四足胎土目残る。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		10
68	第33図 PL.6	4区・B12 II層	青磁碗	口縁部破片	- 器高△3.0	同家窯系青磁碗Ia類。外面は無文、内面体部上位に沈線がめぐり櫛状文が施文される。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		456
69	第33図 PL.6	4区・F13 II層	青磁碗	口縁～体部破片	口径※14.4 器高△2.8	龍泉窯系青磁碗IV類。体部外面に蓮弁文を有する。	密	外面：明緑灰色 内面：明緑灰色	良好		388
70	第33図 PL.6	4区・G12 II層	雑釉陶器 皿	底部破片	底径※39.9 器高△0.9	李朝皿。内外面全面施軸。高台あり。内面に重ね焼きの胎土目あり。	密	外面：緑灰色 内面：緑灰色	良好		3
71	第33図 PL.27	4区・G13 II層	灰釉陶器 碗	口縁部破片	- 器高△2.7	口縁部が外反し、内外面施軸される。	密	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好		391
72	第40図 PL.24	5区・SD7 11層	土師器 皿	口縁～底部1/6	口径※10.0 底径※7.6 器高△1.9	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		965
73	第40図 PL.24	5区・SD7 埋土	土師器 皿	口縁～底部破片	口径※10.0 底径※5.0 器高△1.5	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：褐色	良好		820
74	第40図 PL.24	5区・SD7 9層	土師器 皿	口縁～底部1/3	口径※8.3 底径※5.0 器高△2.0	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。 口縁から底部まで器壁が厚い。	径3mm以下の白・赤色砂粒	外面：浅黄褐色 内面：褐灰色	良好		970
75	第40図 PL.24	5区・SD7 埋土	土師器 皿	口縁～体部1/4	口径※8.8 器高△2.2	回転台成形。内外面ともヨコナデを施す。器壁厚い。	径5mm以下の赤色砂粒	外面：褐色 内面：褐色	良好		960
76	第40図 PL.23	5区・SD7 11層	土師器 坏	底部破片	底径※4.3 器高△1.2	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径5mm以下の白・赤色砂粒	外面：橙色 内面：褐色	良好		904
77	第40図 PL.24	5区・SD7 6層	土師器 皿	底部1/3	底径※4.0 器高△1.1	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の赤色砂粒	外面：にぶい黄褐色 内面：褐色	良好		1087
78	第40図 PL.23	5区・SD7 3層	土師器 坏	口縁～体部1/8	口径※14.2 器高△4.2	回転台成形。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の白・赤色砂粒	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	良好		1011
79	第40図 PL.23	5区・SD7 3層	土師器 坏	口縁～体部破片	口径※14.2 器高△3.0	回転台成形。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の赤色砂粒	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	良好		1015
80	第40図 PL.23	5区・SD7 9層	土師器 坏	体部～底部1/5	底径※6.4 器高△2.1	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：褐色 内面：灰黄褐色	良好		938

表21 南原千軒遺跡出土土器観察表(3)

遺物番号	挿図 PL	遺層	構位	器種	部位 残存率	法量	調整・形態上の特徴	胎土	色調	焼成	備考	取上No
81	第40図 PL.23	5区・SD7	埋土	土師器 環	底部～底部 1/3	底径※6.4 器高△2.6	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の赤色砂粒・雲母	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	良好		959
82	第40図 PL.23	5区・SD7	11層	土師器 環	体～底部 1/6	底径※7.4 器高△1.9	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		966・980
83	第40図 PL.23	5区・SD7	1層	土師器 環	底部～底部 1/5	底径※6.4 器高△1.7	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：黄褐色 内面：浅黄褐色	良好		835
84	第40図 PL.23	5区・SD7	11層	土師器 環	底部 破片	底径※6.1 器高△1.3	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：にぶい橙色	良好		905
85	第40図 PL.23	5区・SD7	1層	土師器 環	底部 1/6	底径※6.4 器高△1.5	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：浅黄色 内面：浅黄色	良好		1078
86	第40図 PL.23	5区・SD7	1層	土師器 環	底部 破片	底径※5.6 器高△1.2	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の赤色砂粒・雲母	外面：橙色 内面：橙色	良好		836
87	第40図 PL.23	5区・SD7	4層	土師器 環	底部 破片	底径※6.0 器高△1.3	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：褐色 内面：褐色	良好		1012
88	第40図 PL.24	5区・SD7	検出面	土師器 環	底部 破片	底径※5.8 器高△1.3	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の赤色砂粒	外面：にぶい黄褐色 内面：黄褐色	良好		688
89	第40図 PL.23	5区・SD7	2層	土師器 環	底部 破片	底径※5.0 器高△1.1	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の赤色砂粒	外面：明褐色 内面：橙色	良好		837
90	第40図 PL.6	5区・SD7	埋土	白磁皿	口縁～底部 破片	口径※10.1 器高△2.6	白磁皿Ⅱ1類。口縁端部丸く、内面体部と見込みの境に沈線状の段を有す。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		814
91	第40図 PL.6	5区・SD7	埋土	白磁皿	口縁～底部 1/4	口径※9.9 器高2.5 底径3.4	白磁皿Ⅵ1a類。体部～口縁部は器壁薄い。底部は上げ底状を呈し内面に沈線状の段を有す。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		813
92	第40図 PL.6	5区・SD7	埋土	白磁碗	口縁部 破片	— 器高△2.1	白磁碗Ⅱ類。口縁が外反気味に立ち上がり、小さな玉縁となる。内外面施釉。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		810
93	第40図 PL.25	5区・SD7	3層	須恵器 甕	体部 破片	— 器高△13.6	勝間田系。外面格子状タタキ後、ハケメによるナデ調整。内面はハケメ調整を施す。	密	外面：灰色 内面：灰色	良好		564・1019
94	第40図 PL.21	5区・SD7	1層	須恵器 甕	体部～底部 1/6	底径※14.6 器高△8.1	内外面ヨコナデ調整が施される。体部下半に粘土帯の積み上げ痕が残る。	径6mm以下の長石・石英	外面：灰色 内面：灰色	良好		1021
95	第40図 PL.24	5区・SD7	4層	土師器 鍋	口縁～体部 1/6	口径※22.2 器高△13.0	口縁部が緩やかに外反し、体部は球状に張る。内外面口縁部はヨコナデ、体部はハケ調整を施す。	径1mm以下の白色砂粒	外面：黒褐色 内面：にぶい黄橙～褐灰色	良好	内面煤付着	813・1008
96	第46図 PL.24	5区・SD20	1層	土師器 皿	口縁～底部 1/6	口径※8.0 底径※5.8 器高△1.8	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：褐色	良好		695
97	第46図 PL.24	5区・SD20	埋土	土師器 環	底部 1/4	底径※4.4 器高△1.1	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	密	外面：褐色 内面：にぶい黄褐色	良好		554
98	第46図 PL.24	5区・SD20	埋土	土師器 環	底部 1/4	底径※3.5 器高△1.2	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の長石	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好		651
99	第46図 PL.24	5区・SD20	埋土	土師器 環	底部 1/4	底径※5.4 器高△1.3	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の長石	外面：褐色 内面：褐色	良好		550
100	第46図 PL.24	5区・SD20	埋土	土師器 環	底部 1/8	底径※6.5 器高△1.6	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の赤色砂粒	外面：褐色 内面：褐色	良好		651
101	第46図 PL.25	5区・SD20	1層	須恵器 甕	体部 破片	— 器高△8.5	勝間田系。外面格子状タタキ、内面はハケメ調整を施す。	密	外面：黒褐色 内面：灰色	良好		700・701・702
102	第46図 PL.25	5区・SD20	埋土	須恵器 甕	体部～底部 1/8	口径※10.4 器高△3.9	勝間田系？外面ヘラズリ、底面ハケによるナデ調整を施す。内面はヨコナデ。	密	外面：灰色 内面：灰色	良好		550
103	第46図 PL.6	5区・SD20	埋土	白磁碗	底部 破片	底径※5.8 器高△1.9	白磁碗Ⅱ類。外面体部下半はヘラ削り痕が残り、底面まで露胎。内面は施釉、体部と見込みの境に段あり。	密	外面：灰白色(露胎部) 内面：淡黄色	良好		557
104	第46図 PL.6	5区・SD20	埋土	白磁碗	口縁～体部 破片	口径※16.4 器高△2.8	白磁碗Ⅳ1類。口縁は玉縁を呈し、内外面施釉。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		646
105	第46図 PL.6	5区・SD20	2層	白磁碗	口縁部 破片	— 器高△2.8	白磁碗Ⅳ1類。口縁は緩やかに立ち上がり、玉縁をもつ。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		649
106	第46図 PL.6	5区・SD20	2層	白磁碗	口縁部 破片	— 器高△2.0	白磁碗Ⅳ1類。口縁は緩やかに立ち上がり、大きな玉縁を有す。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		552
107	第46図 PL.6	5区・SD20	2層	白磁碗	口縁部 破片	— 器高△2.1	白磁碗Ⅳ1類。口縁は緩やかに立ち上がり、大きな玉縁を有す。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		591
108	第46図 PL.6	5区・SD20	2層	白磁碗	口縁部 破片	— 器高△1.6	白磁碗Ⅳ1類。口縁は緩やかに立ち上がり、大きな玉縁を有す。	密	外面：明オリーブ灰色 内面：明オリーブ灰色	良好		550
109	第46図 PL.6	5区・SD20	2層	白磁碗	体部 破片	— 器高△2.6	白磁碗Ⅳ類か。外面体部下半は露胎。内面体部と見込みの境に沈線状の段が付く。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		754
110	第46図 PL.6	5区・SD20	2層	白磁碗	体部～底部 破片	底径※7.8 器高△2.1	白磁碗Ⅳ1a類。外面体部下半から高台内は露胎。内面体部と見込みの境に沈線状の段を有す。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		720
111	第46図 PL.6	5区・SD20	埋土	白磁皿	底部 1/3	底径※3.8 器高△1.1	白磁皿Ⅶ1b類。軸は比較的厚く、底部の軸は削り取られている。内面見込みにはヘラ描きによる草花文を有す。	密	外面：灰白～オリーブ灰色 内面：灰白～オリーブ灰色	良好		556
112	第46図 PL.6	5区・SD20	埋土	青白磁皿	体部 破片	— 器高△2.9	白磁皿Ⅹ1類。施釉は薄く上質である。体部下半は露胎。内面体部と見込みの境に圈線を有す。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		569
113	第46図 PL.6	5区・SD20	埋土	青磁皿	口縁～体部 破片	口径※10.5 器高△1.4	同安窯系青磁皿Ⅰ1類。口縁部が外反し、内外面無文。外面体部下半は露胎。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		569
114	第46図 PL.6	5区・SD20	埋土	青磁碗	口縁部 1/8	— 器高△3.4	同安窯系青磁碗Ⅰ1b類。内面上位に沈線がめぐり、描目が入る。軸は薄い。	密	外面：灰オリーブ色 内面：灰オリーブ色	良好		569
115	第46図 PL.6	5区・SD20	埋土	青磁碗	口縁部 破片	— 器高△2.4	龍泉窯系青磁碗0類。外面拂描文、内面劃花文あり。	密	外面：オリーブ灰色 内面：オリーブ灰色	良好		589
116	第46図 PL.6	5区・SD20	1層	青磁碗	体部～底部 1/6	底径※5.8 器高△2.9	龍泉窯系青磁碗上田Ⅱ類。高台内は露胎を有す。施釉厚く、高台内の軸を輪状の削り取る。内面に草花スタンプ文。	密	外面：オリーブ灰色 内面：オリーブ灰色	良好		699
117	第46図 PL.27	5区・SD20	埋土	瀬戸？ 碗	体部～底部 1/8	底径※8.8 器高△2.2	瀬戸・美濃系？	密	外面：明オリーブ灰色 内面：明オリーブ灰色	良好		552
118	第48図 PL.24	5区・SD21	埋土	瓦質土器 播鉢	口縁～体部 破片	口径※29.0 器高△4.5	口縁端部が外削り状を呈し、肥厚する。外面はナデ・ハケ調整。内面はハケ調整後、4本1単位の描目が付く。在地系播鉢か。	密	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	不良		596
119	第48図 PL.21	5区・SD21	埋土	須恵器 甕	口縁～肩部 1/6	口径※10.4 器高△3.0	内外面ヨコナデ。外面に自然釉付着。	密	外面：灰白～灰色 内面：灰色	良好		643
120	第48図 PL.6	5区・SD21	埋土	白磁碗	口縁部 破片	口径※16.4 器高△1.7	白磁碗Ⅴ～Ⅶ類。口縁端部が外折し、内外面施釉。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		589

表22 南原千軒遺跡出土土器観察表(4)

遺物番号	挿図 PL	遺層 構位	器種	部位 残存率	法量	調整・形態上の特徴	胎土	色調	焼成	備考	取上No.
121	第50図 PL.24	5区・SK59 2・3層	土師器 皿	口縁～底部 破片	口径※10.0 底径※5.2 器高△2.2	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		598・602
122	第50図 PL.24	5区・SK60 1層	土師器 坏	体部～底部 1/4	底径※6.2 器高△2.1	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の赤色砂粒	外面：黄橙色 内面：黄橙色	良好		610
123	第50図 PL.24	5区・SK60 1層	土師器 坏	底部 破片	底径※5.0 器高△1.4	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の長石	外面：黄褐色 内面：黄褐色	良好		606
124	第50図 PL.24	5区・SK60 2層	土師器 柱状高台付坏	底部 1/4	底径※6.0 器高△2.9	回転成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の白色砂粒	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	良好		635
125	第50図 PL.24	5区・SK60 2層	土師器 坏	体部～底部 1/2	底径※8.2 器高△3.6	回転台成形、底部は糸切り後ナデ調整。内外面ともヨコナデを施す。内面底の一部に指押しえ痕あり。	径2mm以下の赤色砂粒	外面：橙～褐灰色 内面：黄褐色	良好		614
126	第50図 PL.25	5区・SK60 1層	須恵器 甕	体部 破片	— 器高△6.3	内面は細かい格子状タタキ、内面は同心円状の当て具痕あり。	密	外面：褐灰色 内面：褐灰色	良好		605
127	第53図 PL.21	5区・P621 1層	土師器 甕	口縁～体部 破片	口径※13.2 器高△6.5	複合口縁甕。内外面摩擦が著しく、調整不明。	径2mm以下の長石・石英	外面：黄褐色 内面：黄褐色	良好		863
128	第53図 PL.6	5区・P679 1層	白磁 皿	口縁～底部 1/2	口径※8.6 底径※4.4 器高△1.9	白磁皿森田D群。外面高台畳付きから高台内と内面見込みは露胎。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		762・764・977
129	第53図 PL.6	5区・P675 埋土	白磁 碗	体部 破片	— 器高△1.7	白磁碗Ⅳ～Ⅶ類。外面体部下半は露胎。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		867
130	第57図 PL.27	5区・C14 Ⅱ層	土師器 皿	口縁～底部 破片	口径※14.2 底径※11.8 器高△1.6	外面口縁～底部はミガキ調整を施す。内面はヨコナデ調整。内外面赤色塗彩。	密	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	良好		890
131	第57図 PL.27	5区・C13・14 Ⅱ層	土師器 坏	底部 破片	底径※5.6 △1.2	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の赤色砂粒	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	良好		668
132	第57図 PL.21	5区・D14 Ⅱ層	須恵器 高坏	脚部 1/2	— 器高△4.8	外面ナデ、内面ケズリ後ナデを施す。脚部は2対の透し孔。	密	外面：黄灰色 内面：黄灰色	良好		791
133	第57図 PL.21	5区 表土	須恵器 長頸甕	頸～肩部 破片	— 器高△10.2	外面頸部はカキメ調整が施され、肩部に自然軸を有す。内面はヨコナデ調整。	密	外面：青灰色 内面：青黒色	良好		531・534
134	第57図 PL.25	5区・D15 1層	須恵器 甕	体部 破片	— 器高△7.9	勝間田系。外面格子状タタキ、内面はナデ調整を施す。	密	外面：淡黄色 内面：淡黄色	良好		729
135	第57図 PL.25	5区・C15 2層	須恵器 甕	底部 破片	底径※17.0 器高△5.3	勝間田系。外面格子状タタキ、内面はハケメ調整を施す。底面未調整。	密	外面：灰色 内面：灰色	良好		746
136	第57図 PL.26	5区・D15 Ⅱ層	備前焼 播鉢	体部～底部 破片	— 器高△4.5	乘岡編年中世3期。外面は体部と底部の境に浅い窪みがめぐる。内面には8本1単位の播目が付く。	径1mm以下の長石・石英	外面：にぶい赤褐色 内面：にぶい赤褐色	良好		761
137	第57図 PL.26	5区・D15 1層	備前焼 播鉢	口縁～体部 破片	口径※32.0 器高△7.3	乘岡編年中世3期。外割ぎ状の口縁部がやや張り出す。外面口縁～体部ヨコナデ。内面はヨコナデ後、6本1単位の播目が付く。	径5mm以下の長石・石英	外面：にぶい赤褐色 内面：暗赤褐色	良好		697
138	第57図 PL.26	5区・C15 Ⅱ層	備前焼 播鉢	口縁～体部 破片	口径※32.0 器高△7.5	乘岡編年中世3期。外割ぎ状の口縁部がやや張り出す。外面口縁～体部はヨコナデ。内面はヨコナデ後、8本1単位の播目が付く。	径3mm以下の長石・石英	外面：にぶい赤褐色 内面：にぶい赤褐～淡黄色	良好		750
139	第57図 PL.25	5区・D15 1層	瓦質土器 風炉	口縁部 破片	— 器高△5.9	風炉体部。透孔端部に山形状突起が付く。外面には断面台形状の突帯2条。	密	外面：灰色 内面：灰色	良好		698
140	第57図 PL.6	5区 表土	黒釉 碗	体部～底部 1/5	底径※3.5 器高△2.0	黒釉陶器碗。外面体部下半から底部は露胎。外面体部と底部の境に屈折し稜が付く。釉は薄い。	密	外面：灰黄色(露胎部) 内面：黒褐色	良好		536
141	第57図 PL.6	5区 表土	白磁 碗	底部 破片	底径※6.8 器高△1.8	白磁碗Ⅳa類。外面体部下半から高台内は露胎。高台は幅広、削り出し浅い。内面体部と見込みの境に沈線あり。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		534
142	第57図 PL.6	5区・C15 Ⅱ層	白磁 皿	口縁～体部 破片	口径※12.8 器高△2.1	白磁皿Ⅱ類。口縁がほぼ直線的に開く。内外面施釉。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		690
143	第57図 PL.6	5区・E17 Ⅱ層	青磁 碗	体部 破片	— 器高△3.2	同安窯系青磁碗Ⅰ1b類。外面は撫描文、内面はヘラ描の草花文を施す。	密	外面：オリーブ灰色 内面：オリーブ灰色	良好		782
144	第57図 PL.6	5区・C14 Ⅱ層	青磁 碗	底部 破片1/3	底径※5.6 器高△2.3	龍泉窯系青磁碗上田BⅡ～Ⅳ類。高台内面途中まで釉がかかる。高台下部外面の斜め面取りあり。	密	外面：明オリーブ灰色 内面：明オリーブ灰色	良好		793
145	第57図 PL.27	5区・C13・14 Ⅱ層	唐津焼 甕	口縁部 破片	口径※22.6 器高△3.8	口縁部が大きく開き、口縁端部が内折する。	密	外面：暗赤褐色 内面：暗赤褐色	良好		668

表23 南原千軒遺跡出土土製品観察表

遺物番号	挿図 PL.	地区・遺構層位	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	焼成	色調	特徴	取上 No.
38	第20図 PL.21	4区・SD19 2層	土錘	2.7	2.7	1.9	12.4	良好	橙色	上下面は平坦面を形成し、外面は面取り痕がある。両側穿孔。	138
39	第20図 PL.21	4区・SD19 1層	土錘	2.9	2.8	2.3	17.6	良好	橙色	上下面は小範囲で平坦面を形成する。外面は丁寧なナデ調整。片側穿孔。	73
146	第57図 PL.21	5区 検出中	土錘	2.4	1.0	1.0	2.6	良好	にぶい黄橙色	紡錘形土錘。下半部欠損。表面ミガキ調整。	553
147	第57図 PL.21	5区・C14 II層	土錘	2.3	2.2	2.3	9.7	良好	にぶい橙色	上下面は平坦面を形成し、外面は面取り痕がある。片側穿孔。	797
148	第57図 PL.21	5区・C13 II層	土錘	3.0	3.0	2.8	15.0	良好	浅黄橙色	上下面は平坦面を形成し、外面は面取り痕がある。両側穿孔。	796

表24 南原千軒遺跡出土石器観察表

掲載番号	図面番号	地区・遺構層位	種別	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考	取上 No.
S1	第9図 PL.40	4区・E12 SD6・3層	石鏃	黒曜石	1.3	1.1	0.2	0.2		262
S2	第9図 PL.40	4区・D13 SD6・埋土中	石鏃	黒曜石	△ 1.4	△ 1.1	0.3	0.3	古欠	191
S3	第9図 PL.40	4区・E12 SD6・埋土中	剥片	硬質緑色凝灰岩	2.1	2.0	1.4	5.1	玉作関連資料。施溝分割による剥片残滓。一部二次加工。背面原礫または節理面で研磨あり。上面も分割後研磨。	31
S20	第33図 PL.40	4区・F12 II層	石鏃	黒曜石	1.7	1.4	0.3	0.5		14
S21	第33図 PL.40	4区・D12・13 II層	石鏃	サヌカイト	△ 1.7	1.7	0.4	1.0	古欠	247
S22	第33図 PL.40	4区・F12 II層	楔形石器	黒曜石	2.6	1.6	1.2	5.8	左右側面剪断面。上下縁潰れ	42
S23	第33図 PL.40	4区・D13 II層	楔形石器	サヌカイト	3.1	1.8	0.6	3.1	右側面・左下縁に剪断面。上縁潰れ	145
S24	第33図 PL.40	4区・C12 II層	角柱状素材	硬質緑色凝灰岩	2.5	1.9	1.3	9.2	良質の碧玉を用いた玉作資料。裏面打剥による素材主剥離面(節理割れ)。他は施溝分割面。うち2面に擦り切り溝が残る。	381
S25	第33図 PL.40	4区・G13 II層	ブランク	硬質緑色凝灰岩	2.3	2.4	1.2	6.4	玉作関連資料。底面施溝分割後研磨。他は打撃剥離面。角柱状素材作成過程の残滓か。	395
S26	第40図 PL.40	5区・D14 SD7・2層	基石	珪質頁岩	1.9	1.6	0.7	3.4	漆黒色の玉石	844
S27	第46図 PL.40	5区・D15 SD20・埋土中	スクレイパー	サヌカイト	2.9	5.6	0.8	14.8	ガジリ	1110
S29	第57図 PL.40	5区・B14 II層	石鏃	黒曜石	△ 2.0	1.8	0.4	1.0	古欠	809

表25 南原千軒遺跡出土銅銭観察表

掲載番号	図面番号	取上 No.	地区グリッド	遺構名層位	銭種	径 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
C1	第29図 PL.30	500	4区 G13	P547 埋土中	熙寧元寶	2.4	0.15	1.3	字体真書。被熱しており、表面にタール状質が付着。銭名直接判読できない。

表26 南原千軒遺跡ピット計測表(遺構内)

調査区	グリッド	No.	長軸×短軸-深さ(m)	遺構	調査区	グリッド	No.	長軸×短軸-深さ(m)	遺構
4区	G13	P526	0.72×0.35-0.46	SB4-P1	5区	G12	P584	0.29×0.25-0.14	SA2-P1
		P535	0.43×0.36-0.31	SB4-P2			P556	0.27×0.25-0.18	SA2-P2
		P531	0.42×0.39-0.43	SB4-P3			P557	0.34×0.32-0.22	SA2-P3
		P544	0.35×0.31-0.19	SB4-P4		C14	-	0.55×0.51-0.42	SD7-柵列-P1
		P533	0.62×0.46-0.41	SB4-P5			-	0.36×0.28-0.17	SD7-柵列-P2
		P530	0.78×0.52-0.48	SB4-P6			-	0.32×0.28-0.22	SD7-柵列-P3
		P528	0.88×0.63-0.46	SB4-P7			-	0.58×0.44-0.35	SD7-柵列-P4
		P527	0.50×0.47-0.43	SB4-P8			-	0.35×0.30-0.29	SD7-柵列-P5
		P511	0.33×0.31-0.24	SB4-P9			-	0.30×0.24-0.20	SD7-柵列-P6
	P581	0.21×0.19-0.17	SB5-P1	-			0.39×0.34-0.24	SD7-柵列-P7	
	G12	P598	0.32×0.28-0.25	SB5-P2		B14	-	0.46×0.42-0.16	SD7-柵列-P8
		P560	0.30×0.29-0.17	SB5-P3		C14	-	0.37×0.32-0.13	SD7-柵列-P9
		P567	0.32×0.29-0.34	SB5-P4			-	0.30×0.28-0.23	SD7-柵列-P10
	G13	P579	0.29×0.21-0.22	SB5-P5		B14	-	0.54×0.42-0.35	SB6-P1
		P588	0.26×0.23-0.17	SB5-P6		-	0.51×0.42-0.34	SB6-P2	
		P587	0.29×0.22-0.22	SB5-P7		-	0.47×0.29-0.38	SB6-P3	
		P585	0.25×0.23-0.13	SB5-P8		-	0.54×0.47-0.30	SB6-P4	
	G12	P513	0.22×0.18-0.29	SB5-P9		C14	-	0.37×0.26-0.26	SB6-P5
	G13	P592	0.33×0.31-0.19	SB7-P1			-	0.26×0.24-0.19	SB6-P6
		P593	0.34×0.29-0.16	SB7-P2			-	0.28×0.28-0.18	SB6-P7
		P594	0.31×0.28-0.13	SB7-P3			-	0.90×0.42-0.31	SB6-P8
		P545	0.77×0.75-0.52	SB7-P4			-	0.40×0.31-0.21	SB6-P9
		P516	0.29×0.23-0.24	SB7-P5			-	0.42×0.37-0.17	SB6-P10
	P591	0.36×0.34-0.17	SB7-P6	B14			-	0.32×0.32-0.41	SB6-P11
G13	P503	0.66×0.55-0.48	SA1-P1		-	0.36×0.26-0.08	SB6-P12		
	P539	0.60×0.34-0.20	SA1-P2		-	0.52×0.33-0.35	SB6-P13		
P546	0.51×0.30-0.39	SA1-P3							

表27 南原千軒遺跡ピット計測表(遺構外)(1)

調査区	グリッド	No.	長軸×短軸-深さ(m)	調査区	グリッド	No.	長軸×短軸-深さ(m)	
4区	E12	P575	0.33×0.31-0.51	4区	G13	P489	0.21×0.20-0.16	
		E13	P573			0.38×0.34-0.22	P490	0.28×0.24-0.19
			P602			0.30×0.27-0.40	P491	0.27×0.25-0.25
	F12	P500	0.72×0.62-0.32			P492	0.53×0.42-0.08	
	F13	P499	0.55×0.52-0.44			P493	0.32×0.31-0.33	
		P505	0.29×0.22-0.27			P494	0.32×0.32-0.22	
		P508	0.40×0.36-0.36			P495	0.45×0.35-0.25	
		P568	0.41×0.37-0.23			P496	0.33×0.30-0.21	
		P569	0.49×0.37-0.12			P497	0.34×0.25-0.29	
		P570	0.41×0.30-0.25			P498	0.39×0.31-0.29	
		P571	0.58×0.49-0.32			P501	0.25×0.24-0.17	
		P572	0.73×0.60-0.18			P502	0.55×0.40-0.37	
		P519	0.45×0.31-0.22			P504	0.45×0.43-0.22	
	P520	0.30×0.28-0.26	P506			0.31×0.25-0.29		
	P555	0.28×0.26-0.22	P509			0.41×0.40-0.49		
	P558	0.47×0.36-0.30	P510			0.48×0.34-0.19		
	P559	0.49×0.33-0.40	P512			0.30×0.29-0.27		
	P561	0.33×0.30-0.24	P514			0.46×0.25-0.31		
	P562	0.30×0.25-0.40	P515			0.50×0.48-0.67		
	P563	0.41×0.36-0.36	P517			0.31×0.30-0.38		
	P564	0.33×0.30-0.13	P518			0.36×0.33-0.24		
	P565	0.28×0.25-0.19	P521			0.26×0.23-0.26		
	P566	0.28×0.26-0.31	P522			0.47×0.41-0.51		
	P580	0.37×0.34-0.16	P523			0.44×0.38-0.34		
	P582	0.51×0.38-0.27	P524			0.45×0.40-0.34		
	P583	0.42×0.40-0.36	P525			0.71×0.50-0.48		
	P599	0.28×0.23-0.34	P529			0.87×0.59-0.58		
	P600	0.34×0.29-0.32	P532			0.48×0.45-0.31		
	P601	0.27×0.24-0.15	P534			0.69×0.55-0.63		
	P483	0.30×0.26-0.34	P536			0.51×0.46-0.27		
	P484	0.42×0.35-0.35	P537			0.34×0.33-0.32		
	P485	0.32×0.24-0.36	P538			0.50×0.33-0.19		
	P486	0.26×0.26-0.30	P540			0.43×0.34-0.16		
	P487	0.37×0.32-0.41	P541			0.26×0.23-0.14		
	P488	0.36×0.32-0.24	P542			0.38×0.37-0.22		

表28 南原千軒遺跡ピット計測表(遺構外)(2)

調査区	グリッド	No.	長軸×短軸-深さ(m)	調査区	グリッド	No.	長軸×短軸-深さ(m)
4区	G13	P543	0.23×0.22-0.18	5区	C14	P687	0.40×0.39-0.24
		P547	0.39×0.34-0.12			P688	0.49×0.39-0.48
		P548	0.30×0.20-0.21			P689	0.63×0.43-0.36
		P551	0.27×0.26-0.26			P692	0.46×0.35-0.31
		P552	0.51×0.42-0.45			P693	1.04×0.57-0.59
		P553	0.31×0.29-0.20			P694	0.53×0.34-0.67
		P554	0.50×0.34-0.27			P696	0.40×0.39-0.55
		P574	0.32×0.26-0.13			P698	0.34×0.33-0.41
		P576	0.50×0.48-0.45			C15	P661
		P577	0.44×0.37-0.29		P663		0.35×0.29-0.23
		P586	0.28×0.25-0.22		P664		0.23×0.23-0.23
		P589	0.28×0.25-0.10		P665		0.27×0.26-0.16
		P590	0.23×0.22-0.22		P666		0.30×0.29-0.20
		P595	0.57×0.50-0.22		P667		0.24×0.22-0.21
		P597	0.70×0.43-0.30		P668		0.44×0.33-0.25
		P603	0.27×0.23-0.18		P669		0.38×0.27-0.17
		P604	0.25×0.23-0.18		P670		0.27×0.24-0.22
		G14	P507		0.60×0.40-0.62	P671	0.30×0.23-0.20
	P596		0.35×0.33-0.22		C16	P618	0.43×0.40-0.56
	H13		P549			0.34×0.28-0.45	P620
		P550	0.33×0.30-0.25			P636	0.39×0.25-0.15
P578		0.48×0.46-0.54	P639	0.36×0.31-0.20			
5区	B14	P605	0.32×0.32-0.13	D14	P640	0.30×0.24-0.15	
		P628	0.42×0.39-0.34		P659	0.79×0.59-0.28	
		P629	0.26×0.26-0.11		P660	0.40×0.36-0.26	
		P630	0.40×0.30-0.10		P673	0.51×0.42-0.26	
		P631	*0.43×0.31-0.19		P677	0.77×0.61-0.22	
		P682	0.36×0.36-0.21		P697	0.30×0.29-0.25	
	B15	P606	*0.34×0.18-0.20		P699	0.42×0.25-0.36	
		P662	0.26×0.23-0.14		D15	P622	0.79×0.59-0.21
	B16	P616	0.43×0.39-0.55			P623	0.32×0.27-0.32
		P617	0.68×0.41-0.40	P637		0.31×0.28-0.42	
		P619	0.43×0.31-0.40	P672	0.44×0.34-0.25		
		P632	0.30×0.28-0.13	D16	P607	0.32×0.30-0.32	
		P633	0.54×0.39-0.48		P608	0.29×0.29-0.22	
	P634	0.27×0.27-0.09	P609		0.33×0.29-0.24		
	P635	0.37×0.36-0.27	P610		0.36×0.30-0.27		
	C13	P645	0.27×0.26-0.37	P621	0.39×0.36-0.15		
		P647	0.32×0.28-0.21	P627	0.41×0.33-0.42		
		P690	*0.29×0.15-0.36	D17	P613	0.32×0.31-0.16	
	P691	0.35×0.33-0.38	P624		0.67×0.57-0.25		
	P695	0.43×0.34-0.39	P625		0.50×0.36-0.16		
	5区	C14	P641	0.49×0.36-0.48	P626	0.60×0.27-0.16	
P642			0.37×0.32-0.47	E14	P638	0.52×0.34-0.31	
P643			0.40×0.38-0.31		E16	P611	0.31×0.30-0.16
P644			0.43×0.40-0.48	P612		0.31×0.31-0.28	
P646			0.41×0.39-0.30	P614		0.41×0.35-0.23	
P648			0.45×0.45-0.35	G16	P615	0.36×0.34-0.17	
P649		0.60×0.40-0.28					
P650		0.49×0.44-0.16					
P651		0.30×0.22-0.34					
P652		0.30×0.23-0.31					
P653		0.40×0.40-0.26					
P654		0.40×0.30-0.19					
P655		0.60×0.54-0.43					
P656		0.61×0.29-0.38					
P657		0.40×0.39-0.40					
P658		0.44×0.33-0.23					
P674		0.58×0.41-0.35					
P675		0.43×0.35-0.43					
P676		0.36×0.24-0.38					
P678		1.05×0.75-0.13					
P679		0.70×0.70-0.25					
P680		0.23×0.21-0.31					
P681		0.42×0.36-0.51					
P683		0.44×0.37-0.31					
P684	0.28×0.24-0.25						
P685	0.30×0.29-0.19						
P686	0.38×0.36-0.23						